いそべとし記念男声合唱団ニュース

２００９年 １月 第３３５号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2 ☎03-3926-8369 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.com/isobechorus/
編集担当者:河合隆一(広報) 〒272-0031 市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX047-322-1299



沖縄・いそべ合同演奏会ステージへ(撮影/中尚良敦〈スタッフ・テス〉)

'09 謹賀新年

35周年コンサートに納得のいくステージを

長田　茂（代表）

昨年は、2月の伊丹での「須賀先生喜寿コンサート」のあと、夏を過ぎてから、東京都合唱祭、ＪＡＭＣＡ滋賀、江東区民合唱祭、道志川合唱祭と続き、11月になって沖縄との合同と、大船での『夕立』公演参加とステージが続いたため、後半ひどくスケジュールが立て込んだ印象になりました。

しかし、いずれもいい演奏ができたのではないかと思っています。特に沖縄との合同は、皆さんの頑張りで、広いティアラこうとうの大ホールをかなり埋める聴衆動員も果たせました。

持ち味の違う、それぞれの団の単独演奏だけではなく、よくまとまった合同演奏ができました。

また初めての試みだった、交歓一泊旅行も好天に恵まれて、紅葉の富士山・箱根を沖縄の人達にも満喫してもらえたようです。

今年は、いそべ男声35周年です。いそべ男声の持てる力を十二分に発揮した、納得のいくステージを目指しましょう。ステージに乗せたことのない曲への挑戦もあります。

須賀さんに負けない気力で、須賀さんをタジタジとさせる練習で、11カ月、集中しましょう。

○35周年記念演奏会　11月8日（日）
　於・ティアラこうとう大ホール

レディオ湘南で 沖縄・いそべ合同コンを紹介

菅野哲男さん

前号8頁5段目に「私はレディオ湘南の湘南クラシック・合唱を担当しています。12月に貴ジョイントコンの模様を紹介させていただきます」との予告通り、菅野さんによる放送が12月20日に行われました。

湘南クラシック・サロンの一つの合唱部門の番組で、日本はもちろん世界の男声合唱に詳しい菅野さんが担当。12月はいつもはクリスマス音楽一色のところ、今年は沖縄男声・いそべ男声合同コンを最初に紹介されました。

まずいそべ男声演奏の「もうすぐ春」「生まれたばかりの」「きつねの嫁入り」の3曲を放送。

菅野さんは「歌詞を聞き取りやすい合唱作品が最近非常に少ない。では外国の作品は歌詞が聞き取りにくいからつまらないかと思いますが、メロディーがきれいでその上、歌い手の表情がよければ楽しく聞けます。これは沖縄の合唱作品にも通じることで、沖縄の言葉が理解できなくても楽しく聴くことができました。沖縄の音階は異国を感じさせます。沖縄は琉球王国なのです。」との話に続いて、沖縄男声演奏の「前の浜」「加那ヨー節」「安里屋ユンタ」「芭蕉布」の4曲。

続いて合同演奏の「だんじゅ嘉利吉」「西表民謡による(への)オマージュ」全曲。そして「秋のにおい」「月夜」「林のなか」「時無草」が電波に乗りました。

最後に菅野さんは「女声合唱の名曲を男声合唱で聴くのもいいものです。日本の最近の合唱曲は歌っても聴いても楽しくないものが多いと感じているところに、メロディーラインがきれいで歌詞がよく聞き取れる磯部俶の作品と、美しいメロディーと独特のリズムの沖縄民謡を聴くと、本当にほっとします。」と話して合同コンの紹介を終えられました。

あとはクリスマスのコーラスが豊かに流れました……。

（河合記）

磯部先生の笑顔が…

沖縄・いそべ合同演奏会と『夕立』演奏会を聞いて

中村陽子

（亮氏コールフロー女声合唱団指揮者）

心ふるえるような……違う違う一本一本の髪の毛が逆立ちする様な…？　恐ろしい程の感動を、合同演奏会のラストの「遥かな友に」で体験いたしました。それは、人の心の美しい部分だけでなく、悪の部分をも優しさで満たしてくれる様な美事なハーモニー、七十余人の男声のppp！　世界中の幸せな人々に世界中の苦しんでいる人々に届いてほしいと願うほど素晴らしい演奏でした。

その感動のさめやらぬ内に、鎌倉芸術館でこれ又、楽しいオペラを鑑賞させて頂きました。大体、私の家はクラシックを鑑賞する以前に古典落語をジックリ見たくてDVDを購入する様な不届きな家ですので、落語がオペラ化されている『夕立』は是非と馳せ参じました。とても楽しかったことはモチロンです。

オペラ以外にも「日本のユーレイ」など題から引きつけられる歌曲もあり、ユーモアたっぷりの磯部先生が〝どう？〟と皆さんに笑いかけていらっしゃる様な気がいたしました。

「遥友」の名演奏と云い、観客を大いに楽しませてくださった『夕立』のすばらしい演技・演奏と云い、その向こうの方に何時も磯部先生の笑顔が感じられたのは私だけではなかった様でした。

貴団の演奏は何時も何時も何時も滲み出るやさしさ、深い合唱音楽への洞察と高い品格を拝聴出来、私達はその音楽に接しられる事を、本当に幸せだと感謝しております。

来年は三十五周年記念コンサートですね。又、お忙しい張りのある年をお過ごしになることになりますね。

どうぞ皆様ご健康に留意されて益々のご活躍をされますようお祈り申し上げております。

十二月二十六日

男声合唱の醍醐味を

吉岡久恵

（ソイエ・ダーメンコールいそべ）

いそべ男声と沖縄男声の合同演奏会、大盛会！　本当におめでとうございます。唯々素晴らしく男声合唱の醍醐味を満喫いたしました。

須賀先生の魔法のような繊細な指揮に、いそべ男声の声が一体となり、熟成されたワインのように聴衆をフワーッと包むような感じでした。そして胸にジーンと。俶先生の音楽は、高く澄んだ秋空のよう。そして優しく暖かく深い愛情に満ちていると感じます。聴く時も、歌う時も…。

そして沖縄男声の演奏、宮城先生は南国沖縄の情緒豊かな音楽をたっぷり聴かせて下さり、青い海、ハイビスカスの咲き乱れる沖縄の情景を浮かべながら楽しませていただきました。

両団は、互いに個性的であり乍ら共通点も感じます。ドイツハンガリー等の合同演奏旅行にご一緒したことも思い出し乍ら両団の皆様、これからもお元気でこの交流が続き、次回の演奏会が開かれることを楽しみにしております。

この余韻がまだまだ残る11月
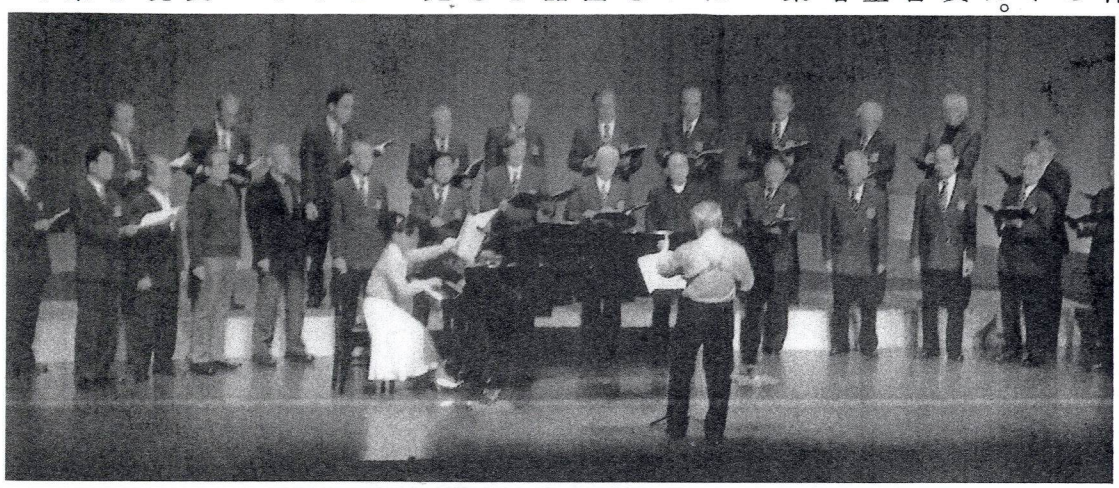
25日、磯部俶先生没後10年のご命日、和先生監修、周平先生総監督指揮のもと、俶先生作曲のオペラ『夕立』の公演が鎌倉芸術館小ホールで開催されました。

オペラは出演者全員の息遣いがピタッと合う心地よさ。公演を重ねるごとに見応えを増すこの素晴らしさ、楽しさの連続でした。

いそべ男声は先週に沖縄男声とのジョイントを終えたばかりでしたが、須賀先生の編曲による磯部俶先生作品のワンステージ。優しく美しくハモる中にも厳しさを感じる須賀先生の音楽作り。

ますます若々しくご活躍を続けられるいそべ男声のパワーはどこから来るのかしら？

きっと、俶先生に長年ご指導頂いた音楽魂（音楽のエキス）が皆さんの体内に何よりの栄養剤になっているのでしょう。まだまだ若々しい須賀先生のご指導のもと音楽人生をお楽しみ下さい。



→鎌倉芸術館小ホールでの当団リハーサル（撮影・吉岡久恵）

いそべ男声メロディー・歌の博物誌⑧

〽母よ 私の乳母車を押せ

「乳母車」三好達治詩・磯部俶曲

澤野 勉（2T）

〽母よ 私の乳母車を押せ
泣きぬれる夕陽にむかって
憐々と私の乳母車を押せ〽

三好達治の一九三〇年（昭5）の処女詩集『測量船』の中の詩。〽旅いそぐ鳥の列にも〽とあるから、秋の終りから冬の初めの季節かも知れないが、三番の、〽赤い総ある天鵞絨の帽子をつめたき額にかむらせよ〽のくだりがあるので、ともかく寒い季節の情景が目に浮かぶ。乳母車を押す母の手も冷たい。

乳母車に乗せられている乳児が、母親に〽憐々と私の乳母車を押せ〽というのだから、公園で遊ぶのどかな母子のイメージではない。〽憐々〽という言葉の音（おん）が〽凛然〽の凛と重なって、何やら子どもが、小さいながらも何かを主張しているように受けとることができる。憐は車のとどろく音の形容で、とくに自己主張とは結びつかないのだが、歌詞の響きからは、小さな子どもが命の尊厳を訴えているように感じられる。

この歌に初めて接した時、ふと思い出したのが、一九世紀のアメリカの詩人、ホイットマンの詩のこの一節…

「わたしはあなたのもの そして、あなたはわたしのもの。だが、二人だけじゃなく、他のものに仕えるわたしとあなた。ほら、明日の英雄と大詩人が、あなたに抱かれて眠っているじゃありませんか。」

天鵞絨の帽子をかぶった乳母車の中の子どもは、ホイットマンの描いた未来の大詩人かもしれない、と。

父親の影響で軍人としてスタートした「乳母車」の作者が、挫折して仏文科へ進み、叙情詩人となっていった経緯にみられる、いささか鬱屈した心情が、そこに反映しているとみられるのではないだろうか。たしかに何もわからない子どもが〽私は知ってゐる この道は遠く遠くはてしない道〽と、ふつうなら母に進言するはずはないだろう。

ま、そこは難しい解釈はさておいて、ここでの乳母車という言葉、現代では死語に近いものになっている。現代語ではベビーカーだ。「乳母車」の時代のそれは箱型。現在の椅子式のタイプが登場したのは一九六七年、マクラーレンが発売したのが最初で、一九世紀半ばニューヨークで発売されたという初期の乳母車から百年以上たっている。

日本では商品名のバギーで呼ばれることもあったが現在の名はベビーカー。これは和製英語だ。子どもの成長に応じたいろいろのタイプや、双子用、三つ子用など、工夫をこらしたものが売られている。

ちなみに乳母車の乳母は実の母に代わって乳を与える女性をいうのだが、大母（おおば）の転化したものとして年配の女性のことも指す。ついでながら姥桜は、本来は年配になっても色気美しさのある女性への褒め言葉（！）。もっと使いましょうか……。

（カットも筆者）



田園童謡詩人・島田忠夫

その5

河合隆一（1/1）

○みすゞの死

島田、みすゞの登場によって雑誌『童話』の詩が活況をみせたのは大正12年から13年。ところが選者の西條八十はそのさなかにフランスへ留学してしまう。そして選者の後任には吉江孤雁（喬松）が当たることになる。

吉江は早大仏文科創設者、西條の早大在学中の恩師であり、西條を講師（後に教授）として呼んだのも吉江だった。

選者が代わった途端、みすゞの入選が減ってしまった。島田も「どちらかと言えばこの時代が、金子みすゞ氏の投書生活に取っては、最も恵まれぬ様な事情に立ち至り」（『蠟人形』昭和12年2月号）と書いている。みすゞの入選・投稿の少なさを心配し、励ます仲間からのたよりが見られるのもこの期間だ。

島田の入選は毎月のように、2頁見開き挿絵添えの扱いが続き、「巣」「かやの実」「春山」（「蘆裡」を含む）などの優作が発表されている。

大正15年2月に西條八十帰国。みすゞ結婚。

島田はみすゞから手紙をもらったと書いている。

「…その夫君は放蕩無頼の人であるとも報じて来た。詩作を全く厳禁され、一切の文通を止められて了っていた。…」（同前）

昭和2年、帰国後の西條は旅行の途中下関に立ち寄り駅のホームでみすゞに僅か5分間の最初で最後の面会をしたことを書き、「蓬髪に不断着の侭、背には一二歳の我児を負っていた…その眼は黒曜石のように深く輝いていた」（『蠟人形』昭和6年8月）と書いている。

その翌年、九州旅行の途次、島田が下関に寄って面会しようとしたが「金子氏はいま病臥していること…なるべく現在の生活だけは見て欲しくないこと」を伝えられて下関を去ったことを書いている。（『蠟人形』昭和12年2月号）

そしてみすゞは昭和5年、自ら命を断つ。26歳。

『童話』で育った二人の詩人は互いに認め合い、慰め合いながらも終に会うことはなかった。

「私は今更ながら紅涙なきを得ない」とみすゞへの追悼文をしめくくる島田にとって、その喪失感は大きかったに違いない。

○処女詩集『柴木集』出版

昭和3年、島田は童謡詩『柴木集』を出版する。24歳だった。岩波書店版、表紙、挿絵に小杉未醒、石井鶴三、萬鐵五郎、など当時の新進気鋭画家の執筆を得て実に恵まれた処女出版で、手にとってみると素朴さとやさしさが伝わってくるいい本に仕上がっている。もちろん、内容は『童話』に入選掲載された童謡詩30数編が主体で、「巣」「鹿」「田螺」など、島田の代表作といえるものが収められている。

あとがきに「私は童謡をつくるに、幼者の理解するかどうかを深く意に介しない。」と書き、子供の感激、幼年の追憶に遊ぶ時に詩ができたと言い、「童謡詩と呼んで古来のわらべうたとは分ち、少年から大人に読み且つ味わって頂きたく思う。」と述べている。

島田の詩が醸す田園生活の懐かしさは、この彼の姿勢によるものであることは明確だ。同時に高踏的に陥る危険もはらんでいることは看過できないだろう。

それにしても寺田寅彦や天野貞祐への謝辞まで添え、一級の画家を揃えてできたこの詩集、24歳の島田のどこにこんな力が潜んでいたのか。

最初に紹介したように『柴木集』出版のときは鎌倉郡豊田村在住だった。「当時鎌倉に在ったのも久しく呼吸器を病んで養うて居た」（『蠟人形』昭和12年2月号）と書いているように、既に鉄道省は退職していたと思われ、鎌倉近辺の旧家に寄寓して研究、読書三昧の生活だったようだ。

既に『童話』は休刊となり、島田は他の児童文学雑誌には投稿はせず、アララギの歌人、土田耕平の紹介で信濃毎日新聞などに詩や短歌を寄稿し、雑誌『童謡詩人』に童謡詩や随想を寄稿などして文筆家としての活動を広げる。水戸の女学校で教えたこともあったようだが、住まいは平、杉並、向島、日暮里など転々とし、離婚も経験した後、昭和14年、女学校の教え子と結婚、2児を育てた。平林は「この良妻の内助により詩業・画業に専念できた」と書いている。（『童話』昭和61年4月号）

○文筆活動と俳画と

転居を繰り返しながらも作詩はもちろん、「天田愚庵研究」「柿本人麻呂研究」などの論文をまとめ、そして俳画の修業も継続し、鳩居堂で個展を何回も開いている。一方「神田のYMCAのボイラー改修工事を監督している姿を私は見かけた。」（平林）という生活もあったらしい。

○第2詩集『田園手帖』発刊

『柴木集』以後の詩をまとめ、自分の絵で装丁からさしえまで描いて、昭和18年39歳で出版したのが第2詩集『田園手帖』だ。一読『柴木集』との落差の大きさに落胆してしまう。みずみずしさは失われ、戦時色濃い作を読むのはつらくなってくる。

翌年俳画の手引書『俳草画小径』を出版、翌20年、終戦直前の8月7日疎開先の烏山市で死去。41歳。

10月、銀座で俳画の遺作展が芳江夫人の尽力で開催された。

・

島田の詩は、岩波文庫の『日本童謡集』に4編、その他、童謡名作選と銘打った図書には必ずと言っていいくらい「田螺」「巣」「鹿」が収載されている。

藤田圭雄（児童学研究）は島田の詩を「すぐれた抒情詩の一つのジャンルを形成している。これを〈子どものうた〉という観点からだけ批判すると間違う。うたうためのうたでもない。最もシンプルなことばで表現した日本的抒情詩である。」と評価している。さきに紹介した島田の『柴木集』のあとがきと重なり合う評価だ。

磯部先生はこういう詩に曲をつけたのだった。（続く）

忘年会は大騒ぎ

12月~~17~~27日(土)午後6時半、木場のロータスパークにあるスコルピオーネ・ソラーレに集合した仲間は、須賀さん永井さん始め休団者、団員夫人も参加で計45名。初めての「イタめし屋」でのパーティーでありました。

乾杯のあと、沖縄男声との合同コンでステマネ担当の下山、鈴木両氏から、舞台袖で聴いていて今回の合同演奏の出来の良さをお二人口をそろえての褒め言葉が聴かれました。

須賀さんからは、大阪の人、何人かから、磯部メロディーは近いうちに必ずフィーバーすると言うのを聞いた。そうなると嬉しい。やらにゃいかん。ただだ40周年だと何人残ってる？（大笑い）頑張れ、とのスーパー・アジ・コメント。

昨年、ダーメンコールいそべは解散となったが、今度あらたにノイエ・ダーメンとして再出発したと川野辺さん吉岡さんから挨拶、来年の和先生米寿を記念しての朗読の会が3月28日に開かれるのに協力するので、よろしくとのお話がありました。

ピアノの永井さんからは、皆さんといつも楽しいステージで感謝、なかなか味わえない幸せを感じています。打ち上げには必ずついていく私ですとの嬉しいご挨拶を頂戴。

続いて恒例のダブカル大会全4組の演奏。須賀審査員を悩ます競演の結果、第4組「いざ起て」演奏が1位。

お楽しみのビンゴが始まるや戸丸MCの声とゲーム機の音に全員身体じゅうを耳にする。

そして古い参加者を尻目に最初の名乗りを挙げたのは、初参加の河合夫人でした。あとになって、これで私の来年分の運も使い果たしたんじゃないかしらと言っていました。そして今年も、ふぐ調理の名板前よろしく何回やっても当たらない仲間を沢山残してゲーム終了。

最後に全員で「はる友」を須賀さんの指揮で歌って、今年の歌い納めとなりました。　K

桜友女声合唱団
八木昌子さん幹事勇退

16年間にわたり責任者の立場にあった八木さんが勇退されました。新責任者には、**谷川吉美さん**が就任されました。これからもよろしくお願いします。

総務だより　12月27日運委報告

■新春ファミリーコンサート&パーティーについて

期日／1月18日(日)13時30分開会～16時30分閉会

会場／ティアラこうとう地下大会議室

参加団体／12団体250名

会費／4000円（団員のみ）

受付／若月、木下、坪井、三上

石原、川野辺、大澤、澤登

長島、三好

頂戴物受付／田邊、秋永、板垣

下山、小川

司会／安部、戸丸

舞台係／戸丸、佐藤、井上(斉)

会計／田岡、田島

記録／河合、長田、井上(斉)

仕入れ／シュガーず

バーテンダー／澤野、大西、渋谷

プログラム作成／長田

名札作成／宮田

＊料理持参の件／趣旨徹底に関して再度話し合う。

■35周年記念コンサート

○曲目案／

①『心の四季』全曲決定

②室生犀星詩（枇杷、麻の実、子守唄）「雪」「松の花」決定

③子どもの世界「やきいものうた」「月夜」『鬼ヤンマ』「チャンバラ」「星くずや」などから選定

④愛唱曲集…日本民謡「斎太郎節」などから、ドイツ曲「菩提樹」などから。この④案はコンセプトが無く、聴衆に感動を与えられないなどの意見があり、再検討となった。また「啄木歌集」「星野富弘」「岬」「おかあさんのばか」等から数曲ずつの案も出たがこれも一貫性なしとされて未決定となった。

○旧団員への呼びかけ／参加が予定されるメンバーが限定的であることから、総花的な声掛け効果は少ないと思われるので、個人的な打診とする。従って細部の検討は行われず。

■まど・みちお100歳記念行事について

3月～4月に詩人まど・みちお先生の100歳を記念しての展覧会・イベントが左記のように開催されるについて、企画はほぼ決定しているようだが、「まど＋磯部」の子どもの歌のレパートリーを持つ当団として何らかのアッピールするべきではないかとの提案が河合広報から出された。これに対して、予算案が未承認の現状で行事決定は慎重にとの意見が出された。

記

・名称／まどさん100歳展
・主催／教文館ナルニア国
・期日／3月28日～5月6日
・会場／銀座・教文館、十字屋ホールなど

沖縄男声・いそべ男声合同演奏会に御祝儀・頂戴物をお受けしました。ここに記して御礼申し上げます。（敬称略）

横浜稲門グリークラブ
桜友女声合唱団
合唱団「柴刈」
本村陽一

以上、前号にて掲載するべきところ手違いのため今号となりましたことを深くお詫び申し上げます。

SCHEDULE

早：早瀬先生voice training
須：須賀監督指導・指揮

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

■２００９〈平成21〉年

☞今後常に練習に持参すべき曲集
『ふるさと』（枇杷の花、麻の実をくだく山雀、子守唄）
『犀川』
『鬼やんま』（雪）
『心の四季』
『騎士の別れ』『夕やけこやけ』『いざや我らの』

1月11日（日） 13:00～17:00 須 定例練習 豊洲 Cバー（１T）
12日（月・祝）**べるでの会** 於/日比谷公園内松本楼２F花水木 《早瀬先生主催》
14:00～16:00
18日（日）**新春ファミリーコンサート＆パーティー** 須 於／ティアラこうとう地下大会議室
12:50 団員集合 当団曲目／狐の祠、いろり
13:00 来客入場 服装／ブレザー
13:30 開会 会費／4000円（団員のみ）
16:30 閉会 役割分担／（５頁参照）
25日（日） 13:00～17:00 早 定例練習 古石場 （運委11:00） Cバー（２T）
2月 8日（日） 13:00～17:00 定例練習 古石場 Cバー（１B）
22日（日） 13:00～17:00 早 須（Cバーには） 定例練習 豊洲 （運委11:00） Cバー（２B）
3月 8日（日） 13:00～17:00 須 定例練習 豊洲 Cバー（１T）
22日（日） 13:00～17:00 定例練習 豊洲 （運委11:00） Cバー（２T）
4月 4～5日 （未定） 須 強化練習
12日（日） 須
26日（日）

7月12日（日）**東京都合唱祭** 須

（10月初旬に強化練習予定）
11月 8日（日）**35周年記念演奏会** 於・ティアラこうとう大ホール

編集後記

●音楽に感動するということで第一に思い出すのは、国連総会でのカザルスの「鳥の歌」でした。淡々とチェロを弾く姿を見ながら涙が止まらずに困りました●もう一つ、ロッテ・レーマンの引退の告別演奏会。アンコールで歌ったシューベルトの「楽に寄す」。最後の2小節、万感迫ったのか、絶句してイッヒ・ダンケ・ディルが歌えませんでした。私はLPで聞き、いつまでも続く拍手の高鳴りとともに深い感動に浸りました●そして涙で頬を濡らしながら「悲しい酒」を歌う美空ひばり●古い場面ばかりですが、みな印象は鮮烈です●美空ひばりは絶句せずに歌い切りました。これもプロとしての矜持なのでしょう●翻って自分はどうなのか。「はる友」、「神のみわざがこの人に」。コーラスの一員として歌いながら声を詰まらせた覚えがあります。あとになって歌い手は絶句しては不可だ、聞く人に届かなくては意味がない、と思いました●でもレーマンの「絶句」は感動が伝わってきます。最後は歌い手のキャリアの重さの違いなのでしょうか。（河合）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２００９年　２月　第３３６号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2 ☎03-3926-8369 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.com/isobechorus/
編集担当者:河合隆一(広報) 〒272-0031 市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX047-322-1299

歌良し 酒美し 食佳し 話善し

09年 新春ファミリーコンサート&パーティー

暗いニュース、閉塞感で明けた新年でしたが1月18日(日)、ティアラこうとう大会議室での16団体、２００数十人の元気さが集結して、連帯感を確認したコンサート&パーティーでした。

司会・進行／安部建雄
戸丸　悟

○開会

長田　茂（いそべ男声代表）

「またこうしてこの会が開けることは何より嬉しいことです。今年もお互い元気で歌いましょう。昨年は当団は忙しい年でしたがなんとか乗り切りました。いろいろお世話にいただいたおかげだと思います。今年はいそべ男声は35周年演奏会です。どうぞよろしくお願いします。」



磯部　和

「皆様お元気で再会できて嬉しく思います。今年もよろしく。実は私は去年86歳、今年は米寿だよって周平から言われました。合唱団の人から何かお祝いをって言われて、詩の朗読でもやりますかと言ったら、どんどん会場をとってくれて3月に朗読の会をします。ゲーテの詩と自作の詩を2、3やるつもりです。去年はいそべ男声はすごいご活躍で、いつも言うんですが、須賀先生のご指導で言葉が充実していらっしゃるのを感じます。35周年、頑張ってください。」



福井忠雄（稲門グリークラブ・シニア会）

「今年もどうぞよろしく。年末は暗いニュースが多くて、新年会にいってもいい話が聞けない。今日は婿一人に嫁八人ということで（笑）盛況で何よりです。コーラスと酒を同時に楽しめるこういう会を設営して下さる、いそべ男声にお礼を申し上げます。（拍手）35周年からますます長生きして継続して頂きたいです。シニアも12年になります。今年は練習場地区のいくつかの音楽祭などに参加して、10月に駒場エミナースで演奏会、それも多田武彦さんの指揮で「北の国」をやります。どうぞおいで下さい。」



磯部周平

「昨年はお世話になりました。オペラ『夕立』公演ではいそべ男声さんにすばらしいコーラスを歌っていただきありがとうございました。今年もよろしくお願いします。では「アインプロジット」を歌って乾杯いたしましょう。」

合唱　乾杯！

歓談

①いそべとし記念男声合唱団

指揮 須賀敬一　Pf 永井博子（30名）

「磯部先生の組曲『かやの実』は東海メールの委嘱で男声合唱になったんですが、その後「狐の祠」ぬきで歌ってきました。あるとき「狐…」の存在に気づいて磯部先生に話してもとに戻して5曲立てにして今いそべでは歌っています。その中の2曲を歌います。」（須賀）

「狐の祠」「いろり」

（組曲『かやの実』より。島忠夫詩・磯部俶曲）

②稲門グリークラブ・シニア会

指揮 耕納邦雄（25名）

「今年もよろしく。磯部先生の先輩が一人、あとは皆後輩です。今日は昭和30年に多田武彦さんが早大グリーのために作曲された組曲『北の国』から歌います。詩人丸山薫が山形に疎開中の、村を愛してやまない人達を謳った詩です。」

「お月様」（組曲『北の国』より　丸山薫詩、多田武彦曲）

③横浜稲門グリークラブ（25名）

指揮 吉村幹郎　Pf 村主一彦

指揮 加藤晴信

「みなさん《Y150》という

表示をご存じでしょうか…（反応無し）…今年はヨコハマ開港150年なんです。（拍手）それを記念して6月13日に当団はコンサートを神奈川県民ホールで開きます。Y150にちなんで懐かしいアメリカの歌をうたいます。今日はそのうちの2曲です。」

「Gentle Anny」（Foster）
「Home on the Range」（Daniel E. Kelly）

④ノイエ・ダーメンコールいそべ（15名）

指磯部　和　Pf高橋美佐子

「昨年3月に再出発して和先生がノイエダーメンと名付けてくださいました。今後ともよろしくお願いいたします。」

「ぶらんこぶらんこ」（小春久一郎詩　磯部俶）
「武蔵野を歩く歌」（林紀彦詩、磯部俶）

⑤桜友女声合唱団（20名）

指竹村洋美　Pf恩田佳奈

「おかげさまで16年代表を務めさせていただきました。昨年10月に谷川吉美が新しい代表になりました。紹介します。」（八木亨）

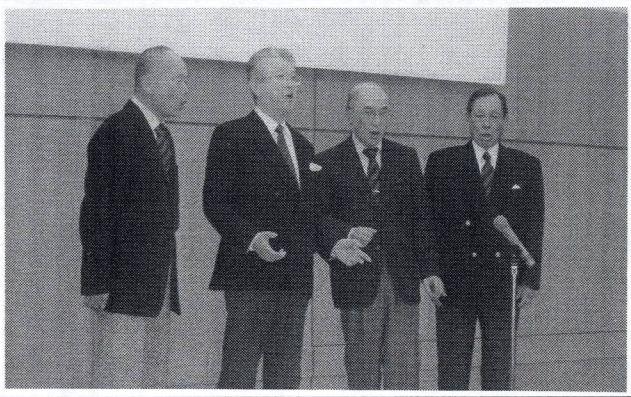
「今度、代表になりました谷川ですよろしくお願いします。昨年創立30年15回目の演奏会をしました。ご来場ありがとうございました。」

「Amazing Grace」（Traditional）
「時無草」（室生犀星詩、磯部俶）

歓談

⑥YBBK（Yokohama Bay Bridge Quartette）

大川邦之、鈴木邦男
杉浦忠武、大原昭治



「2回目の出演です。トップが大川君に交替しました。どうぞよろしく。」

「Shine On Me」（Spiritual）
「Goodnight Ladies」（American traditional）

⑦堤　敦子　soprano solo

Pf永井博子



「4月に『横浜はじめて物語』というタイトルで、歌のお話を台本化した本を出版します。今日も見えてますが、ボニーの西脇久夫さんがオビの文章を書いてくださいました。みなさんぜひ買って読んで下さい。今日は音が高くて難しかったのでオクラにしていた磯部先生の曲を思い切って歌います。」

「エスキモー人形に」（富澄子詩、磯部俶）

⑧永井博子　piano solo

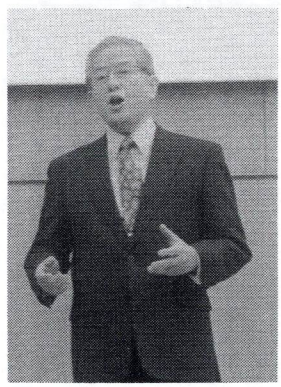


「マラゲーニャ」（エルネスト・レクオーナ曲）

＊繊細でダイナミックなタッチに唸り声と拍手

⑨早瀬一洋　tenor solo

Pf永井博子



「皆様、まだまだ可能性のある方ばかりで、私が励まされています。どうぞよろしく。今日はカンツォーネを歌います。若者が歌うセレナーデを母親が禁じてしまう。どうしていけないのかと歌います。」

「禁じられた歌」（ガスタルドン）

＊圧倒的テノールに場内歓声と大拍手

⑩コーロこせやま（16名）

指磯部　和　Pf永井博子

「毎年、この会でパワーを頂いて帰るんですが、今年は和先生の「米寿パワー」で…（拍手）

それと周平先生の「還暦パワー」…（拍手）も一緒に頂いて、大事に歌っていきたいです。「山百合」は神奈川県の県花です。7月に、グリーンサマーコンサートをサントリー小ホールで頑張ります。（おおの声、拍手）」

「私と永井さん、ぶっつけです。うまくいくかしら。」（磯部和）

「山百合の花」（大倉芳郎詩、磯部俶）

「ねんねんねやまの」（野上彰詩、磯部俶）

⑪湘南女声合唱団（16名）

指磯部　和　Pf永井博子

「今年もよろしくお願いします。今日は季節はずれですが「クリスマス・イルミネーション」を歌います。昨年の秋に藤沢の合唱祭で歌ったら信長先生から大変ほめていただいて、いい気分になって歌わせてもらいます。」

「1曲目の「おはよう先生」は俶の作った古い組曲で、女の人の色々な職場を歌った曲です。お手伝いさん、宝くじ売りなどあって、今日歌うのは幼稚園の先生の歌です」（磯部和）

「おはよう先生」（中村千栄子詩、磯部俶）

「クリスマスイルミネーション」（磯部和詩、林秀雄曲）

＊1曲目は子供の声色を交えて歌い、皆、大喜び。

⑫横浜木せい会（17名）

指磯部周平　Pf永井博子

「今年も楽しく充実した年にしたいです。昨年10月に周平先生が私たちのために団歌を作ってくださいました。今日は初演です。（喚声、拍手）それから、今年2月11日の県の合唱連盟のフェスティバルで周平先生作曲の「優しき歌」の1曲を歌います。立原道造の詩につけられた曲のコンサートです。」



→須賀監督の指揮で最後の「はる友」を

「横浜木せい会の歌」（磯部周平詩曲）
「序の歌」（『優しき歌』より）
（立原道造詩、磯部周平曲）

歓談

⑬フラウエンコールいそべ　（23名）
指磯部周平　P永井博子
「「あのころ」は父の没後、スケッチだけ残されていたのを、私が補筆したものです。「うさぎとかめ」は小学唱歌を父がアレンジした楽しい曲です。」（磯部周平）
「あのころ」（宮中雪子詩、磯部俶曲）
「うさぎとかめ」（小学唱歌、磯部俶編）

⑭クールオルタンシア　（17名）
指蟻生栄子　P永井博子
「月1回の練習でここまでやってきました。（拍手）今日は磯部先生の懐かしい「風になりたい」と、みなが好きな「誓い」を歌います。どうぞよろしく。」
「風になりたい」（喜志邦三詩、磯部俶曲）
「誓い」（御木白詩、磯部俶曲）

⑮宮代コールフロー女声合唱団　（25名）
指中村陽子　P越川祐季子
「20年前にいそべ男声さんに宮代に来ていただいてからのおつきあいです。来年40周年になります。指揮の中村先生はじめ、創立メンバーがまだまだ元気です。今日うたう「時無草」は3月のお母さんコーラスの会に歌う予定です。」
「時無草」（室生犀星詩、磯部俶曲）

⑯女声合唱団 虹　（23名）
指須賀敬一　P赤星裕子
「所沢からまいりました。須賀先生が月に1度いそべ男声に来られるのでついでにこちらへ、とすごいぜいたくなことを言って、ご指導を受けております。それ以外は田中豊輝先生にみてもらっています。2回目の参加をさせてもらいました。よろしくお願いします。」
「ゆりかごのうた」（松原ふゆ子詩、磯部俶曲）
「くちなし」（高野喜久雄詩、高田三郎曲）
＊この曲は混声なのでいそべ男声メンバーが低音部を受け持った。

○閉会
田邊喜三郎（いそべ男声副代表）
「今日は200名を越えるご出席ありがとうございました。歌声を聞いていそべファミリーはまだまだ元気だと意を強くしました。和先生も一段と若くなられて（イヨッの声、拍手）力を頂けました。この会は磯部先生が合唱団同志、家族との結び付きを強めるために始められたのですが、お互いに元気をもらえるという意義も強く感じます。今日出席された方はこれから1年間は健康、元気でいられます。（大笑、拍手）また来年、元気でお会いしましょう。」

○全員合唱
「遥かな友に」
指須賀敬一　P永井博子
「今メロディーはあまりなくてむずかしい曲が多いですが、これからまたメロディーの美しい曲が歌われるようになる。磯部先生の曲も歌われるようになります。……（みなが2小節歌った所で）ヤリ直し。磯部先生は遅くなるなと口を酸っぱくして言っておられました。」（須賀敬一）

＊

二次会はテーブルを並べ直して再開。200数十人から70人になったが、ますます互いの話は進み酒も進む。そしてコーラスも。稲門シニア、横浜稲門、いそべと、昔の仲間同志がむらがって坪井さんの指揮で「秋のピエロ」、須賀さんの指揮で、「シュテンチェン」などを歌い、いそべは得意な「時無草」「松の花」などを次々とハモって、午後7時、歌い、食い、飲む集いはお開きとなりました。



→二次会のメダマ、シュガーずはフルメンバーで力演

たくさんの頂戴物を ありがとうございました

みなさまから沢山の飲料、嗜好品、御祝儀など頂戴しました。左に記してお礼に代えます。（順不同、敬称略）

横浜稲門グリークラブ
稲門グリークラブシニア
桜友女声合唱団
磯部周平
宮代コールフロー女声合唱団
合唱団 柴刈
秋本秀介
黒沢幸男
浅妻 勲
土屋昌也
蟻生栄子
福井忠雄
三雲孝夫
須賀敬一
早瀬一洋

英国民謡集ーおなじみの小学唱歌の歌詞を原詩に忠実な歌詞に

伊藤武雄と大木惇夫による歌う歌詞への挑戦

ー長田　茂（1T）

子どものころよく歌っていた小学唱歌には、イギリス（アイルランド、スコットランド）の民謡に明治の美文調の詩がついたものがたくさんありました。「蛍の光」（蛍の光 窓の雪…）、「久しき昔」（語れ愛でし真心…）、「故郷の空」（夕空晴れて秋風吹き…）、「庭の千草」（庭の千草も 虫の音も…）などなどです。これらはそもそも、音楽取調掛・伊沢修二が師メーソンの知恵を借りて編集した『小学唱歌』がお手本で、アメリカの小学校で歌われていたイギリスやアメリカの民謡を、日本にもってきて、それに、日本の風物の美しさ、人生の希望、幸せ、感動などを歌った詩をつけたものです。

戦後になって、バリトン歌手・伊藤武雄と詩人・大木惇夫のコンビで、オペラやリートの歌詞に立派な業績を残していますが、民謡にも、原詩に忠実な訳詞を試みたものがあります。その中の一つが、今回取り上げる男声4部合唱曲「英国民謡集」（薗田誠一編）です。

当時、東京大学コールアカデミーの指揮をしていた、テノール歌手・薗田誠一の呼び掛けと思われます。伊藤と薗田は東京音楽学校（現・東京芸術大学音楽学部）の同級生です。

以下は『東京大学音楽部50年史』からの抜粋です。

《大戦末期から十年近く、現役コールの指導は薗田誠一先生となったが、昭和23年頃、当時の若いOBが集まって、YOB合唱団なるものをつくり、再び伊藤（武雄）先生に見ていただくことになった。

この頃（昭和24年？）、伊藤先生は邦訳歌詞の質の向上に努めておられ、次々に名訳を発表しておられた。われわれも「Long long ago」（想い出）、「Home sweet home」「Auld lang syne」など次々に歌い楽しんでいた。印象に残るのは、赤門前のタムラで、ある晩、「今こんなのを作りかけているんですがね」と「Coming through the rye」を口ずさんで下さったことである。あのCまで響く低いバスで、物語るように「誰かが誰かと麦畑で、こっそりキスした、いいじゃないの」と歌い出された。この歌詞は我々が初演した。

やがて、その頃の現役が、またもっと若いOBとなったとき古いOBと「YOB」と、この最も若いOBが合同して「東大OB」を名乗ることになり（昭和25年）、薗田先生が新しい指揮者となって今日（＝昭和46年）に至っている。》（穂坂直弘・昭和15年卒、1T）

昭和30年に、東京大学OB合唱団の第1回演奏会が開かれていますが、この時に演奏された「英国民謡集」は、「埴生の宿」と「楽しかりし昔」が抜けて、「春の日の花と輝く」が入っています。この訳詞が伊藤・大木コンビによるものかどうか、確認できておりません。

1「誰かが誰かと」

Comin, Tro, the Rye（スコットランド民謡）

明治以来、「故郷の空」として、大和田建樹の「夕空晴れて秋風吹き…」でおなじみのセンチメンタルな曲に、伊藤・大木は「誰かが誰かと 麦畑で…」と、コミカルな詞をつけましたが、これは、いささか淫らでコミカルな田園情緒を歌った民衆詩人ロバート・バーンズ（Robert Burns）の原詞に忠実な訳詞なのです。また原曲にあるスコッチ・スナップという、特殊なリズム（第1小節、第3小節の2拍目4拍目など）を生かしています。「故郷の空」では、そこを普通の付点に変えていました。

ドリフターズが「誰かさんと誰かさんと 麦畑で…」と、面白おかしくテレビで歌ったのをドリフの替え歌と思った人が多かったでしょうが、実は、伊藤・大木コンビの訳詞が下敷きだったわけです。

2「アニー・ローリー」

Annie Laurie スコットランド民謡

スコットランド民謡として知られていますが、詩人ウィリアム・ダグラスの詩をもとにスコット夫人が作曲した曲です。

アニー・ローリーはマクスウェルトン卿の娘で、スコットランド中に知られた美人だったそうです。アニーとダグラスは愛し合っていましたが、二人の父親が互いに対立する氏族（clan）に属していたために結婚は許されず、アニーのことが忘れられないダグラスが彼女への想いを一編の詩に託しました。これに後に女流音楽家ジョン・ダグラス・スコット夫人（Alicia Scott）がメロディーをつけたものがスコットランド民謡「アニー・ローリー」です。その際、詩も一部、修正追加されたようです。

日本語の歌詞としては、緒園涼子の「春の岸辺に 咲きし花よ…」のほか、「才女」のタイトルで里見 義（ただし）の「書き流せる 筆のあやに…」などがあります。

3「埴生の宿」

Home Sweet Home
Henry Rowley Bishop作曲

1823年に作曲され、同年初演のオペラ『ミラノの乙女』の中で歌われていた曲が独立したものです。日本では里見 義の詞「埴生の宿もわが宿…」でおなじみです。里見の詞も、劇作家ジョン・ハワード・ペインの原詩に近い訳詞です。「埴生の宿」とは土間にむしろを敷いて寝るような貧しい家のこと。

映画『ビルマの竪琴』で、タイの国境付近の村で、イギリス軍に包囲されてしまった日本の部隊が「埴生の宿」を口ずさむと、イギリス兵が攻撃をやめて英語で合唱してきた、という感動的なシーンの演出に一役買っています。

（続く）

「子供と笛」（片山敏彦詩・磯部俶曲）の楽譜を探してます

メールに「子供と笛」の楽譜を捜しているのですがという問い合わせが入り、早速対処しました。そのお礼のメールです。

長田様

ありがとうございます。楽譜とどきました。

40年ぶりの対面です。実は学生時代に九州でこの歌をうたっていました。当時、私にとって中村仁策さん率いる神戸中央合唱団は憧れでした。残念ながら実際に聴く機会はなかったのですが。

この11月末に当時の仲間と再会の予定があって、是非ともこの歌をうたいたいとのリクエストがあったのですが、なにぶん皆合唱活動から遠ざかっており、楽譜がない……ということになり、いざ探してみるとなかなか見つからず、やっと貴合唱団にたどりついた次第です。

実は、ほとんどの仲間が今年還暦を迎えます。かく言う私もそうなのですが。中には37年ぶりに再会する人もいます。きっと楽しい会になると思います。

本当にありがとうございました。

ところで貴合唱団の演奏会はいつですか？

私も仕事の関係で5年前までは東京に住んでいました。東京にも仲間がいますので…。

また結果を報告させていただきます。

まずはお礼まで

2008年11月6日

奥村英樹

「子供と笛」は磯部先生没後1年の1999年10月1日磯部俶メモリアルコンサートで最後の合同演奏の1曲として須賀監督の指揮で歌われたのが最も近時の演奏記録です。

先頃、ユニークでちょっと変わった、いささか刺激的な展覧会に出かけた。東京オペラシティータワーのNTTコミュニケーションセンターでのライト・［イン］サイトという出しもの。サブタイトルに〝拡張する光、変容する知覚〟とある。まさしく光学技術と、光を受容する人間の感覚とを、芸術がコーディネートする、といったイベントである。

この歌、夜更けの土蔵の白い壁に月の光が射し、そこに一番では梅の花の〝淡い影〟が、二番では小川の水に猫柳の〝細い影〟が映っている。詩はそれを月が演出する映画とテレビに見立てている。

歌のタイトルのように、リズムはもうすぐ春がくるという期待感に満ちた心の躍動が感じられるものの、歌の舞台となっている土蔵に白壁のたたずまいは

いそべ男声メロディー・歌の博物誌⑨

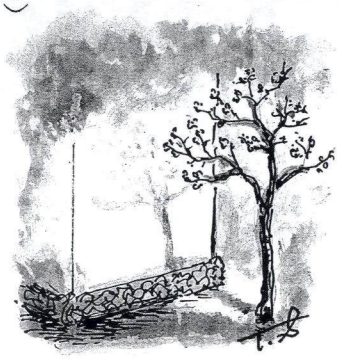
夜ふけの土蔵の白壁に お月さんがだまって うつしてる

「もうすぐ春」宮澤章二詩・磯部俶曲

澤野　勉（2T）

広島の原爆のあの人の形の影のように、自分の影が白い壁に固定されるのを見ることができる奇妙な部屋もあった。残像が一分以上も消えないという不思議な体験もできる。

光のメカがここまで進んでいるのかと感心したのだが、見終わって帰る途上、思い浮かんだのが、この「もうすぐ春」。歌の中の〝お月さん〟が落とした影が描く梅の花と猫柳は、まさに光あっての映像だ。



この上なく静謐である。キーワードは土蔵の白壁。夜気のひんやりとしたつめたさと、月の光に照らされた厚い漆喰の壁の質感が、白い壁の上の梅の影を通してせまってくるーー光を対比させることで、白壁の美しさをみごとにひきだしているところが、この歌のポイントとなっている。

土蔵の白壁は、壁土を塗った表面に漆喰を塗って仕上げたもので、屋根やなまこ壁の黒い色が、白さを際立たせている。漆喰は消石灰にふのりなどと混ぜた日本古来の建材で、「しっくい」は唐音で、石灰のこととのこと。

ナチス政権を逃れて日本に亡命したドイツの建築家ブルーノ・タウトは、日本の各地を歩いて桂離宮をはじめとする日本の伝統的な建築に大きな興味を示した。『日本雑記』の中で日本の農家について触れたところでは、土蔵について次のように書いている。

「土蔵は、おおむね鮮やかな白漆喰塗であるが、ところどころ黒漆喰で装飾を施してある。…土蔵は周囲の建築物に対して中心的な地位をしめている。…多くの村や小都会などでこのような白壁造りの土蔵がいかめしく立っているのを見ると、その傍にある簡素な住宅などはほとんど眼に入らないくらいである。」

現在でも、倉敷、栃木、喜多方など、土蔵は欠かせない景観をつくっている。しかし、土蔵の美しさは、やはり月光の中のその白さかーーと思う。

（カットも筆者）

田園童謡詩人・島田忠夫

その6

河合隆一（1T）

○最初は独唱曲だった『かやの実』

磯部俶先生は書いている。

「神田の古本屋街を詩集を探して歩きまわっているとき、偶然みつけた島田忠夫の『柴木集』。それまではこの作者の名前はまったく知らなかった。パラパラと頁をめくっているうちに、作曲しようという気持が沸いてきて、古びた小さな本を大事に持ち帰った。まだ神保町の通りを都電が音を立てて走っていた。」（1995年11月、沖縄男声合唱団との第5回合演奏会プログラム解説）

昭和20年代、戦火を免れた神田靖国通りの古本屋街を、渉猟して歩く磯部先生の姿が目に浮かぶようだ。そして、一目惚れした詩集のページを繰りながら浮かんできたメロディーを口ずさんでおられたに違いない。



童謡詩集『柴木集』表紙（小杉未醒画）

このとき島田忠夫の詩につけられた磯部先生の曲は独唱曲だった。

昭和27（1952）年の《磯部俶第1回作品発表会》で〈子供の歌（島田忠夫詩）より〉として「いろり」「鹿」「巣」「かやの実」の4曲を四家文子が独唱している……『柴木集』から選んだ12編の詩で、独唱曲『12の子供の歌』を作曲していたと思われる」と長田さん（1T）が書いている。

『柴木集』は39編の詩を収めた小さな詩集だ。この中の12編ということはかなりの高率と言ってよいだろう。

しかし以上の4曲以外の8曲は演奏記録もなく、楽譜も不明。

失われた8曲はどんな詩だったのか、どんな曲だったのか。親しめる曲がまだまだあったのでは…。『柴木集』の頁を繰るたびに、なんとなく満たされぬ思いに誘われてしまう。

さらに残された曲もいくつかの紆余曲折を経て現在に至っている。

9年後の1961年に東海メールクワィアーの委嘱で男声合唱に編曲され組曲『かやの実』として初演された。柴木集

65（昭和40）年に稲門グリーが『柴木集からの四つの歌』として演奏、82年（昭和57）にいそべ男声が演奏、主要レパートリーとなった。

ところが稲門やいそべが歌ったのは、「四つ」で「狐の祠」は入っていなかった。

1997年、須賀監督が東海メールのカセットライブラリーで「狐の祠」の存在に気づき、作曲者が全く忘却していたこの曲を加えて（元に戻して）全5曲の組曲決定版となり、現在われわれが愛唱している組曲『かやの実』となったわけだ。

なぜ「狐の祠」がオミットされたか不明だが、見つかってよかった。これがあると全体がぐっと引き締まるものね。

（組曲『かやの実』の経緯については長畠さんの記録によりました。感謝。）

○大人の童謡

島田の詩につけられた曲は小松耕輔の「巣」（麦をふみふみ）と高木正雄の「胡桃」の二つが分かっている。小松のは未見。いわゆる童謡調だろう。高木のはちょっと唱歌調の清楚な曲。どちらも全く忘れられている。島田は「私の詩は…幼者が口にのぼせて唄うには或は適しない」と言うとおり、歌われている島田の童謡はなかったと言ってよい。

昭和の初期、童謡は歌われることによって普及して来た。白秋・耕筰の大人向けの曲もあったが、多くは子供のための、楽しみの歌としてだった。

一般的に詩としての評価が高くても曲がつけられてない詩はいくらもある。やっと戦後になって、まど・みちおの登場、金子みすゞの再評価などが、曲がついてなくても、隠れた童謡詩が詩として広く評価されるようになったと言っていいだろう。

西條八十は「市井の児童によき謡を与えるという普通の動機以外、更に大人に謡を与えることによって、彼等の胸に昔の子供時代の純な情緒を呼び覚ましたいという希望からも童謡を書いた」（第一童謡詩集『鸚鵡と時計』序文・大正10年）と記している。ボードレールやマラルメを研究し訳詩し、大人の詩、流行歌まで書く八十だからこそ言えたことかも知れない。

島田はこの八十の考え方に共鳴していたのではないか。彼の創作の骨格は島木赤彦に、西條八十に制作姿勢の範をとっていたのではないか。自分の詩は歌われなくてもよいと言っていることは、単純に流行に背を向ける姿勢と取られかねないが、子供的甘い抒情に媚びたくないということの裏返しの意志表明と推察されなくもない。

そして磯部先生が作った曲はまさに大人のための懐かしさあふれる「童謡」だった。

今われわれ大人の男どもが、磯部先生の曲を歌うのを聞いたら島田は何と言うだろうか。

最後に西條八十の島田評価を紹介する。

「島田忠夫は已に童謡作家としてどこへ出しても恥かしからぬ一家の風格を備えた人である。（中略）強いて氏の作の難を云えば時々それが童謡の境地を離れて単なる小叙景詩に陥ってしまうことだろう。しかしその一糸一毫動かぬ措辞の堅実さは、以て範とするに足りる。」

＊

後記　長くなってすみません。

まだまだ未調査の部分や考察不足があります。話題提供になればと思いつつ、続けてしまいました。三上正秋さん（2T）からの情報の中に島田はクリスチャンだったという記述がありました。感謝。手許の資料には僅かに「クリスマスの夜」という詩があるのみ。それも冬の寒さがテーマでした。課題は残る。

島田の人間像さえ不十分でしたがお許しを。

（完）

江東区合唱連盟について

報告が遅くなりましたが、昨年~~11~~10月に開催された江東区民合唱祭は連盟が発足して最初の合唱祭でした。

昨年6月18日、合唱連盟となったわけですが、ここにいたるまでの米川さんの先見性と計画立案力と、委員を説得して連盟化にこぎつけた努力、馬力に敬意を表したいです。

平成16年に米川さんが、1年間検討したとして、「20年継続して開催されてきた江東区民合唱祭を活性化し、合唱人が〝張り合いをもって積極的に参加できる合唱祭〟を目指すことを願って」提案されたものです。

以来、合唱祭実行委員会で検討を続け、いそべ男声からは米川さんの後を継いだ宮田がこれに加わってきました。

現在、加盟団体は36団体で、大分古い資料ですが、東京23区のほとんどで結成されている合唱連盟では、杉並区(85団体)、練馬区(61団体)、世田谷区(58団体)、新宿区(43団体)、大田区(41団体)につぐ団体数です。残念ながら、男声合唱は、当団のほか、パパス・コーラスと休団中の東京甲陵会があるのみです。

会長は、薮　節子さん(コーラスともしび、パル女声コーラス)、副会長・事務局長は斎藤恵子さん(メロディー)、当団からは総務で宮田茂(1B)が務めているほか、河原季佳(2T)さんに会計監査をお願いしています。

桜が綻びはじめる頃に送る

いそべかず詩の朗読リサイタル

(米寿記念)

ゲーテと自作の詩による「うたのアルバム」
ピアノ調律師
ボヘミアングラスに寄せて
旅人の夜の歌
魔　王　　ほか

朗　読　いそべ かず
ピアノ　市田 良子

日　時　2009年
3月28日(土)
開場　12時30分
開演　13時00分

参加費　¥4,000
(ティーパーティー費を含む)

会　場　グランドホテル湘南
(藤沢駅北口5分)
Grand Hotel SHONAN
〒251-0054 藤沢市鵠沼石神1丁目1番地
電話0466-22-1311(代)
ホームページ http://www.shonanhng.co.jp/fujisawa





お問い合わせ・チケット
「朗読の会」実行委員会
TEL・FAX 04-2928-4111(吉岡)
TEL・FAX 0466-25-1278(安田)

総務だより　運委報告

ます。

平成24年には50周年・第50回を迎え、ティアラこうとうでの合唱祭を計画しています。

(宮田)

●1月11日(13名席)

○新春ファミリーコンサート&パーティー最終打ち合わせ

①料理持参が参加の条件だが、当団に寿司などの購入依頼があるが今回は諸般の事情から受けることとした。

②プログラムは井上副総務作成。

③名札は新たな出費の削減、必要性が薄い、受付業務の輻輳などの理由から中止とした。

○「くちなし」の女声合唱団虹との練習について

・新春ファミリーでの混声演奏の要望に沿って12日に所沢の練習場への合同練習に参加を呼びかけることとした。(当日は7名が、所沢みくに教会へ出向いて須賀監督の練習に参加した)

○35周年コンサート旧団員呼びかけについて

・個別勧誘の方針であったが、討議の結果、文書により復団を呼びかけ、コンサートのみの参加要請があった場合は個別の対応をすることとした。

●1月25日(15名席)

○35周年コンサート

①曲目選定状況
1ステ/『心の四季』全曲
2ステ/室生犀星の詩による3曲、「雪」「松の花」
3ステ/英国民謡集(誰かが誰かと、アニー・ローリー、埴生の宿、思い出、わがパステル(ロンドンデリー・エア)、楽しかりし昔(蛍の光)
4ステ/磯部俶子どもの歌

＊1、2、3は決定。4は曲目未決定。

②旧団員勧誘について

勧誘については種々意見、希望が出されたが、結局、35周年演奏会はあくまで現団員ベースによる練習計画を早急に作成して勧誘案内することにした。

○井上斉(2T)さん会計に

田岡会計が極めて多忙であり会計業務の継続が困難と見られる事から、井上斉副総務が会計に、田岡会計が副総務となることが提案され、了承された。

○やまびこ男声合唱団岡谷特別演奏会について

期日/9月27日(日)13時30分
会場/岡谷市カノラホール

この演奏会で「啄木短歌集」「典礼聖歌」などが須賀監督の指揮での演奏が予定され、当団にも参加要請があったが、当日は道志川合唱祭と重複する日程であるので、当団として磯部先生の名を冠する行事に欠席はできないため、団としての参加は参加できないことに決定した。

団内にはやまびこ男声からの勧誘があったことを案内し、あとは個人の意志に任せることとした。

○予算・決算

遅滞している活動計画と合わせて別途急ぎ検討することとした。

ノイエダーメンコールいそべは左記の方により運営されることになりました

世話役代表　吉岡久恵
会計係　川野辺宏子

連絡先・所沢市小手指町1-17-1F-411吉岡方
☎042-928-4111

SCHEDULE

早：早瀬先生voice training
須：須賀監督指導・指揮

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

■２００９〈平成21〉年

☞今後常に練習に持参すべき曲集
『ふるさと』（枇杷の花、麻の実をくだく山雀、子守唄）
『犀川』（松の花）
『鬼やんま』（雪）
『心の四季』
『騎士の別れ』『夕やけこやけ』

2月 8日（日）	13:00～17:00		定例練習	古石場		Cバー（１B）
22日（日）	13:00～17:00	早 須（Cバーには参加か）	定例練習	豊洲	（運委11:00）	Cバー（２B）
3月 8日（日）	13:00～17:00	須	定例練習	豊洲		Cバー（１T）
22日（日）	13:00～17:00		定例練習	豊洲	（運委11:00）	Cバー（２T）
4月 4日（土）	13:00～17:00	須	強化練習	豊洲		
5日（日）	10:00？～17:00	須	強化練習	豊洲		
12日（日）	13:00～17:00	須	定例練習	豊洲		
26日（日）	13:00～17:00		定例練習	豊洲	（運委11:00）	

7月12日（日）**東京都合唱祭** 須

9月27日（日）**道志川合唱祭**

？ **江東区民合唱祭**

（10月初旬に強化練習予定）

11月 8日（日）**35周年記念演奏会** 於・ティアラこうとう大ホール

編集後記

●新春ファミコン&パーティーにはたくさんの参加と手製の御馳走を有り難うございました。こうした手作りのパーティー、そして互いに歌い聞けるパーティーは外には類がないのではないかと思います。来年はもっともっと互いに応援の声を掛け合い、元気を交換できるパーティーにしたいですね●わが団の35周年演奏会で「英国民謡集」をやることにきまりました。私にとって55年ぶりの再会です。伊藤武雄・大木惇夫の新訳は当時も新鮮でしたが、今となってみると「誰かが誰かと」「思い出」など、ただ面白がって歌っていただけのように思います●改めて譜面を見、訳詞を読んで、伊藤・大木の並々ならぬ苦心と心意気が伝わってきました。ほとんど定着した古い訳詞の不合理性を払いのけ、歌いやすさと原詩への密着性を高めた訳詞。それらをどこまで生かし、表現して歌えるでしょうか●歩いているとき、風呂に入っている時、などなど、なつかしいイギリス民謡のメロディーが頭の中で流れっぱなしになってきました。（河合）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２００９年　３月　　第３３７号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2 ☎03-3926-8369 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.com/isobechorus/
編集担当者:河合隆一(広報) 〒272-0031 市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX047-322-1299

35周年コンサート 曲目きまる

11月8日に演奏する曲目の全容がきまりました

■組曲『心の四季』全曲

当団初めての単独全曲演奏。2004年、石垣島で沖縄男声さんと合同で全曲演奏したのが最初でした。2006年の久留米市田主丸では単独で5曲を演奏、JAMCA大分は合同で全曲、昨年の沖縄さんとの合同では3曲を演奏して来ました。

ということで全曲の単独演奏ははじめてになるわけです。

昨年は稲門グリークラブ・シニアさんが、同じ須賀監督の編曲による全曲演奏を果たしています。一歩先んじられましたが頑張りましょう。

とくに「流れ」と「雪の日に」の8分の12拍子の表現、「みずすまし」のデリカシーなどなどどこにも負けない独自な演奏をしたいものです。

■室生犀星の詩による三つの合唱曲「枇杷の花」「麻の実をくだく山雀」「子守唄」

「雪」（大和ミエ子詩）

「松の花」（大木惇夫詩）

以上・磯部俶曲

「松の花」以外は初めてステージにのせる曲です。

とくに室生犀星の3曲は男声版の演奏初演になります。

この3曲は1978年に犀星の出身地、金沢の金沢中央公民館合唱団の創立25周年を記念しての委嘱により作曲され、金沢で初演されました。混声で歌える犀星の曲が欲しいという希望だったようです。

2001年に須賀監督が男声ヴァージョンを仕上げ、今回がその初演となります。

「犀川」「時無草」「ふるさと」で歌われている甘い抒情性でなく、陰の深い詩であり、曲ですが、次々と続く転調、あるいは重い抒情のなかに、生い立ちの暗さを逆手にとった、したたかな犀星の息遣いが表現されるといいのですが。

「雪」は男声版の初演。大規模な3声カノン。雪の結晶が降り続けるような言葉づけなど、意欲的な実験作です。

1969年、磯部先生の指揮で日本合唱協会初演でした。そのあと組曲「虹」の終曲や、いくつかの組曲に組み込まれるなど、「交際範囲」の広い曲です。女声用もありますが、須賀監督がコーダを男声用にアレンジして今回はその初演です。

大雪さながらに降りしきる言葉、言葉…。挑戦あるのみ。

「松の花」

四家文子がこの曲をレコーディングしたとき、終わりの部分で涙声になってしまったというエピソードが余りにも有名な磯部歌曲の名曲。われわれいそべ男声もこよなく愛して歌っていますね。

■英国民謡集

「誰かが誰かと」「アニー・ローリー」「埴生の宿」「思い出」「わがパステル」「楽しかりし昔」（伊藤雄・大木惇夫共訳詞）

伊藤と大木はどちらも広島出身の声楽家と詩人。敗戦後の昭和20年代、外国語歌曲の訳詞が活発な時期がありました。一つの文化現象といってもいいでしょう。明治時代にできた古い訳詞・作詞から、原詩の内容に忠実な歌詞、日本語の抑揚に合わせた歌詞づけ、二重母音の導入など、意欲的な試みがなされました。二人以外にも柴田睦陸、吉田秀和、入野義郎、柴田南雄、さらには加藤周一などそうそうたる顔ぶれが見られます。この民謡集もその成果の一つです。

クラシック畑ではその後は原語演奏が主流となりましたが、日本語歌曲演奏への一石となったことは確かでしょう。

50数年前に早大グリーで歌ったメンバーも何人かいます。ナツメロですが新鮮な気持ちで取り組みたいです。

■まど・みちお／いそべとし 子どもの世界

「びわ」「つりかわさん」「りんご」「おさるのやきゅう」「さくらのはなさん」「たなをつくりましょう」「いねかり」「やきいものうた」「ハンカチ」「ヤマアラシ」

今年100歳を迎えるまどさんの詩によるワンステージです。「りんご」「たな…」「ハンカチ」の3曲は須賀監督が猛速で編曲し、長田さんが超速で楽譜をおこしてくれました。みな愛唱してやまない、いそべ男声独自のレパートリーです。

・

2月22日の練習では、新曲のリズムやハーモニーのいい加減さが目立ち、田邊副代表から「みな、もっと自分で予習して練習場にのぞまなくちゃダメです」との厳しい指摘があり、みな襟を正す一幕がありました。頑張りましょう。

（河合）

※ステージ順、曲順は未定です。

伊藤武雄と大木惇夫による歌う歌詞への挑戦　続き

長田　茂（1T）

4「思い出」
Long Long Ago　イングランド民謡

イングランド民謡とありますが、イギリスの古い歌曲で、トーマス・ヘインズ・ベイリー（Thomas Haynes Bayly）の作曲です。日本では先述のように近藤朔風訳詞の「久しき昔」（語れ愛でし真心…）でよく知られています。

伊藤・大木の訳詞は、ジャック・ディ・メロ（Jack De Melo）の原詩の心をよく伝えています。「懐かしいあの話をしてくれないか、とおいとおい昔の」「僕らが会った小道を覚えているかい？　とおいとおい昔に」というような意味の原詩を「よく訪ねてくれたね、よくまあ、ねえ君…」と日常会話そのままの、口語体詞にして、ベイリーの軽やかなメロディーにはめ込みました。

5「わがパステル」
Londonderry Air　アイルランド民謡

「Londonderry Air」の「Air」は日本に××調とか××節に当たる言葉で、この曲は、北アイルランドの一州、ロンドンデリーに古くから伝わった曲です。このメロディーに、最初にアルフレッド・グレーヴズが詩をつけて以来、多くの詩（一説には一００曲以上）がつけられていますが、「Danny Boy」以外は広く歌われることはなかったようです。アイルランド生まれの名テノール、ジョン・マコーマックがアンコール曲にこの「ダニー・ボーイ」を好んで取り上げて、世界各地に広まったものです。このフレデリック・ウェザリーの詩は、出征したわが子を思う母親の心情を綴ったもので、第一次世界大戦が勃発する前年に発表されました。

伊藤・大木コンビは、メロディーが先で、多くの詞がつけられたこの曲に、訳詞より作詞を選んだようです。キャサリン・ヒンクソン（Katherine T. Hinkson）の「アイルランドの恋の歌」（Would God I were the tender apple blossom）が下敷きになっているかもしれません。タイトルの「わがパステル」がちょっと分かりにくいのですが。

6「楽しかりし昔」
Auld Lang Syne　スコットランド民謡

「蛍の光」として、なじみ深い曲です。稲垣千穎（ちかい）の詞は、「蛍の光」「窓の雪」など中国の故事をもってきたところから凝っていて、ほかにも掛詞を使ったり古語を多用したりして、子供には難しい歌詞ですが、スコットランドの民謡は、この曲に限らず、五音音階のものが多く、これが日本の民謡音階と似ているところから親しまれたのでしょう。

日本では卒業式やデパートの閉店時間など、「お別れの歌」ということになっていますが、あちらでは「再会の歌」で、ロバート・バーンズの「懐かしい友に再会できた。昔を思い出しながら飲もうじゃないか！！…」という詞による、友情とドリンキングの歌です。大晦日のカウントダウンで、新年になると同時に、広場やパブに集まった人々が、誰でも近くにいる人と肩を組んで、この「Auld Lang Syne」を歌い出すそうです。

伊藤・大木コンビの訳詞は、もちろん、「いざや我ら　盃をあげて、せめて偲ばん　よき昔を…」と再会と乾杯の歌です。

バーンズ詩集

遠き昔

昔馴染の忘らるべきや、
心に思ひ起さずに。
昔馴染の忘らるべきや、
また遠き昔のことの。

いざ遠き昔のために、君よ、
いざ遠き昔のために、
我等友愛の杯とらん、
いざ遠き昔のために。

我等二人は丘馳け廻り、
雛菊の花を摘み合へり。
されど其より長き年月
辛き旅路をさまよへり。

我等二人は小川に遊び、
朝より午時までを過せり。
されど其より長き年月
大洋遠く遮れり。

此處に我が手あり、友よ、
汝が手をも差し出せよや。
而して我等心ゆく親愛の酒飲み干さん、
いざ遠き昔のために。

而して汝は汝が大盃をとれ、
我は我が大盃をとらん。
而して我等友愛の酒飲み交さん
いざ遠き昔のために。

これはRobert Berns(1759-96)の詩 'Auld Lang Syne' の全編の訳です。（「バーンズ詩集」中村為治訳、岩波文庫、1928年）伊藤・大木共訳詞は原詩の１、２節と最後の節によって訳詞したようです。
Bernsは37歳の若さで他界しましたが、600編以上の詩を残し、今なおスコットランドの国民詩人として愛されています。 'Auld Lang Syne' は古い民謡だったらしく、その元歌は不明だそうで、いくつかの歌詞があり、さらにはベートーベンも伴奏をつけているようで（12のスコットランド歌曲集Woo.156）、古くから広く愛されてきた曲です。今はBernsの詩で世界中の人が歌っていますが、日本では「蛍の光」です。この曲を外国で聞いた日本人が、「外国でも日本の歌がうたわれているぞ」と言ったという話もあるそうです。今回は原詩で古き仲間と盃を上げましょう。（参考『ロバート・バーンズ』晶文社）（河合）

宮城 敏さん タイムス芸術選賞大賞受賞！

沖縄男声合唱団の指揮者・宮城敏さんが沖縄タイムスの芸術選賞の大賞を受賞されました。大賞16人のうち洋楽・邦楽部門の合唱指揮の分野です。同賞は沖縄の芸術面での権威ある賞で、18年前に沖縄男声さんが奨励賞を受けています。今回の受賞は最高の栄誉だと宮城稔団長が言っておられます。おめでとうございます。

タイムス芸術選賞 16人に大賞

二〇〇八年度（第四十三回）沖縄タイムス芸術選賞の受賞者が決まり、二十八日に贈呈式と祝賀会を開きます。昨年一年間を通して優れた芸術活動および芸術文化の向上に業績のあった個人・団体を顕彰するもので、今回は十部門から大賞十六、奨励賞十九、功労賞五氏に贈られます。

【贈呈式・祝賀会】
▽日時　2月28日（土）午後6時―8時30分
▽場所　那覇市・パシフィックホテル沖縄（万座の間）
▽会費　5000円（高校生以下3000円）

タイムス芸術選賞受賞者

二〇〇八年度沖縄タイムス芸術選賞の受賞者は次の各氏。（1面参照。順不同）

【大賞】▽美術＝仲松清隆、川平恵造（絵画）▽書芸＝名嘉喜美▽工芸＝小橋川清次（陶芸）▽文学＝中里友豪、勝連繁雄（詩）▽演劇・映像＝謝名元慶福（脚本）▽洋楽・邦楽＝宮城敏（合唱指揮）▽洋舞・邦舞＝大嶺敬子（創作バレエ）▽琉球古典音楽＝宮城健、安室孝雄、大濱朝重（三線）上地七重（箏曲）▽琉球古典舞踊＝津波明子、島袋秀乃、志田真木

【奨励賞】▽美術＝大城譲（絵画）▽工芸＝崎山里見（木工芸）

（以下略。）

表現高め心の歌届けたい

洋楽・邦楽部門（合唱指揮）



宮城敏さん

琉球大学時代、合唱に出合い、同大音楽学部卒業と同時にパスポートを持って上京した。東京混声合唱団の一員として活動し、国内外の指揮者の下で歌った。

復帰の年に帰郷してつくったカルテットが、「沖縄男声合唱団」として発展している。「男声の持つ厚みと深み」が魅力だ。県内外で演奏会を開いたが、ハンガリー公演が思い出に残っている。「沖縄と日本の民謡を歌った。拍手が鳴りやまなかった」と喜んだ。

「血肉となっている沖縄の歌を歌えたらと耕してきた」との自負もある。「表現を高め、心の歌として聞く方に届けたい」と抱負を語った。

「合唱は一人ではできない」と繰り返し話す。仲間や支えてくれた関係者への感謝は尽きない。

◇　◇

みやぎ・さとし　一九四六年生まれ。名護市出身、那覇市在住。

『はる友』が課題曲に

高校OBG330人の合唱祭で

『遥かな友に』が、ある高校OB合唱祭の課題曲になっていました。

都立立川高校は1950年から生徒会と音楽部が共同でコンクール形式の合唱祭をやっていました。その課題曲だったということです。それも4回も。

混声はローレライなどのドイツの歌やアニーローリーなどのイギリス民謡、日本の歌はもちろん、フィンランディアや、男声は清水脩のピエロ、いざ起てなども歌われましたが、『はる友』の4回は最多です。

立川高校は立川市にあって、府立二中から戦後に立川高校になった学校。1959年から東京音校出身の井上智子先生が指導してから合唱祭はますます盛り上がり、今まで毎年開かれているようです。

同窓会誌『紫芳』第47号（平成20年12月）によると、第59回合唱祭はOBG332名の参加で、退職して85歳の井上先生の指揮で全員合唱の「道」「アニーローリー」「フィンランディア」そして「はる友」を。

先生は「この曲の3番は思いを遠くに運ぶようなピアニッシモで」「ソプラノはピアニッシモになっても下がらないように！」と厳しい指導をされているのが生き生きと描写されていました。『はる友』よ永遠に。

ちなみにこれを提供してくれたのは同校OBである長島義隆さん（2B）でした。感謝。

坂巻さんの〝誕生日〟

―病気克服を銘記する日でした

2月22日のCバー。須賀さん差し入れの銘酒「松の露」を始め、珍酒を話の種に談論盛り上がりをみせ始めたころ、突然、坂巻信幸さん（2B）が立って話しはじめました。

「今日は私の誕生日なんです。6年前の今日私が脳梗塞で倒れた日なんです。病院の中で倒れたことと、新薬のおかげもあって、今、こうして歌っていられるようになりました。この日に、今の私に生まれかわったわけです。みなさんご心配ありがとうございます。ですから、みなさんでこのお酒を飲んでください。」と言いつつボトルをあげました。

当然、全員大拍手。「じゃあハッピー・バースデーだ」と、期せずして大合唱がはじまりました。会場、ますます盛り上がったのは言うまでもありません。

メデタシメデタシ……

「びわ」を教えてくれた3歳のY君

「食べもの文化」（2月号、芽ばえ社）に、こんな記事がありました。

加古明子さん（応用心理士・子ども文化研究所所員）の「子どもの目線　大人の目線」という文章です。

Y君3歳、幼稚園からの帰り道に、お母さんと手をつないで〝びわは　やさしい　きのみだ〟から〟と歌います。お母さんはY君がこの歌が好きなことがよく分かりました。おうちに帰ると、今度はおばあちゃんに歌って教えるのです。おねえちゃんにも教えました。2番までしっかりと。二人ともすっかり覚えてしまいました。（そのあとのことは左の原文を読んで下さい・編集部）

（前略）

ママは、いつだってY君のことならなんでも知ってる、わかっていると思っていました。でも、Y君がこんなに気に入ったこの曲を自分は知らなかったし、こんなにも熱心にくりかえし歌って家族に教えてくれる優しい力が育っているとは気づきませんでした。

第一、びわをこのようにあらわした詩、曲の響きなんて、すごいセンス！

一語一語全てがわかる段階でなくても、幼い子どもながら一曲にひきこまれる感性があるのは驚きです。Y君なりに、詩を全身で受け止め、ソフトに旋律を辿り、メッセージに感応したことにママは大感激。先生がなさったように、全員が覚えて満足するまで繰り返し歌ってくれた親切さ優しさをY君がすでに身につけ始めていることには頭が下がりました。

3歳だって、立派な一人前。家族を引っ張り上げる存在なのだと改めて知りました。（以下略）

（p58〜59より）

（提供／澤野）

いそべ男声メロディー・歌の博物誌⑩

〽角のおちた鹿が　鳴きなき　ゆくよ

「鹿」島田忠夫詩・磯部俶曲

澤野　勉（2T）



まだ手書きだった頃、一九八三年の第88号のニュースの「いそべ男声メロディー歳時記」の一部を再録ー。春、奈良のお水取りの話題から、「奈良の鹿たちも、三月、春には様変わりする。鹿の角は晩冬から春にかけて毎年根元から抜け落ちて、また新たに生えてくる。それはビロード状の皮膚で覆われ、袋角（たいかく）と呼ばれる。四月から五月あたりの鹿はなにか頼りなとにして、四半世紀を経た（おお！　何と）今号では、鹿のホットな話題、鹿肉で町起こしをしている話題をー。

こちらは奈良とは遠い北海道。鹿も北海道に棲息するエゾシカだが、40万ともいわれる野生の鹿が大きな社会問題となっている。農林業被害は釧路など東部地域を中心に年間32億円にものぼるという。自動車や列車との衝突事故、人身事故も頻発して試みが進められている。エゾシカの肉は高蛋白、低脂肪で、治療食に使われるササミの性状に近いすぐれた食材で、釧路の飲食店では、多くのところでこの鹿肉を扱っている。

鹿肉は昔から食べられていて雅称を紅葉という。人間共通の寄生虫がいないということで生食もされ、これは紅葉刺しという。

ともあれ、角の落ちた鹿が里へ向かって歩いていく歌の中の情緒は、いまはすでにない。詩の中の行く先は、〝里の方へ〟とあるが、その里が、鹿と人とが共存していたとのこと。エゾシカは何でも食べて繁殖率も年率20パーセントと高く、天敵だったエゾオオカミが絶滅したこともあり、現状では増加して地元では困惑しているとのことだ。

北海道はエゾシカを保護しながら被害を少なくするために、年間6〜7万頭を捕獲している。ただ、この程度の捕獲では、まだまだ減らないのが現状のようだ。これだけ多量に捕獲された鹿を、何とか活用しようという詩人はそこに到るまでの春の鹿を、心温まる心情で鮮やかに捉えている。……やがて生えてくる枝角（しかく）のある鹿に比べて、角のない鹿は、はた目にも淋しい。それを〝帽子買ひにゆくよ〟と言ったところに詩心の眼がある。〝里の方へ〟行っても、鹿に身の危険はない。狩猟民族とは違った、動物と同じ次元にたった生命観がここにはある。」

角の講釈はこれまでにするこ

ていた里山が、消えて久しい。詩の世界であれ、鹿と人間とが共通の空間に暮らしていた舞台は、もうない。

だからこそ、と言えるだろうか、島田忠夫と磯部俶の描くメルヘンは、人の心に響くものをもっているのだろう。

（エゾシカの資料は日本フードスペシャリスト協会会報No.28、釧路短期大学岡本匡代「究極の赤身エゾシカを味わってみませんか」による。）

（カットも筆者）

訂正とお詫び

○前号3頁新春コン&パーティー頂戴物の記事のうちで掲載落ちがありました。深くお詫びしてここに紹介いたします。

・コーロこせやま　お酒

○前号3頁左下のキャプションの「二次会のメダマ、シュガーずはフルメンバーで力演」は、**「フルメンバー」は誤りで1名（小川将太）が欠席**しておりました。小川君ごめんなさい。

○『かやの実』の名付け親

前号6頁「田園童謡詩人・島田忠夫その6」の記事で、3段目3行目、東海メールの演奏「組曲『かやの実』」とあるのは**「組曲『柴木集』」**が正しい表示でした。

あとで、須賀監督が「狐の祠」を発見して、磯部先生に組曲のタイトルを相談したとき、先生は「『いろり』はどうか」と言われたそうです。これに対して須賀さんは、明るい音で始まる**「かやの実」**はどうですかと言ったら、先生は受け入れてくれたそうです。この組曲の名付け親は須賀さんでした。（河合）

総務だより

2月22日運営委員会

●企画委員会について

企画委員会の設置を左記の通り承認した。

メンバー

長田　茂（代表）
田邊喜三郎（副代表）
安部建雄（演奏総轄）
宮田　茂（総務）
戸丸　悟（副総務）
田岡典尚（副総務）
井上　斉（会計）
河合隆一（広報）

検討事項

・20年度決算
・当団財政と磯部基金
・年度会計
・次年度人事
・その他（日本歌曲振興会維持会員継続及び日本男声合唱協会JAMCA会員継続について）

3月8日（日）11時より活動開始

●35周年コンサートの旧団員への呼びかけについて

団として参加呼びかけの書簡を送ったが、22日現在の状況は左記のとおり。

・参加／徳田　浩（3月）
　　鈴木賢一（7月）
・一部参加／
　　中山　寛
・他に参加可能性のあると思われる3、4の人に連絡をとることにした。

●35周年コンサート子どもの歌ステージは、まど・みちお作詩の曲でまとめる

今年100歳を迎えるまどさんを祝して、まど＋磯部のプログラムにする。今までの手持ちの7曲に加えて、須賀監督が新たに「りんご」「ハンカチ」「たなをつくりましょう」の3曲を最速でアレンジしてくださって全10曲、約10分の演奏となる。これで4ステージ全曲目決定。

●東京都合唱祭参加について

日程／7月12日（日）
参加費／@2200円
演奏時間／8分以内
曲目／まど・みちお詩の曲から
申込締切／4月22日
※12日は総会予定だったが、これを26日に繰り延べすることにした。

●東京都合唱連盟2009年度野外コンサート計画について

プラン概要の報告があったが今年度は35周年コンもあり、不参加に決定した。

●江東区民合唱祭の開催日

日程／10月25日（日）

35周年コンを控えての参加であり、練習時間を削減されぬために、合唱祭当日オンステ前後も練習を行うことにした。

●強化練習スケジュール

場所／豊洲

4月4日（土）
　13時～15時　発声指導
　15時～19時　曲目練習
4月5日（日）
　10時～17時　曲目練習（Cバー）

●『まどさん100歳展』参加について

主催者側から参加歓迎とのことで、永井さんの予定などを勘案して参加日程を決めることにした。費用の参加者負担もやむを得ないとの意見が多数あった。その後左記のとおりの予定で参加決定。

日程／4月19日（日）集合12時
　13時、16時の2回演奏
会場／銀座教文館9Fウェンライトホール
（この会は詩人まど・みちおさんの100歳を祝して教文館が主催して行う展覧会。会場が狭く全団員の出場は不可能のため各パート4～5名の参加となる。）

・参加者練習を4月12日（日）11時～12時に豊洲にて実施。

●吉岡久恵さん（故吉岡健さん夫人）**賛助会員承認**

7月から新会計年度だが、中途加入のため6月までは無料ということで承認された。

消息

■武田元次郎さん（2B）復団

昨年暮れから来団されていましたが2月8日の練習から定例練習に参加、復団されました。グリー同期では岩崎、大澤、高橋、長島、宮田…と仲間がそろって心強い限り。

■竹重　敦さん（1T）退団

一身上の都合で退団されました。

千代田区の「さくら」を守り、育てる
ワンコイン　チャリティーコンサート

第2回
さくらコンサート

2009年3月28日(土)

開　演　午後2時（開場午後1時30分）
会　場　昌平童夢館　2階多目的ホール
千代田区外神田3-4-7 TEL 03-3251-5641
参加費　500円（500円以上ならばお気持ちで）
皆様の浄財は全額千代田区のさくら基金に寄付されます

出演
♪合　唱　昌平コールアブサンズ
　稲門グリークラブ・シニア会
♪ヴァイオリン　山岸千恵
♪ピアノ　大吉惇平

主　催　稲門グリークラブ・シニア会
（連絡先　福井忠雄 Tel 3251-9389）
協　力　昌平コミュニティースクール運営委員会
後　援　千代田区

SCHEDULE

早：早瀬先生voice training
須：須賀監督指導・指揮

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

■２００９〈平成21〉年

3月 8日(日) 13:00～17:00 須 定例練習 豊洲 (企画委員会11:00)Cバー（１T）
22日(日) 13:00～17:00 定例練習 豊洲 (運委11:00) Cバー（２T）
4月 4日(土) 13:00～19:00 早 須 強化練習 豊洲
5日(日) 10:00～17:00 須 強化練習 豊洲 Cバー（１B）
12日(日) 13:00～17:00 須 定例練習 豊洲 Cバー（２B）
(まどさん100歳展出演者練習11:00~12:00)豊洲第2会議室
19日(日) **まどさん100歳展参加** 於・銀座教文館９Fウェンライトホール
12:00集合(教文館7F会議室) 出演13:00、16:00（２回演奏）
曲目／びわ、いねかり、さくらのはなさん、つりかわさん、やきいものうた、おさるのやきゅう、ヤマアラシ（未決定）
26日(日) 13:00～17:00 須 早 定例練習 豊洲 (運委11:00) Cバー
5月10日(日) 13:00～17:00 早 定例練習 豊洲
24日(日) 13:00～17:00 定例練習☞東陽町／江東区文化センター・リハーサル室
☞(運委11:00第5研修室)(Cバー第5研修室)

7月12日(日) **東京都合唱祭** 須
26日(日) **総会**

9月27日(日) **道志川合唱祭**

10月25日(日) **江東区民合唱祭**

(10月初旬に強化練習予定)

11月 8日(日) **35周年記念演奏会** 於・ティアラこうとう大ホール
曲目／○組曲『心の四季』全曲
○室生犀星の詩による三つの無伴奏男声合唱曲－枇杷の花、麻の実をくだく山雀、子守唄
雪
松の花
○英国民謡集－誰かが誰かと、アニー・ローリー、埴生の宿、思い出、わがパステル、楽しかりし昔
○まど・みちお/いそべとしの子どもの世界－びわ、つりかわさん、さくらのはなさん、いねかり、りんご、おさるのやきゅう、やきいものうた、ハンカチ、ヤマアラシ、たなをつくりましょう (以上ステージ順、曲順は未定)

編集後記

◆近頃、博物館などでは、展示のある会場やロビーで、スピーチやコンサートを催すことがよくあるようになりました◆市川市にある東山魁夷記念館でも、それを体験しました。会場が小さいため弦楽とフルートの小編成でしたが、東山画伯の好きだったモーツァルトが会場に響いて、絵の中の深い山や草や樹木に共鳴しているように感じられ、今までになかった気分を味わいました◆今度、いそべ男声がまど・みちおさん１００歳展で歌うという話がおきました◆詩人の展示会、それも童謡の作者の展示会だから、歌が会場に流れて当然だろうと思っていました。今度は演奏する側です。われわれ男どもが童謡を展示場で歌うと、静かに見学している人たちはどう思うのだろうか、見学者－まどさんのファン－にどんなふうに受け取られるだろうか、雑音と思われないだろうか、いささかの不安もあります◆一昨年の幼稚園と、今度は詩人展での演奏。団としての初体験が続きます。（河合）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２００９年　４月　第３３８号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2 ☎03-3926-8369 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.com/isobechorus/
編集担当者:河合隆一(広報) 〒272-0031 市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX047-322-1299

磯部 和 先生 ゲーテ詩を熱演

3月28日(土)於・グランドホテル湘南



藤沢駅前のホテルで「いそべかず 詩の朗読リサイタル」が開かれました。花冷え、詩の朗読という地味な催しにもかかわらず会場は１３０人の盛況。

冒頭「１９２２年生まれの私は今年米寿になります。記念に朗読でもやろうかな思っていたら、実行委員の方がサッサと準備して下さって今日になりました。どうぞよろしく」とのご挨拶があって、まず自作詩の朗読から12編を。

「カタコトカタコト江ノ電さん」と、軽妙な詩でまず雰囲気を解きほぐし、「クリスマスイルミネーション」と「ピアノ調律師」では亡き俶先生への思いを、しみじみと語って下さいました。

ピアノの市田良子さんは「落葉松」(小林秀雄)のソロをはじめとして、名曲のアレンジを織り混ぜながら全朗読を支えられました。

第2部はゲーテの詩を9編。

冒頭「私が尊敬する人は1番目はゲーテ。2番は福沢諭吉、3番はいそべ・としです」との和先生のコメントに、当然みな大拍手。「私が買って来て作った湯豆腐、切り干し大根、刺身、みんな一番うまいといってくれました」(笑い。拍手)

そして、ゲーテの「ミニョンの歌」「魔王」「トゥーレの王」などの名作9編(井上嶽)を熱演。

「ゲーテの詩、朗読コンテスト」で準優勝された実力を発揮されました。

「ゲーテは82歳で死にましたが18歳の恋人がいたそうで、いつまでもトキメキを忘れない人です。私は尊敬しています」とのコメントが印象的でした。

最後は磯部周平さんの指揮でこれもゲーテ詩のウェルナーの「野ばら」を会場全員で合唱。

・

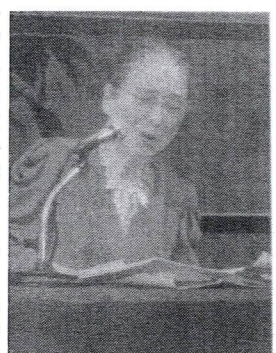
会場を変えて打ち上げは周平さんの音頭で乾杯。

全員出席のボニージャックスが、和先生が訳詞をした「山の歌」を歌って《訳詞家・和先生》に敬意を表し、「大きな古時計」を原語で歌って長寿を祈りました。小林久美(日本歌曲振興会・作曲家小林秀雄氏夫人)、堤敦子(和歌山コールダイヒ)、星野正博(潮音唱連盟事長)、蟻生栄子(クール・オルタンシア指揮者)、吉岡久恵(実行委員)各氏のスピーチがにぎやかに続き、その間にはさまって、いそべ男声出席者7名にボニーの玉田さん、中山さんも加わっての男声版「野ばら」の演奏。

沖縄男声から「米寿記念の詩の朗読リサイタルを祝しお喜び申し上げます。海のかなたの沖縄から盛会をお祈り致します。和先生にあやかってこちらも頑張ります。」との電報も披露。

そして最後は、なんと、周平さん＋1のクラリネットつき、ボニージャックスと一緒という豪華メンバーによる「遥かな友に」の大合唱で朗読会の幕を閉じました。ピアノつきの彩り豊かな詩の朗読会でした。

和先生、次は卒寿記念の朗読会ですね。



←「魔王」熱演。ピアノがシューベルトの曲を…



→「遥かな友に」は周平さんほかのクラリネットとボニーさんと一緒に

七歳 若返るべし

－早瀬先生の発声レクチャーを自習しよう

安部建雄（撰・ＩＢ）

須賀監督からの厳命「もっと深い発声をしろ！　あと七歳は若くなる」

月1回の発声練習だけでは演奏への応用がなかなか効かない実情は自覚してますよね。

しからば自習をするしかない。

その前に、早瀬先生のご指導を復習しておきましょう。

①姿勢

つま先立ちをして、体の中心で立つ。（井上流ストレッチをやるとより効果的。）

②ブレス

深く丹田まで息を吐く、しばらく止める、力を緩める－自然と息が入る、さらに深く吸うには、腰の後ろの横隔膜を意識する。

支えを保つには、手の甲にそっと息を吐き続ける。

③発声

・ゆっくり…イーオー

・早めに……イオイオイオイオイー

・ドレミレドの音階で……

イイオオオー

・ドレミファソファミレドの音階で……　イイオオ　オオ　オオオー

いずれも卵を飲み込むように、声は奥、ゴックンのところで響かせる。（響く天井を探すと同じ意識で）

・同じ音程で、あくまでもレガートで……　リイーエーアー　オーウー

まだまだありますが、以上5点をまず実行されたし。

④留意事項－常にイメージしたいこと

・声は聞くのではなく、見る。特に伸ばす時に。

・声の出だしはため息を意識すると、よけいな力が入らない。

・高い音域にいくにしたがい、弓をひきしぼるようにイメージして引っ張る。

・両ほほで笑顔をつくる。

・ハッピーサプライズで。

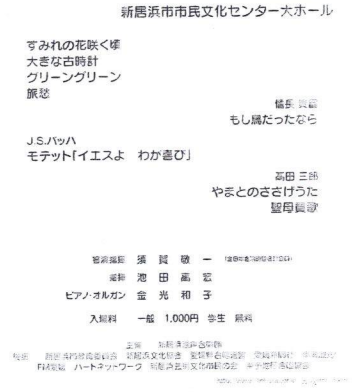
ちなみに、「七歳」の根拠は「七〇歳の一割」という説が有力です。３５周年コンサートを成功させましょう。

須賀監督客演指揮コンサート案内



4月18日（土）18:00いずみホール
第3ステージ『典礼聖歌』客演指揮

4月25日（土）18:00大阪市中央公会堂
第4ステージ「ひたすらな道」客演指揮



5月10日（日）14:00新居浜市市民文化センター
「やまとのささげうた」など客演指揮

沖縄男声 次回合同演奏会に向け 意欲的

3月12日から3日間、12名の親善テニスチームの一員として訪沖した筆者（川野辺）は、12日夜、沖縄男声の練習に参加し交流の時間をもったので、ご報告したい。

「最上川舟歌」を40名を越すメンバーと共にうたったあと、宮城敏さんの沖縄タイムス大賞の授章のお祝いを述べ、東京側は次回沖縄での第9回の合同演奏会を大いに楽しみにしていることを、さらに先の短い（？）メンバーも多く、来年度にでもぜひという声もあることなどを伝えた。

指揮者と団長の両宮城さんら7～8人に誘われ、首里の居酒屋で泡盛を飲みながらの話し合いでは、昨年の東京での合同とその後の旅行で両団のきずなが更に深まり、沖縄男声も次回合同に向けて、早めに意欲的に取り組む意向であることが示された。

また、今回、敏先生には、和先生から室内オペラ「夕立」のＤＶＤと、沖縄でのオペラ実現の可能性を打診するメッセージが渡され、この件も今後検討される予定とのことであった。

なお、今回の親善テニスには沖縄男声の芳澤克明さん（2Ｔ）と夫人の多恵子さんも参加され、お二人のお世話もあって楽しい旅行となった。

（川野辺記）

〝「びわ」の歌はみんなの宝物です〟　加古明子・沢野　勉往復書簡

前号4頁「「びわ」を教えてくれた3歳のY君」の文章を書いた加古さんに、澤野さん(2T)が手紙を送ったところ、ご返事がきました。

加古明子先生

『食べもの文化』2月号の「子どもの目線　大人の目線ーいいよ、覚えるまで何回でも」をふと目にしたとたんーこれはこれは。何と心温まる思いというか、それ以上に〝心騒ぐ思い〟で読みました。

というのは、小生、この「びわ」の曲の作曲者、磯部俶さんのつくった男声合唱団「いそべとし男声合唱団」（没後は「いそべとし記念…」と改名）で30年にわたり歌い続けてきました。「びわ」は何回もステージにのせた定番のレパートリーです。この曲、ゆったりとしたピアノの前奏から始まる揺れるようなメロディーと曲想ーー歌っているメンバーがみんな、この歌の世界にほれてステージに立っているような、そんな魅力をこの歌はもっています。

作詩のまど・みちおさんは今年100歳、この3月28日から5月6日まで銀座教文館で「まどさん100歳展」が開催されます。作曲者の磯部さんは、まどさんの詩が大好きで，たくさんの詩に曲をつけています。磯部さんは口ぐせのようによくこう言っていました。「子どもたちが大好きな歌は大人が楽しく歌えるものでなければ…」と。（中略）

ところで、ご執筆の「子どもの目線…」で、この歌を3歳のY君が自分の歌として気に入り、まさしく自分のものとしているというところに、歌の、人を引きつける力を感じると同時に、子どもの感性の素晴らしさをこの度の先生の一文を拝見して改めて思ったことでした。

同封しましたプリントは当いそべ男声の機関紙に連載しているものの「びわ」について書いたものです。ご笑覧ください。

2月13日　　沢野　勉

沢野　勉先生

過日、思いもかけず拙作にお目を留めていただき有難く存じております。

「びわ」は仰言るようにみんなの宝物である一曲ですが、私どもにとっても大切な想い、恵みの一曲です。ろばの会が新しいこどもの歌が創られた時代に教員になり、子どもたちの育ちを見守ってたくさんの喜びを与えられました。

「いいよ、覚えるまで何回でも」で書いたのは、昭和34年生まれの私の長男Yの3歳の時のエピソードです。Yは後にNHK放送児童合唱団に入り、さまざまな曲や人と出逢い、楽しみました。（中略）それらを通して〝魂〟が通じる音楽を持てる幸せをいただきました。そして子どもが感応する力には畏敬の念をおぼえます。

お教えいただいた教文館での「まどさん100歳展」に是非一緒に伺いたいと楽しみにしております。まどさんの詩は私どももとても愛唱する世界です。

「いそべ男声ニュース」でのご執筆、有難うございます。このご縁は09年度の10大ニュースの第一と致し、是非みなさまのステージを聴きたいと願っております。ぜひ、ぜひに。

（中略）久し振りにろばの会の歌を台所で歌っていました。心にしみる日です。有難うございました。益々おすこやかに、益々歌にお酒におはげみください。

2月26日　　加古明子

加古明子さんは『食べもの文化』誌に「子どもの目線大人の目線」の連載47回の執筆者、澤野さんは同誌「食と栄養のやさしい化学と物理」連載11回の執筆者。「びわ」のとりもつ縁による執筆者同士の交流でした。

『JAMCA会員合唱団による男声合唱委嘱作品集』CD完成

昨年、11月25日オペラ『夕立』公演参加のステージでの演奏が左のようなCDに入りました。

第1集
磯部俶『犀川』（「時無草」「林のなか」「犀川」「貝殻」「松の花」
（いそべとし記念男声合唱団）
多田武彦『西湘の風雅』
（小田原男声合唱団）
松下　耕『日本の民謡第3集』
（東海メールクワィアー）
千原英喜『荘厳、光りに向かって』（クレセント・ハーモニー）

第2集
信長貴富『見よ、かの蒼空に』
（男声合唱団コールM）
新実徳英『舞歌Ⅲ－縄文幻想』
（所沢メンネルコール）
服部公一『詩人の肖像』
（弘前JAMCA東北合同）
鈴木憲夫『祈祷天頌』
（東京リーダーターフェル）

発売／5月中旬
予価／1枚1500円（会員割引1200円、分売可）
※注文は総務へ

〝心のふるさと〟へ帰った喜び

徳田　浩（1B）

ほぼ17年ぶりにいそべ男声に復帰した。かなり敷居が高かったが、メンバーたちが実に暖かく迎えてくれた。

創団以来のメンバーであった私は、「新しい友」を初めて聴く側に回った。言葉を「懐かしい友」に置き換えてくれた。少々照れくさかったが、〝やっと戻ることができた！〟という安堵感が、私を本当に幸せな気持ちにしてくれた。

「小学生から始めた合唱生活の最後は、いそ男で、敬愛する須賀先輩の棒で歌いたいという願いがやっと叶う…」こんな趣旨の挨拶をした。

思えば、新聞社の多忙な仕事で合唱を忘れかけていた頃、磯部さんの呼び掛けで、学生時代に熱中した男声合唱の醍醐味を思い出させてくれたのが35年前。しかし、土日が全くない新しい仕事に就いて、いつしか練習に参加できなくなった。それでもいそ男は、いつでも帰れる〝私の心のふるさと〟という思いが脳裏から去らなかった…。

〝私のふるさと〟は、やはり素敵な場所だった。

無理のない円熟した《いそべトーン》が確立されていることに驚き、メンバーの和が一段と強くなっていることにさらに驚いた。〝もうここから離れないぞ！〟としみじみ思った。

さすが須賀先輩（音楽監督と書かねばならないところですが今回だけはご容赦を）は、音楽的にも立派な合唱団に育成していた。例えば、この日初練習の「ハンカチ」。（まど・みちお詩、磯部俶曲）メンバーは、朝・昼・夜の歌詞を自分たちでしっかり情感を歌い分けた。

磯部さんの多様な作品が男声合唱に編曲され、見事な楽譜に集大成されていることも嬉しかった。

ある時期、磯部さんを密着取材した私にとって、やっと後期高齢者の生き甲斐にたどり着いた気がした。

長いブランクはさすがに大きく、正直なところまだ浦島の心境。しかし復帰した以上、35周年演奏会はフルオンステしたいと願い、目下、未知の作品『心の四季』の楽譜を毎夜読み耽っている。

いそべ男声メロディー・歌の博物誌⑪

〽にしんきたかと　かもめにとえば

北海道民謡・多田武彦編曲

澤野　勉（2T）



『いそべ男声合唱曲集4』は日本の民謡。そのタイトルが「そうらん節」だ。なるほど、そうらん節は、数ある日本民謡の中でも広く知られた曲。高知県の「よさこい祭り」とドッキングした「YOSAKOIそーらん祭り」が根をおろして、今年は六月に第18回のイベントが行われるとのこと。札幌では、観光客の動員数は、二月の雪祭りに迫るほどにもなるという。

そうらん節のリズミカルな旋律が、今の時代に受け入れられているということだろう。たしかに、民謡の中でも歌いだしに囃子詞が出てくるという調子のよさでは、そうらん節は群を抜いている。

そのそうらん節の歌詞の歌いだしが、

〽にしんきたかと　かもめにとえば　わたしゃたつとり　エーなみにきけ　チョイ…

つまり、そうらん節のキーワードは、何といってもニシン。そうらん節の生い立ち、ルーツからみても、ニシン漁あってのそうらん節ということができる。

この三月のホットニュースで北海道・小樽で何と55年ぶりにニシンの「群来（くき）」が見られたという。群来は大量のニシンが沖合に来て、産卵の季節に雄の精子で海が乳白色に染まる現象で、大漁のきざしを表す言葉。北海道西海岸では、昔からこの現象を群来汁（くきじる）とも呼んでいた。

魚学の大家と呼ばれた末広恭雄さんの『魚の風土』（新潮社）によると、江差の漁業組合の組合長に聞いた話で、こんな昔話があるという。

「……江差の寒村にいた通称おりえ婆さんという老婆が、海の向こうの鴎島から射した光の元に行って白髪の翁に出会い、瓶に入った白い水をもらう。その水を明日、海にまくとよい、と言われ、そのようにしたら、浜はニシンの大漁となった」と。

これは、まさに漁師のいう群来汁のことを示している。

ニシンは漢字では鰊。春告魚とも書かれる。三月から四月、かつて北海道に西海岸はニシン漁で賑わった。

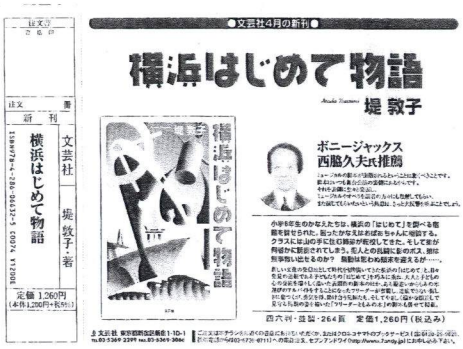
ニシンは、アイヌ語のヌーシィからきたともいわれる。ニシン漁の全盛期のころ、「江差の春は江戸にもない」とか、「一起し千両」とかいわれていた。

一九六〇年代、こまどり姉妹が歌った「ソーラン渡り鳥」は栄華を極めたニシン漁を懐かしんでこう歌っている。

〽津軽の海を越えてきたけれど　みなしごつばめ　江差恋しや　にしん場恋し…

もう三十年も前、稚内のノシャップ岬の近くのニシン資料館を訪ねた折り、昔、漁師だった管理人から、ここに伝わるニシン漁の話を聞いた。海の男たちの体臭のしみこんだ漁具に、往時のニシン漁の心意気が偲ばれた。

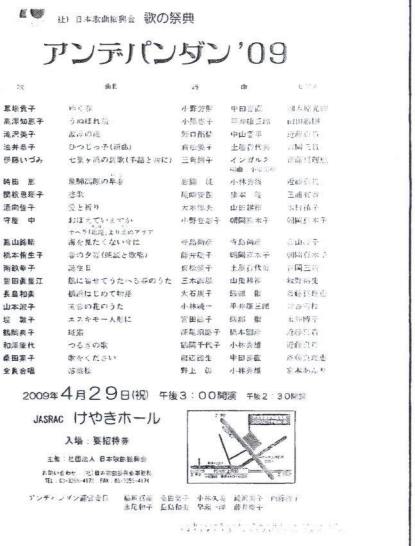
（カットも筆者）



堤 敦子先生新作のミュージカル台本。
横浜の「はじめて」を調べる宿題に取り組む小学生が思わぬ事件に巻き込まれ大騒ぎに。
表題作のほかに「フリーダーともみの木」の台本も併せて収載。定価１，２６０円



4月29日(祝)14:00エポックなかはら大ホール
ＪＲ南部線武蔵中原駅前。入場無料。
早瀬先生主宰のグループ。オペラのアリア、二重唱など20曲演奏。



4月29日(祝)15:00けやきホール
日本歌曲振興会主催(入場・要招待券)
磯部俶曲「横浜はじめて物語」「エスキモー人形に」が歌われる。後者は堤敦子先生。

総務だより

3月22日運営委員会

■企画委員会論議状況

①経費節減について
○ニュースについて
・発送先、発送法、発行回数などの再検討。また軽印刷への転換による経費節減を検討試行する。
○楽譜制作費、販売利益は、従来「磯部基金」会計に属していたが一般会計に繰り入れる。
②賛助会員勧誘を行う。

■35周年コンサートについて

①団員以外の参加者
・個別ステージ参加予定者
中山さん、鈴木(邦)さん
②団員のチケット負担枚数の検討

■総会の日程

7月26日(日)に総会を開催する。7月12(日)日は東京都合唱祭参加が決定したため。

来 客

○近藤文之進さん(1T)
4月5日強化練習の後半から参加、Cバーも楽しまれました。

○山脇卓也さん
4月5日のCバーに初来会。(早大理工、グリー学指揮。現在お江戸コラリアーズ指揮者)Cバーでは「ふるさと」(磯部俶曲)を振ってくれました。

消 息

◆徳田 浩さん(1B)復団
3月の練習から参加。これで1Bは 7名となりました。

◆小川将太さん(1T)休団
学業多忙、学内オケに参加などのため暫く休団されます。

『笑ってくだけろっ！』

○演劇集団小さな翼公演案内

突然、あと生きられる年数を告げられたらどうします？ある日、窓際サラリーマンの所へ友人の医者が余命を告げに来たのです。私の人生って、いったい何だったんだろう…。いや、笑ってくだけろだっ！

○作・演出／姫野眞由美
○出演／戸丸悟・葭原則光・熊 謙太・姫野眞由美ほか
○会期／
5月14日(木)昼
15日(金)昼
16日(土)昼・夜
17日(日)昼
○会場／深川江戸資料館（地下鉄・清澄白河駅下車3分）
○入場料／
一般3000円
学生2000円
（戸丸さん）



SCHEDULE

早：早瀬先生voice training
須：須賀監督指導・指揮

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

２００９〈平成21〉年

4月12日（日） 13:00～17:00 須 定例練習 豊洲 Cバー（２B）
（まどさん100歳展出演者練習11:00~12:00）豊洲第2会議室
19日（日） **まどさん100歳展参加**（20名）於・銀座教文館９Ｆウェンライトホール
12:00集合（教文館７Ｆ会議室） 出演13:00、16:00（２回演奏）
曲目／びわ、つりかわさん、おさるのやきゅう、さくらのはなさん
いねかり、ハンカチ、やきいものうた
26日（日） 13:00～17:00 須 早 定例練習 豊洲 （運委11:00） Cバー（１T）
☞練習曲目／まど・みちお、イギリス民謡
5月10日（日） 13:00～17:00 早 定例練習 豊洲
☞練習曲目／室生犀星、雪、イギリス民謡
24日（日） 13:00～17:00 定例練習☞東陽町／江東区文化センター・リハーサル室
☞（運委11:00第5研修室）（Cバー第５研修室）
☞練習曲目／まど・みちお、イギリス民謡
6月14日（日） 13:00～17:00 定例練習 豊洲
☞練習曲目／室生犀星、雪
28日（日） 13:00～17:00 定例練習 豊洲 （運委11:00）
☞練習曲目／まど・みちお、イギリス民謡
7月12日（日） **東京都合唱祭** 須 定例練習 古石場（途中で合唱祭会場へ移動）
13:00～17:00
☞ 26日（日） **総会** 定例練習 豊洲
13:00～17:00
8月 9日（日）
23日（日）
9月13日（日）
27日（日） **道志川合唱祭**
10月11日（日）
25日（日） **江東区民合唱祭**
11月 8日（日） **35周年記念演奏会** 於・ティアラこうとう大ホール
曲目／○組曲『心の四季』全曲
○室生犀星の詩による三つの無伴奏男声合唱曲－枇杷の花、麻の実をくだく山雀、子守唄
雪、松の花
○英国民謡集－誰かが誰かと、アニー・ローリー、埴生の宿、思い出、わがパステル、楽しかりし昔
○まど・みちお/いそべとしの子どもの世界－びわ、つりかわさん、りんご、おさるのやきゅう、さくらのはなさん、たなをつくりましょう、いねかり、やきいものうた、ハンカチ、ヤマアラシ （以上ステージ順、曲順は未定）

編集後記

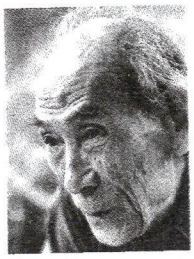
◆昔、「テノールばか」という言葉がよく言われました。頭のテッペンから高い声を出して、メロディーを歌うことが多く、いい気分で歌って、他の部署のことはほとんど気にとめない、つまり歌うＫＹというほどの意味の揶揄する言葉です◆ほかの声部のからかい言葉もよく聞きました。「ソプラノ・ヒステリー」「バス・オンチ」……誰が言い出したのでしょう、それぞれ揶揄されやすい属性を表現していて、微苦笑を禁じ得ませんが、アルトのワルクチを聞かないのは何故でしょうか◆ところで最近、新しい言葉を耳にします。「ビアニスト」です。ビールをこよなく愛するピアニストのことを言う当団の新語ですが、さらに最近、上方では「ノンダクター」と言われるべき存在があると聞きました。ピアニストのＫａさんが命名したと仄聞しましたが、大江戸方面の練習場や居酒屋にも該当するらしき影が出没します◆これじゃオレタチャあ「混濁だあ」と当団員は言っているとかいないとか…。

（河合）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２００９年　５月　第３３９号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2 ☎03-3926-8369 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.com/isobechorus/
編集担当者:河合隆一(広報) 〒272-0031 市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX047-322-1299



撮影:伊藤英治

『まどさん１００歳展』ギャラリーコンサート



→まどさんの描いた絵や直筆の原稿に囲まれてまどさんを歌う

4月19日(日)の午後1時、4時の2回、いそべ男声は銀座教文館で開催中の『まどさん１００歳展』の展示場内での「童謡イベント」のひとつに参加、まど・みちお作詞、磯部俶作曲の子どもの歌8曲を歌いました。

詩人まど・みちおさんは今年の11月16日に１００歳を迎えます。これを記念しての展覧会ですが、この情報をキャッチし、かつ展覧会場で「童謡イベント」があり、少年少女合唱団も歌うらしいことが分かりました。

磯部先生作曲、まどさん作詞の歌をレパートリーにもっているわが団としては、これを黙視するわけにはいきません。

参加を申し込んだところOKとのこと。しかし、会場の都合で全員の出場は難しく20名以内。展覧会なのでパネルなどがあって狭いなどホール演奏と同じにはいかない難点がありました。しかし、やりにくさはあっても実施するべきとの意見が多く、19日の実行となりました。

12時集合、7階会議室の提供を受け、大西紹夫さんの指揮、永井博子さんのピアノ（電子ピアノ）でリハーサル。そして電子ピアノを9階の展覧会場まで皆で運んで、1時、第1回目の開演となりました。

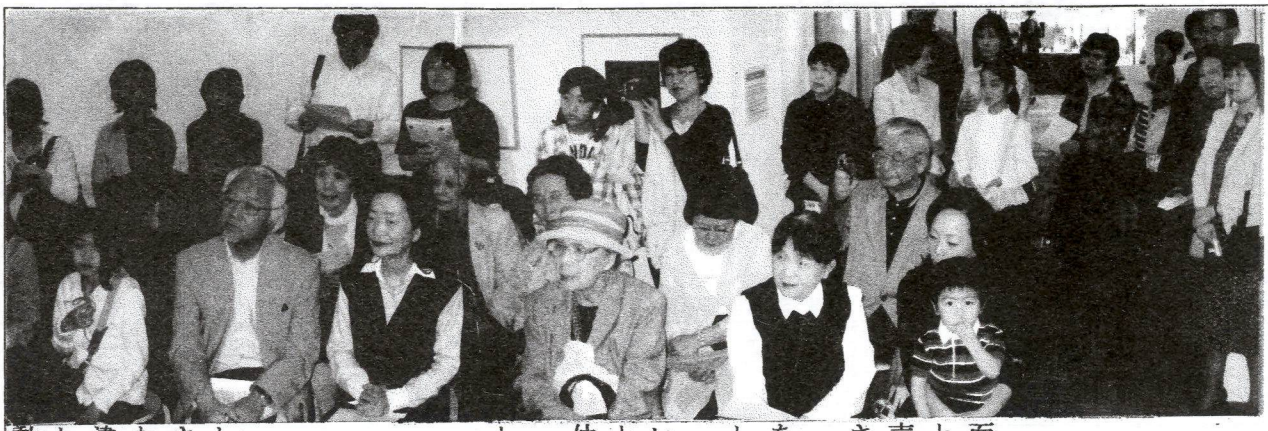
歌う隊形に並んでみると、2メートル前には子どもを膝にした親子連れ、お年を召したご婦人などなど、40人ほどのお客さんと、まさに膝つき合わせての童謡イベント。戸丸悟さんの解説コメントをはさんで、「びわ」「つりかわさん」「おさるのやきゅう」「さくらのはなさん」「いねかり」『やきいものうた』「ハンカチ」そしてアンコールに「たなをつくりましょう」計8曲を歌いました。第2回は午後4時から、同じ曲目に「遥かな友に」を加えて演奏。狭いだけに間近に聞く人の表情、ことに小さい子どもの反応が目の前で分かり、歌うほうも楽しさが倍加しました。

展示パネルにはまどさんの長い年譜をはじめ、「国際アンデルセン賞」(日本人初の受賞)の賞状とメダル、自筆原稿、まどさんに寄せる１００人のメッセージなど沢山の展示があり、まどさんの詩と１００歳の重さを改めて実感させられました。

主催の銀座教文館ナルニア国スタッフの皆さん、お世話になりました。

打ち上げはライオンで17名全員に永井さん、あとでご主人の吉武さんも加わって盛会、気持ち良く歌えた爽快感を味わいました。当団全員でなかったのが少し心残りでしたが。(河合記)

※次号はお休みします。(編集部)



→膝の上の坊やもじっと聴いてくれました

『まどさん100歳展』でのいそべ男声の歌を聴いて

なんとやさしい風がふいて

加古明子（席亭）

懐かしい歌、嬉しかった。度々クスッと笑みを誘われ、面白かった。ハッとしてじーんと響くことば、そして旋律、男声四部に整えられた編曲の妙はさ・す・が！

お届けくださったコーラス便を、確かに有り難く受け取りました。

みなさまのスマートな〝いきいき〟の秘訣を、やさしい思いと責任をもって声にする鍛練の仲間力と拝察。

子どもが好きになる歌は、オトナだって好き。昔は子どもだったのですから。まどさんも、いそべさんも、またみなさんもご家族も、子どもの心を忘れずに持っていらっしゃる。だからこんなに聴く者にも響くのでしょう。

まどさんの作品に囲まれた場で、心満つる時をいただき、しばし昨今の乾いた子どもたちの現実を忘れていました。遺された作品を慈雨として広くお届けください、いつまでも。そしていつか、私が関わっている児童福祉施設の子らにも、このやさしい風が吹くように…。

言葉がきれい 詩が生きている

近藤 文之進

午後1時からの演奏を聞きました。まどさん100歳展にふさわしい、会の趣旨に花をそえた演奏でした。ステージなどと違って歌いにくい環境だったでしょうが、会場のみなさんは感動し喜んでいました。普段、男声合唱など聞く機会はないので新鮮だったと思います。人数の関係でいつもの全員の練習に比べれば迫力は足りませんが、何よりも言葉が非常にきれいで、聞き取りやすかったことを第一にあげたいです。まどさんの詩が生きていました。小さい子どもたちが最後まで静かに聞き入っていたのもうなずけます。須賀さんの指導の成果でしょう。ピアノがとても素晴らしかったですね。

これからもこのような活動も大切にしていってほしいと思います。（談）

まどさんの中で まどさんを歌っている

坂巻 雅子

元気のいい「つりかわさん」が印象に残りました。メリハリのきいた演奏でした。「ハンカチ」も良かったです。狭い会場でしたが、ちょうどいい人数でよく響いていました。隣にいたぼうやが嬉しそうに聞いていたのがとても印象的でしたね。まどさんの中でまどさんを歌ってるという感じで、素敵だなあと思いながら聞いていました。（談）

忘れられない想い出の一日

国岡 晶子（銀座数交館ナルニア国）

「まど・みちお展にどこかの児童合唱団が来て、童謡を歌ってくれたらいいね」――そんな声がまど展準備のときにスタッフから上がりましたが、男性だけの合唱団の演奏が実現することは、誰も予想していませんでした。

男声合唱団と言えば、力強い合唱曲を歌い上げるイメージが強く、童謡を歌う男声合唱は想像がつかなかったのです。

そして、迎えた4月19日！日曜日とあって会場にはたくさんのお客様。

「まどさんの歌の合唱が始まりますよ。どうぞお集まりください」とスタッフの声掛けに怪訝？！そうに集まったお客様でしたが、いそべ男声の演奏が始まったとたんに、そんな思いはどこかへ消し飛んでいきました。

何と楽しく、心地よく、そして心を込めて歌っていることか！

合唱団のひとりひとりの生き生きとした姿に、私たちも同じ思いで引き込まれ、いつの間にか会場が歌声とひとつになっていました。

「びわ」のゆったりと優しさに満ちた曲で始まった合唱は、司会の方の絶妙な解説で、歌と歌がリレーされ、時に笑いありの演奏会となりました。（「おさるのやきゅう」の〝隠し球〟の部分ではあちこちで楽しい笑いが起こっていました。）《注・この

拝啓

春深く、木々の緑も色濃く変わってまいりました。

過日は私どもの展覧会場にて、素晴らしい合唱演奏をいただき、誠にありがとうございました。

こちらの方が御礼申し上げることですのに、先にご丁寧なお便りを頂戴し、恐縮しております。

まどさんの詩を、聴き手にしっかりと届く発声で、愉快に、また、しっとりと歌われる皆様に、すっかり感服いたしました。日頃より、さぞ鍛練なさっていらっしゃるのでしょう。それを手弁当でご披露いただき、本当にありがたいことです。

美しい言葉の子どもの歌を、男性ばかりで、しかも数十年も、しかも、とても楽しそうに、歌い続けてこられた皆様の姿に、子どもたちに本を手渡す仕事をしている者として、大いに力づけられました。

今後ともよろしくお願い申しあげます。

末筆になりましたが、いそべとし記念男声合唱団のますますのご活躍をお祈り申しあげます。

かしこ

四月二十二日

教文館ナルニア国一同

いそべとし記念男声合唱団

皆々さま

ときの解説で、「ピアノの後奏に、ある大学の応援の歌が入っています。これは磯部先生の〝隠し球〟です。どこの応援歌か解ったら手を挙げてください」と言った》（編集部）

「つりかわさん」で愉快で軽快なリズムに乗り、「いねかり」「やきいものうた」でほのぼのした会場は、最後の「ハンカチ」で優しさの余韻に包まれ……そしてアンコールに登場したのが「たなをつくりましょう」！

こんな楽しいまどさんの曲があったのか！　とお客様もスタッフも大喜び。

・

演奏会が終わった後、涙を浮かべているお客様がたくさんいました。

歌は、こころに直接届く素敵なメッセージであること。

それは、歌う側が心を尽くし精神を尽くし、思いを尽くして歌っているからこそ届くものであることを私はしみじみと感じました。おそらくあの日の会場に集まったお客様も同じ思いであったとおもいます。

・

まどさんの詩は、それだけで本当に優しく、深く、素敵なものです。ですが、今回いそべ男声合唱団の歌を聴き、合唱で聞くまどさんの詩は、朗読で聞くのとはまた一味もふた味も違う感動を心に届けてくれること、そのことを感じました。

余談になりますが、二回目の演奏のときの最後に、スペシャルアンコールとして、磯部先生の「遥かな友に」が演奏されましたが、実は、この曲はスタッフのYが子ども時代に父親からよく歌って聞かされた曲だったそうです。合唱を聞きながら想い出が蘇って涙が止まらなかったそうです。

心が込められた歌は、心の奥にある宝物を引き出し、幸せだった想いをもう一度味わわせてくれる……そんなことも思いました。

そして、私たちスタッフと会場のお客様には、あの4月19日の思い出が素敵な宝物として心の中に確かにしまわれました。これから、まどさんの歌や詩を聞くとき、おそらく私たちは、あの日の合唱の心地良い余韻も同時に、味わうことでしょう。

本当に素敵なひとときでした。いそべとし記念男声合唱団の皆さまには、こころから感謝を申し上げます。ありがとうございました。

・

後日談

1週間後、ひとりの男性（60歳台後半）がお店にいらして、お買い物をしたときに、4月19日の話がでました。「いやあ、日曜日の男声合唱は実に楽しかった！」

私は、ひとしきりそのお客様とあの日のことを語り合い、また幸せな気持ちになりました。これもいそべとし合唱団の皆さんが置いていってくれたプレゼントだなと思います。

・

お客様やスタッフの感想

・楽しかった！！！　聞けてよかった！

・「つりかわさん」が楽しかった

・「おさるのやきゅう」の「ストライク」が楽しくてよかった！

えとせとらえとせとら…確実に、いそべとし記念男声合唱団のファンが増えました！

『まどさん100歳展ー一緒に歌いましょう』演奏記録

主催／銀座教文館ナルニア国
スタッフ／八巻聡子、国岡晶子
会場／9F展覧会場内
日程／4月19日（日）13時、16時
曲目／前掲
指揮／大西紹夫
ピアノ／永井博子
団員／河合隆一、渋谷直衛、長田茂、若月稔、井上斉、佐藤元昭、澤野勉、三上正秋、田邊喜三郎、戸丸悟（解説も）、宮田茂、山川稔、秋永基、岩崎精二（挙のみ）、坂巻信幸、澤登典夫、長島義隆

おたより

『いそべかず詩の朗読リサイタル』実行委員会より

春爛漫の頃となりました。

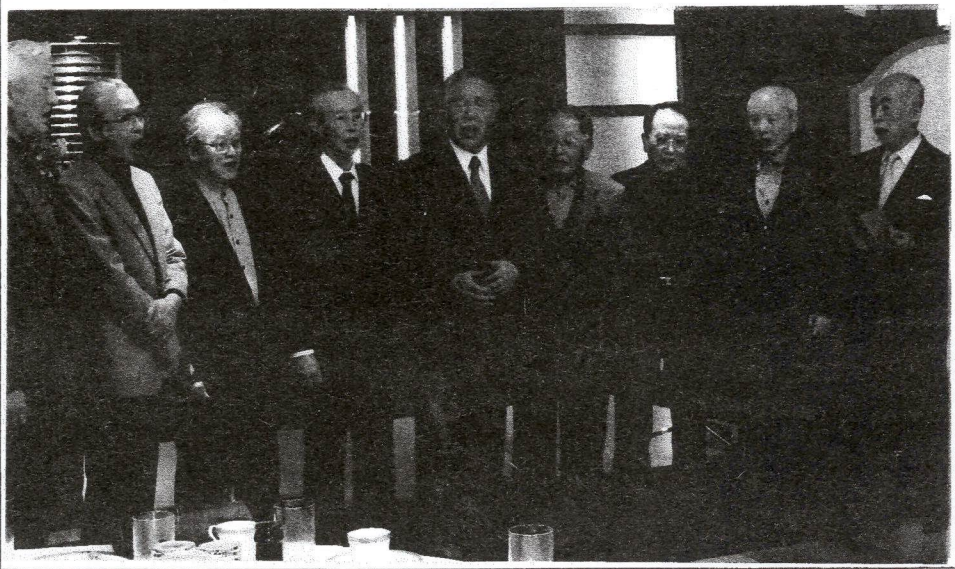
この度は「いそべかず詩の朗読リサイタル」に、ご多忙ご遠方の中、お越し下さいまして誠に有難うございました。パーティーも大いに盛り上げていただき、最高の会となり、無事盛会裡に終えることが出来、本当に安心いたしました。これもひとえに皆様方の暖かいご支援の賜物と感謝申し上げております。

磯部和先生は健康管理は勿論のこと、発声等も常にご努力され、プロとしてその素晴らしさを身をもって私共に示してくださいます。

今回のリサイタルもその一部でございましたが、あの感動をこれからも頂けるチャンスを、皆様方と共に期待いたしたいと思います。

皆様方も、お元気で益々ご活躍なさいますようお祈りし御礼を申し上げます。本当に有難うございました。

4月2日　吉岡久恵



打ち上げで吉田さん、中山さん、当団有志で「野ばら」をハモる。吉岡久恵さん撮影

この秋の35周年記念演奏会でステージに載せる「英国民謡集」の第一曲。よく知られた〝夕空晴れて秋風吹き〟の歌詞で親しまれているが、「ニュース」2月号で長田さんが書かれているように、原詩は麦畑がテーマだ。

この歌の原題はComin Thro' the Rye。麦畑、つまり訳詞では麦なのだが、原詩にはRyeとある。日本語ではこれはライ麦だ。麦といっても、パンやうどんの原料は小麦。ビールやウイスキー、そして麦飯の麦は大麦で、日本語ではひと口に麦といっていても、それぞれ違う作物である。日本では、あまり馴染みのないライ麦は、ヨーロッパの北部の寒冷地や山地を中心に昔から作られてきた。世界的に大きな広がりをみせた小麦に比べて、生産量は少ないが、小麦の育たない土地では貴重な作物とされてきた。パンでは黒パンの原料となる。

いそべ男声メロディー・歌の博物誌⑫

誰かが誰かと麦畑でこっそりキスしたいいじゃないの

スコットランド民謡
伊藤武雄・大木惇夫共訳
澤野勉（2T）



一九世紀後半のスイスの女流作家、ヨハンナ・シュピリが書いた『アルプスの少女ハイジ』。山で育って、両親を幼い頃に亡くした天真爛漫な八歳のハイジの物語で、映画やアニメにもなって知られている。

ハイジがフランクフルトの富豪の娘クララの家に行って、山の生活では食べられなかった白いパン（小麦粉が原料）を口にする。ハイジは〝山のおばあさん〟に食べさせてあげたいとの思いで、その白いパンを自分のクローゼットに入れておく。それが女中頭のロッテンマイヤーに見つかって、ひどく怒られる。それほどに、貧しい地域では白いパンは食べられず、常食はライ麦の黒パンだったということだ。この物語には、ライ麦の黒パンと小麦の白いパンとを対比させて、ヨーロッパの庶民の食生活が描かれている。白いパンを作る小麦が育たない土地ではライ麦が主たる作物だったのだ。

白いパンが、いわば富の象徴であるのに対して、黒パン・ライ麦は庶民の日常の表象だった。

ライ麦は、小麦や大麦よりも背丈は高く、1．5メートルから2メートルにもなる。もともと、小麦の栽培の折りの雑草だったとされるほど、成長は逞しい。スコットランド民謡にライ麦が出てくることは、本来、この地域も寒冷地であって、小麦はそんなに育たなかったことを表している。

それに、ライ麦の背丈が高いことは、まさに逢引きには恰好の場所で、この畑に紛れ込んでしまえば、キスをしても何をしても、まあ安全。長閑な青春をおおらかに謳歌できたのだろう。

ライ麦は黒パンの原料とされるほか、ウイスキー（カナディアン、バーボン、アイリッシュなど）、ウォツカなどの原料としても欠かせない。麦畑といっても、いそべメロディーの〝麦を踏み踏み日が暮れた〟の、ひばりの舞う日本の麦畑とは、また違う情景ーがここにある。

（カットも筆者）

新しい友

岩本裕之（ひろゆき）さん（2T）



自己紹介

1958年7月28日、横浜市生まれ（原辰徳、山口百恵と同学年。バッハ、ヴィヴァルディの命日）。某メガバンク行員。学生時代は合唱とは無縁。ピアノはバイエルで挫折。81年入社後独身寮の先輩に誘われて職場の合唱団に入ってからハマり、広島赴任中は広島メンネルコールに入団。地方ではテナーは貴重品扱いされ、広響の第九にも参加、JAMCAには2回程出演させていただきました。92～95年大阪赴任時にご縁があって豊中混声合唱団の末席を汚しましたが、大した戦力ともならず、練習もそこそこに、ソプラノ1名を誘拐し東京へ連行。掛かる事情から須賀先生には一生頭が上がりません。キャリアだけは一見一人前ですが、譜読みは遅く、且つ9年程のブランクがあって、皆様にはいろいろご迷惑をおかけすると思いますが、宜しくお願い申し上げます。

藤沢市鵠沼在住。磯部先生宅とは多分徒歩圏内と思います。

早瀬先生のワンポイントレッスン

4月4日の練習で、早瀬先生の発声ワンポイントレッスンがありました。個人レッスンです。この日はテノールが、2人ずつ1階の和室で個人指導でした。

三上さんが立ち会って、個人別のレッスンの経過と注意点を記録し、まとめて各自に渡してくれたので、それぞれのポイントは十分理解できているはずですが、あとは実際の曲でどのぐらい活用できるかでしょう。

「つま先立ちする」「後ろにひっぱる」「太くやろうとしない」「おなかをゆるめる」「まずは脱力」、などなど、かなり皆に共通する注意点が見られます。

一人5、6分でしたが、指導のあとで、みな異口同音に受けて良かったと言います。個々の状態に応じた発声研究が如何に必要か、身に染みて感じさせられたレッスンでした。あとは低音部のレッスンが続く予定です。

総務だより　4月26日運営委員会（出席13名）

●35周年コンサートについて

①委員会の設立はせずに、早めに成案を作成し、運営委員で討議することとした。

②その他、下記の事項を決めた。

・開場・開演は、13時30分開場、14時開演とする。

・チラシは早めに作成する。6月を目処に。

・入場料は@2000円とし、団員負担は、従来@12枚だったものを@15枚とする。多数販売割り引きは考慮する。

・共催を江東区地域振興会（ティアラこうとう）に依頼する。

・後援団体は、江東区、東京都合唱連盟、日本男声合唱協会（JAMCA）に要請する。

●沖縄男声合唱団との2010年ジョイントコンについて

①日程は、2010年11月7日（日）で沖縄男声に要請する。

②オペラ『夕立』との関係

・和先生から宮城敏先生に親書を川野辺氏経由で届けられたこと、和先生側は、昨年の鎌倉での『夕立』公演の、そのままの引っ越し公演を想定しておられること、鎌倉公演のプロ・メンバーのなかでも、沖縄公演を楽しみにしている人もいるらしいことなどが報告され、『夕立』は宮城敏先生を中心とした沖縄のメンバーによるものと考えている当団委員がほとんどであった。

・引っ越し公演は、多額の経費が予想（赤字必至）されること、沖縄・いそべ合同演奏会とはイメージが相違し異質であること、演奏時間上も非常に困難であること、また『夕立』は沖縄メンバーでやってこそ意義があるのではなどの意見が出た。当団としては、合同は従来通りの演奏会スタイルを希望することを早急に川野辺、宮田の両者から宮城稔氏に連絡することとした。

③合同演奏会に向けての小委員会を設けることはせず、当面、川野辺、山川、宮田が沖縄男声との折衝に当たることとした。

●その他

①岩本裕之（2T）さんが須賀監督の紹介で入団することが報告された。（上欄記事）

②児玉康夫（2B）さんが退団する旨連絡あったことが報告された。

③東京都合唱祭の参加費は@3000円とする。

④10月11日（日）および11月1日（日）に臨時練習を行うこととした。

⑤35周年コンまでの練習予定日が提示された。（6頁スケジュール欄参照）

来客

○山脇卓也さん

4月26日の練習に来団。須賀監督の指導を見学された。

消息

○児玉康夫（2B）さん退団

休団中だった児玉さんが退団されました。

訂正

4月、第338号の2頁「須賀監督客演指揮コンサート案内」に「大阪メールクワィアー」があったことは誤りでした。「客演」ではなく「正指揮者」としての演奏でした。

SCHEDULE

早：早瀬先生voice training
須：須賀監督指導・指揮

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

２００９〈平成21〉年

5月10日(日)	13:00～17:00	早	定例練習 豊洲	Cバー（２T）
			練習曲目／室生犀星、雪、英国民謡集	
24日(日)	13:00～17:00	早	定例練習☞東陽町／江東区文化センター・リハーサル室	
			☞(運委11:00第5研修室)(Cバー第５研修室)（１B）	
			練習曲目／まど・みちお、英国民謡集	
6月14日(日)	13:00～17:00	須 早	定例練習 豊洲	Cバー（２B）
			練習曲目／室生犀星、雪	
28日(日)	13:00～17:00	須	定例練習 豊洲 （運委11:00）	Cバー（１T）
			練習曲目／まど・みちお、英国民謡集	
7月12日(日)	**東京都合唱祭**	須		
	13:00～17:00		定例練習 古石場（途中で合唱祭会場 **五反田ゆうポート** へ移動）	
			曲目／	
			服装／	
☞ 26日(日)	**総会**	早	定例練習 豊洲	Cバー（２T）
	13:00～17:00			
8月 9日(日)	13:00～17:00	須	定例練習 古石場	Cバー（１B）（第３研修室）
23日(日)	13:00～17:00		定例練習 豊洲	Cバー（２B）
9月13日(日)				
20日(日)		須	臨時練習	
27日(日)	**道志川合唱祭**			
10月 3日(土)		須	強化練習	
4日(日)		須	強化練習	
11日(日)				
25日(日)	**江東区民合唱祭**			
11月 1日(日)		須	臨時練習	
11月 8日(日)	**35周年記念演奏会**		於・ティアラこうとう大ホール	

曲目／○組曲『心の四季』全曲
○室生犀星の詩による三つの無伴奏男声合唱曲－枇杷の花、麻の実をくだく山雀、子守唄
雪、松の花
○英国民謡集－誰かが誰かと、アニー・ローリー、埴生の宿、思い出、わがパステル、楽しかりし昔
○まど・みちお/いそべ・とし 子どもの世界－びわ、つりかわさん、りんご、おさるのやきゅう、さくらのはなさん、たなをつくりましょう、いねかり、やきいものうた、ハンカチ、ヤマアラシ （以上ステージ順、曲順は未定）

編集後記

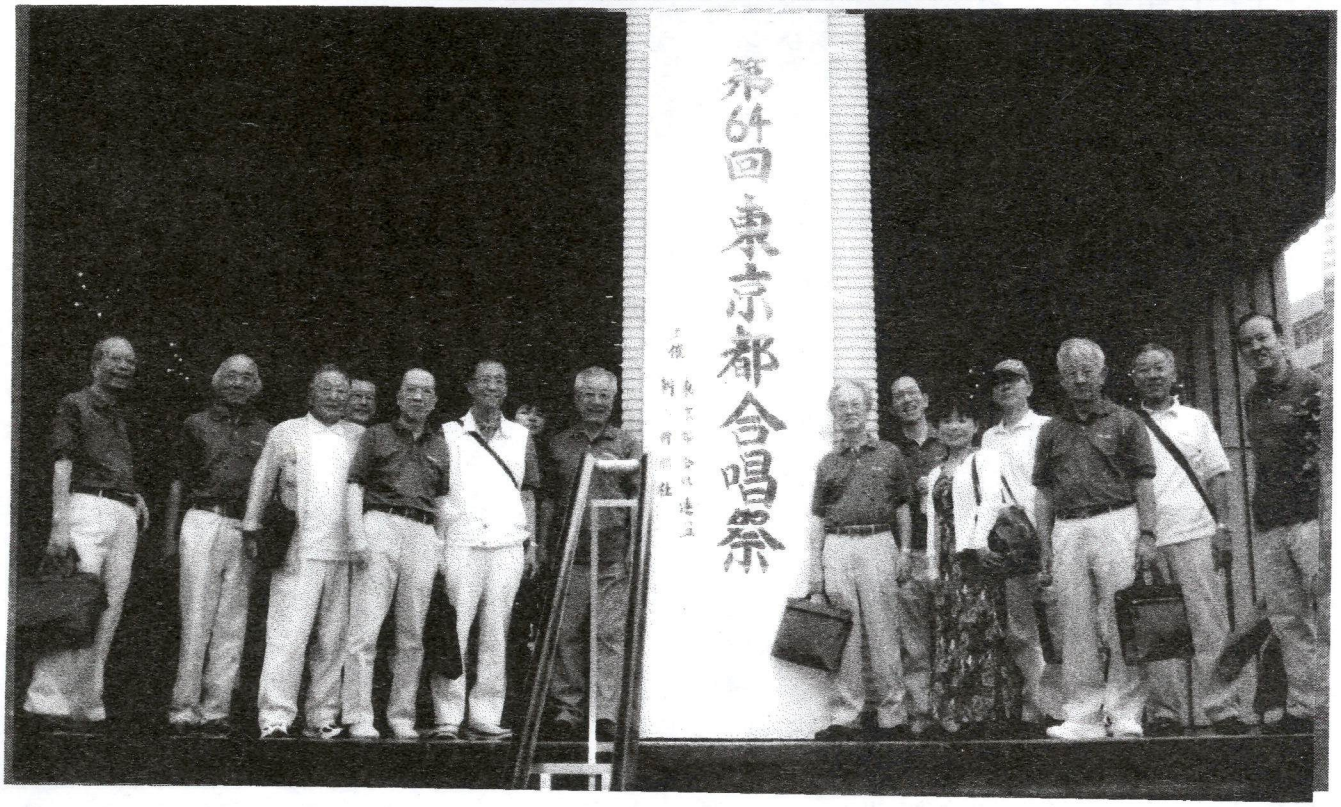
◆はじめてのギャラリーコンサート。静かな会場で、子どもの歌をオヤジやオジイどもが歌う。不安半分でした。でも2回合わせて１００人に満たない聴衆でしたが、詩人の展覧会で詩人の詩をその展示の前で歌えたのはベストマッチだったと思います。我々の後日に演奏した青山学院初等部聖歌隊のコーラスもきっと感動で迎えられたに違いありません◆この展覧会のためにまどさん関係の沢山の資料を提供された伊藤英治さん、このニュース冒頭にもまどさんの写真を提供いただきありがとうございました◆そしてこの心に残る時間と場をくださり、お世話くださった教文館ナルニア国スタッフ諸姉に厚く御礼申し上げます。

●当ニュースですが、経費節減のため前号から印刷方式を変更したら、写真の仕上がりが悪く残念でした。品質の維持を研究中です。この号はどうでしょうか。（河合）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２００９年　７月　第３４０号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2 ☎03-3926-8369 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.com/isobechorus/
編集担当者:河合隆一(広報) 〒272-0031 市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX047-322-1299



第64回 東京都合唱祭に出場

7月12日(日)五反田ゆうぽうと大ホールでA～Wブロックのうち日ブロックの4番目に「びわ」「おさるのやきゅう」「ハンカチ」を演奏しました。32名オンステ。講評者と同ブロック団体の感想を紹介します。

★講評者から

境　敬彦

出だしからしっかりしたハーモニーで安心して聞けました。年齢など関係なしといった感じです。細かいリズムもはっきりしっかり歌われていました。低音にも幅があり、良く出ていてすばらしい演奏だと思います。テンポにもメリハリがありました。

清水雅彦

何と優しくあたたかい、そして美しい歌声でしょう！　須賀先生の創られる世界に応えて皆さんで歌われるお姿や空間のすべてに拍手！です。11月の演奏会のご盛会ご成功を心よりお祈りしています。合唱団として必要とされる色々なことをすべて身につけられて歌う、その余力が、本当に心地よく惹きつけられます。ありがとう！

林　擴子

素晴らしいハーモニーが私達聴く者の心をやさしい気持ちにしてくださいました。3曲それぞれ曲の内容を良くつかんで、音楽、ハーモニー、丁寧な日本語の表現も素晴らしく、感心、感動と共に聴かせていただきました。

藤原規生

丁寧な語りかけによる、あたたかい音色の演奏でした。共感を持って言葉を大切にし、音を大切に歌っていらっしゃるお姿が印象的です。コントラストのある曲で、メリハリのある演奏です。クレッシェンドする時、クライマックスに向かう時、それぞれのビブラートが重なる傾向があり、音程に幅が生じ、言葉が不明瞭になることがあります。弱音での語りがとても美しかったです。

村田和子

①大変なつかしい曲、磯部先生らしい優しいメロディーにふさわしい音色と表現で心にしっか

り伝わってきました。②めりはりの効いた言葉の扱い、子供の頃の思い出がよみがえってきます。③抒情たっぷり、それでいてはっきり聴こえてくる言葉、安定したハーモニー、どれをとっても素晴らしい。ブラボー！ハミング美しい。

渡辺宏子

柔らかな美しいハーモニーで大人の歌いぶりで素敵です。ただ柔らかさをねらうからでしょうか、「びわ」など高音がもっと立ちませんと、まどさんの詩が少しもやもやですね。2曲目はその点バッチリ。磯部俶先生のお顔をなつかしく思い出しました。

★Hブロックの各団から

FELICE　（混声18名）

○聴いていてとてもやさしい気持ちになれました。歌声も素晴らしく、うれしくなりました。11月の演奏会が楽しみです。

○子供向けの歌を男声が歌うのはめずらしいですね。でも男声の響きと合うんですね。新しい発見でした。すてきでした。

○聞きなれた「びわ」のやさしい音色も男声で聞くとより深くてまたちがったやさしさが生まれるんですね。人数が多いのにイキがピッタリで1曲が短く感じられました。

○なつかしい、雰囲気の暖かい演奏でした。2曲目の「ストライク」で思わずストライクポーズになる方がいらして気持ちが伝わってきました。

ラ・プリムヴェール（女声10名）

○楽しそうに歌っていらして、嬉しい気持ちに満たされました。うたの言葉ひとつひとつを大事に歌っていらっしゃったので素直に心に響いてきました。

○日本語の歌詞がはっきりとわかりよかったです。年配の方が多いようですが、とても若々しかったです。

アンサンブル冴　（女声16名）

○びわ、言葉がよくわからず残念でしたが、Softな感じでした。おさるのやきゅうは力強く、言葉もよくわかり、曲の感じが出ていました。ハンカチは緩急がよく出ています。最後のハミング、よく響いていました。

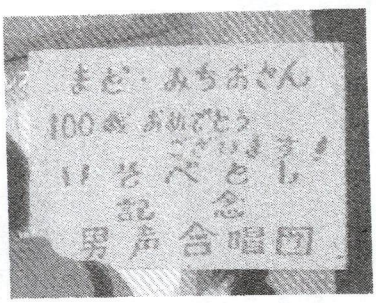
○男声の柔らかい声、力強い声、また全体の演奏にあふれる包容力を感じます。聞き入ると優しい気持ちがあふれ出してきました。

○まどさんの詩を、生き生きと暖かなハーモニーにのせて、みずみずしく、時にしっとりと聴かせて頂きました。これからも磯部先生の曲を歌い続けて頂きたいと願っております！！

マンマ・ミワーズ　（女声17名）

○のびのびとした楽しい歌声がとてもよかったです。仲の良い合唱団なのが合唱から伝わってきました。

○あったかい歌声でした。おさるのやきゅうは特に楽しかったです。



Chor Printemps　（混声14名）

○日本語を大切に歌っている姿に敬服致します。男声合唱団のあるべき姿を見たような気がします。これからも末永く…

○響きに厚みがあり、あったかなハーモニーでした。2曲目は勢いがあって楽しかったのですが、表情が硬い人もいて残念でした。

○かつて学生合唱団でバリバリ活躍されていたということがしのばれます。声は20代ですね。すばらしい演奏、感動しました。

○明るくて若々しい歌声で、もっとききたいなあと思いました。ことばもはっきりしていて、歌詞がよくわかりました。

グリーンエコー　（女声10名）

○ポロシャツ、若々しくすてきでした。男声合唱はよくハリあって声を出してしまいがちですが、一味違っていました。家ではさぞやよいおじいちゃん達でしょうね。（若い方ごめんなさい）

○みなさんの声と気持ちがとてもまとまっていて、すてきでした。

混声合唱団〝えん〟　（20名）

○皆さんの歌に対する愛情がよく感じられます。私達は少し歌えるようになった曲をすぐ「愛唱曲」と呼んでしまったりしますが、ああ、こういうのを本当の愛唱曲というのだとしみじみ思いました。

○演奏も安定していて聴きやすく、楽しさもあって感動しました。次回は是非無伴奏で拝聴したいと思います。

○男声の厚い豊かなハーモニーが日本の原風景を思いださせる演奏でした。若々しい声は20代～30代？　わたしもみなさんに負けない歳まで歌い続けたいと思います。

○まどさんの詩の内容にマッチした磯部先生の曲、その魅力を十分に引き出していたと思います。なお、私は早稲田の出身なのですが、お猿のやきゅうの最後の部分では笑わせていただきました。

カレンズ　（女声22名）

○何回かご一緒のグループになったことがあります♥　いつも思うのですが、一つ一つの音を本当に大切にいつくしむようにうたっていらっしゃるみなさんすばらしいです。それが音色にも現れています。私は好きです。

○温かい歌声、ホワーッと包んでくれるようなコーラス。素敵でした。

みつる合唱団　（女声15名）

○やさしいお父様、おじい様達の集まりでしょうか、暖かく気持ちの良い歌声につつまれているようでした。2曲目、力強くカッコよかったです。

○楽しそうな歌い方にこちらも思わず口ずさみたくなりました。暖かく丁寧な歌にききほれました。言葉もはっきりしてよく伝わってきました。

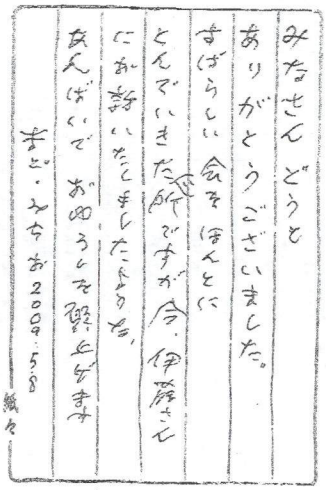
○1曲目－温かくハーモニーも美しく、癒されました。2曲目－野球の映像が見えました。3

↖次頁3段目へ続く

まどさんから写真とおたより



伊藤英治氏撮影5月8日



まどさんは11月16日に100歳を迎えられます。編集者の伊藤英治氏によると「生活の多くに人の介助が必要となっているようです。…病院でも詩作を続けておられるようなので、安心しました。」ということです。11月8日の35周年演奏会の「まど・いそべの世界」を直接聞いていただくのは無理かもしれませんが、お元気で詩作を続けられることを祈ります。

曲目ー皆さんロンマチストな方ばかりなんですね。

○まど・みちおさんブラボー！ですね。幼な子に歌ってきかせる若き父親の様でした。しんみりした磯部俶さんしか聞いたことがなかったので楽しかったです。皆さんもまどさんのお年を目指して声は今のままで若く、歌い続けてください。

東海大学文化部連合会グリークラブ（混声18名）

○まとまりのある団体と感じました。2曲目楽しかったです。mp、pの時に言葉を少し明確にした方が良いと感じました。

○おさるのやきゅうの勢いが良いです。みなぎるパワーが楽しくていい！！

○男声ならではの重厚なハーモニーが素晴らしかった。楽しそうに歌っているので、聞いていて笑顔になりました。

ルンデM（混声12名）

○みなさんのお若い声にあたたかい気持ちになりました。まどさんの言葉が、とても雰囲気よく伝わりました。3曲ともメロディーの雰囲気の違いが声の音色にも表されていて、さすがに人生の先輩だと感心しました。

○3曲とも聴いていて詩の内容が目に浮かぶように歌われていて、聴き手も思わずニッコリしたり、ほっこりしたりする気持ちになりました。

○2曲目のストライク！に、びっくり。皆さんよく声が出ていて素晴らしかったです。

○団員の皆さんの、和やかで親しみやすい雰囲気が好感がもてました。やさしいハーモニーですね。心にじーんとしみこんでくるようなやさしい歌声でした。

明治大学グリークラブOB会合唱団駿河台倶楽部（男声28名）

○良いですね、男声は。みなさんの声がやわらかくてすてきです。おさるの野球はかけ声も楽しくて良かったです。

○やわらかい声質が心地良かったです。おさるのやきゅうにも早慶戦があるんですね。素敵な演奏でした。

○・やわらかい歌声がすごく素敵です。・低声の言葉がもう少しはっきりするともっと良くなると思います。・曲それぞれの雰囲気が出ていてすごいと思いました。

○大人の余裕の歌唱。響きも豊かです。当団員への素晴らしい手本になったと思います。

○平均年齢はいくつなのですか？　皆さんお若く見えました。今後も元気に歌い続けて下さい。

○笑顔の演奏良かったです。童心に帰られたような楽しい演奏をありがとうございました。おさるのやきゅうは元気ハツラツ！でしたね。

（各団からのコメントは一部割愛して掲載しました。編集部）

打ち上げは　さくら水産で

今夕は須賀オンタイに永井ピアニスト、大阪から特別参加の横田清文さん、その友人の高橋正寛さん（大糞大グリー、高崎市在）、さらには新入団の岩本裕之さんの夫人尚美さんと娘さんの理那ちゃん（4年生）、そして安部夫人、宮田夫人と大賑わいの一席だ。乾杯、懇談のあと宮田総務が持って帰ってくれた講評の束を皆で読むうちに周りのお客さんも帰り始め、そろそろ歌い時となって次々と声がかかる。豊中混声におられた岩本夫人に「夕焼けこやけ」のソロを、横田氏には「はる友」の2番のソロを。これは、早稲グリの学指揮だった須賀監督が始めた早稲グリの「はる友」演奏のスタイルとなっていたもの。横田さんの美声が流れたあとはもうみんな我慢できない、レイルロード、シュテンチェン、ふるさと、などなど定番を次々と歌って五反田の夜は更けていった。

（河合）

図書紹介

やさしさと強さと

中田喜直評伝『夏がくれば思い出す』（牛山剛著・新潮社）

「昭和30年の或日、磯部さんと東京駅のレストランで会って、磯部さんが、いい詩にいい曲をモットーに、何人かの作曲家で自主的に童謡を作るグループを作りませんか、という提案をなされた。」(P143)

これは平成12年ろばの会解散コンサートのプログラムに中田先生が寄せた文章だ。このとき既に2年前に磯部先生死去、中田先生自身もこの2カ月後に他界する。

『遥かな友に―わが音楽人生』(磯部俶著・春秋社)にも「東京駅の食堂で…」とピタリ一致する文章があって、志をもった気鋭の作曲家の話し声が、ステレオで響いてくる錯覚に襲われる。

磯部先生の発起ではじまったろばの会は、それまでのいわゆる「童謡調」を否定し、新しいこどもの歌を創造するという、日本の画期的な童謡運動としていくつかの賞をうけているが、それは会員相互の厳しい作品批判によるものから得られたものだった。

「中でも中田喜直の批評は厳しかった。良いものは「良い」と言い、良くないと思えばズバリ単刀直入に「悪い」と言える中田に、磯部は脱帽した。」(P130)

「陳腐だね」と言ったり、「ちょっとどもって〝つ、つ、つまらないメロディーだね〟」と言ったりする中田先生の言葉を磯部先生も書き留めている。

まさにやさしさと強さがないまぜとなった作曲家中田喜直の姿が読み取れる。

ろばの会についての活動の紹介ばかりになったが、もちろん本書にはたくさんの合唱曲、歌曲、ピアノ曲などの誕生秘話、さらには太平洋戦争中は空軍の将校として爆撃機の操縦をしてフィリピン方面に参戦していたこと、そして日本降伏後、将校は処刑されるという噂を聞いて母親宛など4通の遺書を書いたこと(全文掲載)などなど、中田先生のやさしいメロディーの裏に隠されていたエピソードが紹介され、中田音楽に一層の深みを感じさせてくれる一書だ。

（か）

いそべ男声メロディー・歌の博物誌⑬

きりが ながれる あさ
ハンカチは ちょうちょです

まど・みちお詩・磯部 俶曲

澤野 勉（2T）

一番が〝きりが ながれる あさ〟、二番が〝ふねが でていく ひる〟、三番が〝ほしが うまれる よる〟で、ハンカチは朝はちょうちょで眠っている、昼はかもめで羽搏く、夜は子リスで背中を丸めていると、ハンカチの一日を心温まる目で見詰めている。

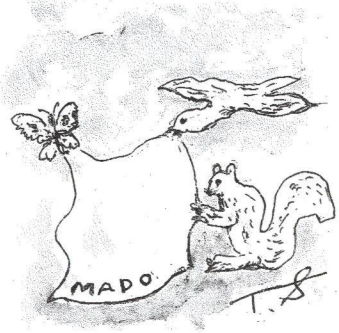
この歌に初めて接した時、朝のハンカチが眠っていることにいささか異和感をおぼえた。ちょうちょが翅をたたんでいるのが、そうだハンカチの一日のスタートなんだと納得。

そして昼の船出の折の別れのハンカチ、夜の、使われて役目を終えたハンカチのストーリーが理解できたような気がした。

ハンカチはハンカチーフを略した日本語。英語では handker chief で、kerchief は古語で、女性がかぶる布のこと。これに hand がついてできた言葉だ。

昭和十年代、国民歌謡というジャンルの〝健全な〟歌がラジオに流れた時代、内田元のバリトンで人気だった「朝」は、〝朝はふたたびここにあり〟と、爽やかな目覚めの朝を謳った。(島崎藤村作詞、小田進吾作曲) 朝という言葉にはそんなイメージがあったので、朝から〝ねむっています〟というのはいただけないと感じたのだった。

けれど、二番、三番とハンカチの一日を辿ることで、そうか、



日本には明治の初期に伝えられて、日本の近代化の担い手だった生糸・絹産業の立役者として、明治時代中期には輸出産業の花形となった。『横浜市史』によると、絹のハンカチは明治20年に一一二万円、最盛期の明治39年には五〇〇万円を越える輸出があったとされている。

ハンカチ、エプロン、リボンは当時の人気商品だったようだ。当代の人気商品だったようだ。流行した言葉〝ハイカラ〟のシンボルでもあったハンカチは、以後、しだいに普及していくが、絹のハンカチが先行していたこともあり、まだまだ中流以上の階層の持物だった。

ハンカチは漢字では手巾。芥川龍之介の短編に「手巾」がある。大正五年、「中央公論」に掲載されたもので、主人公は東京帝国法科大学教授。腹膜炎で若くして亡くなった教え子の母親が訪ねてくる場面…。

息子を亡くした母親は、世話になった恩師に礼を述べるのだが、その表情は平生の通りで「口角には、微笑さへ浮かんでゐる」とある。

ところが、その教授が手をすべらせて落とした団扇を拾おうとして彼女の足元から膝に目を移した時、そこに震える手に握りしめられている絹のハンカチがあった…。

たまたま彼が読んでいたのがストリンドベルクの演劇論の本。そこには「ハイデルベルク夫人の、顔は微笑してゐながら、手は手巾を二つに裂くと云ふ二重の演技」という記述が…。

―小道具としてのハンカチは数多いドラマを作ってきたのだ。

（カットも筆者）

総務だより

5月24日
運営委員会(出席12名)

●2010年沖縄男声とのジョイントについて

ジョイントコンサートと「夕立」公演との問題について、4月の委員会の結果に基づいて川野辺、宮田が沖縄男声宮城稔氏と協議し、財政、採算的に「夕立」との同時の形は難しく、次回沖縄でのコンサートは通常の形で行うことを内定した。この方向で沖縄側から磯部和先生に返信を送ることとなった。

●今年度総会について

①7月26日実施。(当初はこの予定であったが、経理上の関係などから延期となり、8月23日開催となった。7月12日決定。当日は通常練習の後16時頃から総会となる。)

②役職への立候補を募る。本来昨年が改選期であったものを、暫定的に1年延長したものであり、本年に役員改選を行う。

③議題、議事進行などは6月28日の委員会で検討する。

④予算案の作成を会計井上斉が進める。

⑤「磯部基金」は本予算と統合の方向であるが、今回の予算編成では別々に立てることとした。

●東京都合唱祭について

名刺交換／交換名刺5枚以上で記念品と交換される。当団35周年コンサート広報用に井上が団員全員分の名刺を作成することとなった。

●団則の検討

現在の団則には総会の成立要件がない、他に新たに規定や改定が必要なものがあることなどから運営委員で検討を開始する。

●横田清文氏参加希望

大阪メールクワイアの横田氏が、35周年コンサートへの参加を希望しておられるので、承諾することとした。

6月28日
運営委員会(出席13名)

●総会について

期日／7月26日(8月23日に延期)
進行案検討／活動報告、次期運営委員案、決算、監査報告、次年度活動計画、予算案、磯部基金、団則改定など。

・予算案について

井上会計より予算案の説明があり、35周年コンサート収支を±0にすること、ニュース発送先削減を検討する。

・団則改定について

前回の問題提起に基づき、井上委員から改訂案が提出され、これを検討した。さらにこれを7月12日に全団員に提示し意見を問うこととした。

●その他

・豊中混声合唱団第49回定期演奏会(7月5日)に祝電発送。

・東海メールクワイアー第52回定期演奏会(7月12日)に祝電発送。

・忘年会は12月27日の定例練習終了後に開催されることとなった。須賀監督出席。会場未定。

7月12日(日)11時
35周年コン委員会(6名)

●チラシ作成など打合せ

チラシを8月初旬に作成する。曲目の表示、後援・協力の依頼と表示、チケット配布案など、早めの進行と広い普及活動をしようとの話し合いがあった。

消息

◆鈴木邦男さん(1B)復帰

◆中山 寛さん(1T)復帰

以上お二人とも35周年演奏会を目標に6月28日からの練習に参加復帰されました。

◆辻 純一郎さん(2B)休団

09年7月1日～10年6月30日休団されます。

◆高橋生久さん(2T)休団

直立姿勢継続困難なため休団されます。



11月3日(火・祝日)午後2時開演
浜離宮朝日ホール　4,500円
主な曲目
雪、嫁ぐ娘への子守歌(平野淳一)
愛のことば抄(小林秀雄)
歌劇『ミニョン』(トーマ)より
無邪気な彼女は
歌劇『ラ・ボエーム』(プッチーニ)より
冷たい手を
熱情(タリアフェッリ)
泣かないお前(デ・クルティス)

第6回
合唱団「柴刈」演奏会

プログラム
1 混声合唱組曲「心の四季」
2 混声合唱組曲「パウラ」
3 ゲスト 福岡合唱協会 モーツァルト:ミサ 他
4 合同演奏 愛唱曲集より

●賛助出演
コールたのしまる

●合同演奏指揮
岩崎 洋一

2009年 8月9日(日)

開 場 PM 13:30　開 演 PM 14:00
会 場 そよ風ホール(田主丸)
主 催 合唱団「柴刈」
後 援 久留米市教育委員会
問合せ 合唱団「柴刈」事務局 千代田一祥 ☎0943-73-1974
入場料 700円

8月9日(日)午後2時開演
そよ風ホール(田主丸)　700円
(招待状を頂きました)
曲目／「心の四季」「パウラ」ほか
ゲスト／福岡合唱協会

SCHEDULE

早：早瀬先生voice training
須：須賀監督指導・指揮

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

■２００９〈平成21〉年

7月26日（日）	13:00～17:00 早	定例練習	豊洲	Cバー（２T）
	（総会は延期8月23日）		（練習曲目/室生犀星、雪、英国民謡）	
8月 9日（日）	13:00～17:00 須	定例練習	古石場	Cバー（１B）（第３研修室）
			（練習曲目/室生犀星、雪、英国民謡）	
23日（日）	13:00～17:00 早	定例練習	豊洲	Cバー（２B）
☞	総会		（練習曲目/まど・みちお、英国民謡）	
9月13日（日）	13:00～17:00	定例練習	豊洲	
			（練習曲目/室生犀星、雪、心の四季）	
20日（日）	13:00～17:00 須早	臨時練習	豊洲	
			（演習曲目/全曲）	
27日（日）	**道志川合唱祭**			
		曲目／		
		服装／		
10月 3日（土）	13:00～17:00 須早	強化練習	豊洲	
4日（日）	10:00?～17:00 須	強化練習	パルシティー	
11日（日）	10:00～17:00 早	定例練習	豊洲	
25日（日）	**江東区民合唱祭**	於／江東区文化センターホール		
		曲目／		
		服装／		
11月 1日（日）	須	臨時練習		
7日（土）	18:00～20:00	臨時練習	ティアラこうとうリハーサル室	
8日（日）	**35周年記念演奏会**	於・ティアラこうとう大ホール		

曲目／○組曲『心の四季』全曲
○室生犀星の詩による三つの無伴奏男声合唱曲
枇杷の花、麻の実をくだく山雀、子守唄
雪、松の花
○英国民謡集－アニー・ローリー、誰かが誰かと、埴生の宿、
思い出、わがパステル、楽しかりし昔
○まど・みちお/いそべ・とし 子どもの世界－びわ、つりかわさん、りんご、おさるのやきゅう、さくらのはなさん、たなをつくりましょう、いねかり、やきいものうた、ハンカチ、ヤマアラシ （以上ステージ順、曲順は未定）

12月27日（日） 定例練習
忘年会（会場未定）

■２０１０（平成22）年

☞ 1月17日（日） **新春ファミリーコンサート＆パーティー** 於／古石場・大研修室

編集後記

◆練習で、須賀監督が突然直立の姿勢となって、今歌っている歌詞を大袈裟に、無表情に、棒読みならぬ「棒歌い」をはじめます。そして最後に必ず「なに歌っとるんだ。へタクソ。面白くもなんともない！」との一撃を添えます◆あの監督が突然教室で立たされた生徒さながらの恰好で喉をならして歌うので、団員たちは大笑いしながら、自分たちの歌唱の味気無さへの強烈なパンチだったことに気づくのです◆曲の内容を、ただ歌詞どおり、ただ音程どおり、リズムどおり、きれいに、あるいは元気そうに歌っているだけ。そんな歌い方を何度、こうしてタタキのめされたことでしょうか◆自己満足に陥りやすいアマチュアコーラスでもあります。今度の合唱祭でも楽しそうに歌っているようだけれども、一向にそれが伝わってこないグループがいくつかありました。自戒もこめて聞き入った合唱祭でありました。

（河合）

※8月は休みました。

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２００９年　９月　第３４１号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2 ☎03-3926-8369 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.com/isobechorus/
編集担当者:河合隆一(広報) 〒272-0031 市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX047-322-1299



~~09~~ 08年度総会開催

総会が実施されました。前月開催予定のところ会計上の問題があり、ひと月ずらしての開催。会計、団則改定など大きな問題がありましたが、大きな異論もなく承認されました。

日時／8月23日16・00～17・15
会場／豊洲文化センター第3、4会議室
出席／30名
議長選出／団則第21条により長田代表を選任した。

議事

■**08年度活動報告**（宮田総務）

・7月21日東京都合唱祭
・7月27典礼聖歌東京特別練習於世田谷松原教会、9団体、82名参加
・8月10日宮城敏先生（沖縄男声）による合同曲目練習
・8月24日豊洲文化センター参加団体体験練習
・9月14日ＪＡＭＣＡ滋賀演奏会に参加、於びわ湖ホール（大津市）
・9月28日第17回磯部俶記念道志川合唱祭参加。指揮須賀監督、Pf永井さん。曲目－林のなか、時無草
・10月4～5日合同演奏会のための強化練習、於豊洲
・10月26日江東区民合唱祭、於江東区文化センター、指揮須賀監督、Pf永井さん。曲目－だんじゅ嘉利吉、西表民謡による～~~へ~~のオマージュ全曲、心の四季(風が、流れ、愛そして風)、磯部作品－秋のにおい、七五三、月夜、林のなか、いねかり、時無草
・11月16日第8回沖縄男声・いそべ男声合同演奏会、於ティアラこうとう大ホール。当団単独曲－かやの実全曲、もうすぐ春、生まれたばかりの、きつねの嫁入り、指揮須賀監督、Pf永井さん。合同－だんじゅ嘉利吉、西表民謡による～~~へ~~のオマージュ全曲、心の四季(風が、流れ、愛そして風)、磯部作品－秋のにおい、七五三、月夜、林のなか、いねかり、時無草
・11月17～18日沖縄男声いそべ男声有志による富士箱根1泊旅行。沖縄24名、いそべ17名参加。
・11月25日室内オペラ「夕立」公演(磯部周平先生指揮)に参加。オペラ上演に先立って演奏。指揮須賀監督、Pf永井さん。曲目－時無草、林のなか、犀川、貝殻、松の花（この演奏はＪＡＭＣＡ会員団体による男声合唱作品ＣＤに収録）

・12月27日忘年会、於木場スコルピオーネ・ソラーレ
09年
・1月18日新春ファミリーコンサート&パーティー、於ティアラこうとう大会議室、16団体参加、当団曲目－狐の祠、いろり
・4月4～5日強化練習、於豊洲文化センター
・4月19日まど・みちお100歳展出演於銀座教文館展示場。指揮大西さん、伴奏永井さん。びわ、いねかり、つりかわさんなど7曲演奏、1時、4時の2回演奏。

■練習回数
・計21回（春と夏の強化練習を除く）内訳－豊洲15回、古石場4回、江東区センター1回、パルシティー1回

■在籍団員（7月26日現在）
1T10名－石原、大西、河合、木下、渋谷、鈴木、田岡、田島、長田、若月
2T9名－井上(斉)、井上(舎)、岩本、河原、佐藤、澤野、坪井、三上、村岡
1B8名－安部、川野辺、下山、田邊、徳田、戸丸、宮田、山川
2B9名－秋永、板垣、岩崎、大澤、坂巻、澤登、武田、長島、三好
計36名
休団　小川将太1T　高橋生久2T　辻純一郎2B

■団員の異動
・復団者
08年9月　下山利行1B
09年2月　武田元次郎2B
3月　徳田浩1B
・入団者
09年4月　岩本裕之2T
・休団者
09年3月　小川将太1T
・退団者
08年9月　石川逸人1T
09年2月　竹重敦1T
4月　児玉康夫2B

■委員の異動
・09年2月
井上(斉)－副総務から会計へ
田岡－会計から副総務へ

■次期運営委員
総務より左記の案が提出され承認された。
音楽監督　須賀敬一
ヴォイストレーナー早瀬一洋
ピアニスト　永井博子
代表　長田茂
副代表　田邊喜三郎
相談役　坪井俊策
同　若月稔

■08年度決算報告（井上会計）
・岩崎監事から、いろいろ問題があって監査を適正に行うことができなかったため、今回は「会計報告」にするとの発表があって、承認された。

■09年度活動方針案（宮田総務）
・7月12日第64回東京都合唱祭
・9月27日第18回道志川合唱祭
・10月3～4日強化練習
・10月25日第47回江東区民合唱祭
・11月8日いそべ男声35周年記念演奏会
・12月27日忘年会(会場未定)
2010年
・1月17日新春ファミリーコン&パーティ於古石場大研修室
・4月上旬強化練習
・11月7日には沖縄での合同の予定。
・江東区地域振興会との連携を保ちつつ、できれば江東区の事業としての演奏会の開催を図る。
・早瀬先生の個人レッスンを増やし曲の練習に近づけるようにしたい。
・子ども対象の演奏活動を推進したい。

■09年度予算案（井上会計）
・原案通り承認された。尚、「磯部基金」について、前回委員会でこれを一般会計へ繰り入れる意見が提出され、今回は楽譜関係収支の部分を一般会計に繰り入れることとし、「基金」の扱いについては長田代表から少し時間をかけて論議したいとの意見が出され承認された。

■団則改定の提案（井上会計）
公共機関、金融機関と接触する場合、団則の提出を求められるが、改めて当団の団則を見直すと「総会の成立条件」がないなど、従来の団則には不十分な箇所があって外部に出すには恥ずかしい部分が散見されることに気づいた。そこで、より一般性のある形式にのっとり改定したいという提案が井上会計より運委に提出され（6月28日）審議を経て、今回の総会に提出された。改定・新設箇所は総会の成立条件など、10項目以上にのぼり、前団則の基本は外さずにこの改定を行うことによって、より一般性を備えた団則となるとの提案がされ、承認された。
○主な改定、新設箇所
・創立年月日の記載
・事務局、会計担当の記載
・総会の成立条件
・役員職務の整理
・運営委員会の構成、職務の整理
・入団費などは別途規定
・各条文の前に見出しをつけた
（詳細はメール送付あるいはコピーによる〈団則改定概要説明資料〉を参照のこと）

演奏・練習部門総括　安部建雄
指揮者グループ　安部建雄
パートリーダー
大西紹夫
佐藤元昭
坪井俊策
三上正秋
1T大西紹夫
2T三上正秋
1B田邊喜三郎
2B秋永基
総務　副　宮田茂
副　戸丸悟
広報　副　田岡典尚
会計　副　井上斉
副　田島哲朗
楽譜　副　河合隆一
副　長田茂
監事　副　川野辺直雄
同　大澤寛之
井上斉
岩崎精二
澤野勉

新城安哲さん（沖縄男声）から（8月16日着）

宮田 茂様

お元気でおすごしのことと思います。毎月貴団ニュースを送付していただき、感謝しております。

こちらで一人で生活していると、時たまこうことが何かもうれしく、自分と関連することがあると思わず笑ってしまうことがあります。合同演奏の日程などが決まれば次は参加するため、中国での予定を考えねば…と思っているところです。

5月号の「ばる会」が課題曲にでた、先日立川高出身の娘がバンドを立ちあげたこと、合唱祭の話題などで盛り上がりました。事前にニューズのコピーを送っていたので、定演や合唱祭のことはよく覚えていました。20年程前、彼女らのテープを聞かせてもらいましたが、うまさにびっくりした覚えがあります。

7月号、8月号の「かれ」の話題も私にはつかしく読ませてもらいました。東京の私の上司がここで就職しましたが、父が就職の頃、母の看病のため沖縄に来たことがありました。病床の母の前で大きな声で歌ったのが「かれ」で、私の耳には印象深く残った曲でした。その時はまだ第1回の合唱演奏会前で、私はこの曲がいそべさんの曲だということを知らず、その後ジョイントが決まってから知ったという次第です。

私の西安生活もこのSHで終わります。中国を内と外とに旅行し、忙しくも充実した1年間でした。9月には沖縄に帰りますのでよろしければ9月からニューズご下記住所までお送りいただけないかと思います。機会があれば、11月の35周年記念演奏会を聴きに行きたいと考えております。では、暑い日が続きますがお身体をお大事にがんばって下さい。団員の皆様によろしくお伝えください。

ご苦労さまでした。

〒901-2103　沖縄県浦添市仲間1-5-4　8月15日　新城安哲

第　頁　　第　頁

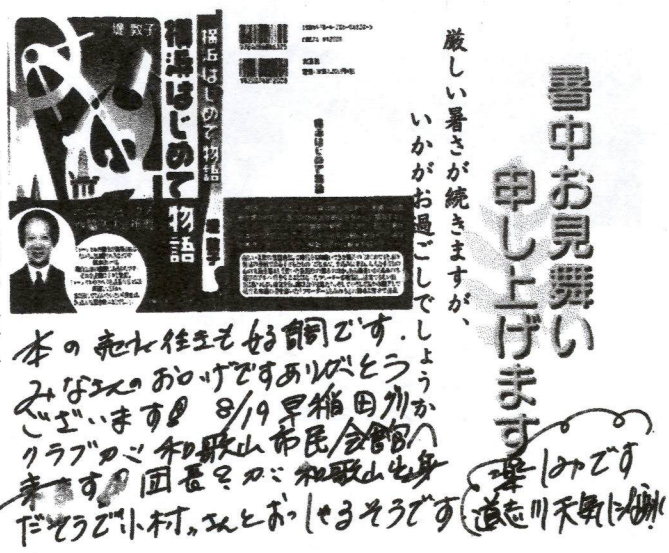
いそべとし記念男声合唱団様

蟻生栄子先生から
（クールオルタンシア指揮者）
（8月3日着）

暑中お見舞申し上げます。夏休みに入りましたのに不順なお天気ですが皆々様には舞台で大活躍のニュースをお送り頂いて本当にすばらしいな…と読ませて頂きました。

11月8日には35周年コンサート「心の四季」お目出度うございます。コールりんどうも35周年に高田三郎「水のいのち」をうたいます。では道志川合唱祭でどうぞよろしくお願いいたします。

〒280-0126 南足柄市狩野5　蟻生栄子拝



本の私も元気です。みなさんのおかげですありがとうございます。8/19早稲田外クラブの和歌山市民会館に来ます。団長さんが和歌山生まれだそうで小村さんとおっしゃるそうです。

堤 敦子先生から
（コールダイヒ主宰）
（8月11日着）

千代田一祥団長（合唱団「柴刈」）から
中野芳昌さん（合唱団「柴刈」指揮者）から
（ペン書き）

いそべ混声合唱団
長田氏　様　御礼

残暑お見舞い申し上げます。皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、8月9日（日）に開催しました合唱団「柴刈」第6回演奏会に際しましては、多大なるご支援ご協力をいただき誠に有難うございました。
おかげ様をもちまして盛会のうちに演奏会を終える事が出来ました事を団員一同、心より感謝申し上げます。
これからも一層の精進を重ねていくつもりです。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を下さいますようお願い致します。

おかげさまで演奏会無事終了できました。
ありがとう感謝申上げます
今年は「パラう」男声合唱では「ふるさと」
レセプションでは柴刈で「いわかげ」を歌いました。
いそべさんとの出会いの事は生涯忘れません！
ありがとうございました
中野芳昌

「柴刈」演奏会プログラム

平成21年8月吉日
合唱団「柴刈」
団長　千代田　一祥

第6回
合唱団「柴刈」定期演奏会



■とき　平成21年8月9日(日)
開場/13:30　開演/14:00
■ところ　田主丸町「そよ風ホール」
主催　合唱団「柴刈」
後援　久留米市教育委員会

→石川逸人さんから（元団員、1T）
（7月30日着）

郵便はがき



170-0034
東京都豊島区高土丸1-10-2
宮田芳彰

〒830-0055 下関市南方町7-9 石川逸人

暑中お見舞申上げます。
いそべとし記念男声合唱団の皆様の
御健康にお心からのご発展と祈念致すと共に
レコード、CD吹き込みご決定と頂き練習に
演奏しております。下関に帰って半年の歴史
7月26日に山陽小野田市で、小野田グリー
クラブ10周年に山陽男声合唱団協会、6団体(120名)
で合同演奏をいたしました。「柳河風俗詩」作曲
※上京の折又お会いできることを楽しみにしています

Cバーは遠路珍客大にぎわい

8月9日の練習には、大阪メールクワイアーから横田清文(指揮者1T)さんをはじめ、高橋正寛さん(2T)、長谷川明生さん(2B)、山本哲矢さん(2B)が参加、Cバーにも出席して盛り上がりました。横田、高橋のお二人は春から練習に参加して35年コンに共演してくれるはず。長谷川さんは富山県南砺市から青春18きっぷを使って4~5回乗り継ぎ10時間かけての参加。若い。

この日のCバーは、飲料のストックが底をついたので、あらかじめ総務から団員に差入れを募ったところ、集まることあつまること、「たなをつくりましょう」よろしく〝ビンビンビン〟と日本酒、焼酎、ワイン、ウィスキイなど銘酒がずらりと。いそべ男声の本領が如実に示されたのでありました。

大阪勢は4人そろって大経大クラブソングを披露。いそべも「歌の仲間」を歌うと続いて「都の西北」のリクエストが出されたのでいそべの有志がハモるなど、はやエール交歓の雰囲気。シュガーずの新曲披露もあり、さらには、全員でシュテンチェンをはじめ定番曲を次々にハモったのでした。

山本さんからの帰宅後のメールに「イソダンのチラシ配ります。(中略)あれから高崎の高橋さん宅に1泊して翌日10時間かけて大阪に戻りました。青春18きっぷはMさんにはおすすめできません」とありました。

またどうぞ。(か)



→大阪メール有志「客演」のハモり

この秋の演奏会に載せる、まど・みちおの詩による曲。男声合唱としての演奏は新鮮だ。児童合唱や女声合唱で歌われてきたもので、男声合唱の演奏は新しい。コミカルな感じの軽快な曲で、家庭で(いかにも小市民という感じの)繰り広げられる会話をもとに、温かな家族の交流をうたっている。

日曜日に台所の片隅に手づくりで棚をつくる、できた棚には、一番ではびんがいろいろ、二番ではかんがたくさん出てきて、できあがった棚に並ぶ、というストーリー。

興味あることに、このびんとかんが、この時代の検証につながっている。現在では食品の容器の主流はプラスチックで、しょうゆのびん、油の缶もプラスチックに変わっているが、この時代、食品容器の主体はびんとかんだった。ここに当時の台所風景が描かれている。

昭和30年代、生活スタイルの大きな変化が起こっている。食品容器もそうだ。マヨネーズでは、それまでびん入りだったものが、チューブ入りの製品へと開発がすすんでいく。最初は低温で硬化してしまったというポリエチレン容器は、改良されて北海道などの寒冷地でも流通できるように技術開発がすすんでいく。

プラスチックの隆盛は昭和30年代後半、エネルギーが石炭から石油へと移行して行く時代と呼応している。石油化学の発展につれて、日用品、とりわけ台所用品はプラスチック製品で淘汰されていく。そして、同時に廃棄物による環境汚染もひどくなっていった。昭和42(1967)年には公害対策基本法ができる。

まど・みちおの詩には「りんご」や「さくらのはなさん」のように、時代を超えた自然への愛惜の心情を漂わせたものと、この「たなをつくりましょう」や「つりかわさん」のように、その時代の庶民の暮らしを反映しているものとがある。「つりかわさん」の中の〝工員さん〟と〝事務員さん〟も、昭和初期以降、〝腰弁〟に象徴された労働者が、ホワイトカラー、ブルーカラーといわれる労働市場に形成されていく時代を記録にとどめているといえよう。

手づくりの台所の棚に、びんやかんが並んだ「たなをつくりましょう」の舞台は、高度成長以後の日本に移行する少し前の、ある意味では古い生活スタイルの残る最後のよき時代だったのかも…。

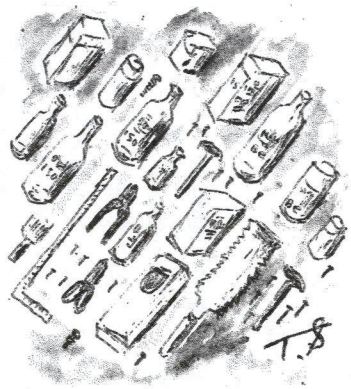
(カットも筆者)

いそべ男声メロディー・歌の博物誌⑭

へらっきょうのびんしおのびん しょうゆのびんびんびんびん

「たなを つくりましょう」まど・みちお詩・磯部 俶曲

澤野 勉(2T)



室生犀星詩・磯部俶曲

「枇杷の花」「子守唄」の深層

河合隆一（1下）

20歳代前半の詩作品を『愛の詩集』と『抒情小曲集』にまとめて出版したのが犀星30歳。（後者には「ふるさと」を含む「小景異情」や「犀川」「時無草」など、われわれが歌い親しんでいる詩が収められている）

この二つの詩集によって犀星は詩壇に認められ、結婚し、若き放浪の時代に終止符をうつ。大正7年、第1次世界大戦が終結し、日本は大正デモクラシー最盛期にあった。

私は『抒情小曲集』をめくるたびに若き日の犀星の懊悩、心の疼きなどなどが鋭利な刃物のようになって迫ってくるように感じられて思わず頁を閉じてしまうことがある。その語法、表現は何回読んでも新しいのだ。

・

詩人たちとの交流も増えるなか、犀星は「中央公論」に幼少年時代の追想による小説『性に目覚める頃』を書き、大きな反響を得る。30歳台の初頭は小説を30編以上も書いて小説乱作の時代だった。

もちろん、少ないが詩も書いてはいる。詩集も出している。

そして33歳、大正10年5月、長男豹太郎が生まれる。虚弱児だった。溺愛したという。

『星より来れる者』は犀星の第5詩集。この末尾に「こどもが生れた／わたしによく似てゐる」と手放しのノロケを披露している。「母おやに乳がないゆえ／八幡さまの裏まで／まいにち貰ひ乳をしにゆく」という心配もあったが、濃やかな愛情をそそぐ。親友萩原朔太郎はこの時期の犀星の家庭は「春風にみち」ていたと書いている。

・

さて、このへんで「枇杷の花」と「子守唄」の出番だ。

この2編はどちらも第6詩集『田舎の花』に入っている。出版は大正11年6月。井伏鱒二の「山椒魚」を思わせる「魚」や、焼物を手にとって寂寞感をつぶやいている「古九谷」のように、日陰の文人趣味と言ってもいいような詩が並ぶ。「枇杷の花」もその中の一つだ。ひと知れず寂しげに咲く枇杷の花を淡々と描写しているが、犀星は決してそこに自分を重ねようとはしていない。

これが10年前だったら、「寂しく咲いてゐる」枇杷の花に我が逆境を重ね合わせて激しい抒情を吐き出していたに違いない。

詩人として、作家として名声を勝ち取り、長男に恵まれた男の心のふきだまりのような詩といったら作者に怒られるだろうか。

・

そんな『田舎の花』の頁を繰るとこんな詩が目に飛び込んでくる。

「日の出る前／子供が羽ばたく
（中略）子供は何もかも知ってゐる
やうに／ひっそりと話しかけながら／足をばたばた羽ばたく」

これは豹太郎ではないか。清冽な朝の空気の中に聖母子を思わせる親子が描写されている。極めて抑えた筆致だ。

また「遠い笛」という詩は笛の音に目を覚まして泣く子供をじっと見つめている。

このように子供をテーマにした詩がいくつか並んでいる。いずれも自分の子、他人の子に向ける目のやさしさは感じられるが、わが子につながる具体的な表現は少ない。ノロケいっぱいの豹太郎の描写も見つからない。

そんな中に「子守唄」の詩がある。「雪がふると子守唄が聞こえる」と語りはじめる。

豹太郎を抱いている犀星の姿を想像しながら読むとまったく裏切られてしまう。母親が子を抱いている情景もない。そこには、犀星自身の暗い誕生の記憶が、降る雪とともに彼の脳裏に呼び戻されてきているのだ。

不義の子として生後1週間で赤井ハツという酷薄な女に渡される。8歳で雨宝院住職室生真乗の養子になる。生みの母は行方不明になる…。

若き日、「友よ、むしろ哀しきわれを生める／その母のひたひに七たび石を加ふるとも／かなしきわが出産はかへらざるべし。」（「滞郷異信」大2）と自分の出生の怨みを詩としてぶつけていた犀星。

しかし「子守唄」では静かに語る。中ほどで「母といふものをしらない私に／さういふ唄の記憶があらうとは思へない」と語る箇所は10年前だったら恨節になるところだろうが、わずかなゆらぎを感じさせる程度で、再び静かな語り口にもどる。

33歳を過ぎた犀星。妻が息子に授乳し、あやしている姿を見て、はじめて、自分を生んでくれた母を慕う気持が生まれ、この「子守唄」が生まれたのだとしか思えないのだ。

伊藤信吉の「母を恋してる唄。いぢらしい。」との言葉にうなずくのみ。

作曲者磯部俶先生の言う子供の鼓動にのせて、犀星の「きいたこともない唄」を聴きながら心の暗部が浄化されていく。これは、そんな子守唄なのだろうか。

・

「子守唄」を暗譜しようと楽譜を読んでいたとき、「…唄の記憶があらうとは思へない」のところでハタと気がついた。

これはシューベルトの「糸を紡ぐグレートヒェン」とよく似てるじゃないか。

あちらはゲーテの「ファウスト」の中で紡ぎ車を回しながら愛する人への思いを歌う。こちらは心の中に流れる子守唄を聴きながら、我が重い生誕の陰りを噛みしめる。詩の内容は全く違う。テンポもリズムも違う。

でも曲の骨格はそっくりだ。あちらは恋する人への思い、こちらは自分を生んだ母への思い。どちらも、思いが募りきったところで動きが止まる。すごい。

よし、しっかりと歌わねばと思いつつ楽譜をめくった。まだ完全暗譜はできてないが。

・

大正11年6月24日豹太郎1歳2カ月で死去。6月28日『田舎の花』出版。12月、豹太郎への挽歌を『忘春詩集』に載せる。これが泣かせる詩なのだ。

総務だより

7月26日運営委員会報告
（出席12名）

◆35周年コン関係

①チラシ

長田氏よりデザイン候補2点が提示され、両案とも捨て難いところから、よりチラシ効果が強いデザインの一点をチラシにもう一つはプログラム表紙とすることにし、8月9日練習には団員にチラシを配布する。

②友好合唱団へのPR

左記団体各担当を定め積極的にPRに動く。

稲門グリー・シニア、横浜稲門グリー、桜友女声、コーロこせやま、湘南女声、横浜木せい会、フラウエンいそべ、クールオルタンシア、宮代コール、かえるたち、虹、沖縄男声、所沢メンネル、市川男声、お江戸コラ、東京フリューゲル、川妻千邦氏指揮団体、鎌倉男声、柴刈おおたこども劇場、教文館、大和郷幼稚園、関中学校、江東区合唱連盟

③チケット販売

各団体へのチケット販売はすべて各担当の自由に任せる。

④服装／準備のため早めに決めたい

・1、2ステ／黒タキ、黒蝶タイ、シルバーチーフ（曲目／心の四季、室生犀星など）

・3、4ステ／白タキ、黒蝶タイ、えんじチーフ（曲目／英国民謡、まど＋いそべ）

◆総会について

①委員／立候補者がない場合は現委員の継続となる。

②新年度事業計画／道志川合唱祭、江東区民合唱祭、35周年コン、新春ファミコン、春の合宿、沖縄男声との合同などを提示。

この他に江東区内の活動を江東区地域振興会と連携を保ちつつ展開したい。早瀬先生の個人レッスンの回数を増やす。また合唱団の基本としての新しい曲目への取り組みなども提案するべきだとの意見が出された。

◆その他

①合唱団「柴刈」演奏会に祝電祝儀を贈る。（8月9日田主丸そよ風ホール）

②いそべ男声ニュースを、インターネットによって発信する案が出され、継続検討することとなった。これによって広報の拡大と経費の削減が図れるという考え。佐藤、井上斉、戸丸、及び広報担当などにより検討する。

8月23日運営委員会報告
（出席13名）

●総会について

①議事進行案は原案通り了承。

②活動報告、次年度活動方針は原案通り了承。

③次年度人事案は原案通り了承。

④決算案については、使途不明金が一部でも解明された場合は修正することとして原案通り了承。

⑤予算案は原案通り了承。

⑥「磯部基金」については長時間の論議が交わされたが、楽譜の製作費、販売利益の双方を一般会計に繰り入れることを決定した一方で、「基金」と一般会計とを一本化することについては、「原案4」の近い形がよいとの意見が多数であったが、いま少し検討の時間をとることにした。

●道志川合唱祭について

期日／9月27日（日）
曲目／りんご、ハンカチ
指揮／安部建雄　P 永井博子
服装／ポロシャツ、チノパン

●江東区民合唱祭について

期日／10月25日（日）
曲目／びわ、おさるのやきゅう
ハンカチ
指揮／
服装／ブレザー

●沖縄男声との合同コンについて

曲目案が左記の通り提出されたが時間の都合で検討は後日とされ、須賀監督と練習部門とで協議することにした。

①沖縄単独（15分）鳩間節などの沖縄民謡3曲、斎太郎節など日本民謡2曲

②いそべ単独（15分）

③沖縄男声家族コーラス（12分）ロシア民謡

④宮城先生指揮合同（20分）Kyrie eleison、Swing Low Sweet Chariot、Didn't My Lord Deliver Daniel、西表民謡によるオマージュ

⑤須賀監督合同（20分）

●来春の合宿について

春の河口湖おおばでの合宿は見送りとし、春の特別練習は別途計画することにした。

●その他

稲門グリーシニア会演奏会（10月3日）は御祝儀贈呈し、当団演奏会のための強化練習と重なるので団員家族などにチケットを配布することにした。

しゅがーズ8名に

当団内の有志グループ「シュガーず」も4名で発足して10数年。レパートリーも10数曲になり（完成度は不明）、8月9日のCバーには8名にも増えて、新しい練習曲を披露しました。珍しくミサ曲のピエ・イエズを始めたところ、須賀監督がいきなり立ち上がって「そこは違う違う」と言いながら指揮が始まり、2回のやり直しまでしてもらいました。後で団員に聞いてみたら曲の中の繋がりかたが気になって黙って聞いていられなくなったらしいのです。思わぬ指導に恵まれて収穫のシュガーずさんたち、来年12月に発表会を持つべく着々と実績を重ねているようです。乞ご期待。K



SCHEDULE

早：早瀬先生voice training
須：須賀監督指導・指揮

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

■２００９〈平成21〉年

9月13日(日) 13:00～17:00 定例練習 豊洲 Cバー（１ｔ）
（練習曲目/室生犀星、雪、心の四季）
20日(日) 13:00～17:00 須早 臨時練習 豊洲 運委11:00 Cバー（２Ｔ）
（演習曲目/全曲）
27日(日) **道志川合唱祭**
曲目／りんご、ハンカチ
服装／ポロシャツ
10月 3日(土) 13:00～17:00 須早 強化練習 豊洲
4日(日) 10:00～17:00 須 強化練習 パルシティー
11日(日) 10:00～17:00 早 定例練習 豊洲 Cバー
25日(日) **江東区民合唱祭**
於／江東区文化センターホール
曲目／びわ、おさるのやきゅう、ハンカチ
服装／ブレザー
11月 1日(日) 13:00～17:00 須 臨時練習 豊洲
7日(土) 18:00～20:00 臨時練習 ティアラこうとうリハーサル室
8日(日) **35周年記念演奏会** 於・ティアラこうとう大ホール
曲目／①高田三郎作曲『心の四季』全曲
②磯部 俶作曲 室生犀星の詩による三つの無伴奏男声合唱曲
枇杷の花、麻の実をくだく山雀、子守唄
雪、松の花
③英国民謡集 アニー・ローリー、誰かが誰かと、埴生の宿、
思い出、わがパステル、楽しかりし昔
④まど・みちお/いそべ・とし 子どもの世界－びわ、つりかわさん、りんご、おさるのやきゅう、さくらのはなさん、たなをつくりましょう、いねかり、やきいものうた、ハンカチ、ヤマアラシ
☞（ステージ順、曲順ほぼ確定）
服装／①②…黒タキ、黒蝶タイ、シルバーチーフ
③④…白タキ、黒蝶タイ、えんじチーフ
11月22日(日) 13:00～17:00 定例練習 古石場 運委(11:00)
12月13日(日) 13:00～17:00 定例練習 豊洲
27日(日) 13:00～17:00 定例練習 豊洲 運委(11:00)
忘年会（会場未定）

■２０１０(平成22)年

☞ 1月17日(日) **新春ファミリーコンサート＆パーティー** 於／古石場・大研修室
7月25日(日)第65回東京都合唱祭(予定)
9月26日(日)第19回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭
10月24日(日)第48回江東区民合唱祭
11月 7日(日)第9回沖縄男声合唱団との合同演奏会 於／沖縄(予定)

編集後記

◆永田町は「政権交代」で大騒ぎでしたが、当団では総会が終わって「コータイ」もなく35年目のいそべ男声に突入しました◆まず、目前の35周年記念演奏会に全力を投入すること、そして来年に向けて新しい目標…レパートリーなど…の設定、そして沖縄男声さんとの合同演奏会など、取り組むべき課題はいくつもあります◆35周年ということが長いのか短いのか、天才モーツァルトが35歳で死んでしまったことを考えると、我々凡才はただ馬齢を重ねるしかないのか、いや凡人の長寿もひとつの存在価値なのかな、なんて居直っちゃったりしてもいいかしら◆ともかく歌唱力の維持、そして何よりも企画力を要求されるこれからでしょうか◆このいそべ男声ニュースにも、もっと新鮮な企画力を、もっとおたよりを、もっとコメントを、もっと情報を、もっと知恵をください。

（河合）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２００９年　１０月　第３４２号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2　☎03-3926-8369　FAX 同
E-mail　isobechorus @hotmail.com　　URL http://www.geocities.com/isobechorus/
編集担当者:河合隆一(広報) 〒272-0031 市川市平田 2-12-6　☎047-322-1256　FAX047-322-1299

第18回道志川合唱祭



撮影・吉岡久恵

・

9月27日(日)、道志川の渓谷に、時折、雷鳴が遠慮がちに轟いたり陽が差したり、という、気になる曇り空の下で、今年の「磯部儁記念『遥かな友に』道志川合唱祭」は始まった。

「緑の休暇村センター」の建物は、見た目、立派になり、今までスリッパに履き替えなければ入れなかったトイレに、靴のまま入れるようになっていた。

掲示板を見ると、今年も前夜祭で、「やまびこホール」付近で「和太鼓」「ソーラン踊り」、河原では打ち上げ花火が催され、前夜泊のコールダイヒの皆さんも、前夜祭を楽しんだ模様。

・

合唱祭実行委員の高城鶴吉さんが、「相模原市からも多額の援助をいただき、市の職員の方にもご協力いただいています」と挨拶すれば、その後にステージに上がった相模原市長は「この地域の方々の文化的な伝統を大切に育てていきたい」と応えた。

高城さんの「はるとも」誕生のいきさつ説明の中で、「……その早稲田グリーの合宿に参加していた方が、会場にいらっしゃるはずです。お手をお挙げください」の声に、若月と長田、それに坪井さんも手を挙げて、開会が一気に盛り上がった。

・

毎年、最初に演奏するという「やまびこ合唱団」から合唱発表が始まった。シルバー合唱団という「コーラス喜楽楽(きらら)」、混声アカペラの「つくいムジーク・フェライン」と、地元青根・津久井の合唱団が続いたが、このアカペラは上手だった。2回目の参加という「この道」、津久井合唱連盟8団体有志の合同による「つくい合唱連盟」、全員が全曲暗譜で元気に歌った「コーラスたんぽぽ」、今回最多人数40人弱の「元気の出る歌声サークル」と続いて、いよいよお待ちかね、遠来の堤先生主宰の「コールダイヒ」の登場。

・

今年は、人数も増えて10人。難波家のお兄ちゃん洸ちゃんが「星くず屋の歌」のアリアを歌って大喝采。続いてオペレッタ「マリアッツァ」から「妹よ」のデュエット、5歳のお兄ちゃんの「妹よ」の呼び掛けに、3歳の妹二菜ちゃんが「お兄様」と応えたところで、会場は興奮のるつぼ。さらに、坂本家の茉優ちゃん9歳を含めて3人の和歌山の子役が、会場の人気をさらってしまった。堤さんと三重唱を披露した男声2人は、いそべ男声に引っ張りこまねば…。

午前の部の最後は、「フラウエンコール」、手紙づくしで「春の手紙」「さざんかの手紙」を演奏。

・

昼の「交流会」は、例年どおり、津久井うどん・焼き鳥・アユのから揚げ・焼きトウモロコシなどが人気で、クリやサツマイモなど、地元の農産物即売にも、人が集まっていた。

・

午後は、「クールオルタンシア」「湘南女声」と、いそべファミリーが続き、高城さんもメンバーになっている「うたごえ」が「紅葉」を手話付きで演奏した。全校生徒18人の青根小学校、それに全校生徒19人に職員10人も加わった青根中学校の演奏のころには特産物販売のおじさんおばさんたちも、我が子たちの演奏を聴こうと、テントの後方に集まってきた。PTAママさんコーラスが母体の「やまなみ」、地元の子どもたちの「つくい少年少女合唱団」と続いたところで、初参加の「横浜フォーティーズ」は横浜国大グリーOB合唱団のなかの昭和40年代卒業のメンバーによるグループで、小人数ながら「野ばら」やニグロスピリチュアルをアカペラで男声合唱の響きを聴かせてくれた。



→コールダイヒの演奏に聴衆は大喜び



←青根小学校全校18名の熱演

こうしてにぎやかなステージが続き、初参加のグループや、これが2回目という団体があったものの常連団体の顔がいくつか見えなかったのは寂しい思いがした。

・

いそべ男声は、まど・みちお特集で「りんご」と「ハンカチ」を安部さん指揮、永井さんピアノで演奏。参加予定人数が心配されたが、石川逸人さんが応援に、田岡典尚さんも参加して計19人で、ひと安心。

全プログラムが終わって、実行委員長の挨拶、磯部和先生、磯部周平さんへ、夫婦園の関戸さんからの花束贈呈、そして最後に周平さん指揮、永井さんピアノの「道志川旅情」「遥かな友に」を全員合唱で、予定時間ピッタリに閉会。（長田記）

正調『遥かな友に』を尋ねて

高田信昭
（横浜国大学OB合唱団　昭34年卒）

昨年の冬、リーダー会議で「われわれが愛唱曲として歌っている『遥かな友に』は様々な編曲があるが、どれが正調なのか調べてみよう」という話が出て調査することになった。（中略）

この曲はよく知られているように1951年夏津久井渓谷夫婦園での早大グリーの合宿のときに、新入部員が夜に枕投げなどをして騒いでいるのを静めるために磯部先生が作曲された。この曲は曲が先に出来て、詩をあとからつけたことが記録に残っているようである。

調査に先立ってまずいろいろな楽譜があるが、どれだけの種類があるか集めてみたら、次のようになった。

a. 昭45. 2. 15
横浜グリー版（OBグリー時代）　（a dur）

b. 横浜グリー版（現在）
（a dur）

c. OB会グリーフェスタで配布されたもの（a dur）

d. 林　雄一郎編曲のもの
（c dur）

（『グリークラブアルバム』に収録）

このほか私の現役時代の初期の楽譜を探したが、T1の杉浦さんのArchivesにも収録されておらず、手に入らなかったのは残念であった。

これらの楽譜を集めた段階で磯部先生の作曲したものを管理している、いそべとし記念男声合唱団の存在をT1の吉田さんに教えてもらい、そこへコンタクトしたところ、いろいろなことを教えていただいた。

現在、いそべ男声が出版している『遥かな友に』（b dur）（磯部俶男声合唱曲集『歌の仲間』に収録されている）は、昭39年（1964年）にカワイ合唱名曲選として出版されたもので、そのあとがきに磯部先生自身が次のように書かれている。

「いろいろの形の編曲がありますが。はじめから5小節目の〝おもい〟の箇所は三度になっている編曲もありますが、この楽譜からその箇所は全部ユニゾンにしました」

とあり、先生としてはこれを後世に残したい楽譜であろうというのが、いそべ男声の考えで

あった。
　また、この編曲からＫｅｙを（ａ ｄｕｒ）から（ｂ ｄｕｒ）に変更されている。
　ただ、面白いことに、出版された楽譜の曲名の下に（原調はＡ－ｄｕｒ）と注書きされているのは、先生もこの点を相当意識されていたからであろうか。
　先生は解説の中で、この曲は（ａ ｄｕｒ）でトップの張り上げた音色ではなく優しく静かなハーモニーで歌うことを意図して作られたことを書き残されている。巷間伝えられている「磯部先生はこの曲のＫｅｙをａｄｕｒから変えてはならないといわれた」ということはこのことからきていたのかも知れない。
　しかし、後に、先生自らが半音上げた（ｂ ｄｕｒ）で出版されたことは、合唱界で認識されておらず、先般のＪＡＭＣＡの合同演奏でも（ａ ｄｕｒ）のまま演奏されたが、今後はｋｅｙを上げて歌うべきであろう。
　異色の編曲として、林 雄一郎編曲の『遥かな友に』があるが、これについて、いそべ男声のホームページに興味ある記事が掲載されている。
「林 雄一郎は関西学院グリーの大御所であるが、『遥かな友に』を磯部先生に断りもなく編曲し出版した。このことで磯部先生は大変立腹されたが、合唱界の先輩のことでもあるので表向きの抗議はされなかった。」
　このことは著作権が確立されている現在であれば大ごとになっていると思われる。前前回のＪＡＭＣＡでは、この林 雄一郎編曲を歌ったが今思うと忸怩たるものがある。
　以上調べてきたことから、わがＯＢ合唱団としては、

ｅ．いそべ男声版（ｂ ｄｕｒ）
（『歌の仲間』２００３年）

を正調（決定版）として歌いついでいくべきだと考え、リーダー会議に提案したところ、２００８年８月にＯＢ合唱団としてこの楽譜を採用することが決定された。
　今回の調査中、いそべ男声の長田さんと何回かメールのやりとりをしている中で、「私は学生時代に同じ合唱界で過ごした仲間に敬意を表します」と言ったところ「横浜国大さんには、コンクールで何回もやられました」と返事が来て、われわれが考えている以上に、早稲田のグリーの方々はあの頃のことを強く覚えているのだなあと感じた次第です。

35周年記念演奏会本番スケジュール

１１月８日（日）於・ティアラこうとう大ホール

時刻	内容・動き・曲目			
9:00	集合、受付準備、招待席準備、反響板設営 ピアノ調律	出場予定 １Ｔ…13名（含特別参加3名） ２Ｔ… 8名 １Ｂ… 9名（含特別参加1名） ２Ｂ… 9名		
9:30	受付お手伝い打合せ			
10:00	体操、発声			
10:40	リハーサル			
12:10	食事			
12:40	ステージ出入り、並び確認			
13:20	着替え、休憩	服装（欄外の注意参照）		
13:30	開場			
13:55	舞台下手集合待機			
14:00 開演	第１ステ／『心の四季』全曲 ・終了後退場、５分後入場	黒タキ	シルバールタイ	シルバーチーフ
14:30	第２ステ／室生犀星の詩による二つの無伴奏男声合唱曲 枇杷の花、麻の実 をくだく山雀、子守唄 雪、松の花	黒タキ	シルバータイ	シルバーチーフ
14:50 休憩		着替え		
15:05	第３ステ／英国民謡集／アニー・ローリー、誰かが誰かと、埴生の宿、思い出 わがパステル、楽しかりし昔 ・終了後退場、５分後入場	白タキ	黒タイ	えんじチーフ
15:30	第４ステ／まど・みちお/いそべ・とし 子どもの世界/びわ、つりかわさん、 りんご、おさるのやきゅう、さくらのはなさん、たなをつくり ましょう、いねかり、やきいものうた、ハンカチ、ヤマアラシ	白タキ	黒タイ	えんじチーフ
16:00	アンコール			
16:10 終演				
16:~~00~~ 45	打ち上げ（地下大会議室）	服装は自由		

★ステージの
　服装について…・黒タキシードのない方は黒礼服でも結構です。
　　・蝶タイ、ポケットチーフのない方は、総務で希望を募り手配します。
★バインダー……使用する人は全ステージ黒バインダー。
★受付担当……ご家族の応援を予定しています。各部門の団員の担当者を含めて、人数を確定し、別途お願いします。
★昼食……団で一括手配します。
★打ち上げ……@３０００円
　服装は自由。

お・た・よ・り

いつもニュースペーパーをお送り下さいまして心からお礼申し上げます。次々に展開されるご活躍の有さまが手にとるよう、詩曲のご研究の記事は特に、講演をきくような喜びを頂いております。

9月12日（土）、名古屋「しらかわホール」で周平先生のクラリネット演奏に加え、プロオーケストラ初デビュウとおっしゃる指揮を拝聴するという、地元の私にはまことにうれしい初秋の午後を過ごしました。オケは若々しい「愛知室内オーケストラ」、メキメキと活動の場を拡げている県芸大出身メンバー、時々合唱の協演などで耳にはしていましたが、この日は、抜群の音楽性と好感度最高の周平先生の棒で目をみはるような熱演でした。

オール・モーツアルトのプログラムの中、K622のクラリネットは泌みわたるような深い魅力にあふれ、第2楽章Adagioの哀切な音色に涙がとまりませんでした。あつい命の息が奏でるクラリネットは四十数名の琴線を夢中でふるわせる力を与えたのだと、私には感じられたのです。

いそべ男声さんを中心とする「いそべ世界」に惹かれつづけて、でも遠いのでほんに年に一回ほど、沖縄との合同とか和先生の朗読の会に寄せて頂き、ただそれだけのことですのに、周平先生がこの地で演奏と知るやもう大変！畏れながら、和先生の代わりにおかあさん気分までおまけに味わってしまいました。

知立女声は32回目のコンサートが来年3月、プログラムに犀川、時無草、貝殻、木せいの四曲を入れます。俶先生の曲は永遠に新しく、さわやかで、私も団員もとても好きです。前に、いそべ男声さんのやわらかで暖かい歌声の秘密を須賀先生に伺った時、こう言われたのを忘れていません。〝俶さんの曲を歌っていれば、あゝなるよ。心で書いた人だから〟

また、お会いでき、美しい合唱をきかせて頂く日を楽しみにしています。

9月15日

知立女声合唱団　**鈴木　由紀子**

いそべメロディーの秋の歌といえば「秋のにおい」と、この「月夜」ー。コスモスは両方に出てくるのだが、「月夜」の立役者はコオロギで、〝本箱のうしろ〟や〝台所のすみっこ〟に隠れてないで、お月さまを見に出ておいで、と呼びかける。

磯部さんは、この曲の指導では、いつも「このお月さまは大きい、こんなに大きいんだヨ」とゼスチュアたっぷりに言っ↖

いそべ男声メロディー・歌の博物誌⑮

もう秋なのね おかあさん コオロギが ないている

「月夜」高田敏夫詩・磯部　俶曲

澤野　勉（ネマ）



秋の虫の声では、男声合唱の定番となっているドイツ曲の小品「おやすみ」の二番に〝月影明るく虫はすだく〟というのがある。虫がすだくのが、いかにも秋の夜の風情を表しているのだが、ドイツ、ヨーロッパの社会で、月の光と一緒に虫の音が日本と同じように受け入れられているものかどうか。欧米社会の感覚では、虫の音は殆ど雑音として扱われる。

「おやすみ」の日本訳をドイツ語に直訳したら、どうなるのだろうか。おそらく〝すだく〟という、日本人と秋草の蔭の虫の音との心の通い合いのデリケートな部分は、言語（と民族性）の壁にぶつかって、うまく表現はできないのではないだろうか。

ところで、このコオロギ科の昆虫の、いわゆる虫の声はよく知られているように羽をすり合わせて出す音である。この音を出すのは雄だけ。雌はこの妙なる響きを〝鼓膜〟で受け止める。

そうです、更け行く秋の夜のシンフォニーはコオロギ科の面々の大合唱ーまさしく男声合唱なのだ。地球上の多様な生物の中では美しい調べを奏でるのは雌雄の一方だけ、ということもあるわけで、ホモサピエンスたる我々は、多彩な〝音〟を矜持する幸せを持っているということだろうか。

秋思ー秋はもの思う季節とか。虫の音に耳を傾けながら、改めて男声合唱はこの響きに通じているのだーーと、ふと思う。

（カットも筆者）

日本のように虫の音の表現に、チンチロリン、ガチャガチャなどと細かく表現することはないようだ。

そもそも、〝すだく〟という言葉がまことに日本的だ。すだくは漢字では〝集く〟で、多くのものが集まる、集まってさわぐという意味である。『広辞苑』には〝虫が集まって鳴く〟の記載もあるが『明解古語辞典』には〝虫が鳴く〟は誤用とされている。

なるほど鳴くという表現は各国の言語にあるが、犬が吠えるや鳥が鳴く（英語で barking、singing、ドイツ語で bellen、krähen）という表現はあっても、

てておられた。

コオロギはバッタ目コオロギ科の総称で、世界に二〇〇〇種もいる。動物学的には、スズムシもクツワムシも、カネタタキも、すべてこの仲間に入るとのこと。日本では古くは〝古保呂木〟と書いて、これは色が黒ずんでいるための表記とされていた。漢字では蟋蟀。一字では蛩（キョウ）という字がある。蛩声（キョウセイ）とはコオロギの鳴く声をいうとのこと。

泉が丘混声合唱団に感謝

10月25日(日)江東区民合唱祭と臨時練習は、当初は団内指揮者の予定でしたが、須賀監督が指導している泉が丘混声合唱団から、スケジュールを譲るとの連絡がはいりました。代表から早速お礼のメールを送ったところご返信を戴きました。

・

「いそべとし記念男声合唱団
長田様
泉が丘混声合唱団 黒豆(くろず)と申します。ご丁寧なメールを戴き大変恐縮致しております。
11月8日は私どもの地元岐阜県土岐市の市民音楽祭出演のため、折角のご縁を戴きながら聴かせて戴くことはできませんが今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。
伝統ある貴合唱団の「創立35周年記念演奏会」、ご成功を心よりお祈り申し上げます。」
(岐阜県土岐市泉が丘町2－66 黒豆公生(くろずきみお)方)

※このご厚意により、江東区民合唱祭と35周年演奏会練習は須賀監督の指揮・指導で実施できることになりました。
泉が丘混声合唱団に深く御礼申し上げます。

ノイエ・ダーメン 世話役代表交代

「ダーメンコールいそべ」から組織変更された「ノイエ・ダーメン」の世話役代表が7月1日から次の通り交代になりました。
代表者は6カ月交代ですので、任期は今年12月末になります。
新春ファミリーコンサート&パーティーでお目にかかることを楽しみにしています。

世話役代表　岩崎加代子　(連絡先／埼玉県南埼玉郡宮代町百間　3－3－25 岩崎方)
会計　植木桂子
☎／FAX 0480-32-0929

総務だより　9月20日運委報告(出席14名)

■35周年コンサートについて
①PR活動
分担を決定。PR方法は担当者に任せる。
②招待者の決定。
③チケット配布は岩崎(2B)板垣(2B)に依頼する。(了解)
④チラシはすでに団員に配布済みだが稲門グリー・シニア会演奏会プログラムへの挟み込み作業を10月3日午前中に団から数名出張して行う、また江東区民合唱祭では会場に置き、出口においてお客へ手渡しすること
⑤服装は、再度検討の結果、黒タキ(1、2ステージ)、白タキ(3、4ステージ)とすることに決定した。

■道志川合唱祭について
①9月27日(日)
②参加者
1T－4、2T－6、1B－4、2B－4、計18名
③配車分乗決定

■道志川合唱祭、江東区民合唱祭への参加費の支出について
①道志川合唱祭－団体参加費及び謝礼
②江東区民合唱祭－団体参加費及び謝礼
以上2件は磯部基金から支出することとした。

■江東区民合唱祭について
①10月25日(日)
練習12時～15時
②練習場－第一大島小学校多目的室

消息

■井上舎人さん(2T)休団
「11月5日(木)入院、手術することになりました。術後体調が回復するまでは団活動への参加はできませんので、10月以降休団致したくお届けいたします。
7月に内臓に異常が見つかり、いろいろ検査を受けた結果、悪性腫瘍の疑いで9月に専門病院に移り、各種検査の結果、手術を受けることになりました。待ち患者多数のため11月入院になりました」(以上井上さんからのメールによる)

名簿の訂正

道志川合唱祭実行委員会FAX
正　042－784－7474

CD／JAMCA会員合唱団による『男声合唱委嘱作品集』完成

昨年11月25日に鎌倉芸術館で当団が演奏・録音した「犀川」など5曲を含むCDが完成しました。

第1集(1500円)
①磯部俶作曲 須賀敬一編曲
男声合唱とピアノのための抒情曲集『犀川』(「時無草」「林のなか」「犀川」「貝殻」「松の花」)
演奏 いそべとし記念男声合唱団
②大木惇夫作詩 多田武彦作曲
組曲『西湘の風雅』
演奏 小田原男声合唱団
③松下 耕作曲
『日本の民謡第3集』
演奏 東海メールクワィアー
④千原英喜作曲
『荘厳、光に向かって』
演奏 クレセント・ハーモニー

第2集(1500円)
①石川啄木歌・詩 信長貴富作曲
組曲『見よ、かの蒼空に』
演奏 男声合唱団コールM
②宮沢賢治詩 新実徳英作曲
『舞歌Ⅲ－縄文幻想』
演奏 所沢メンネルコール
③寺山修司詩 服部公一作曲
組曲『詩人の肖像』
演奏 弘前JAMCA東北合同演奏
④鈴木憲夫詩曲
組曲『祈祷天頌』
演奏 東京リーダーターフェル
1925

制作 日本男声合唱協会
会員価格1350円　申込は宮田総務まで

SCHEDULE

早：早瀬先生voice training
須：須賀監督指導・指揮

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

■２００９〈平成21〉年

10月11日（日）10:00～17:00 早 定例練習 豊洲 Cバー
25日（日）**江東区民合唱祭** 須 於／江東区文化センターホール
12:00～15:00 練習／第一大島小学校多目的室
（都営新宿線「西大島」駅前）
（合唱祭会場の東陽町の文化センターへはバスなどで移動）
16:00 第３部に出演 曲目／びわ、おさるのやきゅう、ハンカチ
服装／ブレザー

11月 1日（日） 13:00～17:00 須 臨時練習 豊洲
7日（土） 18:00～20:00 須 臨時練習 ティアラこうとうリハーサル室
8日（日）**35周年記念演奏会** 於・ティアラこうとう大ホール
9:00 集合、準備
10:00～12:10 発声、リハーサル
12:10 食事
12:40 出入確認
13:30 開場
14:00 開演
16:10 終演
16:45 打上げ
☞（時間割・注意事項詳細は３頁参照）
曲目①高田三郎作曲 組曲『心の四季』全曲
②磯部 俶作曲 室生犀星の詩による三つの無伴奏男声合唱曲－（枇杷の花、麻の実をくだく山雀、子守唄）、雪、松の花
③英国民謡集 アニー・ローリー、誰かが誰かと、埴生の宿、思い出、わがパステル、楽しかりし昔
④まど・みちお/いそべ・とし 子どもの世界－びわ、つりかわさん、りんご、おさるのやきゅう、さくらのはなさん、たなをつくりましょう、いねかり、やきいものうた、ハンカチ、ヤマアラシ
服装／①②…黒タキ、シルバータイ、シルバーチーフ
③④…白タキ、黒蝶タイ、えんじチーフ
打ち上げ／地下大会議室

11月22日（日） 13:00～17:00 定例練習 古石場 運委(11:00)
12月13日（日） 13:00～17:00 定例練習 豊洲
27日（日） 13:00～17:00 定例練習 豊洲 運委(11:00)
忘年会（会場未定）

■２０１０(平成22)年

1月10日（日） 13:00～17:00 定例練習 豊洲
17日（日）**新春ファミリーコンサート＆パーティー** 於／古石場・大研修室
24日（日） 13:00～17:00 定例練習 豊洲
7月25日（日）第65回東京都合唱祭(予定)
9月26日（日）第19回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭
10月24日（日）第48回江東区民合唱祭
11月 7日（日）第9回沖縄男声合唱団との合同演奏会 於／沖縄(予定)

編集後記

◆最近、新聞で、海外で歩く姿勢のよくない人をよく見ると日本人だった、という記事を読みました。国内にいると全く気がついていませんが、こんなところに今の日本人の生き方が出ているのかなと思ったりしました◆４年ほど前に私は手術を受け、その半年後に合唱祭に参加しました。道を歩く私の姿を見て須賀さんが「調子はどうだい」と言ってくれました。私は「胸に鉛が張り付いたみたいだ」と答えました。この須賀さんの言葉には感謝あるのみでしたが、あとで、そのときの自分の姿勢がうつむき加減だったことに気が付きました。肉体的な負担以上に何か重荷を感じていたことを覚えています◆今は、そんなことはないつもりですが、ステージの上でのうつむき、特に歩くときの姿勢には注意しています◆なに、段だけは踏み外すなよだって？

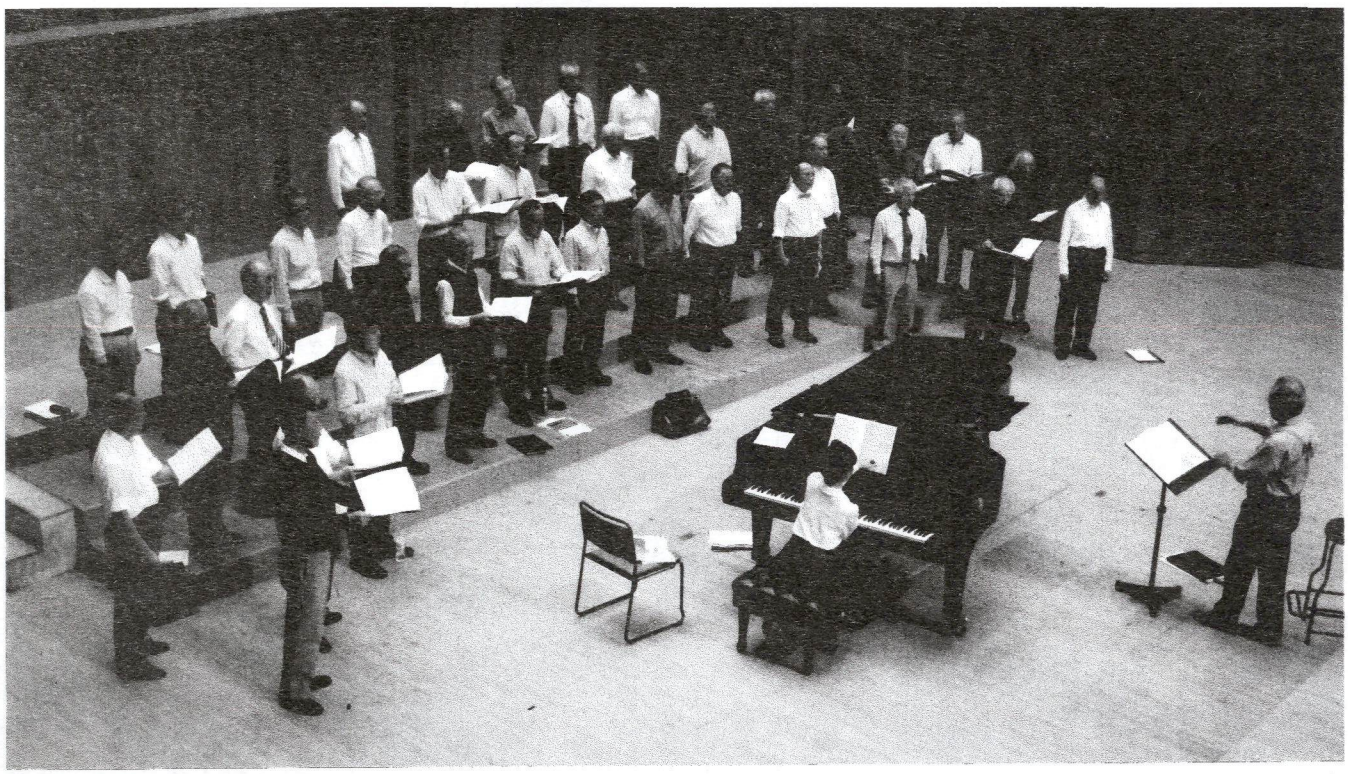
（河合）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２００９年　１２月　第３４３号

発行代表者:宮田　茂(総務)〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2 ☎03-3926-8369 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.com/isobechorus/
編集担当者:河合隆一(広報)〒272-0031 市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同（従来の1299は廃止）

＊11月は休みました



→午前中、たっぷり2時間のリハーサル

35周年記念演奏会

11月8日(日)ティアラこうとう大ホール

小春日和がつづいた好日、大ホールにいっぱいのお客さんを迎えて午後2時開演。

これより先、団員は午前9時に出勤し、それぞれの持ち場で舞台、部屋割り、受付その他の準備にとりかかる。

10時、早瀬先生の発声練習。声の伸びが十分でない。喉がまだまだ眠っているのか。

ピアノの不具合があったらしく再調律が行われたので、曲の練習はややずれこんだ。『心の四季』はピックアップで。しかし出が不揃い。須賀監督の爆弾が落ちる。集中不足だ。室生犀生の3曲を歌い、団員指揮による英国民謡と進んだが、もうひとつ伸びが足りない。わきで聞いていた須賀監督から「ぶつぎれじゃないか」と言われる。次の「こどもの世界」で「せりふ」を交えた練習や出入りを確認して、やや調子は出たように思えたが練習を終えたのは12時40分を過ぎていた。

不安を残したまま急いで食事を終え、受付をのぞいてみると外は開場待ちの人達の長蛇の列。長田代表、田邊副代表、坪井さんは来賓のお迎えに受付の位置につく。もちろん、団員ご夫人方による受付も準備完了となって、13時30分開場。

舞台袖にはステマネの土屋信吾さん(早稲グリOB)に早稲グリ現役5名が各ポジションについて、須賀監督、永井さん、いそべ団員が開幕待機。客席は7分から8分の入り。

定刻2時に予鈴、開演。

第1部『心の四季』全曲。久しぶりの全曲演奏。第2部に磯部作品、表現の変化に富んだ5曲を歌いこなせたか。第3部は団員指揮による英国民謡、午前の練習の不安から一皮むけたか。そして、第4部ははじめての団員のセリフ入りのまど／いそべの子どもの世界。どうやら一番楽しんだのはステージ上の面々だったのではなかったか。

練習の時の不安さはどこへ行ってしまったのだろう。

アンコールにこたえて「時無草」、そして全員がステージの前縁まで前進して歌う「ふるさと」、最後に「遥かな友に」のピアニッシモの音が消えてコンサート終了。

楽しいひと時

亀川安孝（沖縄男声合唱団1B）

第2回の合同演奏会から参加していますが、慌しかったり、自分に余裕が無かったりでした。

この度、皆様の演奏をじっくり聴くことができ、とても楽しいひと時を過ごすことができました。

第4部、お国言葉での「おかあさん」への呼びかけという、楽しい演奏の試みに感心しました。

磯部作品の演奏から、先生のお人柄、在りし日の先生のお姿を偲ぶことができました。私は先生のしっとりした情感やユーモアが好きです。

「敏先生、羨ましいでしょう。」

「何で？」

「みんな、きちんと指揮についてきているサー。」

今回、皆様の演奏からいろいろな課題を私なりに再認識しました。

沖縄男声の個性もありますが、もっと大きなところで、年齢差が縮まらないのと同様に、縮まっていないものがあることを感じました。

第9回合同演奏会を楽しみにまた、大きな目標として頑張りたいと思っています。

貴団の今後のご発展を祈念いたします。

「びわ」ふたたび

加古明子（席遠士）

「びわ」ふたたび聴けた！

有難う存じます。雪降りつむ寒さに誘われ、清冽な水面を想い、懐かしい外国のメロディーを、美しい日本語で歌い伝えてくださるみなさまの長いご精進（お楽しみ！）感嘆いたしました。

大人が子どもに遺せる〝うたごころ〟をとても尊く思います。楽しく心に響くステージ、また伺えたら……。ピアニストの方の粒の揃った音色豊かな伴奏にひかれました。

「遥かな友に」は、昭和30年大学二年の夏に伝え覚え、級友と歌いましたが、今、偲ぶ友も多くなりました。徳田浩氏のお元気そうな姿をステージに見て、〝ああ、やっぱり〟と思います。

歌いましたが、今、偲ぶ友も多くなりました。徳田浩氏のお元気そうな姿をステージに見て、〝ああ、やっぱり〟と思います。

合唱〝力〟は　生きること……そのものなのかと。

（4月の教文館でのまど・みちお展ミニコンサートにお見えの加古さんからの澤野さん宛お便り）

There is nothing better than your

MALE CHORUS！

35周年記念演奏会を拝聴して

松本　勝（牛久男声合唱団団長）

このたびは「うしく混声合唱団」の重鎮、川野辺さんからのお招きに預かり、女房を伴って、まさに小春日和の晴天下、ティアラこうとう大ホールに出かけました。いそべ男声の合唱を拝聴するのは今回が初めてでしたが、予想に違わず、歴史と伝統と日頃の鍛練に磨きあげられた男声合唱の重厚さ、繊細さ、暖かさ、和やかさ、楽しさ、そしてユーモアとペーソスに溢れた演奏を満喫いたしました。女房も羨望の眼差しで聴き惚れていました。

引き続き40周年、50周年記念演奏会が開催されますように、団員諸兄の益々のご健勝と、更なるいそべとし記念男声合唱団のご発展とご活躍を祈念しております。

今回、記念演奏をお聴きして率直に感じたこと、思った事柄を順不同で下記にしるしてみました。

＊先ずは「35周年記念演奏会」おめでとうございます。

＊歴史と伝統に裏打ちされ、その名に恥じない洗練された合唱団とお見受けしました。

＊選曲への苦心、編曲に対する斬新さ、ユニークさが窺えました。

＊指揮、ピアノ、合唱、のアンサンブルの呼吸がぴったりと合致し、ピアノは控えめながら飽くまで合唱の引き立て役に徹しつつも、存在感が漂っていました。

＊各パートとも、音質、声量、人的なバランスがよくとれており、その中でハーモニー重視、歌詞明瞭のお気持ちが感じられました。

＊PPでもハーモニーが崩れず歌詞が聴きとれましたが、惜し

メール、アンケートから

■森本弘右（岡谷・やまびこ男声合唱団団長）

楽しみにしていた『心の四季』、最高でした。抑揚といい、テンポの作り方と言い、本当に涙が出る感動の演奏だったと思います。さすがいそべさん。ハーモニーが綺麗で、あれで平均73歳とはとても思えません。パート毎の音色も柔らかくハーモニーに流れる曲は誰しも感動の演奏だったと思います。トップテナーの響きは素晴らしいですね。

（中略）第3部は合唱団が違ったように思え、指揮者が変われば、こうも変わるものかとしみじみ須賀先生の凄さを感じました。

（後略）（須賀響宛メールから）

■杉浦忠武（横濱稲門グリークラブ）

大変良い演奏を聴かせていただき有難うございました。パートのバランスはTOPヘビーでしたが良くコントロールされてまったく気にならず素晴らしい音楽となっていました。ピアノ伴奏も素晴らしく、特に「遥友」の伴奏は秀逸でした。須賀さんのご指導ご努力の賜物でしょう。

■大原昭治（横濱稲門グリークラブ）

全ステージとも良くハモって

←次頁下段へ続く

むらくは、ffが少し弱かったように思います。

＊会場と演奏中の視聴客のマナー・エチケットについて

①会場は思ったより清潔で、広く、落ち着いており、音響効果も抜群と思われる感じでした。ただ、椅子の幅が若干狭く、「そこ」がやわらかいのは、中高年の腰痛もちの肥満体の人には、少々きつ過ぎるようでした。

②「携帯の電源」を切らない人がまだまだ多く、あちこちで、呼びリンが鳴動し、折角の雰囲気を台無しにするとこ

歌い合うことの誇り

田中恵子（ピアノ講師）
村上直美（ピアノ生徒）

「あるアマチュア男声合唱のCDを聴く機会がありました。はじめて家で聴いたとき、気がつくと音楽室の窓ガラスから見える冬の晴れた青空を見上げておりました。歌っている皆さんの平均年齢は七十歳代とのことでした。まるで四十代のように聴こえました。私の生徒たちのピアノも、このように素直で自然で、弾ける喜びが聴く人の心に切々と伝わって、一筋の生きる勇気と希望の光を皆様にお届けできるようなひとときであったらな……と思いました。」

＊これは浜松でピアノワークス主宰の田中恵子先生が、春の演奏会のプログラムに書かれた文章です。私（長田）が贈ったCDとは1007年11月のバッカスフェスタでのいそべ男声の演奏で、お送りしたところ毎日聴いて勇気を貰っているとのお便りを頂戴していました。この先生が、ぜひ生で聴きたい聴かせたいと、生徒さんを何人も誘って演奏会にみえました。その生徒のお一人、村上直美さんからのメールが、演奏会の翌日に届きました。

「最初からその歌声、ハーモニーの美しさには、うっとりしてしろでした。

③「携帯」「プログラム」「菓子袋」を床に落とす人も散見されました。

④私語をする人、菓子を音を立てて食べる老婦人組には呆れました。

⑤咳をする人も目立ちましたが、これも雰囲気崩しの厄介ものです。

⑥時折、「組曲」の途中で拍手が沸いたのは、演奏が素晴らしかった証拠であって、これは「よし」とすべきでしょう。

まいました。そして、みなさんがとてもダンディーでした！年齢を経たからこそでしょう出しゃばるでもなく、軽んじるでもない訴えかけるものを感じました。

心から感動したのは歌詞の持つ力を、美しいハーモニーとともに、最大限表現してくれたことだと思います。聞き手である私達も一緒になって、楽しさ、悲しさ、暖かさ、冷たさ、美しさ、そして切なさを感じました。心臓をきゅっと掴まれる思いとともに、涙が出ました。

音楽のすばらしさ、そして、その音楽を心から楽しんでいる姿勢が素敵だと感じることのできた時間でした。」

＊田中先生からは、電話も頂戴したのですが、どうしても手紙を書きたくて…と、手紙を頂きました。

「〈十一月八日〉、その日をどれほど、体調を整えてお待ちしていたことでしょう！　今も、八日に頂きましたCDを聴かせていただきながら、お手紙しております。（「犀川」の入っている、JAMCAのCD「男声合唱委嘱作品集」です。）

あのステージが、まだ、私の心の真中に、ポッと灯りがともっているように在ります。あまりに深く心に入る「いそべとし記念男声合唱団」でした。お一人お一人が生きて暮らしてこられ、ご家族、お仕事と守り育て、今日このステージで歌っていらっしゃる、と思いました。歌っていらっしゃる皆様のお顔が、この合唱団で歌われることに誇りを持たれて、生命の有る限り仲間と歌い合うことを、お互いの絆となさっていらっしゃるように思えました。けれども、その想いは、形でなく互いの息づかいのように自然な、けれども決して切れない絆を感じました。

指揮の須賀敬一先生の、さりげなく、しかも音楽に厳しく品格のある、その指揮をなさる後ろ姿に、磯部先生が託された意味を感じることができました。

ピアニストの永井博子さんの伴奏であって伴奏でない、神経の行き届いた演奏は素晴らしく、一曲一曲にご自分の音楽に寄せる想いを、指揮者、合唱の皆様方をひき立てながら、ご自分の指に託していらっしゃることに心打たれました。

何の分野でもそうでしょうが「人」の真実、「人の在り方」「素直な自然の人の心の力」の大切さを、あらためた想い、来年からの私の七十代に向かおうと思っております。

聴かせていただき、有難うございました。」

■阿部　昇（鷺宮北斗指揮者）

ハモリが深くテナーがより生きていました。やはり、メロディーが澄んでいるか濁っているかで聴く者の気分が天と地の差になります。『心の四季』は楽しみにしていたので満足しました。さすが須賀先生はすごい方ですね。普段はきっと「ばかやろー」とどなられているのではないでしょうか？　音と雰囲気から、そんな「ほほえましい」味を覚えました。

■浜崎容子

いやはや男声合唱団があんなに素晴らしいものとは知りませんでした！　ただただ感動しました！　男性の声があんなに軟いました。指揮者がアマチュアの場合は比較的平易な曲を自信を持って歌うことが大切であることを第3部を聴いて強く感じました。第1、第2部はやや明るさに欠けるように思いましたが曲の内容がそうさせたのでしょうか。最終ステージは会場の雰囲気を和ませる演出が、演奏内容ともども聴衆を楽しませてくれました。指揮者、ピアニストともに最高ですね。最近聴いた中では最も充実した演奏会だったと思います。感激とともに拍手を送ります。

←次頁4段目へ続く

アマチュアの熱っぽさ

鈴木 由紀子（知立声合唱団指揮者）

過日はまことに上天気の秋日和、三十五周年の演奏会を聴かせて頂き有りがとうございました。そのときを共に、合唱の喜びを与えて頂きましたこと、お礼申し上げます。

いつもながらピアノのこまやかな表現、男声の優しい歌声にぴたりと添い歌う演奏には、さすが昔、俶先生が「いいでしょう？　ウチのピアノ」…とおっしゃっていた通り、感動いたしました。俶先生の曲は飾り立てないピアノ譜だけに、そのむずかしさはよくわかりますが、一音一音をわずかに他より深く…と知立にご指導にいらして下さった折も、合唱の方をほっといてピアノにむかってご自身でお弾きになられたほどだったこと、その方のもとで永井さんが歌心のすべてをピアノにこめる演奏へとますますご精進なさったとしみじみと思い返して聴いておりました。

叙情性あふれる優雅な男声合唱にボイスコントロールのゆき届いているさまを思い出しました。同時に「合唱こそはアマチュアのものだよ」と私共をはげましてくださったことばを改めて考えたりもいたしました。技量を磨きながらアマチュアだけがもつ集団が発光する熱っぽさが失われないこと、そんなこともさまざま想い出させて頂いた演奏会でした。

これからも皆様の健やかなお姿にお会いでき、聴かせて頂けますように希っております。

気負わない心

樋口 眞紀子（徒褒育者）

ふり返ってみますと、少女時代から童謡や英国民謡に憧れ、讃美歌をレパートリーに加え、よく好んで歌っておりました。時々、歌のレッスンを受けてみてはと囁く声がします。

そんな折、男声合唱による歌の世界に誘っていただき、本当に酔ってしまいました。学生時代に聴いたグリーを彷彿させる清艶な声にしばしうっとり。面を上げて舞台に目をやればそこには全盛期を過ぎた紳士のお一人お一人がしっかりと立つお姿がありました。ふと現役時代を想像してしまいました。お仕事は、仲間は、お仕事ぶりは…。舞台にはスマートな大人の風がただよっていました。成熟した社会の大人はこうあるのが望ましい姿であるとモデルを示されたような気がし、衝撃的でした。

良き家庭人であり善き市民として今その時、その立居姿とそこに宿る自律の精神こそ次世代を引き継ぐ子どもの目には心をゆさぶるものと映るのではないかと思います。

気負わず、楽しい易しい歌から練習を始めたと紹介されていました。この言葉に象徴されるような想いで演奏会を企画し大成功されました。その精神は主催者および関係者の控え目な優しい柔らかな心配りとなって歌にピアノに出現していたように感じ心地よく思った次第です。

これらはすべて、日本語の美しい世界を歌で引き立たせるための演出を、歌い方に集中させる支持基盤になっていたのではないかと推察致します。演奏会の成功が気負わない心にあるということを学ばせていただきました。最高の時間でした。

■S. Y.（コーロこせやま）

『心の四季』、三声のカノン「雪」が印象に残りました。歌詞が、しっかりと聞き取れました。素晴らしいハーモニーに酔いしれました。第4ステージの企画はとても楽しく、癒されました。セリフはみなさんご自分で考えられたのですか、皆さん生き生きとしゃべっていて若々しいステージでした。

■渡邉　清（市川混合団団長）

開演直後に携帯の着信音が3回鳴りました。念のため注意のアナウンスが必要では？

演奏には満足。あたたかいハーモニーにいやされました。いそべさんのトーンはすばらしいですね。『心の四季』は以前、小団でもとりあげ、くやしい思い（うまく歌えず）の曲です。いずれ近いうちに再演したいと思っておりますので、今回の演奏は非常に参考になりました。三声のカノンは初めてでした。須賀先生の円熟の指揮に酔いました。ますますのご発展を祈念します。

■八巻聡子（愛知県）

歌というのは身体から身体へ伝わってくるパワーのあるものだと教えていただきました。これからも美しい日本語の歌を伝

←次頁最上段へ続く

らかく、心に染み透って来るものだとは知りませんでした。四声体ハーモニーはなんてきれいなんだろう？　といつもうっとりしていましたが、今日は肉声！もうただただ感動！　無伴奏で歌うのも凄いですね。私が特に心に残ったのは三声のカノン「雪」とアンコールの最後の曲です。私の隣の隣に座ってた方は感動してずっと涙をふいていました！　敬一さんがこんなにすごい指揮者とは驚きました。爪のアカをもらいたいです。

（須賀きえ従妹。ヴァイオリン、三味線奏者）

■N. S.

コンサート素晴らしかったです！　アンコール曲の際に私のブラヴォの声聞こえなかったですよね。もう少し静かになった時に発声すればよかった！　しんみりとした味のある合唱団です。皆様の過ぎ越し人生に裏打ちされた合唱です、とはアンケートにも書かせて頂きました。高田三郎の曲は大好きです。また磯部俶の中で「雪」が聴き応えがありました。またアカペラでアンコール曲がよかったです。全員が暗譜で歌われると素晴らしいのだけど、無理？　その気になれば出来るとは私たちの合唱団で経験済みです。

（田島智朗さん俳句仲間）

えて下さい。今後のご活躍、時代に必要とされていると思います。とても楽しみにしています。

■国岡晶子（教育館ナルニア国）
素晴らしい!!　のひと言です。いそべとし合唱団の歌には心があります。聴く者の心の奥に届く本物の心があります。すばらしい演奏を心からありがとうございました。

■島田宗彦（宮野市・写真家）
いそべの演奏会は初めてでしたが、久し振りにレベルの高い男声合唱を聞かせていただきました。第一部の『心の四季』はバランスとれた演奏内容で心地よく聞くことができました。指揮者の厳しい指導のもと、団員が緊張感をもって歌っているのが伝わってきてとても好感がもてました。第四部はほのぼのとした子供の世界が詩にも曲にも描かれていていいステージでした。私にとっての圧巻はアンコールで「ふるさと」と「はる友」を聞くことができたことです。ワセダ・グリーメンにとっては永遠の愛唱歌であり心のより所でもあるこの二曲を聴けただけでも上京した価値が充分にありました。（中略）演奏会終了後、年配の女性が連れの人に「わたしは次に生まれ変わるとしたら男に生まれてくるわ」と言っていましたが、これは男声合唱の魅力を知ったからなんでしょう。愉快、愉快。

（島田さんは早稲ノ昭和35卒、山岳写真家。男声合唱団クール・ビア、やまびこ男声合唱団などに所属）

■西田善行（さいたま市）
益々声が研かれ素晴らしいハーモニーを聴かせていただきました。昨年聴かせていただきましたが、テノールの若手の参加は全体のレベルを上げています。いつまでも男声合唱の素晴らしさ、楽しさ、そしていつまでも若さを維持し歌ってください。会場で携帯の電波が入らないよう対応をお願いします。

■脇田　弘（荒区）
第4部のまど・いそべが最も良かった。静かで柔らかいハーモニーはよいが、それを余り強調すると、少し冗長になりすぎる。その点で、第1部は良かったが、第4部は歌っている人達も楽しそう！　曲もユニーク。

■西野洋子（江戸川区）
私共女声合唱団でも『心の四季』を歌いましたが、本日は男声の響きの美しさ、表現の巧みさに感動いたしました。どの曲も歌詞がはっきりと歌われていて、男声のハーモニーの美しさと共に心に響くものがありました。まどさんの詩もプログラムにのせてほしかった。

■大久保良枝（川崎市）
最初の「かぜーが…」の時、思わずほうっとうなってしまった。入れ込んで聴かせてもらいました。ことばがはっきりと伝わり、心地よくきけました。第4部は全て楽しくてなつかしくて嬉しくて泣けてきました。

■北山ヤエ子（江戸川区）
音楽は心の友→は一期一会→は真心、いつまでもお健やかでご活躍下さい。全員の方が譜面をお持ちになることはご無理なのでしょうか？

■無記名（男・70歳台以上・江東区）
磯部俶の作品とその人柄を浮かび上がらせていて感心しました。男声合唱を聞きに来たつもりが、もう少し内部へ連れて行かれたようです。解説は非常にユニークで文章の格調の高さに感心しました。

■無記名（女・60歳台・市川市）
「風がさくらの…」あまりにも優しくぞくぞくと鳥肌が立ちました。まどさん作品、楽しく懐かしくよかった。

■無記名（女・50歳台）
『心の四季』言葉の頭はよく聴こえるが、フレーズの終盤もやもやしてしまってよく聴き取れないのが残念だった。第2部無伴奏曲はすばらしかった。第3部の団内指揮者が振るのも個性が出て興味深いと思った。第4部はすてきでなつかしく、優しいメロディーでした。のびのびと音楽がはじけていました。構成の見事さに感動しました。

■無記名（女・50歳台）
年々パワーアップされているように思います。無伴奏の歌がとてもよかったです。安心して聴くことができるのは、貴合唱団の力量ゆえのことと思い、選曲もよかったと思います。自然を歌った作品が多く、秋の公演に合致して心の中に暖かい気持ちがわいて、静かで充実した時間でした。永井さんのピアノが素敵でした。

■無記名（女・70歳台・江東区）
発声が素晴らしい。特に「松の花」が良かった。第4部のおかあさんと呼びかけるセリフが面白くて良かった。素晴らしい演奏会をありがとうございます。

■無記名（男・70歳台・府中市）
第1ステージから、柔かい美声に感動しました。のど自慢やビブラートの声が全くなく、声質が統一されているので、ppp～pが素晴らしく美しい。日本語が極めて聴きやすく、感情表現も豊かでした。大学現役・OBを問わず、最近聴いた男声合唱の中で最高レベルと思います。第3部の前半、歌い出しの揃わなかった箇所はご愛敬でしょう。ステージ構成が楽しめるようにできていました。

■無記名（女・70歳台・横浜市）
素晴らしい詩を、しっとりと歌いあげ、素晴らしいです。皆様の過ぎ来し方の年月と重ね合わせて聴かせていただきました。味わい深い合唱でした。伴奏すばらしい。

■無記名（女・10歳台・四街道市）
アカペラがとてもキレイでした。ピアニストさんの音もひきかたも、やわらかくてキレイでした。第4部はとてもたのしかったです。さいごの「小景異情その二」（ふるさと）もキレイでした。

■無記名（女・10歳台・四街道市）
fからppなど、もり上がりが上手です。高い音の時、よくひびいていました。低音の人もちょうど良く大きすぎずに歌っていました。第4部は楽しかった。話す人達がおもしろかった。

打ち上げは笑いと拍手

開会

長田　茂（当代表）

今日は沢山お越し頂き本当にありがとうございます。70歳を越したメンバーが多くてどうなることかと思っていましたが何とか終えられました。今は頭の中がいっぱいで何から話していいか分かりません。（大笑）ゆっくり飲んでいっぱい話し合って下さい。

宮城　稔（沖縄男声合唱団代表）



沖縄から7名来ました。（拍手）もちろん泡盛も一緒です。（大喚声、拍手）35周年おめでとうございます。いそべ男声とは30年前から一緒に歌ってきました。10歳以上の大先輩です。今日、皆さんがこれだけの演奏ができることは大変な励みになります。沖縄との合同は来年か再来年に第9回の予定です。沢山の泡盛を準備してお迎えしたいです。（大拍手）

乾杯「アイン・プロジット」

中野芳昌（合唱「紫苑」指揮者）

九州久留米市の田舎の田主丸からきました。いそべさんとは3年のおつきあいです。でも密度は濃くて毎年須賀先生に指導して頂いております。もちろん飲む方も。（笑）今日は『心の四季』をリハーサルから聴いて感動しました。これを大事に持ち帰りたいです。団では磯部先生の「いねかり」を必ず歌います。「ふるさと」も歌いました。今日もアンコールで聴いて涙が出ました。今日は地元の焼酎「直会」と今が旬の柿を持ってきました。どうぞ召し上がってください。



森　隆哉（掌濤合唱団）



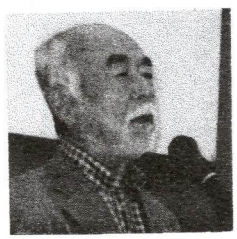
今日は会場いっぱいに暖かい雰囲気に満たされていて、いいコンサートでした。第4ステージはいい味わいのステージでした。アンコールもこの団のいいエキスをいっぱいに聴かせてもらいました。僕にとっては70～80まで歌えることが夢です。人生の先輩方が苦しいことも置いといてニコニコ歌っておられる。私はまだ50台前半ですが、頑張ろうと思います。豊中混声は来年久しぶりに東京公演をやります。葛飾区のシンフォニーヒルズのモーツァルト・ホールです。もちろん須賀先生に振ってもらいます。昨日、愛知に一人いる母の所によって来ました。そして今日はまど・みちおの詩・曲と皆さんのセリフを聴いてジンときたんで、ひとこと言わせて下さい……「お母ちゃん、ふるさとは遠きにありてとか、成功したら帰るんだという人もいるけれど、そうじゃないよね、いつ帰ってもいいよね。またゆっくり来るよ。母ちゃん」（拍手）

小倉圭子（女声アンサンブルアトリエ）



5人まいりました。こちらも須賀先生の指導を受けていますから、腑に落ちるところがいっぱいありまして聴いておりました。「時無草」の「みどりぐむ」の鼻母音はやっぱり注意せねばと納得しました。素敵なコーラスをありがとうございます。私は東京におりますが大阪まで通って須賀先生の指揮で歌っております。よろしくお願いします。

玉田元康（ボニージャックス）



いそべ男声は最初は我々32年組が中心でした。身近な仲間が演奏するのを聞くと肩が凝ることが多いんですが、今日は違いました。須賀さんにしごかれているのが分かりましたが、こう歌うんだという気持ちが伝わってきて、音楽を楽しませてくれるコンサートでした。ありがとうございました。

堤　敦子（和歌山・コールダイヒ主宰）



35周年おめでとうございます。『心の四季』いいな、いいな。「雪」でぽろっと涙が出て、「松の花」でまた涙。須賀先生のいつものテンポ感で聞いていたら、全然違うことになってる。意表をつくって凄いことですね。「まどさん」のステージはいそ男の総まとめのようでユニーク。真似したいですが難しそう。皆さんの歌の心をせいいっぱい吸い込んで帰ります。40周年楽しみにしてます。（大笑、拍手）

黒沢幸男（稲門グリークラブシニア会）



いそべ男声には昔の仲間が多いのでよく聞かせてもらっています。一時期やばいんじゃないかという時期があったようですが、今は安定して、特にテノールの発声がきれいで、今日は楽しませてもらいました。私は今同じ年代のシニア会で歌っていますが見習うべきことがあります。今は余裕がありませんが、いつか一緒に歌いたいと思っています。おめでとうございます。

宮城　敏（沖縄男声合唱団指揮者）



皆様の感動したというお話に共感しながら聞いておりました。テノールがきれいなのはうらやましい。沖縄は個性が強くて目立ちたがりやが多くて（笑）そろってきれいにならないんです。各パートの発声・響きがそろって聞いていてほっとする響きです。第4部のお国言葉を交えた

構成、どうしたらこういう発想が湧き演奏できるのか。自分たちの歌として世界を表現できるのはさすがだと思いました。さっき会長が10年後輩といいましたが30年、40年後れている。もっと学ばねばと思います。第4部のような表現も我々もやってみたいです。



赤星やよい（女声合唱団虹）

所沢からまいりました。私たちはいそべ男声がなくなると大変困るんです。（笑）須賀先生には、いそべさんの練習に行ったついでに翌日に来てもらっているという関係なんです。いそ男の翌日で飲み過ぎで声が出ないこともあるので、ご注意頂きたいです。（笑）須賀先生以外に田中豊輝先生（大久保邊指揮者）に振ってもらって、ぜいたくな指導陣なんですが笛吹けど踊らずです。そこを合唱祭の前日に来てくださり、エイヤーッという感じで歌わせてくださる。須賀先生のすごいところです。1月24日に所沢で演奏会をもちます。よろしくお願いします。



富田　裕（大阪メールクワイアー）

35周年おめでとうございます。素敵な演奏会でした。国立で混声を歌って3年前に大阪に帰って大阪メールに入りました。ところがいそべ男声さんを聞いて、男声らしさの中に深い奥行きと広がり、心がある合唱団だということに気がつきました。今日の本番で男声合唱の一番いいところを聞かせていただきました。最後の「遥かな友に」は皆さんの心が一体となって歌われているのを感じました。単に楽しいだけの合唱団ではない、歌の内容と皆さんの気持ちも心もこめられているんだと思います。



横田清文（大阪メールクワイアー・特別参加）

第4ステージの、私の「ヤマアラシ」のセリフは「ナァナァ、オカアチャン」（大阪弁のイントネーションで）のはずだったんですが、他の人が余りにもうますぎて…。（笑）練習の最初は皆さんは標準語で、私は大阪弁でやったらドッと受けました。ところが方言でやることになって、だんだん私の「うけ」のランクが下がって、今日本番では皆さん芸達者ぶりを発揮して、すごいなあと思いました。実はリハーサルで、この状態で演奏会できるのかと思ったんです。須賀先生いつキレるかと思いました。それが本番はドーっと歌う。（笑）異様に本番に強いという、（笑）ズルさを感じています。一緒に歌ってこんなに楽しい合唱団はありません。大阪にはない、東京、日本、世界にも（大笑）ない。Cバーで団結力を高め、本番でズルさを発揮する。（笑）大阪でもいそべ男声をめざしてがんばります。



早稲田大学グリークラブ5名

ご盛会おめでとうございます。私たちのおじいさんの年代の方々の（笑）楽しそうに歌っているのを見て、我々より元気だなと思ってしまいました。（笑）我々も負けずに頑張ります。（拍手）宣伝をさせてもらいます。11月29日に新宿厚生年金会館で定期演奏会を開きます。前田憲男、千住明さんの曲を演奏します。どうぞお出で下さい。チケット持ってきました。（笑）（本日のステージ関係の仕事を担当）



永井博子（ピアニスト）

昨年から「ピアニスト」の永井です。（笑、拍手）今日は心から音楽を楽しめました。須賀先生、メンバーの皆様、スタッフの方々のおかげですけど、私が日曜にいそべ男声の練習に行っても文句を言わないダンナさんのおかげです。（大拍手）ありがとうございます。須賀先生はいつもヒロコちゃんとかヒメとか呼んでくださってたのですが、最近「アンタに任せる」『アンタの好きに』と言われるんです。強化練習の「心の四季」の時、お疲れの様子で隣に座って「あんたと『心の四季』が演奏できてよかった」と言われてびっくり。（拍手）これからも「あんた」でお願いいたします。（笑）それからピアノ専用の楽譜を作ってくださった長田さん、こっそり譜面を渡してくださいました。おかげで譜めくりの回数が減らせました。ここまでして下さる方は外にいません。そして大阪の横田さんや高橋さんのような若い方がいらしたのはやはり嬉しいです。これからもいらして下さい。いそべ男声が大好きです。ありがとうございます。



新城安哲（沖縄男声合唱団）

しばらく中国に行ってました。また行く予定です。昨年の沖縄男声との合同演奏会は参加できず、聴衆の一人でした。来年か再来年に第9回の合同が開かれるので、ぜひ一緒に歌いたいです。1979年に第1回の合同が那覇市で開かれ、磯部先生が来られました。そのときは感激したことを思い出します。偶数回は東京で、奇数回は沖縄で、3、4回はヨーロッパへ行きました。須賀さんになってから、石垣島で合同演奏会を1回、那覇にも練習に来ていただきました。これからも長い交流を続けたいと思います。よろしくお願いします。

須賀敬一（いそべ男声音楽監督）



いそべ男声は大体5年おきに演奏会をやっている。あと5年たったら何人残ってるかワカラン！（大笑）ある意味でこれが最後の演奏会ではないかという気持ちが無くはなかった。ですから、皆さん、室生犀星の詩の曲とか、「雪」とかわけのわからん曲を（笑）……、磯部さんのまだよく知られていないいい曲がまだあるよ、やってみようということで演奏したんですが、結果はどうだったか、分かりません。（笑）

ここに沢山の方がいます。いそ男は今、低音部が手薄で困っております。どうぞ手を貸してください。

磯部先生は、昭和20年台の日本の合唱界の興隆期に早稲田グリーを第一級の合唱団に育ててくださった大恩人です。その人の言わば謦咳に接することのできた私たち、やっぱり磯部先生の曲が好きなんですよ。自分の青春を彩ってくれた先生の素敵な曲がまだこんなにいっぱいある。あるいは私たちの独善であるかもしれませんが、やっぱり私たちには忘れ難く、心の中の一番大事なものだと思っています。もうちょっとだけ……私もこのごろ腰が痛い、足が痛いなどありますが、もうちょっとだけ、やりたいなと思っています。どうもありがとう。（大拍手）

合唱・指揮　須賀敬一

「いざ立て戦人よ」

「シュテンチェン」

（会場男声全員で）

佐藤元昭（2年）

私は早稲田出身ではありませんが、この立場の者を受け入れてくれた磯部先生、今の先輩たちに感謝を申し上げたいと思います。なかなかお礼を言う機会がありませんで、ここで申し上げます。ありがとうございます。暖かく迎えてくださったことを嬉しく思っています。35年を迎えられたエネルギーをいつも感じていますが、これから40年、50年、坪井先輩はよく「追い越し禁止」と言われますが、うちの親よりも元気な皆さんにエネルギーをもらっています。今後もよろしくお願いします。

祝電披露

新居浜混声合唱団

豊中混声合唱団

閉会の挨拶

田邊喜三郎（当副代表）

今日は皆様の素晴らしいご挨拶、ご教訓とユーモアを交えたご挨拶をいただきまして、ありがとうございました。沖縄、九州、大阪、長野、関東近隣とゆかりの深い合唱団の方々にお出でいただき、須賀さんの素晴らしい指導のもとに……また泣きそうになります……（笑、拍手、ガンバレの声）無事に楽しく過ごすことができました。私としては今日が最後のつもりで一生懸命歌いました。直前まで不十分な練習で、皆様にご満足いただけるかと危惧しておりましたが、何とか歌えたようです。今度は40年ですが、もし神様の加護がありましたら、また元気に歌いたいと思っております。その時にはまたお出でください。

今日はありがとうございました。（大拍手）

合唱・指揮　須賀敬一

[pf] **永井博子**

「遥かな友に」

（会場全員で）

●打ち上げ出席者約100名

一緒に歌いたい

古森　英（1B・合唱・福在）

須賀さん、いそべ男声の皆さん、お疲れさまでした。非常にいい演奏会でありました。ありがとうございました。

久しぶりに「いそべ節」が聞ける期待をもちつつティアラこうとうに着いた。昨年の沖縄男声との合同は自身の用で聞けなかった、今回こそはと構えて来た。会場には、沖縄男声のメンバーも来ていて、隣で懐かしく感じながら共に聞いた。柴刈の中野氏等も駆けつけてきていた。私も客の一人として感謝の気持ちで椅子に腰をおろした。

第1部『心の四季』。私も今年の6月、所属している合唱団の指揮者とともに須賀さんから手ほどきを受けていた一人だ。滞ることなく吹く風のような印象で第1曲が始まる。曲のテンポ、言葉に乗ってすうーっと心の四季に魅せられた。ピアノがまた好い。ホールいっぱいに広がる重低音とともに、軽やかに踊るような音のきらめき。いそべ男声の音もまた好い。十分に歌いこんだ音の塊が、広い会場いっぱいに鳴り響く。

文芸作品にも等しい懐かしい第3部英国民謡の数々、詩はこうでなくっちゃ。須賀さんの話によると戦後の作詞だという。とは言え、いつの時代も格調高い文語調の作品は心に沁み入る。

第4部はまど／いそべ作品集。懐かしい歌の数々、2年前まで私も歌っていた歌もある。しかし半分位は歌った経験がない。それでもやはりいそべ節である。全部が懐かしい。無理のない声が会場いっぱいに楽しさを紡ぎだす。

「いそべ」は声を持っている。早瀬先生のヴォイストレーニングを受け練習熱心なメンバーが声を作り、須賀さんがその声を引き出す。なんと魅力的な声だろう。各パートみなのびのびした声で歌っている。平均年齢何十歳もなんのその、うまいものである。そのうえ永井さんのピアノ素晴らしい。私も一緒に歌いたい衝動に駆られた。

アンコール「ふるさと」で全員が客席に一番近い縁まで前進して来る。この演出、素晴らしいの一言。客席と一体感を共有できる。

次回は沖縄での合同演奏会と聞く。また聞きに行きたいと思う。その時はよろしくお願いします。

夢中で弾いていました

永井博子（ピアニスト）

「いい『心の四季』を演(や)ろうな！」須賀先生のお言葉に背中を押されて舞台に出て見ると、大ホールいっぱいのお客様のあたたかい拍手。最初から最後まで、ただ夢中でピアノを弾かせて頂きました。

思えば須賀先生からは、最初から忘れられないお言葉をかけて頂きました。二年余り前、初めていそ男の練習に伺い、先生の指揮で「時無草」を弾いた時、ピアノの間奏でふと先生の手が止まり、私の方をごらんになられました。何を言われるのかしら……超緊張していた私に「今、指揮を見たやろ？　そこは博子ちゃんの感性で自由に弾いたらええんや。指揮なんか見るな！」と先生。「…!?」私は指揮を見てご注意を受けたことは初めてだったので、ただただびっくり。言葉を失いました。こんな未熟な私を信頼してくださるなんて、感無量でした。

また、見やすい譜面を作成して下さる長田さん、すぐ譜めくりに飛んできて下さる河合さん、まめにメールを下さる宮田さん、練習中背後から助け舟を出して下さるベースの方々、また転ばぬ先の杖となってくださる戸丸さんや佐藤さん…団員の皆様、いつもいつもあたたかく見守って下さり、ありがとうございます。

打ち上げで本当に沢山の団員の方が私の夫の手を握って「あなたのおかげです」と言って下さいましたね。無口な夫ですがどんなにか嬉しかった事でしょう。

その夫に帰り道、こう言われました。「演奏が終わって、指揮者より先にお辞儀をするのは良くないよ」「うんそうだね。でも須賀先生が、先ず私がお客様の拍手を受けられるようにって促して立たせて下さるの」と私。夫はただまってうなずいていました。

須賀先生はじめ、いそ男の方々、そして支えてくださった大勢の方々、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。随分前に「磯部先生が残された最大の遺産はいそべ男声だよ」とおっしゃった須賀先生のお言葉と、又、そんな大切ないそ男を須賀先生に託された偲先生のお気持ちに思いを馳せる一日でした。

団・員・コ・メ・ン・ト（到着順）

中山　寛（1T・特別参加）

叱られるでしょうが、指示に反して「ただ一音」だけではなく（編集部注・須賀さんからある曲の最高音を出してくれればいいと言われた）、ほかにも邪魔にはならぬように歌いました。須賀さん、すみません。楽しみました。

徳田　浩（1B）

「まだまだ努力が足りない！」

創団メンバーの一人として、35周年記念コンサートに出演できたことは本当に感動的で幸せでした。

復団を決めた時から、この演奏会は完全暗譜を決意していました。須賀さんの熱い心に応えるにはこれしかないと…。若い頃ならともかく、長い休団によるレパートリーのハンディと、老化による記憶力減退克服が課題でしたが、3倍の努力をすれば可能だと確信していましたし終わってみれば3倍を遥かに上回る満足感を味わえました。とりわけ初挑戦の『心の四季』は団の練習回数も少なく、先ず譜面でマスターしてから須賀さんが指揮する演奏CDと共に何十回となく歌い続けました。

老化に伴う妥協、エクスキューズをなくすことが団全体の課題だと思います。例えば「英国民謡集」。この一見古めかしい言葉の味を伝えられるのは我々年代の特権です。譜面は簡単で訳詩の魅力を伝える音楽だけに、せめてこのステージだけでも全員暗譜で臨むべきだと思いました。基本的にその心構えが欠けていました。

お客様からはもれなく激賞の言葉が寄せられるでしょうが、これらの言葉に陶酔し（我々は本番に強い！？と）、自己満足していたら今後の前進はありません。須賀さんという稀有の指揮者から指導を仰ぐ我々は、一人一人がもっともっと努力すべきです。時には長い合唱経験を忘れることも必要です。原点に戻って3倍の努力をすれば、須賀さんは10倍以上の感動を与えてくれる筈です。

素晴らしい仲間たちと演奏会成功の喜びを心から共感しながら、敢えて辛口を述べさせていただきました。

安部建雄（1B）

〈歓びと反省〉

帰宅したら、早速数名の方からお褒めのメールが届いており「やれウレシヤ」と缶ビール。一夜あけたら、数々の破綻部分が思い出され「シューン」。楽しく、無理なく、がモットーですが、もともと好きでやってることだから、もう少し苦しんで暗譜を完全なものにしておけばよかった！

田邊喜二郎（1B）

ステージで、磯部作品が優しくて、雅で、易しいのに難しくて、ベテランの合唱団が、基本を見直す最適の教材であることに気づきました。皆様も磯部作品に取り組んで楽しんで頂けたら幸いです。

山川　稔（1B）

演奏会の前日、戸丸さんから第4部まど・いそべ子どもの世界の「りんご」の語りの代役を突如命じられた。

完全な沖縄弁では聴衆に理解できないので、沖縄弁と標準語のミックスでしゃべることにした。私の語りが完全に理解できたのは、沖縄男声の皆さんと、高校時代の同級生の10人程度であったに違いない。まあ、日本には多様な言葉があるということでよしとするだっぺ！

鈴木邦男（1B・特別参加）

オンステに誘われて、一刻、逡巡しましたが、参加して本当によかったと思います。指揮者と歌い手の心がこれほどに一体渾然とした場面は生涯忘れ得ぬものです。「松の花」然り。「ふるさと」「はる友」は、共に喜寿を過ごした男の心をふるわせた。

有難うございます。

高橋正寛（1T・特別参加）

みなさんのお力で素晴らしい演奏会になったと思います。「ふるさと」や「遥友」などは他の団にはマネできない素晴らしさを歌いながら感じていました。打ち上げで再度歌った時は思わず涙が出そうに……。

開演前からたくさんのお客さんに並んで頂き、全国各地の方から愛される素晴らしい合唱団で歌わせてもらって、本当に幸せでした。これからも是非お邪魔させていただきたいと思っています。本当にありがとうございました。

ちなみに……帰りの新幹線で眠って乗り過ごしてしまい目が覚めると新潟の越後湯沢まで来ていました。高崎まではタクシーで35000円でした。高い演奏会になってしまいました。（泣泣泣）（大阪メールクワイア、高崎隼、特別参加）

武田元次郎（2B）

今回いそべ男声の定演に初参加しました。演奏については、とても満足しています。団員諸氏の歌いこんだ曲目には、少し気後れした部分もありましたが、1ステの『心の四季』は、他で何度も歌ったことがあり、須賀先生の熱のこもった指揮に誘導され、最高の気分で歌えました。「英国民謡集」は学生の頃に歌った曲なので、懐かしい思いで歌いました。磯部さんの作品のステージは、正にいそべ男声の独擅場であり、他の追随を許さないものです。男声合唱の宝として何時までも歌い続けてゆきたいものです。

ホールの豊かな響きに包まれて、至福のひと時を過ごすことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

長田　茂（1T）

「お前さんたち、（70歳をとうに越して）なんで、あんなソフトな声で高い音が出せるんだ？」高校時代に一緒にコーラスをやっていた仲間の声です。言葉の表現はあきれた、でしたが、羨ましそうな声でした。こんな電話を貰うと、まだまだ歌えそうな気になってくるから不思議です。須賀さん、早瀬さんのおかげです。

下山利行（1B）

体の具合を損ねて急に舞台にのれなくなり、全ステージを客席で聴いた。1～4ステージと間延びせずに緊張感があって、聴衆も満足そうでした。大阪から特別参加の横田さんも、打ち上げで言っていたけれど、「本番に強いいそべ」の本領が出ていました。

川野辺直雄（1B）

何回も聴きに来てくれている友人二人によれば、充分に練習を積んだ様子がうかがえ、指揮についているなと感じたそうです。ア・カペラ曲は4声部がそれぞれにもっと聴き合う練習を重ねたらもっと気持よくうたえるのでは……と感じました。

三好　任（2B）

記念の演奏会は無事に終わりホッと一息です。入団してから10数年、磯部さんの曲の魅力、団の雰囲気にひかれて歌っているうちにアッと言う間に過ぎてしまいました。これからも歌える限り続けたいと思います。

河合隆一（1T）

反省点①完全暗譜ならず（3ステ、4ステのみ）②4小節ワンブレスまだら出来③「真昼の星」の冒頭でまた涙して歌えず④「やきいものうた」のセリフは何とかできたが顔の表情までは行き届かなかった⑤お礼の言葉を言わずじまい○改めて……

磯部先生、須賀さん、早瀬先生、永井さん、皆々様、ありがとうございました。万感をこめて。

坂巻信幸（2B）

充実した1日を送れた事に感謝です。舞台を共にした皆さんと、観客の皆さんに、それとスタッフの皆さんにも。

この8月に定年を迎えた私にとって、思い出に残る60歳の良い年となりました。出来は、欲を言えばきりが有りませんが、自分なりに十分満足出来ましたので幸せと共に感動の瞬間、瞬間でした。

親戚の観客からは、夫々「とても素晴らしかった」との評を頂き、素直に嬉しかったです。義妹は「『心の四季』はよく歌うけれど、今回はジックリ聴く事ができた」と。妹も、とあるコーラスグループにいますが、「「はる友」、あのピアニシモはよく声が出ていたわね。私なんか声にならなくなっちゃうのよね」との事でした。

印象度は「まど・みちお」が抜群に高かったようです。企画された戸丸さん、そのキッカケを与えられた須賀さんに改めて「感謝」です。

戸丸　悟（1B）

感動しました！　歌いながら何故か何度か涙がこみ上げました。いそべ男声で歌っていて本当に良かったです。入団して18年、須賀先生の指導で13年、本当の合唱とは何かを見つけられそうです。

田島哲朗（1T）

足は悲鳴を上げていましたが歌い切れてほっとしました。25名の応援団も満足してくれました。いそべ善哉！

宮田　茂（1B）

我々に最高の感動を下さった須賀さん、絶妙のピアノを弾いて下さった永井さん、体調が万全でないのにもかかわらず演奏前の発声練習をして下さった早瀬先生、いつも支援してくれている家族、遠くから駆けつけて下さった歌の仲間、須賀さんの練習回数を譲って下さった各地の合唱団の方々、当日のお客様方、会場のスタッフの皆さん、そして団員の皆さんに心からのお礼を申し上げます。

澤野　勉(2T)

〈歩みきて〉

ステージのライトを浴びて立つ喜び三十五年の想い溢れて

歌の友挙(こぞ)りてここに辿り来し「杯をあげて」のことば嬉しく

彼の日より歩み来りし歳月を振り返りつつ亡き友偲ぶ

遠き空に今日の響きの届けよとピアニッシモに心を寄せて

大西紹夫(1T)

実力を十二分に発揮できた演奏会でした。満足しています。複数の知人からカノン「雪」と「雪の日に」をほめられて、意外というか、ニンマリというか、複雑な気分です。

大澤寛之(2B)

創立35周年演奏会、よくぞここまで来たと感慨新たなものがありました。振り返ればいろいろ問題がありました。最大のものは分裂の危機に瀕したことでしょう。それもなんとか克服して現在に至ったのは団結力の賜物だと思いますが、その力の根源はCバーにあると信じます。殆どの団員が出席し、本音を語り合い、情報を伝え合うことで一体感が醸成されました。執行部と一般団員との落差もまず感じられません。Cバーを言い出したのは磯部さんですが、このような効果があるとは思われなかったでしょう。ご本人が酒が好きですから、一人酒は旨くないと、人を集めて飲むのが目的で、団の運営まで関係するようになるのは想像外だったと思います。この伝統は今でも続いていて、団にとって単なる飲み会以上の重みがあります。Cバーが廃止されれば間違いなくわが団は衰退に向かいます。Cバー万歳。今後も大いに盛り上げましょう。

河原季佳(2T)

定年を待って91年3月に入団し、18年間、国の内外で数多く歌い、本年35年を迎えたことは誠に感慨深いが、とりわけ95年重篤な狭心症でバイパス術実施後の体調が懸念されたものの、団へ早期復帰し、再開した腹式呼吸が反って術後の回復を早め、以後も格別に支障なく推移できたことは、正に欣快の至り。今後とも体力の許す限り歌って行きたいと念じている。

澤登典夫(2B)

記念演奏会の大成功を皆様と一緒に大いに喜びたいと思います。皆の満足感は打ち上げ会での盛り上がりに見事に現れていました。猛練習に耐えて本番で花開く事が出来たのは、磯部さんへの思慕哀惜の情感の現れと思います。案内した全ての方から今までにない讃辞を頂きました。圧巻は「ふるさと」と「遥かな友に」で、「ふるさと」はいそべを含め今までの全てに勝る完璧な演奏だったと思います。「遥かな友に」は永井さんのピアノが1、2、3番の歌詞の雰囲気に合わせた見事なもので、将に「遥かな友に」の完成された音楽だったと思います。有り難う御座いました。

三上正秋(2T)

指揮は、学生時代からのあこがれでしたが、いざやってみると、ほとんど思うにまかせず、曲も詞も振れず、歌わせることもできず、表面的なことに終始し、何を振ったんだか分からないまま本番を終えてしまいました。このような練習にお付き合いいただいた皆様には、ただただ感謝するのみです。

しかし、私にとっては、須賀先生のご指導の下、指揮の勉強ができ、初めての本番を経験できたことは、何にも勝る宝物となりました。本当にありがとうございました。そして、このようなことを含めて、今回の演奏はとても印象に残るものとなりました。本番の演奏をもっと精度の高いものにするためにも、もっと良い練習を積み重ねなければならないと思いつつも、第4ステージの「はる友」は、いそべならではの心に残る演奏になっていました。また、力をためて次に臨みたいと思います。

長島義隆(2B)

演奏会の翌日にこんなに疲れたのは初めてでした。燃え尽き症候群の如く体に力が入らず…二週間後の初練習。よし、40周年に向かって初心にかえり、皆様に迷惑をかけないように頑張ろうと思いました。まだまだ上手になりたい、もっと楽しんで歌いたい。

井上　斉(2T)

今回の演奏会で、ティアラこうとうでの演奏は、3年連続3回目となりました。3年連続おいでいただいた方から感想をいただきました。「前々回より前回、前回より今回、いろんな面でよくなったよ！」というものです。『いろいろな面』とは何ですかね。誉めてはいただいたようです。

35周年演奏会記録　(敬称略)

●指揮／須賀敬一(①②④)
安部建雄(③1、2)、大西紹夫(③3、4)、三上正秋(③5、6)

●ピアノ／永井博子

●曲目①『心の四季』高田三郎作曲(須賀敬一編曲)②磯部俶作品／室生犀星の詩による三つの無伴奏男声合唱曲(須賀敬一編曲)、三声のカノン「雪」「松の花」(須賀敬一編曲)③英国民謡集6曲④まど・みちお／いそべ・としこどもの世界10曲

●スタッフ○舞台監督／土屋信吾(早ダリ昭44卒)○学生スタッフ5名(早ダリ現)○団員夫人スタッフ(受付・会計等)安部佳子、井上美奈子、大西保子坂巻雅子、鈴木るり子、長田タツ江、宮田幸子○団員スタッフ(進行等)下山利行、田岡典尚

●出演団員(計37名)
1T石原、大西、河合、木下、渋谷
鈴木、田島、長田、若月、特別参加…高橋正寛、中山寛、横田清文
2T井上斉、岩本、河原、佐藤、澤野、坪井、三上、村岡
1B安部、川野辺、田邊、徳田、戸丸、宮田、山川、特別参加…鈴木邦男
2B秋永、板垣、岩崎、大澤、坂巻澤登、武田、長島、三好

●入場者数総計770名

●お客様方より多数の御祝儀、酒類等を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。

楽譜にかじりつくな

長田　茂（1T）

35周年記念演奏会、お疲れさまでした。皆さんの努力の結果いいコンサートができたのではないかと思っています。もちろん須賀さんのおかげですが…。

でも、よくよく考えると、前日練習、当日午前中のリハーサルで、須賀さんに、あんなに爆弾を落とさせたことは、反省しなければなりません。

須賀さんが怒っているのは、ただひとつ（ここでは一つに絞ります）「なんで俺の指揮どおりに歌わないんだ！」に尽きると思います。そうです、楽譜にかじりついていて、全く指揮を見ようとしないあなたにです。指揮を見ないということは、ピアノを聞きながら適当に歌っているか、隣の人を聞いて、少し遅れて声を出しているか、それとも、全く自分勝手に自分のテンポで歌っているか、です。

須賀さんが前に言ったことを憶えていると思います。コーラスは、透明なガラスが人数分、重なっているんだと思え、一枚でも曇っていたら、向こうは見えない、と。

コーラスは、みんなで作っていくものです。誰かが作ってくれたもののいいとこどりで、楽しむものではないはずです。磯部さんが、練習に遅れてくることを極端に嫌ったのも根は同じだと思います。

須賀さんが暗譜を強制しないのは、うろ覚えで暗譜で歌われたら、フレーズの出だしは揃わない、歌詞の間違いが続出するからです。ほとんど暗譜している人が、確認のためにちょっと譜面を見る、これが次善の策だと妥協しているからです。全員が田島さん、田邊さん、徳田さんのように出来ればいいのでしょうが、そうは望めない以上、これしかないからです。

簡単なことです。次のフレーズの出だしを、先にチラッと見ておいて、指揮をよく見て歌い出すことです。須賀さんほど丁寧に指揮で指示する人を、私は知りません。須賀さんの指先を見ていれば、須賀さんの考えていることが分かるはずです。歌詞を出だしだけ見たんでは、その次が分からない、などと言う人は、練習に出てこないか、練習中に覚えてしまう気がないか、家で練習なんかしない人でしょう。

コーラスは、みんなで作り上げるものだ、ということを、もう一度考えてもらいたいと思います。後の、充実した達成感をみんなで共有できるために。

いそべ男声メロディー・歌の博物誌⑯

ウミアラシはイガグリのおやだまほどにちぢみ…ヤマアラシになってしまった

「ヤマアラシ」まど・みちお詩・磯部　俶曲

澤野　勉（2T）

歌のあとの「ウソだよーん」で終るこの曲（原詩にはない）。昔、海にいたウミアラシは、とてつもなく大きくて〝象の何十倍〟もあった。噴水を上げて〝鯨が神輿にしてかついだ〟という。そのウミアラシが、陸にあがって、太陽と月に「お顔をお洗いください」という。太陽と月は困惑、ところが、三日目にはヤマアラシの噴水が涸れて、ヤマアラシは山から転がり落ちて、草薮に入って〝イガグリの親玉〟ほどのヤマアラシになってしまうーというお話。

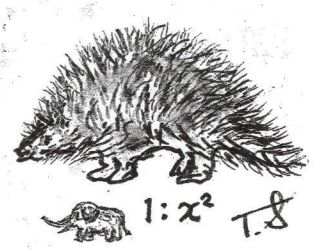
なんともナンセンスな話なのだが、終りに近くピアノがダイナミックに〝海にウミアラシはもういない〟と挽歌を奏でる所では、詩情とともに何やら物哀しさが漂う。想像を絶する大きさの動物が、今は小さなヤマアラシにー。詩人は、ここにユーモアと同時に、変転極まりない世の中の不思議、いのちのもつ業（ごう）のようなものを詠みこんでいるのではないだろうか。

この曲を初めて知った時、なぜか思い浮かんだのがトーマス・マンの『選ばれし人』ー。

〝聖なる罪人〟をテーマとしたグレゴリウス伝説による、マンの晩年の長編。兄妹の間に生まれた主人公グリゴルスが、巡り巡って生みの母と結ばれ、贖罪の旅の果てに、ある湖水の畔、漁師の案内で、湖水の中の岩に一人辿り着く。そして、そこで苦行が始まる。〝岩から滲み出す水〟によって、奇蹟的にここで十七年間を過ごす。

マンはこう書く。「キリスト教徒たる読者よ。私の語るところを聞いて、信じてもらいたい。……（ここに何頁も）彼の身体が目立って小さくなった。……十五年ほど経ったあとでは、彼は、はりねずみくらいの大きさしかなくなっていた。…フェルトのように厚い剛毛を生やして苔で蔽われた自然物になって、どのような天候にも平気で耐えることができ、退化した四肢は小さな腕も脚も、それに小さな目や口の孔なども、どこにあるのか見分けにくいようになっていたのである。…」

話はこう展開する。教皇のいなくなった教会からの使者が出会った神の仔羊が告げた名がグレゴリウス。伝え聞いた使者が迎えに出向くのが湖水の岩。



＊

カフカの『変身』は、ある朝突然に主人公が甲虫になってしまうという話。人間には心理学者が言うところの変身願望に加えて、姿を変える相手に興味をもつ（中国の伝統芸「変面」はまさにそれ）ような習性があるのだろう。

それにしても、まどさんの「ヤマアラシ」はうまくできている。鯨の潮吹きに模した噴水をもってきたところも憎い。〝お日さま、お月さま〟〝昼夜ゲラゲラ〟〝三日〟と、空間と時間が凝縮されて描かれている。曲が秀逸、はいうまでもない。

（カットも筆者）

第47回 江東区民合唱祭に参加

宮田 茂（1B）

10月25日、江東区文化センター大ホールで第47回江東区民合唱祭が開催されました。

当団は第3部の最後に「びわ」「おさるのやきゅう」「ハンカチ」の3曲を須賀監督指揮、永井さんのピアノで演奏。出場30名。なお、この日は12時から第一大島小学校多目的室で臨時練習を実施してからの出場でした。

「いそべ男声の歩み」（年表）によると1984年（昭和59年）「第22回江東区民コーラス発表会出演」とあります。以来、止むをえず、途中1、2回欠場したことがありましたが、ほとんど連続出場です。

江東区に練習場を移したのが同年表では1982年8月でした。以後、江東区とのお付き合いは、最近では「バッカナリアンとの合同」「沖縄男声との合同」、そして今年の35周年演奏会と、いずれもティアラこうとうでの演奏会で、江東区内での演奏活動が定着しつつあります。30年近く練習拠点が江東区内ですので、益々重要性を増しています。

さて、当合唱祭も、今回は参加44団体。賛助出演した豊洲北小学校合唱団を加えると、都内でも有数の規模の合唱祭となりました。

男声合唱はおなじみの「パパス・コーラス」と当団だけなのがちょっとさびしいですが、全体的にレベルは数年前と比べて格段に向上してきました。「合唱団かえるたち」、初出場の9人の若い男女による「Come ts」はじめ素晴らしい団体が沢山ありました。

高齢者が多い「健康コーラスそよ風」19名は文部省唱歌などを、小山郁美さんの指揮できれいな日本語で歌い、とてもいい演奏でした。

賛助出演した豊洲北小学校合唱団は、以前にも聞いてびっくりしたことがありますが、発声、音程、情感、全てにおいて抜群で、森淑江先生のご指導には敬服するばかりでした。一度なんらかの機会にいっしょに歌いたいと思いました。

米川寛さんが亡きあとを引き継いだ私は、合唱連盟の総務として年間20回の委員会、合唱祭の準備運営など務めてきました。

総務だより

11月1日運委報告（出席14名）

■**35周年演奏会について**
①受付体制確認
②予算案提示、承認
（団員チケットの増、打ちあげに対する補助が期待される）
③ポケットチーフ等への対応

■**新春ファミリーコンサート&パーティーについて**
期日／1月17日（日）
12時50分 団員集合
13時 開場
13時30分 開会
16時30分 閉会
会場／古石場文化センター
会費／4000円（団員のみ）
飲食物持ち込み／一人一品の持ち込みを改めて要請する。
呼掛団体／（略）稲門グリー・シニア、横浜稲門グリー、ノイエ・ダーメン、桜友女声、コーロこやま、湘南女声、横浜木せい会、フラウエンいそべ、オルタンシア、宮代コール、かえるたち、柴刈、（女声合唱団虹は代表のみ）

■**沖縄男声との合同演奏会について**
期日／来年12月か再来年1月の線で調整中
曲目／早急に検討する。11月22日から「西表民謡によるオマージュ」を練習を開始する。

■**忘年会について**
期日／12月27日（日）18時
（練習終了後会場へ）
会場／銀座キャピタルホテル「アイリス」
会費／男6000円
女5000円
（招待者3名）

■**桜楓合唱団演奏会**
期日／11月18日（水）18時30分
会場／すみだトリフォニー
（招待券等を頂戴）

11月22日運委報告（出席12名）

■**新春ファミコン&パーティーについて**（敬称略）
・個人演奏者確認／早瀬一洋他
・招待者確認／堤敦子、田中豊輝、近藤文之進、川辺成美、横田清文、高橋正寛、富田裕、ボニージャックス、休団員、賛助会員、物故団員家族
・当団演奏曲目／13日に決定

■**忘年会について**
・案内先確認／招待者（有料）
休団員、賛助会員

■**35周年演奏会の結果について**
・収益／黒字の見込み
これの使途を①須賀監督への編曲料②沖縄男声合同への旅費の補助とする。

■**沖縄男声との合同演奏会について**
・期日／2011年1月30日を第1候補として那覇市市民会館確保を待つ。
・合同曲目／「西表民謡によるオマージュ」「キリエ・エレイソン」（以上2曲は22日に練習開始）その他選曲中。

■**磯部先生墓参**
・11月28日（土）に墓参する。
藤沢市大庭台墓園11時集合。
（命日は11月25日）
★当日は10名が墓参実施。花と酒を供え、はる友合唱。爾後、湘南台の三浦地魚直営店で飲食歓談。

■**入団希望者**
12月13日練習日に来団予定。
・角 祐一さん（65歳）
（横浜さかえ合唱団団内指揮者（B））
・武田元次郎さん（2B）の紹介による。

☞印に注意。予定は変更、追加される場合があります。常に最新の号を見てください。

SCHEDULE

早：早瀬先生voice training
須：須賀監督指導・指揮

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

２００９〈平成21〉年

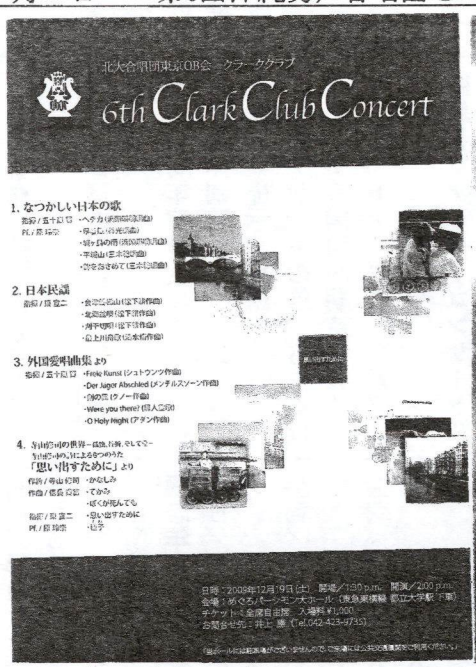
12月27日（日） 13:00～17:00 須早 定例練習 豊洲 運委(11:00)
18:00～ 忘年会 於・銀座キャピタルホテル・レストラン「アイリス」
（メトロ有楽町線新富町駅から徒歩１分、日比谷線築地駅から徒歩２分）

２０１０(平成22)年

1月10日（日） 13:00～17:00 早 定例練習 豊洲 Cバー １B
17日（日） 新春ファミリーコンサート＆パーティー 須於／古石場・大研修室
12:50 団員集合
13:30～16:30 コンサート＆パーティー
24日（日） 13:00～17:00 定例練習 豊洲 Cバー ２B
2月14日（日） 13:00～17:00 早 定例練習☞古石場 Cバー １T
28日（日） 13:00～17:00 定例練習 豊洲 Cバー ２T
7月25日（日）第65回東京都合唱祭（予定）
9月26日（日）第19回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭
10月24日（日）第48回江東区民合唱祭

２０１１(平成23)年

月 日 第9回沖縄男声合唱団との合同演奏会 於／沖縄(未定)



北大合唱団東京ＯＢ会クラーククラブ
第６回コンサート
１２月１９日（土）開演１４時
めぐろパーシモン大ホール（東急東横線都立大学駅）
曲目／懐かしい日本の歌、日本民謡、
「思い出すために」より（寺山修司詞）
¥１，０００



田中淑恵メゾ・ソプラノ
リサイタル
１２月２５日（金）開演１９時
東京文化会館小ホール
曲目／ハイドン、メンデルスゾーン
中田喜直、サン＝サーンス
¥５，０００（学生3,000）



女声アンサンブル アトリエ
第６回リサイタル
指揮／須賀敬一
３月２２日（祝）開演１４時
いずみホール（JR環状線大阪城駅、京阪京橋駅）
曲目／「思い出すために」（寺山修司詞）
「雛の春秋」（高田三郎曲）¥２，０００

編集後記

◆35周年記念演奏会への沢山のコメント。ありがとうございます。人生の歩みをしみじみと語ってくださる言葉に接すると、ああ、おれたちはCバーなんかではそんな話はしないなあ、まだ熟していないのかなあなどと思ったりします◆演奏会2週間後の練習を終えてのCバーは人数はやや少ないながらも、それぞれ得られた演奏会の評判を活発に交換し合い、当日の失敗談や、はや次の曲目や、ゲストの話などでおおにぎわいでした◆もう少し辛口の感想が頂けたらと思いながら、この号をまとめていたのですが、そうかやっぱり我々アマチュア・コーラスはこうした応援団に支えられているのだということに気がつきました。我々仲間の歌う熱気に、応援団の皆さんが応えてくれている。感想のどんな短い一言にもそれがこめられているのだと感じました。沢山の共感と激励をありがとうございました。

（河合）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２０１０年　１月　　第３４４号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2　☎03-3926-8369　FAX 同
E-mail　isobechorus @hotmail.com　　URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集担当者:河合隆一(広報)〒272-0031 市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同(従来の1299は廃止)



↑３５周年記念演奏会ラスト・ステージ

謹賀新年

「沖縄へ！！」(長田)　「虎威！　トライ！」(安部)

09年

忘年会 盛会

酒・歌・クイズ・ビンゴ…



2009年12月27日、銀座キャピタル・ホテルのレストラン「アイリス」で、須賀監督、お客様、賛助会員、家族など総勢50名近くの出席を得て、スピーチに、飲酒に、そしてもちろんハモリに、ビンゴなどに、この年最後の行事を楽しみました。

長田代表が冒頭に「この2年は、バッカナリアンとの合同、そしてやり、沖縄さんとの合同、そして今年は35周年を成功させて、みなよく頑張ったと思う。来年も頑張ろう」の挨拶の後「ここで少し余裕ができたので、須賀さんに今までの編曲料をお渡ししたいと思います」と須賀さんに金一封を贈呈。〈大拍手〉

須賀さんはこれに答えて「35周年はよかったね。いいコンサートだった。今まで歌ってこなかった曲を歌おうということで新曲に取り組んだ。例えば「雪」はよくできた。磯部さんが亡くなって11年、だれかがニュースに書いていたけれど、磯部さんのケッサクはいそべ男声だと思う」〈拍手〉

〈ここで永井さんが席から手を挙げて「それを書いたのは私です。そうおっしゃったのは須賀先生でーす」との発言あり〉…

（ニュース343号9頁2段目を参照）

〈これはちょっとほめすぎ？〉

続いて本日のゲスト山脇卓也さん（お江戸コラリアーズ指揮者）が「江東区民合唱祭の演奏を聞いた後に35周年を聞いて、ガラっと変わって聞こえたのにビックリしました」とコンサート本番の強さを言われると、続いて永井博子さんも「第4ステージでみなさんのセリフが、なんで本番があんなにうまくなるんだろうと思いました。これからもピアノを弾きますのでよろしくお願いします」とおっしゃる。

〈本番に強いのもいいけれど、練習に身が入らなくなる恐れ十分にありですね〉

横田清文さん（大阪メール）は「この年齢で頑張っているのを目標にしたい」と言われ、角祐一さん（2B・新団員）は「35周年コンを聞いて、この団で歌えば幸せになるだろうと思って入団しました」。岩本裕之さん（2T・昨年4月入団）も「豊中混声にいましたが藤沢にきて須賀さんからの招集がきましたので入りました」と。

〈みなさんから嬉しく、頼もしいコメントが続いて会の雰囲気はますますハイに〉

そして、恒例のカルテット大会は4組に抽選で組分けされたうち、クラブソングを歌った1組の中にネクタイ着用の団員が一人おり、須賀審査委員長から「ネクタイ1本に授章する」ということで板垣さん（1B）一人に賞を攫われてしまい、皆は大爆笑。〈来年はネクタイ着用が増えるか？〉

ここで飛び入りで「十二人の盗賊」を歌う提案が川野辺さんから出されました。この曲は早大グリー30年卒が送別演奏会で歌った曲。田邊さんのソロで須賀さんが振り始めると、次々と思いが湧いて来たのか何回もダメが出て、さながら練習時間。最後には須賀さん自身がソロ・パートを歌い出して大喝采。

〈ああ、レコーダー持ってくればよかった〉

懇談のあとは当団忘年会初めてのクイズ。われわれのレパートリーから、ある曲の音符の数はいくつかとか、似たタイトル曲の作曲者をあてるクイズ、それから最後に、永井さんにピアノの伴奏部分だけを弾いてもらって曲名をあてるクイズをやったところがなかなか回答が出ないので「あら、みなさんは私のピアノをしっかり聞いてないんですね」と永井さんの〝抗議〟発言が飛び出して会場は大笑い。渋谷さん組が勝利で終了。

〈クイズは初めての試み。選ばれた回答者以上に一般席のメンバーが乗ってきて興奮していました。TVのクイズ番組流行の理由がちょっと分かりました〉

そして最後は恒例のビンゴ。今年は若月さん（1T）がトップを仕留めてえびす顔。そのかげで何回やってもアタラネエとボヤく人が…。

最後の全員合唱は須賀さん指揮の「ふるさと」。

そして、田邊副代表の「今年は力を合わせること、心を合わせることの素晴らしさを再認識しました。新団体との交流もできました。須賀さんのおかげです」と閉会の言葉があり、「遥かな友に」でお開き。

〈ところが、どうも料理が足りなかったようで、築地の魚料理店へ潜り込んだメンバーが25～6名、奥様方も交えて夜の更けるのも忘れて飲み、食い、喋々喃々。これなら、いそべ男声は沖縄で十分頑張れるでしょう〉

今回の忘年会の設定、準備、司会進行の戸丸さん、坂巻さんはじめシュガーずのみなさんお世話さまでした。〈河合記〉



→「磯部さんのケッサクは」？

→有志たちがロシア民謡「十二人の盗賊」を

女声合唱団

ねむの花

コンサート

―いそべメロディーが
いっぱいに流れて―

正月4日、ルーテル市ケ谷ホールに於いて「ねむの花」の第7回演奏会が開催され、この演奏会で磯部俶作品がたくさん演奏されるというので当団から20人近くもおしかけ拝聴した。

全4部のうち第1、2部が磯部作品で、時無草、貝殻、犀川、ゆりかごのうた、組曲「虹」（この最後に「雪」がある）というプログラム。第3部はアリア、歌曲のソロがあって、第4部はNHK合唱コンクール課題曲からとあって、ここにも「郷愁」（丸山繁）が入っていた。

最近は磯部作品が演奏されることが極めて減少しているときこんなにもまとまって演奏される。嬉しいことだ。

指揮の高橋利幸さんは主に千葉県で合唱指揮に活躍され、最近では交響曲やP協奏曲の指揮も予定されているベテラン。

ステージ上の25人のメンバーは若さ溢れる女性たちで、伸び伸びした声は基礎訓練の確かさを伺わせ、いそべメロディーを美しく、そして緊張感をもって歌いあげてくれた。また我々とは違った緩急のつけかたは磯部作品のふところの深さを感じさせられるものだった。そして磯部合唱作品はやっぱり女声向けが多いのかなと思いつつ、いや男声にも向いている部分だってたくさんある、ということを再確認できたようにも思う。

アンコールは団の名前に因んだ「ねむの花」（宮喜一郎曲）が歌われ、最後に我々いそべ男声が多く来ているということで長田代表に花束を、そして「遥かな友に」を共に歌わせてもらえたことは心満たされるものがあった。

終演後、ロビーで指揮の高橋さんに磯部さんの曲を取り上げて下さる合唱団が少ない中で、このようなコンサートを開いて頂き感謝しますと長田代表からお礼の言葉を伝え、いそべ男声では磯部さんの曲を男声用に編曲してもらって歌っていますと35周年記念のCDを責任者の方に贈呈した。

後日、高橋さんから代表宛に次のようなはがきを頂戴した。

長田　茂様

前略　先日1月4日のルーテル市ケ谷での演奏会には団長様を始め多くの団員の方にお出で戴き、本当にありがとうございました。また精進を重ねて参ります。長田様はじめ団員の皆様方の御健康を祈念しております。とり急ぎお礼まで。

高橋利幸　拝

（編集部）

雲南だより

新城安哲（沖縄男声合唱団）

11月19日に上海到着、21日朝初雪の雲南省の昆明に着くことができました。トイレにパス・ポートや有り金を置き忘れて火車（ラッチエー汽車のこと）の服務員をあわてさせたりと、老人ボケの見本のことなどをやってようやく昆明につくことができました。

ここは2000mの高地にあるため冬暖かく夏涼しいと聞いていましたが、夜は5～6度C、昼は太陽が出てポカポカすると20度C以上になっています。

雲南省は日本と関係の深い生物が多いところで、植物にも興味のあるのが多いですが（特に有毒植物）、これからゆっくり各地の山に入って観察できるのを楽しみにしております。（中略）

大学の先生方に聞いた所、合唱団はなさそうで現地の人と一緒に合唱を楽しむことはできそうにありません。（中略）

春からは雲南省各地の少数民族の村々を訪ねてみたいと思っております。時間だけはたっぷりありますので、ボケが来ない前と脚力が衰えない前に得意の中国語（？）を生かして楽しい旅をやってみたいと思っております。

18日の夜に留学生のパーティーが予定されていますが、クラスメートのイタリア人二人が、代表で歌うことになりました。「オーソレミオ」を授業中に披露したところ大喝采でした。上手ではなく『ヘタ』の典型のような歌唱だったのですが、イタリア人には珍しいということで代表になりました。本番でどれだけ受けるか楽しみです。

（昆明に来てイタリア人にも歌のヘタな人がいるのを初めて知りました）

合唱団の皆様によろしくお伝え下さい。次回の合同の時は是非参加したいので、それに合わせてこちらの日程を調整していこうと考えております。よいお年をお迎え下さい。再見。

1月16日

新城安哲

（宮田総務宛て）

永尾丈二さんのお嬢さん薫さんが

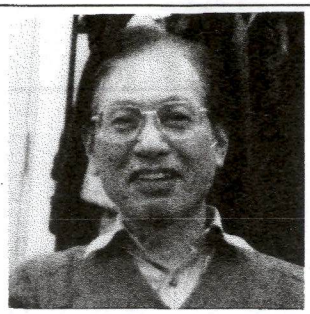
女子駅伝に出場

1月17日（日）の第28回全国都道府県対抗女子駅伝に永尾薫さんが出場されます。

前豊洲文化センター所長だった永尾丈二さんは現在亀戸駅前の亀戸文化センター（カメリアホール）の所長を務めておられます。その娘さんの薫さんは、市立船橋高校時代から高校駅伝など長距離ランナーとして活動し、幾つかのレースに出場して好成績をおさめ、現在はアルゼアスリートクラブ（代表小出義雄）に所属して活躍を続けています。毎年京都を舞台に開催されるこの女子駅伝は日本の女子のハイレベルのレースです。

1月17日は新春ファミコンと重なりますが、12時15分からNHK・TVで放送予定です。永尾夫人が応援に駆けつけるそうです。我々もかげながら応援しましょう。

新人紹介

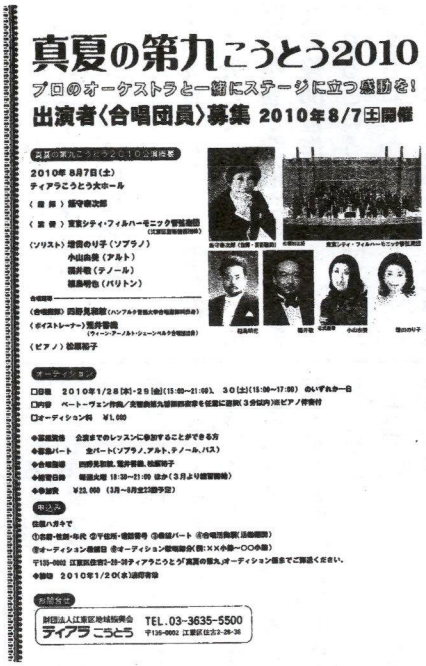


角　祐一（すみ・ゆういち）さん（2B）

「武田さん(2B)の誘いで35周年演奏会を聞きました。この合唱団なら私の心にぴったりだと思い、入団を希望したところ、送られてきた楽譜のなかにあった「西表民謡によるオマージュ」の大変な楽譜を見て愕然としました。(大笑い) これからよろしくお願いします。」(12月13日入団の挨拶から)

・プロフィル

山口県出身、65歳。岡山大学グリーの指揮者、現在横浜さかえ男声合唱団の団員指揮者。定期演奏会の1ステージの指揮を担当。有志によるコーラスグループ〝さかえダンディーズ〟を結成、毎月1、2回、サロンやケアプラザなどの施設を訪問して唱歌、愛唱曲などを歌う活動をしている。



8月7日(土) ティアラこうとう大ホール
オーディション／1月28日、29日、30日(5頁参照)

「室生犀星による三つの無伴奏男声合唱曲」の一曲。35周年記念演奏会の第二部で披露した。3曲共通にみられる、犀星の鬱屈した心情を表している暗さがいくつもの巧みな言葉の組み合わせによって描かれている。

枇杷の花は俳句の季語では冬で、地味な花なので、手もとの歳時記の例句もこのように侘しい。

枇杷の花　こぼれざかりも↖

いそべ男声メロディー・歌の博物誌⑰

↖蒼じろい枇杷の花が咲いてゐる……糀のやうに寂しく咲いてゐる

「枇杷の花」室生犀星詩・磯部 俶曲

澤野 勉(2T)

さて、ここで〝糀のやうに〟寂しいというところに目を止めてみよう。原詩は大正11年刊行の詩集『田舎の花』。この時代には〝糀のやうに〟という表現が寂しさや侘しさを示すものとして理解されていたのだろう。

いま、こういわれても(歌っていても)、なんで糀が寂しいのかと、すんなりとは理解できない。

当時は身近な酒蔵はもちろんなくこぼれ　(阿部青鞋)

帯黄白色の小さな五弁花は確かに華やかさとは縁遠い。それをこの歌詞では執拗にと思えるほどに、細やかな描写をしている。

そもそも、咲いている場所が〝くたびれ過ぎた垣根に沿ふて〟であり、〝幽かで遠慮深く〟て〝華麗な風景からひっそりと抜け出し〟ている。そして冒頭の歌詞、〝糀のやうに寂しく咲いてゐる〟のだ。



麹は大切な生活資材として広く普及して、麹を商う専門店もできた。いまに残る麹町の地名がそれを示している。糀の字も大田区の糀谷という地名に残っている。犀星は糀の字を使っているが、敢えていえば、この字のほうが本来の日本のコウジを表していることになる。

〝寂しい〟とされる糀。ルーペで見ると、蒸した米にまさに花が咲いたように、小さな黄白色のコウジ菌の胞子が一面に生えている。米偏に花とはうまい文字を考え出したものだ。

蒸した穀物に微生物のコウジ菌を生やしたものが麹。コウジ菌は厳密にはアスペルギルス・オリゼというカビの一種である。日本酒、味噌、醤油をはじめ医薬品にもと、利用は多分野にわたっている。

日本醸造学会では2007年にコウジ菌を国菌とすることを決めている。国花の桜、国鳥の雉のように目にはつかないけれど、産業と生活に、この小さな微生物が大きな貢献をしているということだ。(カットも筆者)

のこと、そのほかにも味噌づくりや甘酒づくりなどで、糀は暮らしの中に根づいていたものだった。

ところで、ここでは糀の字を使っているが、本来の字は麹である。麹は中国から日本に伝えられた字で、麦偏からわかるように、本来に麹は麦だった。それが日本で新たに米を利用した麹が開発されて、これが日本酒の製造を支えるようになったため、国字(中国渡来の漢字ではなく日本でつくられた漢字)として糀の字が生まれた。

渡邊紫朗實さん死去

昨年12月12日、渡邊紫郎實さん(元フレーベル館長)が死去されました。誤嚥性肺炎。享年90歳。通夜葬儀は高円寺駅前平安祭典にて行われ、当団から長田代表と河合広報が通夜に参列しました。

渡邊さんはフレーベル館取締役当時、いそべ男声の発足当初練習場を提供され、外部貸し出しせずとの内規の例外として当団発足初期の活動に多大の援助をいただきました。1974年1月の「いそべ男声ニュース」第1号に「フレーベル館新社長就任披露宴に出演」との見出しで渡邊さんの社長就任を祝ってパレスホテルでの宴会にいそべ男声が出演した記事があります。この第1号は磯部先生の直筆の紙面でした。

渡邊さんは宮城県小牛田生まれ、早大グリー在籍、水泳も得意。戦争中は陸軍少尉として中国戦線に参戦、復員後に発起人の一人として東京グリークラブを結成、『狩の歌』などの多くの訳詞・作詞があります。稲門グリーの初代会長。孫3人、曾孫1人。ご冥福をお祈りします。

(河合)

沖縄合同コン日程決定

日程決定／2011年1月23日（日）

会場／那覇市民会館

（最低気温12度の那覇市の宮城稔さんから決定の通知が届きました。去年は抽選が難しかったのが無競争で、すんなり決定したそうです。定員1372名）

曲目予定／

1沖縄男声合唱団

（単独、15分程度）

・曲目／いちじく、大ずもう、ゴキブリの唄、砂持節、鳩間節、谷茶前之浜

2いそべとし記念男声合唱団

（単独、15分程度）

・曲目／組曲「優しい愛のうた」（磯部俶曲）①前奏曲おやすみなさい（小林純一）②おにいちゃんの成績（高畠幸）③さかな（たきぐちよしお）④どうぶつえん（ほりかわやえこ）⑤「片耳の大鹿」より（高嶺雄江）

3ファミリーコーラス（12分）

・曲目／ロシア民謡（予定）

4須賀先生指揮（合同 25分）

・曲目／組曲「啄木短歌集」三声カノン「雪」

5宮城先生指揮（合同 12分）

・曲目／男の子の子守歌、西表民謡によるオマージュ

6アンコール

宮城先生／Ride The Chariot or 須賀先生／白南風のうた 時無草（沖縄さんの希望待ち）

『ノイエダーメンコールいそべ』の代表が交替されました。

新任／楢木美保子

中島キヌ

（任期は1月～6月）

総務だより

12月27日運委（出席15名）

◆新春ファミリーコンサート&パーティーについて

①日時／1月17日13時（団員集合12時50分）～16時閉会

②会場／古石場文化センター

③参加状況／11団体228名（重複有）

④会費（団員のみ）@4千円

⑤役割分担／司会－安部、戸丸／プログラム－井上／会計－井上斉、田島／頂戴物記録－秋永板垣／仕入れ－シュガーず／バーテン／澤野、渋谷、大西

◆春の合宿について

見送って通常練習にする。秋に都内で強化練習をする。

◆遠距離団員の取り扱いについて

遠距離団員の団費割り引きが提案され原則承認された。候補者が出たときに具体的にきめることとした。案として「距離」（例えば100km以上など）によって考慮するなどの提案があった。

◆『真夏の第九こうとう2010』について（4頁上段左欄を参照）

期日／8月7日

会場／ティアラこうとう（主催）

指揮／飯盛泰次郎、オケ／東京シティ・フィル、独唱／福井敬 他

オーディション／1月28日、29日、30日

練習／毎週火曜日18時（計23回）

参加費／23000円

◆クラーククラブ演奏会に祝電

◆安部建雄さん(1B)母堂ご逝去に香典をおくる。

◆井上舎人さん(2T)の手術にお見舞いをおくる。

来客

★田中豊輝さん（大久保混声、女声合唱団虹指揮者）1月7日2010年最初の練習のCバーに来訪。須賀さんと懇談、ハモりタイムにはソロや指揮のサービス。

★近藤大介さん

盛岡滞在中須賀さんと面識、35周年コンを聞いて当団の練習見学を希望された。1月7日Cバーも参加。

訂正

12月343号12頁「楽譜にかじりつくな」8行目に誤りがありましたので、お詫びして訂正します。

○正「あんな爆弾を…」

●誤「あんなに爆弾を…」

(編集部)

☞印に注意。予定は変更、追加される場合があります。常に最新の号を見てください。

SCHEDULE

早：早瀬先生voice training
須：須賀監督指導・指揮

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

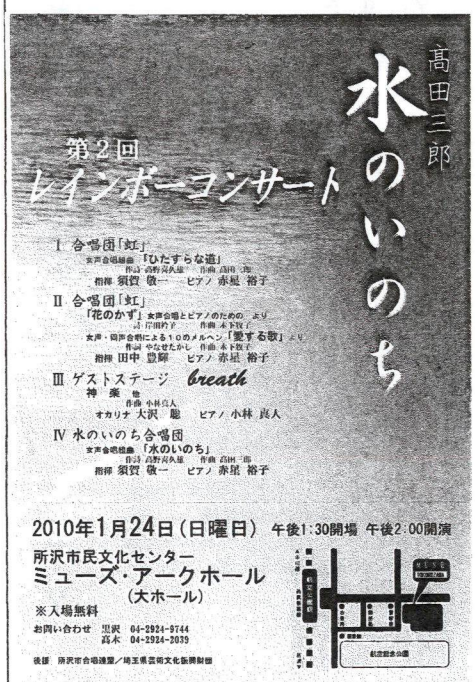
■２０１０(平成22)年

1月24日(日)	13:00～17:00		定例練習	豊洲	Cバー　２B
2月14日(日)	13:00～17:00	早	定例練習	☞古石場	Cバー　１T
28日(日)	13:00～17:00		定例練習	豊洲	Cバー　２T
3月14日(日)	13:00～17:00		定例練習	☞南砂小学校	
28日(日)	13:00～17:00		定例練習	豊洲	Cバー　１B
4月11日(日)	13:00～17:00		定例練習	豊洲	Cバー　２B
25日(日)	13:00～17:00		定例練習	豊洲	Cバー　１T

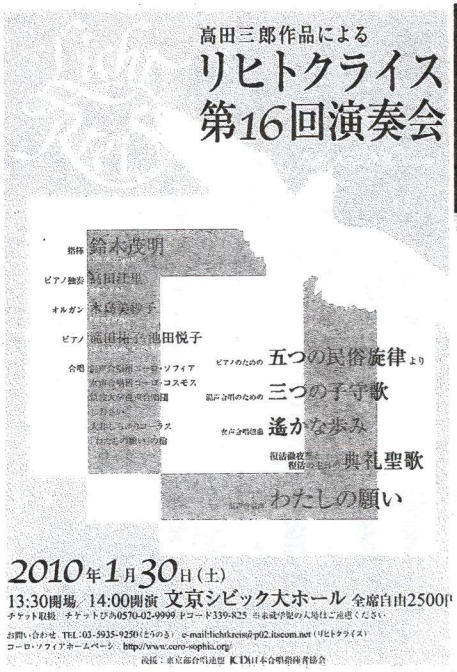
7月25日(日) **第65回東京都合唱祭**（予定）
9月26日(日) **第19回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭**
10月24日(日) **第48回江東区民合唱祭**

■２０１１(平成23)年

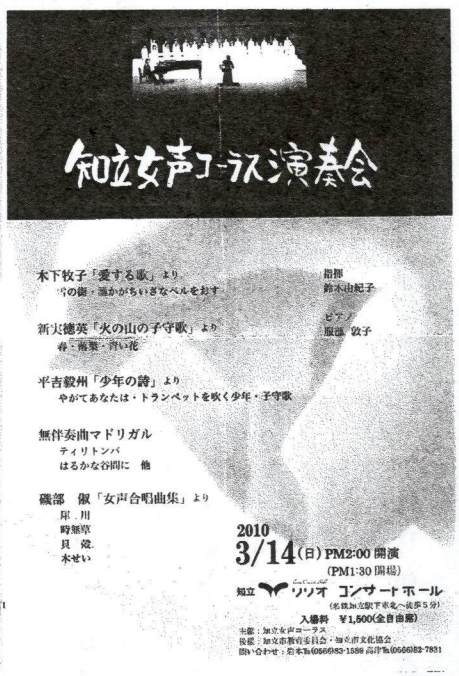
☞ 1月23日(日) **第９回沖縄男声合唱団との合同演奏会**　於／那覇市民会館(決定)
☞主な曲目／いそべ単独曲／組曲「優しい愛のうた」全５曲
合同曲／須賀先生指揮／組曲「啄木短歌集」(高田三郎曲)、カノン「雪」(磯部俶曲)
宮城先生指揮／「男の子の子守歌」「西表民謡によるオマージュ」(詳細５頁参照)



合唱団「虹」
１月２４日（日）１４時開演
所沢市民文化センター大ホール
「ひたすらな道」「水のいのち」須賀敬一指揮
「花のかず」田中豊輝指揮



リヒトクライス
１月３０日（土）１４時開演
文京シビック大ホール
「わたしの願い」典礼聖歌など
高田三郎作品



知立女声コーラス
３月１４日（日）１４時開演
リリオ コンサートホール(知立市)
「犀川」「時無草」など磯部俶作品
「愛する歌」より木下牧子作品など

編集後記

◆35周年記念演奏会のほとぼりがまだまださめていない昨年の忘年会から、年が明けて女声合唱団「ねむの花」さんのコンサートと、磯部メロディーで暮れ、明けた年でした。今年もよろしくお願いします◆「その日のお客様の雰囲気というのは、ステージに出ていった瞬間にわかるものなんです」と篠崎史紀さん（N響コンマス）がある本で言っていました◆残念なことに小生はとてもそこまでは分からずああ今日の入りは8分かな程度の感覚しか働きません。皆さんはどうですか◆でも35周年のときは後半のステージあたりからお客さんたちの顔が見えてきて、ことに前の方にいた小さい子がニコッとしたり、首を傾げたりしているのがわかって歌うことの張り合いを味わうことができました（曲の合間です。念の為）◆「客席からの反応は背中でよく感じとっています。「気」みたいなものが感じられるんです」とは同じ本での指揮者の飯森範親さんの言葉ですが、指揮者の背中ってセンサーだらけなんでしょうか。(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２０１０年　２月　　第３４５号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2 ☎03-3926-8369 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集担当者:河合隆一(広報)〒272-0031 市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同(従来の1299は廃止)

2010年 新春ファミリーコンサート&パーティー

1月17日（日）江東区古石場文化センター大ホールで２３０人余り参加を得て開催されました。

司会　安部建雄・戸丸悟



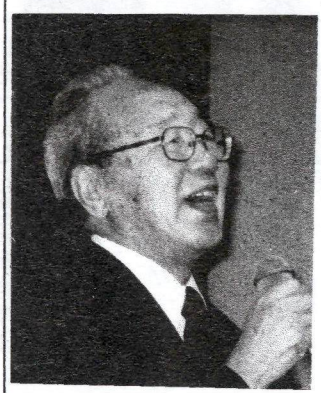
「おめでとうございます。２０１０年のコンサート&パーティーを開会いたします。当団代表からご挨拶を申し上げます。」

長田　茂（いそべ男声代表）

「おめでとうございます。本年もよろしくお願いします。この会も今回で30回目になります。途中で4回ほど抜けましたが、始めたころは家族だけの会でした。それがこんなに盛大なものになりました。これからもにぎやかに続けたいです。今日も沢山飲んで食べて歌って下さい。どうぞよろしく。」

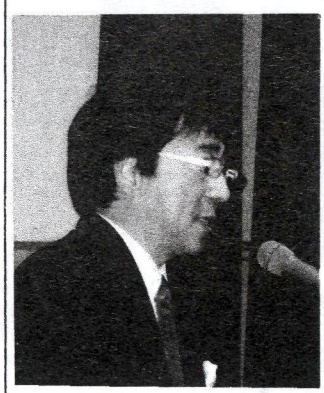
磯部　和

「おめでとうございます。何とか生きて出席できました。」（笑い、拍手）「去年、米寿のお祝いをしました。今年が本当の88歳です。」（拍手）「いそべ男声も35周年演奏会、私は背中が痛くて失礼しましたが、坪井さんからCDを戴いてじっくり聞きました。いい演奏会でしたね。やっぱり生で聞きたかった。私は天国は余り行きたくない。俶がいるから一応いきますが」（笑）「そのあと頭のいいカップルのところへ行って何年か後に日本の総理大臣になるんです」（おうの声、笑、拍手）「山紫水明で、戦争は一切せず、いい国になります。それを期待して下さい。つまり初夢なんです。本当は天国に行けるかどうか。私は俗人だから。虫かきれいな蝶になるかも知れません。変なご挨拶でごめんなさい。」（笑）



福井忠雄（稲門グリークラブ・シニア会元会長）

「おめでとうございます。元気でこんなに沢山の方が楽しめるのをうらやましがる人もいるかもしれませんね。私もこの5月で満80歳です。歌の仲間がいて幸せです。遠くへ行くときはグリーの仲間が大勢いるところへ行きたい」（笑）「それまでは長生きしたいです。昔サントリーホールで磯部さんの指揮と和さんの語りで歌いました。１００人以上でした。また沢山の仲間と歌いたいですね。今年も稲門シニアの会も演奏会を頑張って開きますのでおいでください。」



磯部周平

「今年もよろしくお願いします。いそべ男声、35周年の素晴らしい演奏会、おめでとうございます。聞きたかったんですが、和歌山でディナーショウをやっていまして失礼しました。

僕も昨年60歳定年でN響を卒業しました。皆様のご支援ありがとうございました。オケを30年以上やって、あとは合唱指導作曲、編曲、いろいろやりたいんですが、嬉しいことに演奏の依頼が増えて忙しくクラリネットを吹いております。

では皆様のご発展とご多幸を祈って乾杯しましょう。」

「アインプロジット」合唱

「乾杯！」

〈歓談〉

女声合唱団 虹

（赤星やよいさん外1名）

「所沢からまいりました。3年前から参加しています。今年はいそ男の練習日1月24日にもかかわらず演奏会をもちます。須賀先生の指揮で「水のいのち」などを歌います。２０００人の所沢文化センターです。入場無料ですからぜひおいで下さい。今日は2名だけの出席で申し訳ありません。」



→斎倉で「時鐘」。指揮は周子さん

いそべとし記念男声合唱団
指揮／須賀敬一
Pf／永井博子
曲目／いちじく、たなをつくりましょう、ハンカチ（磯部俱）

ノイエダーメンコールいそべ
指揮／磯部　和
Pf／高橋美佐子
曲目／緑の雨・江ノ島（磯部俱）
「昨年解散しましたが、今度ノイエ…ニューということで再発足して歌っています。今日は心をこめて緑の雨…を歌います。」和先生「今のご挨拶は故楢木潔身さんの奥様の美保子さんです。ソプラノが少ないんですが頑張りましょう。」

桜友女声合唱団
指揮／竹村洋美
Pf／高木美来
曲目／サンパギタ（磯部俱）、アヴェ・マリア（マイケル・ヘッド曲）
「今年もごいっしょできて嬉しいです。桜友は12月に演奏会をもちます。西村朗先生の曲などを歌います。今日は磯部先生の曲と「アヴェ・マリア」です。そして高木美来さんの美しいピアノの音色もお聞き下さい。」

稲門グリークラブ・シニア会
指揮／耕納邦雄
曲目／雪の降る街を（中田喜直曲）
「昨年10月の当団の定期演奏会には大勢おいで下さいましてありがとうございました。今年は5月に松江へ演奏旅行をします。我々の脳は水甕みたいなもので、新しい水が入ってもこぼれるのは新しい水で、古い水は残っているそうです。「雪の降る街を」は50年以上前に仲間の浅井脩三が編曲して歌った曲ですが、特に後半の歌詞がちゃんと歌えるか試してみようと思います。」（予想通り2、3番の歌詞を間違える人がちらほら…苦笑）

コーロこせやま
指揮／磯部　和
Pf／永井博子
曲目／ペンギン、藤棚の下にわたしは眠る（磯部俱）
「昨年はわたしたちのコンサートにおいでくださりありがとうございました。素晴らしい仲間といつまでも歌おうと頑張っております。」

湘南女声合唱団
指揮／磯部　和
Pf／永井博子
曲目／カレルの橋（磯部俱）
ドレミの歌（R・ロジャース曲）
「今年もよろしくお願いいたします。今年で創立44年になります。和先生が最初から育てて下さって今88歳ですから、一生の半分を私たちに下さったわけです。」（拍手）「先生は元気、私たちも元気で歌います。」和先生「ドレミの歌は皆さんもごいっしょに。手拍子もどうぞ」（会場全員が大合唱、大拍手）

♥お知らせタイム

須賀敬一
「4月の末から5月にかけて7日間と10日間の2コース、イタリアへコンサートツアーに行きます。ローマのアッシジでミサに参加し、アンジェリコ教会で私の指揮でコンサートをする予定です。前後にローマの観光もあります。今のところ女声がちょっと少ない。よろしかったら皆さんご参加ください。」

西脇久夫（ボニージャックス）
「私はCDの宣伝です。昨年ボニージャックスが歌って『磯部俱の世界』というCDをリリースしました。「遥かな友に」『おすもうくまちゃん』『緑の雨・江ノ島』『思い出のリュウデスハイム』など磯部さんの曲26曲です。聞いて下さい。ボニーも52年になります。ダークは3人になってもやめない。」（笑）「慶応がやめなきゃ早稲田もやめるわけにいかない」（笑）「5月にボニー、ダーク、デュークの3団体共演を名古屋で予定しています。」



←男声合同で「ふるさと」。指揮は須賀さん

横浜稲門グリークラブ
指揮／吉村幹郎
Pf／関根美和子
曲目／浜辺の歌（成田為三曲）、箱根八里（滝廉太郎曲）
「横浜近辺の早稲グリのOBが集まって毎週金曜日に練習しています。シニアに負けず劣らず高年齢ですが」（笑）「悲しいかなアルコールが入ると何を歌うのか、歌詞はどうだったか危なくなりそうです。」
（笑、同じ同じの声あり）

堤　敦子
ソプラノ・ソロ
Pf永井博子
曲目／赤まんまの詩（うた）（磯部俶曲）
「おめでとうございます。ボニーさんのコンサートには行けません。というのも私の誕生日なんです。50ウン回目の。今日は磯部先生の赤まんまを歌います」

永井博子
Pfソロ
曲目／オンディーヌ（C・シャミナード曲）
「おめでとうございます。今日も元気に、こんなに沢山ピアノを弾かせていただいて、本当に嬉しいです。」（笑）「皆さんのおかげと感謝しております。今日はあっと言う間に終わる曲を弾きます。」（弾き終えてから司会者の質問に答えて）「今の曲はフランスの女性作曲家のシャミナードの曲です。オンディーヌとは水の精のことです。アンタノセイではありません。」（笑）

横浜木せい会
指揮／磯部周平
Pf／永井博子
曲目／横浜木せい会の歌（磯部周平曲）、おすもうくまちゃん、びわ（磯部俶曲）
「昨年、合唱祭など周平先生にはお忙しい中を指揮して戴きました。今年も俶先生、周平先生の曲を歌っていきたいです。」

フラウエンコールいそべ
指揮／磯部周平
Pf／永井博子
曲目／こな雪に寄せるノスタルジア、春の手紙（磯部俶曲）
「去年の4月で10周年を迎えました。今年の12月に演奏会を開きます。もちろん俶先生の曲を歌います。皆様おいで下さい。」

クールオルタンシア
指揮／蟻生栄子
Pf／永井博子
曲目／天使の羽根がふってくる、王さまのひげ（磯部俶曲）
「おめでとうございます。こうして今年も歌えることは俶先生、和先生、周平先生、そして須賀先生のおかげです。昨年は南足柄まで須賀先生がおいでになって振ってくださいました。ありがとうございました。」

宮代コールフロー女声合唱団
指揮／中村陽子
Pf／越川祐季子
曲目／花ゲリラ（大熊享子曲）、林のなか（磯部俶曲）
「東武動物公園のある宮代からきました。20周年のときにいそべ男声さんに来ていただきそれ以来磯部先生のファンになりました。今年は40年の演奏会をいたします。どうぞよろしく。」

女声合同演奏「時無草」
指揮／磯部周平
Pf／永井博子
男声合同演奏「ふるさと」
指揮／須賀敬一
全員合同演奏「遥かな友に」
指揮／磯部周平

田邊喜三郎（いそべ男声副代表）
「去年から1年、皆様また元気でお会いできました。いろいろな合唱団から沢山のことを教えていただきました。お互いの大きな共感が得られました。有り難うございます。今年も皆様のますますのご発展を祈ります。」

…新春ファミコン・パーティーに出席して…

歴史とファミリー性と

富田　裕（大阪メールクワィアー）

過日、1月17日に開催されましたいそべとし記念男声合唱団主催の新春の集いに御招き頂きまして誠に有り難うございました。

小生は貴団の新春の集いにこの度初めて出席させて頂き、貴団の歴史の深さに、領域の広さとファミリー性が大変良く現れており、唯々感動するばかりでありました。

今後とも時間が許す限り、Cバーも含み、イベントに参加させていただければ幸いであります。貴団の今年も益々のご発展を心より祈念申しあげます。

この度は誠にありがとうございました。

絆の強さ

角　祐一（2B）

三回の練習しか出席していないのでどうしようかと迷っていましたが、ファミリーコンサートに参加して良かったと思っています。

設営も短時間のうちに手際よく進められ、女性陣が持ち寄った色とりどり、数々の手料理も見事にテーブルに並べられて、ホテルのバイキングよりもよほど豪華なものであったことは驚きでした。ひと時の談笑のあとで始まったコンサートも聴きごたえのあるものでした。

まだ一～二度しか歌ってない曲を諸先輩に交じって歌わせいただきましたが、歌いながら「この合唱団に入団させていただいて良かったな」とか「歌わないで会場で聞いたほうが素晴らしいコーラスが聴けて良かったかな」とかいろんなことが頭に浮かびました。

あまり聴く機会のない女声合唱ですが、いずれ劣らず見事なハーモニーを聴かせていただき良かったです。又、あのお歳（失礼）にもかかわらずエネルギッシュな指揮ぶりを見せていただいた磯部和先生を見て、「私もあと二十年はコーラスを楽しむことができるかな？」と元気をもらえたような気がして嬉しくなりました。（笑）

ともかくこれだけの合唱団と

いそべ男声メロディー・歌の博物誌⑱

澤野　勉（2T）

〈やきいも　やきたて
かかえて　かえれば
ほかほか　ほかほか
むねに　つたわる　はるの　でんわ〉

「やきいもの　うた」まど・みちお詩・磯部　俶曲

冬の風物詩、やきいもをテーマとした「やきいもの　うた」。タイトルにはやきいもがつくのだが、この詩、味わってみるとじつは、主役は〝はる〟なのではないか、と思われる。

まど・みちおの世界では、あらゆるものが人格化される。さくら、ぞう、ハンカチ、つりかわと、なんでもと。その中で「ぞうさん」『さくらのはなさん」のように〝さん〟づけのものと並んで、〝さん〟はつかないが愛すべきものとして擬人化されたものが結構ある。

この「やきいもの　うた」に歌われた〝はる〟は、歌の向こう側にいて、じつは舞台には出てこない。主役なのに舞台の登場しないところに、この詩のエスプリがあるのではないだろうか。

なんと、〝はる〟が電話をかけてくるのだ。

たまたま、やきいもを食べようと買ったところに、春が発信する電話が届く。「まだ、そちらは寒い季節。粉雪が舞っているようですが、待っててくださいね。もうすぐ、わたしが行きますヨ」というメッセージ。心憎いばかりのシチュエーションだ。春自身が待たれていることを承知していて、そして相手もそれを待っている――という構図がここにはある。

さて、「やきいもの　うた」の時代、電話はこのように、離れた者へのメッセージを時折伝える役割をもっていた。昨年11月にはケータイの契約台数が一億一千一七件というメディアのもつニュアンスも随分変わってきているのだろう。

日本に最初に電話が登場したのが1877（明10）年、ベルの発明の翌年である。赤坂の工部省と赤坂御所の宮内庁との通話が公式試験の嚆矢。

『電信100年史』（90年刊、日本電信電話（株）広報部）によると、通話開始の明治23年、ほんの200名ほどの加入者名簿には司法省、東京府庁といった官庁、日本銀行、帝国ホテルといった企業のほか、個人名も並んでいる。いま坂本龍馬のテレビドラマにも出てくる、三菱財閥の創始者岩崎弥太郎、王子製紙や東京瓦斯の渋沢栄一などの名が見られる。大隈重信の名もある。

電話とひと口にいっても、時を経て、そこに感じるものは、時代によって大きな開きがある。

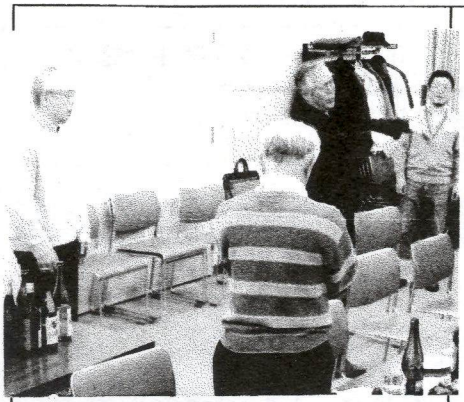
それにしても、春が寄せた電話は心やさしい。

（カットも筆者）



参加者を毎年のように集めて開催できるのも、故磯部俶先生を中心とした絆の強さがいまだに強く残っているということでしょう。まさにファミリーそのものと感じ入りました。運営の皆様お疲れさまでした。そしてありがとうございました。

この合唱団は技術的にも素晴らしいですが、雰囲気もとても家庭的で温かく、「こんな合唱団で歌えたらきっと自分も幸せになれるだろうな」と演奏を聴いて感じたことは的中したようです。こんな私のようなものを温かく迎えていただき感謝感激です。足を引っ張らないよう頑張っていきたいと思いますので、これからもよろしくご指導お願いします。



「いそべとし音楽祭」？

岩本裕之（2T）

以前所属していた合唱団でも同名のイベントがあり、こじんまりした内々の会であったため、似たようなものではと思いつつ会場に入れば、大講堂を埋め尽くす人、人、人……！

これはもはや「ニューイヤーいそべとし音楽祭」といえるのではないか！　と先ず圧倒されてしまいました。

・

一方パーティーの様子といえば、まさに「拡大版Cバー」。テーブルを埋め尽くす料理もさることながら、バーご担当の澤野さん、渋谷さん、大西さんの手際のよさに目を瞠りつつも、「手作り」の暖かい雰囲気につられ、何時の間にか慣れない手付きでお手伝いに……とはいえやはりコップ洗いの方が自分には似合っているようですが…。

・

各団のコーラス、スピーチ、全員合唱と和気藹々とした中、二次会終了まであっという間の6時間！

ご逝去後10年を越えてなお、続けられ、多くの人が集うところに、改めて「いそべ音楽の世界」の大きさ・暖かさを感じさせられました。

・

今後は、自分のような「磯部先生を直接には知らない」人間の割合も少しずつ増えていくかとは思いますが、この伝統はずっと残していきたいものですね！

二次会はヴォーカルグループ花盛り

4時半過ぎて閉会。直ちにテーブルを並べ直し縮小しての二次会に突入。その手際のよいこと、「いそべイベントKK」と言っても不思議ではない我が仲間の働きぶりです。

縮小とは言え70～80人の方々の飲み直し、懇談は続きます。

そうするうち前に並んだのは「シュガーず」のメンメン。「アイリッシュ・ブレッシング」を披露して大喝采。続いて月遅れの「ジングルベル」を。これを皮切りに次々とグループ登場…男声バックで堤敦子さんソロの「夕焼けこやけ」、桜友さんやダーメンコールいそべ有志は吉岡久恵さんの指揮で「時無草」を、更にはいそべ団員の有志が「シュテンチェン」「野ばら」、また女声陣が「雪の降る街を」などなど、ヴォーカルグループの競演会の様相でありました。

そして最後は男声全員で定番「いざ立て」。まとめは須賀さん指揮で「遥かな友に」。合唱大好き人種の懇親は続きました。

2010新春ファミコン&パーティーの記録

参加人数／約230名
参加団体数／10団体（1～3頁参照）
※御祝儀及び差し入れを多数の方々、団体から頂きました。厚く御礼申し上げます。

消息

■井上舎人さん（2T）退団

退団の申し出がありました。11月、胃の全摘手術、肝臓などの手術を受けられ転移の心配もなかったようでしたが、体力の不安から退団されることになりました。井上さんは1936年鹿児島県伊佐市生れ。85年当時江東区に在住の折り、磯部先生の合唱講座から当団に入団、08年の沖縄男声との合同コンまで演奏会に参加されました。25年間当団の変遷をともにされてきた方です。佐倉市のお宅に見舞いにうかがったところ途中まで迎えにこられ元気な様子でした。お大事にして下さい。なお出身地伊佐市は焼酎「伊佐美」で有名。鹿児島におられる兄上からお見舞いのお返しに「伊佐美」を送って頂いたのでCバーに持参します。（宮田記）

■長田茂さん（1T）ポリープ手術

腸のポリープ切除。常用の薬品との関係上入院手術となり1月26日実施、28日退院されました。

●2月24日の運営委員会は休会となりました。

村岡昭一郎さん（2T）
79歳誕生日

1月24日のCバーの冒頭「ハッピーバースデー」のメロディーが流れて、丁度誕生日当日の村岡さんを祝いました。「夕焼けこやけ」のソロも歌い、宝塚のお孫さんも一緒のご家族の待つお宅へ。35周年コンを頑張れて体調も回復されたようです。

☞印に注意。予定は変更、追加される場合があります。常に最新の号を見てください。

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

早：早瀬先生voice training
須：須賀監督指導・指揮

■２０１０(平成22)年

2月14日(日)	13:00～17:00	定例練習☞古石場	Cパー　１T
28日(日)	13:00～17:00	定例練習　豊洲	Cパー　２T　(運委)
3月14日(日)	13:00～17:00	定例練習☞南砂小学校	
28日(日)	13:00～17:00	定例練習　豊洲	Cパー　１B　(運委)
4月11日(日)	13:00～17:00	定例練習　豊洲	Cパー　２B
25日(日)	13:00～17:00	定例練習　豊洲	Cパー　１T　(運委)

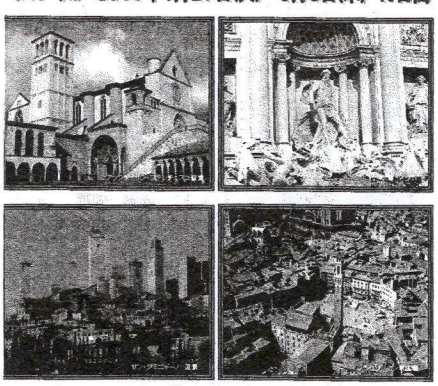
7月25日(日) **第65回東京都合唱祭**（予定）
9月26日(日) **第19回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭**
10月2、3日　須賀監督沖縄出張(予定)
24日(日) **第48回江東区民合唱祭**
11月　宮城先生来団(予定)

■２０１１(平成23)年

☞ 1月23日(日) **第９回沖縄男声合唱団との合同演奏会**　於／那覇市民会館(決定)
☞予定曲目／いそべ単独曲／組曲「優しい愛のうた」全５曲(前奏曲おやすみなさい、おにいちゃんの成績、さかな、どうぶつえん、「片耳の大鹿」よ)
沖縄単独曲／いちじく、大ずもう、ゴキブリの唄、砂持節、鳩間節、谷茶前之浜
合同曲／須賀敬一指揮／組曲「啄木短歌集」、カノン雪、白南風のうた、貝殻
宮城 敏指揮／男の子の子守歌、「西表民謡によるオマージュ」
合同アンコール／



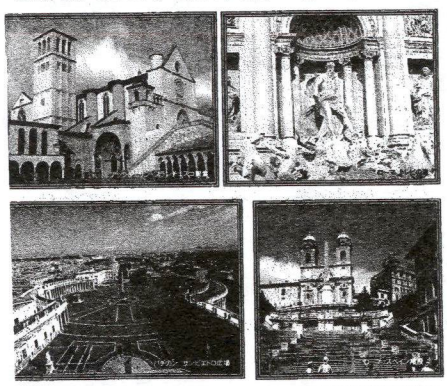
<Aコース> 2010年4月27日(火)～5月6日(木) 10日間



<上記写真提供：イタリア政府観光局>



<Bコース> 2010年4月29日(木)～5月5日(水) 7日間



<上記写真提供：イタリア政府観光局>

※2頁、須賀さんから紹介のあったコンサートツアーです。
詳細は「日本通運　大阪旅行支店」06－6231－0303

編集後記

◆新春ファミコン&パーティーは盛会でした。歌と食の大パーティー。しかも持ちよりの手造りの逸品が、テーブル狭しと並んださまは、下手なホテルのバイキング顔負けでした◆乾杯の後、ふとあるお料理に目をとめて頂こうとすると、そこにはその作者、いや〝シェフ〟が居られて、どうぞどうぞと勧められ、一つ質問すると三つも四つも説明がかえってくる。そうやってテーブルを渡り歩いているうちに演奏の出番になる。各団の挨拶と演奏が始まってしまう。記録の仕事がある。バーテンの所へも行かなきゃ…。まことに忙しい半日でした◆よく考えてみると、食と合唱はよく似ていますね。作ったものを仲間と一緒に味わう。仲間がいるから余計おいしくなる。合唱は練習して最後に仲間と合わせる。ハモることが一番楽しい。最後はどちらも仲間との気持ちの通じ合いの場になる。医食同源ならぬ歌食同楽でしょうか（なに、飲が入ってないって？）◆たくさんの共感が得られた一日だったと思います。ありがとうございました。（河合）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２０１０年　３月　第３４６号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2 ☎03-3926-8369 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集担当者:河合隆一(広報)〒272-0031 市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同(従来の1299は廃止)

組曲「優しい愛のうた」の編曲がそろいました

須賀さんが多忙のなかを編曲作業をすすめられ、2月14日に全曲の楽譜がそろいました。じっくり取り組んで来年の沖縄での合同演奏会で歌いましょう。

組曲「優しい愛のうた」について

組曲「優しい愛のうた」はいろいろ変転のある曲集だった。

１９７３(昭48)年2月、ユーフォニック・コーラスの創立40年記念の委嘱により作曲された。「小学生と大人の詩による合唱組曲」というサブタイトルがついていた。指揮は磯部先生、三越劇場で。

この時の組曲の内容は①前奏曲／おやすみなさい(混)②おほしさまにおねがい(女)③さかな(男)④星くずやの唄(混・男)⑤どうぶつえん(混・男)⑥「片耳の大鹿」よ(混)の6曲だった。

73年11月に女声合唱組曲に編曲されて磯部先生の指揮でフレーベル少年合唱団が初演。

74年に豊中混声が須賀さんの指揮で混声版の演奏。

78(昭53)年に音楽之友社から女声合唱組曲として出版。このときに④星くずやの唄は割愛され全5曲の組曲となり、多くの女声合唱団に愛唱されてきた。

いそべ男声では86(昭61)年に湘南女声合唱団の第6回演奏会で合同演奏。もちろん混声だったが、このときも星くずやは割愛された。

それより幾星霜（大袈裟か）２０１０年に須賀さんが「おやすみなさい」と「片耳の大鹿」を男声に編曲し男声ヴァージョンが完成した。この男声版では②「おほしさまにおねがい」が「おにいちゃんの成績」（組曲『おかあさんのばか』の中の1曲）に差し替えられた。

前奏曲／おやすみなさい以外は、1年生から6年生の子供の詩だ。兄弟への愛、死んだ魚への愛、好奇心いっぱいに動物園の動物たちに寄せる愛、そして鹿や猿たちと人間との、命と愛の大切さの確認。それらの詩に磯部先生が抒情性と諧謔性と、そしてドラマ性をたっぷり併せ盛った音楽をつけて下さった。

曲の入れ替えはあったもののテーマである「優しい愛」は一貫して変わっていない。どなたかが言っておられる「愛」よりも何十倍も強く深い〈愛〉を歌い上げたいものだ。

なんといっても男声版の初演なのだから。（長留さんの資料・河合まとめ）

組曲の終曲「片耳の大鹿」よについて

演奏時間7分47秒、全207小節という組曲中の大作だ。

〈椋鳩十作・「片耳の大鹿」を読んで〉とサブタイトルにある通り、当時小学6年生の少女が読後感を、感動いっぱいに溢れさせて書いた詩である。

「片耳…」の原作は2月14日に印刷して団員諸兄にはお渡しした。

この動物少年文学は１９５１(昭26)年に発表されるや、文部大臣奨励賞受賞、以後、各社の教科書にも載せられて沢山の子どもたちの感動を誘った。

長いこと狩人たちが狙っていた片耳のボス大鹿に、嵐の中を救われる。狩人も鉄砲を向けるのをやめるという結末に誰しもホッとする。屋久島の山の厳しさと気候の激しさを作者は何十回と通って体験してこの作を書いたという。そして最後は、鉄砲を構える狩人にもう一人の狩人が「…あの片耳の大シカのためにきょうは命がたすかったのじゃないですか。」と言って鉄砲を降ろさせる。文学的創作を交じえての場面展開であろうが、ここに作者の願いと愛とがこめられているのを痛いほど感じる。6年生高嶺織江ちゃんの感動と原作者椋鳩十の願いを併せて表現して歌いたいと思う。

ここで椋鳩十について紹介したい。エピソードに富んだ人だったようで、それらを繋ぎ合わせての紹介を…。もちろん「片耳の大鹿」についても。(河合)

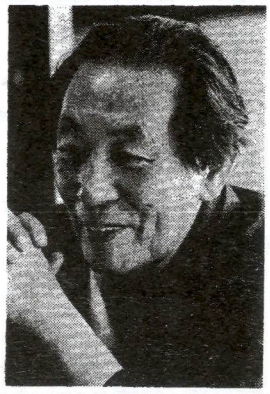
椋　鳩十

生まれは信州……

※１９０５(明38)年、長野県下伊那郡喬木村阿島生まれ。喬木村は飯田市とは天竜川をはさんだ向かいの村。本名久保田彦穂。(山彦に因んでつけられたという)父金太郎は牧場経営だが、医学校で無許可の人体解剖をしたため免許を得られず。母は産婆。姉は結婚して鹿児島で眼科医。妹は貿易商と結婚。

山の少年

「夏になると、川に入って手づかみで魚をとった。秋には山に



←椋鳩十（1980年）撮影・伊藤英治氏（『日本児童文学』1988年5月号）

ある、クリ、アケビ、キノコ、マツタケやシメジをとって遊んだ。遊ぶところは、どこにもあったなぁー。……小学校時代も遊んでばかりいた。先生はどうやって点数をつけたのか？　よく点数をくれたと思うよ。成績はあまりよくなかった。というよりみんながそうだったのじゃないかな。…」（①『聞き書き・椋鳩十のすべて』本村寿一郎1983）

※喬木村小学校在学中に既に『ハイジ』を読んでいる。飯田中学校に進学する。教師や友人を得て文学に傾倒する。24（大13）年に法政大学国文科入学。詩を作る。『駿馬』自費出版。23歳で結婚。25歳で大学卒業して姉の清志のひきで鹿児島種子島の中種子小学校の代用教員になる。

ハダカ授業でクビに

「高等科二年を受け持っていたが、六月ごろだったか、『お前たちも裸になれ』と生徒を上半身裸にし、私も越中ふんどしひとつで授業をした。…校長室に呼ばれ、村長と校長から二時間近く説教された。…翌日まああれくらいですんでよかったと思いながら学校にいくと、村長と校長が待ちかまえていて、大きい厚紙を『ハイ』と渡す。『はて賞状をもらうはずはないが…』と思いながらよく見ると『本日より出校におよばず』と書いてある。即日クビというわけだよ。」（①）

加治木高女の教師に

「姉がまた頼み込んでくれて、ちょうど空席のあった加治木高女に先生の口を見つけてくれた…ある夏、全校生徒約三百人を連れて海水浴場に向かっていたら、四年生の生徒がクスクス笑いながら『先生、白いものが…』という。『なんだろう』と思って下を向いたら、ズボンの下から白いものがはみ出している。ふんどしがネ。…『これタオルだよ』といってごまかそうとしたが、そのタオルには二本のヒモがついているわけだ。」（①）

※加治木町は鹿児島湾の最北端の町。この高女に昭和5年から昭和22年まで勤務。最後は教頭。

このあいだに山窩小説を椋鳩十のペンネームで書く。

以下次号

いそべ男声メロディー・歌の博物誌⑲

さかなは　めを　あいたまま　しんでいる。

……

「さかな」たきぐち　よしお詩・磯部　俶曲

澤野　勉（2T）



合唱組曲『優しい愛のうた』の一曲。小学一年生の詩で、曲想は〝重い足取りの葬送行進曲の感じで〟とある。何より詩が新鮮だ。

子どものナイーブな感性が、短い言葉の中に凝縮している。

日本人は魚食民族といわれて食用とする魚の種類は確かに多い。寿司屋の茶碗に並ぶ魚偏の文字に象徴されるように、まあるいものの、ふつうに食べる魚には、そんなに心を動かすことはないのがふつうだ。

この詩の作者の男の子は、日本人の日常の魚食の世界に、魚は〝死んでいる〟と素朴なつぶやきを口にしている。しかも〝目をあいたまま〟……と。

詩の後段は「きっと／たべられるのまで／みようと／しているんだね。」と、あくまでクールな表現で人間と魚との対峙を見詰める。

☆

ここでのキーワードは〝目〟である。魚はいつも目をあいているという当たり前のことなのだが、そこに食べる側と食べられる側との厳粛な関係が描かれている。目を見開いた魚と、それを意識しないで平然と食べる人間と。

魚類には眼瞼（まぶた）という器官がない。死んでも確かに目はあいたままだ。

☆

宮部みゆきの短編に『白魚の目』というのがある。

ここに江戸・深川の茂七という岡っ引きの弟子、下っ引きの充吉が、白魚が食べられないという話が出てくる。

「……あっしはただ、あのちっこい真黒な目を見ちまうと食えなくなるだけです。やつら点々みたいな目をしているでしょう。あの目で二杯酢のなかからこっちを見あげられると、箸をつけられなくなっちまう」

☆

鰯の稚魚、白子乾しのような小さな魚にも目は二つある。脊椎動物として遠い先祖から、人類も魚類も、二つの目を備えている。連綿と繋がる命をシンボライズしたような二つの目。

そういえば、肉を食べるときは、豚の丸焼きなどを別にして、その動物の目は見ない。しかし白子乾しでは無数の目と、目が合うのだ。

（カットも筆者）

ことに多様な魚を食べている。食べ方もいろいろ。生のままの白魚を食べる〝踊り食い〟というのもある。鰺のたたきなどでも、食卓の皿の上で、まだピクピクと動いているのを口にすることもしばしば。このような時には、魚を食べ馴れてはいても、多少の戸惑いを覚えることがある。

というわけで、生きているものを口に入れることには抵抗が

沖縄男声　今年の活動

5月7日(金)
・琉球台湾模範母親表彰大会
ウェルカム・パーティー
於／パシフィック・ホテル
曲目／「だんじゅ嘉利吉」
「海のちんぼうら」
（来年、台湾で演奏する際の協力団体が来沖します）

5月8日(土)
・琉球台湾模範母親表彰大会
於／宜野湾市民会館
曲目／「海のちんぼうら」
「Soon ah Will be Done」

6月6日(日)
・合唱祭

10月2(土)～3日(日)
・須賀先生レッスン

12月12日か19日(日)
・メサイア演奏会

2011年
1月23日(日)
・沖縄＋いそべ合同演奏会
・於／那覇市民会館
（学校演奏会は未定）

永井さんお父上　急逝

当団のピアニスト永井博子さんのお父上が交通事故のため急逝されました。2月27日にお通夜、28日に告別式が湘南斎場で行われました。

当団からも10名ほどの団員がお通夜に参列しました。

音楽を愛しテニスを楽しんでおられた、75歳のお元気なお父上だったようです。謹んでお悔み申し上げます。

上田征士さん（元・常任指揮者）逝去

須賀さんが豊中混声を振りはじめてから、その黄金時代が続く20年間を、団長として須賀さんを支え続けてこられた上田さん（現在・典礼聖歌アンサンブル指揮者）が、去る2月12日、胃癌のため亡くなりました。14日葬儀。当団より弔電をお送りしました。

豊中混声　東京演奏会

・日程／7月18日(日)16時開場
・会場／かつしかシンフォニーヒルズ・モーツァルトホール
（京成線青砥駅3分）
・指揮／須賀敬一、西岡茂樹
・賛助出演／豊中少年少女合唱団
・曲目／「橋上の人」（高田三郎）「葉っぱのフレディ」（三善晃）「宇宙になる」（新実徳英）
（7月3日に大阪で開催後の東京公演）

総務だより　2月28日運営委員会報告（出席12名）

●いそべ曲集に沿ったCDの製作と販売の提案（戸丸さん提案）

現在当団で作製・販売している磯部俶『男声合唱曲集』楽譜が20点ある。この内容に合わせたCDを作製し販売普及するというプランが提案された。8枚から10枚程度を坪井さんにマスター作製を依頼し、コピーは井上、戸丸が担当する、予算は磯部基金から製作実費などを支出し、利益は団に納入する。価格は1000円程度、販売はHPによる、などのプランが話し合われた。

●ボランティア・コンサートの提案（戸丸さん提案）

団員の母校でボランティア・コンサートをして磯部作品を広めようという提案が出された。

団員の出身母校（小・中学校中心）または病院や福祉施設など団員が希望し交渉しやすい施設や団体に交渉する。ボランティアならば、予算の少ない小学校などからは歓迎されるとの予想で、年に2、3回程度の実施を考える。費用は磯部基金より支出する、などが話し合われた。

●沖縄へのツアーの準備について

来年1月の沖縄男声との合同演奏会に向けて、佐藤さん(2T)を中心に、川野辺さん(1B)、山川さん(1B)の協力によりツアー・プランを作成する。

●40周年コンサートなどについて

40周年コンや、それ以前に予想される行事については今後早め早めに準備を整えておくことを確認した。

●知立女声コーラス演奏会にお祝い

3月14日知立市リリオ・コンサートホールでの演奏会にお祝いを贈呈する。

●女声アンサンブルアトリエ第6回リサイタルにお祝い贈呈

3月22日大阪市いずみホールで開催される演奏会にお祝いを贈呈する。

●京都男声合唱団演奏会に祝電

（以上は当団35周年コンに寄せられたお祝いへの返礼）

●やまびこ男声合唱団へ35周年CD贈呈

当団に、やまびこ男声演奏会の「啄木短歌集」のCDとDVDを頂戴した返礼として。

●菅野哲男さんへ35周年CD贈呈

FM湘南放送（菅野さんは合唱部門担当）で磯部先生の曲、当団の演奏を紹介して下さるということでお送りした。

☞印に注意。予定は変更、追加される場合があります。常に最新の号を見てください。

SCHEDULE

早：早瀬先生voice training
須：須賀監督指導・指揮

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

■２０１０(平成22)年

3月14日(日)	13:00～17:00	定例練習	南砂小学校		
28日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	１Ｂ （運委）
4月11日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	２Ｂ
25日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	１Ｔ （運委）
5月 9日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	２Ｔ
23日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	１Ｂ （運委）
6月13日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	２Ｂ
27日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	１Ｔ （運委）

7月25日(日) **第65回東京都合唱祭**（予定）

9月26日(日) **第19回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭**

10月2、3日　須賀監督沖縄出張
24日(日) **第48回江東区民合唱祭**

11月　宮城敏先生来団(予定)

■２０１１(平成23)年

☞ 1月23日(日) **第９回沖縄男声合唱団との合同演奏会**　於／那覇市民会館
☞予定曲目／いそべ単独曲／組曲「優しい愛のうた」全５曲(前奏曲おやすみなさい、おにいちゃんの成績、さかな、どうぶつえん、「片耳の大鹿」よ)
沖縄単独曲／いちじく、大ずもう、ゴキブリの唄、砂持節、鳩間節、谷茶前之浜
合同曲／須賀敬一指揮／組曲「啄木短歌集」、カノン雪、白南風のうた、貝殻
宮城 敏指揮／男の子の子守歌、「西表民謡によるオマージュ」
合同アンコール／

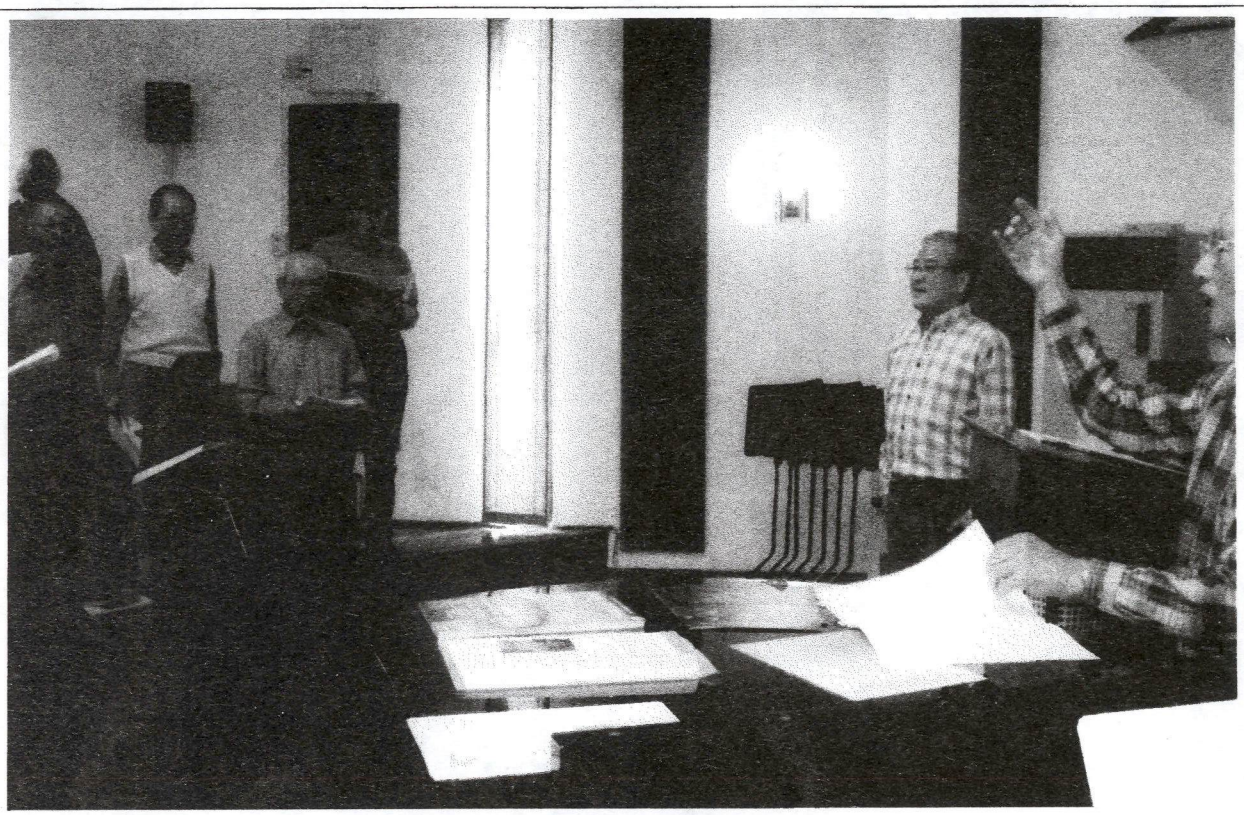
編集後記

◆2頁、澤野さんの魚の目の話はおもしろかったです。「さかな」の詩を書いた1年生の、子どもでなければ考えられない感性。ところが一方、シラウオの目が気になってシラウオが食べられない大の男の話。想像する方向はそれぞれ違うのでしょうが、どちらにも不思議な共感を覚えてしまいます◆目といえばルドンの目や髪光の目を連想してしまいます。神話やリビドーによる表現だといいますが、そんな予備知識なしに見ても不安を誘います。これも見る側の思いにもよるのでしょうか◆連想といえば、須賀さんの連想とシャレにはまいります。少し前の練習で、我々が「うつくしき川は流れ…」と歌い出すと「ナンダ！〝シキカワ（敷皮）〟って聞こえるぞ！」と言われる。皆、思いもよらぬ発想で、笑いと困惑とを交えながら、「シキカワ」と聞こえないように留意して歌い直すのです。まだまだ沢山あります。殆どメモはとれていません。ネタをお寄せください◆取り留めない話題で申し訳ありません。（河合）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２０１０年　４月　第３４７号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2 ☎03-3926-8369 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集担当者:河合隆一(広報)〒272-0031 市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同



→2008年の合宿で指導される早瀬先生

早瀬一洋先生 ありがとうございます

安部 建雄（1B・練習終指揮）

（3月14日定例練習で早瀬先生の当団発声指導の最終講義がありました）

「ガナルな！」
須賀監督就任時はいつもこれ。
「柔らかいハーモニーが素晴らしい」
35周年演奏会でのお客様からの感想。
この変貌はまさに早瀬先生のご指導の賜物です。
一．息は吸うのでなく丹田を意識していっぱい吐く。
　力を緩めると自然に息は入る。
二．イーオー、イオイオイオイオイーと呑み込む。
発声は吸う、出すことという、それまでの常識がひっくり返ってしまった。
エッ？　ハッ！　の連続で、従来のわれわれの発声法の転換をおこした「早瀬メソッド」は、その後もどんどんと続き、姿勢、サプライズ唱法など、わたしのメモはかなりの量になります。
これからの練習用に纏めなければなりません。
「免許皆伝です」とのお言葉ですが、「さらに続けて頑張りなさい」との励ましに相違ありません。
免許には更新が必要で、かつ実習が付きものです。
その機会を切望いたします。
少人数による早瀬クリニックの診断書は自習材料として、日常に活用しましょう。
練習時にも、必ず早瀬メソッドを復習し、今度、先生にお会いできたとき、「さらに良くなった」と喜んでいただくことがなによりの恩返しになるに相違ありません。
ほんとうにありがとうございました。

訃報

カール・ザーメス さん

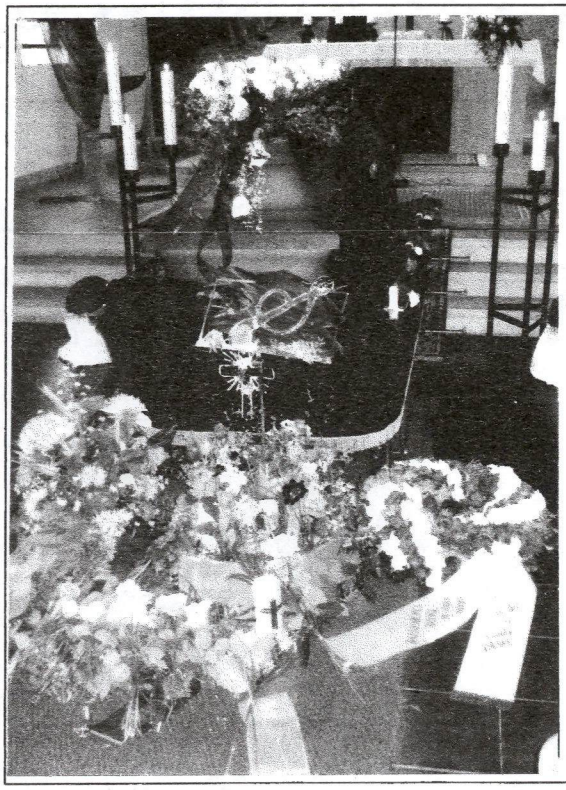
（ドイツ、ガンバッハ混声合唱団、ギーセン女声合唱団指揮者）　死去

1983年、当団が初めてドイツへ演奏旅行に行った際、現地ガンバッハで合同演奏会を行った「ガンバッハ混声合唱団」及び「ギーセン女声合唱団」の指揮者ザーメス（Karl Theo Sames）さんが、亡くなりました。この悲報は、ザーメスさんの友人であり、我々にも馴染みの深いシケニウスさん夫妻から電話で伝えられて来たもので、その電話によると、ザーメスさんは昨年10月に膵臓癌を発病、以来、闘病生活を送っていましたが、昨年末には奇跡的に病状が快方に向かったものの、この2月には再び病状が悪化し、去る3月11日、ついに帰らぬ人となってしまったとのことでした。享年59歳という若さでした。

なお、その後、3月18日にシケニウスさんからの電話によると、ザーメスさんの葬儀は3月17日に行われ、参会者は800名の多きを数えたとのことです。

謹んで哀悼の意を表します。

坪井俊策（2T・想談役）



→ザーメスさんの葬儀祭壇。右端の花輪のリボンに「Harukana tomoni ISOBE CHORGRUPPE Freunde in der Ferne Familie TSUBOI」とある。

いそべ男声メロディー・歌の博物誌⑳

ラクダのうんこはとってもまるい

「どうぶつえん」ほりかわ やえこ詩・磯部 俶曲

澤野 勉（2T）

先号の「さかな」と同じ、合唱組曲『優しい愛のうた』の一曲。この「どうぶつえん」にはキリン、ヘビ、トラ、ラクダ、ゾウが出てくる。この曲も詩は小学一年生。フレッシュな感覚で、短い表現ながら、それぞれの動物の描写が新鮮だ。

なかで際だっているのが、この〝ラクダのうんこは／とってもまるい〟――。遊び心のあふれる磯部さんは、そこにわざわざセリフを入れて強調している。31小節に〈子供っぽくせりふで〉と指定のあるのが、この言葉。

うんこが歌詞となっている歌はまずないのでは。うんこは辞書には幼児語とある。うんちともいうが、語感からはうんちは湿っぽい感じがして、うんこのほうがあっけらかんとした開放的な響きがある。

うんこも、うんちも排便の時のうんという力む感覚からきた言葉とされる。動物園では動物が生きているそのままの姿を目にすることができるという意味で、この〝ラクダのうんこ〟は動物園の情景の中ではとても強いインパクトとなっている。

☆

動物園ではなく、実際に日常生活の中でラクダと接している人たちにとっては、じつはラクダのうんこは貴重な生活資材だ。

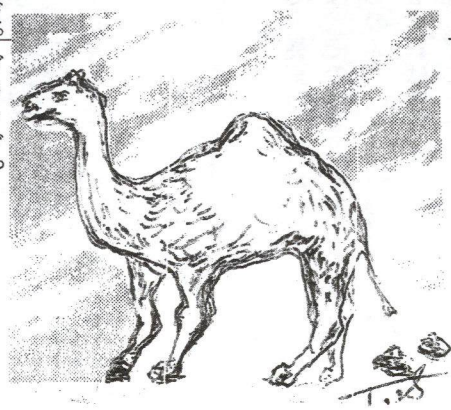
二十年以上前になるが、NHK取材班がアラビア半島の砂漠に生きる民・ベドウィンを訪ねた記録に、ラクダの糞のことが出てくる。（『人間は何を食べてきたか』―食のルーツ5万キロの旅、日本放送協会・昭60）

この地では、ラクダの糞は大切な燃料とされる。糞を集めるのは子供の仕事だ。糞は乾燥しているので臭気もなく、よく燃える。ベドウィンはラクダの糞とココナッツの木を燃やした燠（おき）の上に、直接にパン生地を載せてパンを焼く。

なるほど、ここでは〝ラクダのうんこ〟は〝とってもまる〟くて大きいことが大事なのだ。

☆

「どうぶつえん」の歌のラクダ。〝ラクダのこぶはひとつです〟とある。ラクダには、ヒトコブラクダとフタコブラクダがいる。アフリカ地方にいるのがヒトコブラクダ。



タクラマカン砂漠をマイクロバスで旅した折に見たラクダはフタコブラクダで、現地でラクダソウと呼ばれるトゲのある枯木のような草を食べていた。

ラクダは反芻類で、常時もぐもぐと口を動かして口の周辺もよだれのよう。

後ろに回ると、繊維質の糞がポトリと落ちる。そう、あれがラクダのうんこ―旅の記憶が甦る。

（カットも筆者）

信州だより ◇ やまびこ男声合唱団より

"御柱祭"に沸き立っています

春の遅い信州にもようやく温かな日差しが出てきた今日この頃です。

今、諏訪地方は7年に1度の"御柱祭"に沸き立っています。4月上旬の"里引き、建て御柱"と続き、祭り一色となります。

この期間は、合唱団も人が集まらない為、練習を休まざるを得ません。

前置きが長くなりましたが、本日（3／17）「35周年記念演奏会」のCDを受け取りました。貴重なものを、ありがとうございました。早速聴かせていただきましたが、平均年齢の高い合唱団とは思えぬ声の響きに高齢化に悩んでいる弊団も勇気づけられました。団内に廻して聴かせていただきます。

さらに別便で送っていただいた、「いそべニュース」も届きました。

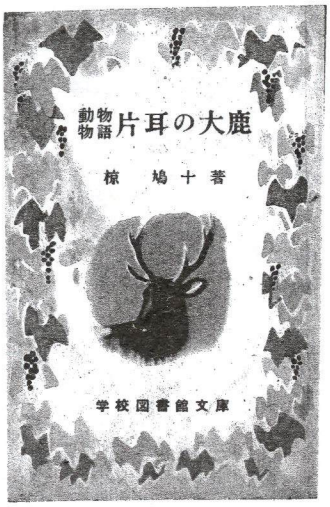
組曲「優しい愛のうた」の特集の中で、「片耳の大鹿」の原作者 椋 鳩十が、信州下伊那の出身であることを初めて知りました。須賀先生の編曲との事でどんな曲か是非聴きたいと思います。

曲の成り立ち、背景等について、しっかり調べて取り組む様子が良く分かり、参考にさせていただきます。

お忙しい中、貴重なCD及びニュースをお送りいただきまして、改めて厚く御礼申しあげます。

いそべとし記念男声合唱団
宮田　茂様

やまびこ男声合唱団
事務局　清水洋一



→『片耳の大鹿』初版本表紙（昭和26年・牧書店）

椋　鳩十（承前）

山窩小説と発禁

「祖父の話を土台にしてお山（山窩）の人々のことを書いて置きたいと思って暇にまかせて書いて置いたが、丁度少しばかり金が手にはいったのでその一部を本にしてみる気になった」（②『山窩調』序文、1933（昭8）年、昌出版）

「昭和八年十月には、春秋社から短編集『鷲の唄』を出版したが、刊行一週間後には発売禁止となった。性描写と無頼放浪の徒を扱っているというのが発禁の理由だった。……そのころから政府は戦争遂行のため言論統制、思想統一を押しつけてきたわけだ。……その壁を破るにはどうしたらよいのか－私は真剣に考えた。そして動物の生態を書いてゆけば、言論統制にひっかかることはないだろうと思いはじめた。ちょうどそのころ、ある編集長の運命的なすすめもあった。私は動物文学、児童文学へ傾いていった。」（①『聞き書き・椋鳩十のすべて』）本村寿一郎1983）

注／「山窩」…定住せず山奥や河原に自然人のような生活をしている漂白民。箕作や椀・杓子製作などを業とし傍ら狩や漁をする。（広辞苑）

参考／「マタギ」…東北地方の山間部に居住する古い伝統を持った狩人の群。秋田またぎは有名。（広辞苑）

ペンネームの由来

「私は山窩と、山に住んで木製の日用器具を作る木地屋を主題に書こうと思っていたから、木地屋にちなんで椋という姓をつけた。平安朝以来、木地屋の総本家は小椋（おぐら）と名乗ってきたが、椋（くら）を「むく」と読ませたわけだ。名前の「鳩十」は、椋の木には鳩が十羽ぐらいはとまるだろう－という程度のいいかげんなことで……。」（①）

"怠け賃"

「あの日のことは、はっきり覚えている。昭和十一年十二月二十五日であった。わびしい気持ちでひなたぼっこしていたら須藤憲三氏から書留が来た。開いてみたら「怠け賃」と書いた紙に、百円札が一枚はいっていた。須藤憲三氏の心が、腹の底までしみわたる気がした。この時、私は、どうあろうと、書かねばならないと思った。須藤憲三氏のあたたかい心にこたえなければならないと思った。」（③『椋鳩十研究－戦時下の軌跡』鈴木敬司、2006年）

※椋の山窩小説を読んだ「少年倶楽部」の編集長須藤憲三は、椋の動物の描写に着目して、椋に動物物語を書くよう勧めていた。しかし椋はなかなか書かない。そこで"怠け賃"を送ったのだ。

「私が期待していたのは、いわば日本のジャック・ロンドンで、自然のにおいを生で嗅がしてくれる作品が、ほしかったんですね。」（②藤書昭42年12月23日）

※38（昭13）年に椋は少年向けの動物小説「山の太郎熊」を書き、続いて児童図書『動物どもも』を出版。文部省推薦図書となる。

「片耳の大鹿」の発表

「「片耳の大鹿」は戦後、昭和二十五年に発表した作品だ。二十七年に、この作品で文部大臣奨励賞を受けた。屋久島が舞台でネ。屋久島には、昭和十四、五年ごろよく出かけたもんだ。合計すると、約五十回はいっているよ。前にもちょっと言ったが、屋久島には佐々木という狩人がいて、屋久島のすべてのヤマのシワまで知っていた。…シカも多かった。近くの森で、よくシカがないた。私はこういうふうに佐々木さんといっしょに屋久島のヤマを歩きまわり、実際にサルやシカの姿を見ながらサルやシカの話をきき、まず下書きを書いた。それをさらにフ

＊資3段目に続く

薙刀で受賞

楢木美保子さん（ノイエダーメンコールいそべ）

楢木美保子さん（故・楢木潔身さん（2B）夫人）が、薙刀・直心影流の最高の賞を受賞されることをお聞きし、無理矢理文章をお願いしました。楢木さんは現在、上井草の施設で指導に当たっておられます。（宮田）

40歳もなかばの頃、体力不足から始めたのがきっかけで、振り返れば35年余りとなります。

素晴らしい先生との出会いと、直心影流の魅力にひきこまれ、今日まで楽しく振ってきましたが、この度、4月6日、静岡県藤枝市の武道館で、直心影流薙刀術、虎の巻を頂けることになりました。

嬉しいと言うより、これからが不安で、責任の重さを感じるこの頃です。

伝統文化のために、少しでも貢献出来れば良いのですが。私ごとで申し訳ありません。

（天国の夫にも知らせたかった）

これはナイショです。

4月3日

楢木美保子

「津久井町」がなくなる

4月1日、相模原市が政令指定都市になったことにともない、毎年合唱祭が開催される「緑の休暇村」の地名が、「相模原市津久井町青根」から「相模原市緑区青根」に変わり、「津久井」の名前は消えることになりました。（宮田）

イクションにしたてあげる。『片耳の大鹿』もこうしてできた。…動物の世界には、自然の摂理としての相互扶助がある。砂漠の中で洪水にあえば、敵どうしもくいあいをやめる。動物にしてそうなら、まして人間は！　そんな相互扶助の貴さを書いた。」（①）

「片耳の大鹿」の真実

※「片耳の大鹿」はどこまでがほんとで、どこまでがうそですかとの子どもからの問いに答えて。

「どこまでが、ほんとで、どこまでが、うそか、と開き直られると、私は苦笑しながら、頭をかかえこんでしまうのである。私は作品の中で、出来るだけ真実を描こうと考えているからである。しかし、その真実というものは、自然や人生の模倣という意味ではない。さまざまな素材をもととして、その素材の彼方に、ちらちらと見える真実のことである。あるいは、素材をもととして私の解釈した世界である。あるいは、文芸作品でなくても、このことは、私どもが「この現実を見よ」などという時の、その現実にも通じるものであるかも知れない。」（④『檎十文学の散歩道』たかしよいち、1998年）

母と子の20分間読書運動

※59（昭34）年ごろから鹿児島県内の小学校から始めて、やがて全国にこの運動がひろがる。当然提唱者・鹿児島の図書館長、そして何よりも作家として全国を歩き回る。

「ある時、椋さんは例によって講演を頼まれて出かけていった。ところが、会場に着いてみると人っ子ひとりみあたらずしんかんとしている。はてなと思って依頼者の町役場だか村役場に行って聞いてみると、応対に出た人も首をひねるばかり。でも、たしかにおたくから頼まれたのだが、といって手紙を見せたところ、やっと相手が思い出してくれた。何と、その依頼は一年前のものだったというのである。」（鳥越信のエッセー③「椋鳩十研究・戦時下の軌跡」鈴木警）

「野性的な感じの人でした」

※ピアニスト永井博子さんは椋鳩十の講演をじかに聞いたことがあるそうです！

「子どものとき、椋さんの話を聞いたことがあります。野性的な感じが印象的でした。話の内容はよくおぼえていませんが、ゆっくりした調子の話し方が記憶に残っています。もちろん椋さんの動物の物語はたくさん読みました。永井博子（談）」

※〝椋節〟と言われた話し振りで子どもから大人まで敬され愛された作家は、「マヤの一生」「モモちゃんとあかね」など動物児童文学だけでも200編の作品を書き、たくさんの文学賞を受賞し、1987（昭62）年82歳で亡くなった。三男一女。全集26巻。文学碑や記念館が飯田市、喬木村、屋久島、加治木町、鹿児島市などにある。

「椋鳩十さん、さようなら」

「椋鳩十さん、とてもさびしくなりました。さいごまで、書きたいことがいっぱいあったのですね。夢の中でも、作品ができるまでがんばったのですね。…たくさんの本が、私たちには残っています。椋さんが、空の上ばかりでなく、本の間から、あっちこっち顔を出してきそうで私はこれからも本を読むのが楽しみです。でもあの話し方、口ぶりは、二度と聞けません。椋さん、また会える時まで、さようなら。鹿児島市坂元台小学校五年　田口彩野」（西日本新聞62年12月30日号）

（まとめ※・河合）

打ち上げは川辺先生と

3月14日の練習は南砂小学校で須賀さん指導で実施。いつもの豊洲が確保不能のため川辺成美先生にお願いしての練習場となりました。

5時過ぎて20余名の仲間は東陽町の「おごじょ家」へ集結。

ここは2003年10月26日、江東区民合唱祭の打ち上げで一同気勢をあげ、「レイルロードをそっと歌っていたら、数人のグループがのぞいている。いたく感激の面持ちで。どうぞどうぞと招じいれて」（ニュース276号）入って来られたのが南砂小の音楽の担当、川辺先生たちでした。我々の合唱を聞いた先生が、子供たちにもぜひ聞かせたいとのご希望で、たちまち話がすすんで、翌2004年2月13日、当団初めての小学校授業コンサートをもつことができたのでした。「おごじょ家」はその出発点というべきでしょう。

ちなみに「おごじょ」とは鹿児島・宮崎弁で、おじょうさんというような意味の娘さんへの敬称。これならこの店が出会いの場となったのもナットク。（「おごじょ」は西日本で広く使われた「ごりょんさん」との関連が言われています）

宴も酣となった頃、川辺先生がご入来。

「35周年演奏会を聞きました。第4ステージの「まど・いそべ」では、皆さんが子供時代の思い出に浸って歌っておられるのが印象的でした。最後の「遥かな友に」はまた涙がポロポロでした。30年の演奏よりずっとウデを上げられたと思います。若くなられました。（歓声、拍手）皆さんのように年をとっていけたらいいなと思いました」

そして、この14日が誕生日でご主人からプレゼントに指輪をもらったとのスピーチに一同だうなずくのみ。

ご縁のあった団員の出会いのエピソードやカワベ・ファンからの思い出話のあとは、ハモり、さらに「夕焼けこやけ」を先生のソロで歌い、「はる友」を歌ってお開きに。

川辺先生ありがとうございました。

（K）

訃報

神谷紀一郎さん死去

（横浜稲門グリークラブ元表）

2月22日、食道癌のため死去。享年69歳。神谷さんは昭和38年早グリ出身で、横浜稲門グリーの代表幹事、グリーOB会幹事仕事は東京新聞出版局の現役でした。昨年頃から嚥下不調を訴えていましたが、胃の検査はうけたものの食道は見逃され手遅れとなったそうです。今年のいそべファミリーコンサートにも欠席されました。ご冥福をお祈りします。

総務だより

3月28日運営委員会報告（出席12名）

■強化練習の件

11月6日（土）～7日（日）の日程案が須賀さんから出ているので、練習場決定のうえ予定にいれたい。

■2011年新春ファミリーコンサート&パーティーについて

1月初旬など、いくつかの案が出されたが、須賀さんのスケジュール、会場（①ティアラこうとう、②豊洲文化センター、③古石場文化センターなど）の抽選、そして沖縄行きなどとの十分なすりあわせを行って決定したい。

■沖縄男声との合同演奏会について

・日程及び旅行会社の選定は沖縄の公社に相談し、川野辺さん山川さんが宮城稔さんと協議している。

・日程（予想）

1月22日(土)出発

23日(日)リハーサル、本番

24日(月)オプショナルツアー

25日(火)〃

・旅行会社の見積が出た時点で団員からの参加の有無などのアンケートを実施する。

■早瀬先生の後任等について

・須賀さんの意向を確認の上、後任の選任を早瀬先生に依頼する。

・できれば、強化練習等は早瀬先生に依頼したい。

・早瀬先生指導の「べるでの会」（4月29日、6頁参照）など早瀬先生関連行事には団員として積極的に参加したい等の意見があった。

■年間行事の団員への徹底について

新入団員が増えたこともあって、東京都、江東区民、道志川などの定例の合唱祭への参加、その他予定行事等はできるだけ早めに団員への徹底、趣旨周知などを行うこととした。

■授業コンサート、施設等への出前演奏について

あくまでも良質の演奏をめざし、練習の手抜き、メンバーの不特定などをおこさないこと、また出前先は無制限には増やさず年間2、3件に抑え、指揮は出来る限り須賀さんにお願いすることにする。

■磯部作品CD制作について

制作にあたっている坪井俊策さんから、非常に困難な問題がいくつもあることが話され、そのクリヤーに時間も必要だが、できたら年内に1枚目を出せないかとの要望があった。

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

囲：須賀監督指導・指揮

■２０１０(平成22)年

4月11日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	２B
25日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	１T （運委）
5月 9日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	２T
23日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	１B （運委）
6月13日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	２B
27日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	１T （運委）
7月11日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	２T
25日(日)	13:00～	定例練習	豊洲		

第65回東京都合唱祭（予定）

9月26日(日) **第19回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭**

10月2、3日 須賀監督沖縄出張

24日(日) **第48回江東区民合唱祭**

11月 宮城敏先生来団(予定)

■２０１１(平成23)年

1月23日(日) **第９回沖縄男声合唱団との合同演奏会** 於／那覇市民会館

☞予定曲目／いそべ単独曲／組曲「優しい愛のうた」全５曲(前奏曲おやすみなさい、おにいちゃんの成績、さかな、どうぶつえん、「片耳の大鹿」よ)

沖縄単独曲／いちじく、大ずもう、ゴキブリの唄、砂持節、鳩間節、谷茶前之浜

合同曲／須賀敬一指揮／組曲「啄木短歌集」、カノン雪、白南風のうた、貝殻

宮城 敏指揮／男の子の子守歌、「西表民謡によるオマージュ」

合同アンコール／



女声合唱団「藍の会」演奏会

5月8日(土)14時開演、全自由席1000円

藤沢市民会館大ホール(岩本さん扱い)

指揮・浅野深雪 ピアノ・永井博子

曲目・ブラームス「三つの宗教曲」

信長貴富「三つの優しき歌」など



「べるでの会」(指導・早瀬一洋先生・第32回)

4月29日(木・祝日)14時30分開演、入場無料

エポックなかはら大ホール(JR南部線武蔵中原駅前)

曲目・日本歌曲、オペラアリアなど30数曲

短編集後記

◆去年、あるオペラ歌手(日本人)のコンサートを聴きにサントリーホールへ行きました。2階席の前のほうでした。歌手は横向きなのでこれじゃ声がよく聞こえないかなと思っていたら、さすが海外コンクールでの優勝経験者、場内を圧倒する歌いっぷりで、聴き入ってしまいました◆ハッとしたのはあるアリアの時、一瞬、声が前の空気を切って行き、ホールの2階のいちばん後ろにまで飛んで行ったのが見えたのです(ホント)。歌手を真横から聴く席での貴重な体験でした。今でもあの瞬間の声が甦ることがあります◆早瀬先生が言う、声を飛ばすとはこれかと思いました。しかし先生によると、プロでも「そば鳴り」に留まる方もいるとか、まして素人が身につけるのは至難のワザ◆それでも先生のご指導で、声の出にくいところ、響かないところ、いくつかクリアーできました。我々は素晴らしい指導者に恵まれました。ありがとうございました。しかしまだまだ課題は山積みです。折に触れて、またのご指導をお願いいたします。(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２０１０年　５月　第３４８号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2　☎03-3926-8369　FAX 同
E-mail　isobechorus @hotmail.com　　URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同



→ある日のOBバー

ボイス・トレーナーについて

三上正秋（2T・指揮者グループ）

3月14日、早瀬先生の最後のレッスンが南砂小学校でありました。定期的なレッスンとしては、これが本当に最後だということで、そのような話を聞いた時は大変ショックを受けましたが、体調を考慮してのご判断ということですので、とても残念ですが、納得せざるを得ないと自分自身に言い聞かせた次第です。

とは言っても現実の問題として後任のボイス・トレーナーが決まるまでは、しばらくはボイス・トレーナー不在のまま合唱団としての活動を継続していかなければなりません。

そこで、このような状況を逆手に取って、何とか前向きにというか、「災い転じて福となす」というようなことにならないかと思い、わたしなりのボイス・トレーニングについて考えていることをニュースに投稿することにしました。

このようなことを通じてメンバー一人一人が発声のことについて議論するきっかけなればとの思いからです。

1．ボイス・トレーナーは合唱団にとって必要なのでしょうか？

このような疑問には、一度は自分なりの答えを見つけておくことが必要と思います。

固定したボイス・トレーナーを置いていない合唱団もあるでしょうし、自分自身がボイス・トレーナーに何を期待しているかが明確になるからです。

早瀬先生は、自らお手本として下のGから上のB♭まで実際に声を出して、姿勢や表情を示しながら、とても具体的で分かりやすい説明によって発声指導をされていたと思います。

しかし残念ながら、メモを取ったり、録音をしたりする人は多くはなかったと記憶しています。

自分はどんな声になりたいか、具体的な目標設定が必要です。

音楽は、自発的な行為が大前提です。やらされるトレーニングほど非効率なものはないでしょう。

メンバーの中には、今さら発声などやらなくても、今持って

いる声で合唱が楽しめれば十分と考えている人がいるかも知れませんが、私は、安定したピッチと明瞭な発音のため…すなわち良いアンサンブルのためにはボイス・トレーニングは必要と考えています。

反対意見もあるでしょうが、私は合唱の魅力はアンサンブルすることと確信しています。

2. 合唱団は、発声を個人にまかせっきりにしてはいけないと考えます

合唱団には、発声に関して様々なレベルの人がいます。ボイス・トレーナーが合唱団全体に対して、小グループに対して、個人に対してレッスンした時、その対応をすべて個人の責任としてまかせっきりにすることには反対です。レッスンを受けたのだから個人ができる範囲で努力すれば良いという考えが主流かもしれませんが、私はボイス・トレーナーの力を借りながら合唱団は個人の発声の目標、達成度に介入すべきと考えています。

メンバーがメンバーの声についてあれこれ意見を言うことは現実問題として難しいと考えますが、私が昨年、早瀬先生の小グループのレッスンについて試行したレッスンを記録し、音源を残すというようなことを通して、具体的な目標を話し合ったり、ボイス・トレーナーとの連携役になったりすることは可能です。

合唱団は、何らかの形で個人の発声に係わり、責任を持つシステムを持つべきだと考えます。

どうぞ忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

椋鳩十のこと

田島哲朗（1T）

『片耳の大鹿』の関して作者椋鳩十のことを河合さんが調査され、ニュースに連載されたのを興味深く読みました。

私は椋鳩十について個人的思い出を書こうと思います。

残念ながら会ったことはありません。

この作者の名前を聞いて記憶にとどめたのは、昭和三〇年、私が鹿児島の小学校六年生の時でした。

『日高山伏物語』という超ケチンボの山伏の話が地元の南日本新聞に連載され、その作者が県立図書館の館長さんだと評判になったのです。

毎朝この話を読んで家中で大笑いをしてから学校に行ったものです。

特にケチ比べの話がおもしろい。山伏どのはケチ道のスーパースターで、挑まれたケチ比べにはことごとく勝利しますが、その勝ちっぷりが並外れて鮮やかでした。百篇近くある話の中から私の記憶に残る二つの話をご紹介します。

1　ウメボシ

ケチを競っている隣家とピクニックに行く。隣家の家族の弁当のおかずは塩辛い味噌漬けだけ。それをなめなめ握り飯を食べる。

山伏どのの一家はウメボシを一個家族の真ん中においておくだけ。じっと睨んで、つばが湧いてきたら、握り飯をぱくっと食べる。

こうすればウメボシは五年ももつ！

2　扇子

別のケチンボが山伏どののすきを見つけて大勝利を得んとたくらんで、夏の暑い日にやってきた。山伏どのが扇子を全部開いているのを見て大勝利を確信する。全部開くのはもったいないではないか！　このケチンボは半分開いて一五年使い、残り半分を開いてこれから一五年は使える、と自慢する。

これを聞いて山伏どのは「もったいない」と宣う。「私は扇子は全部開くが、扇子は動かさず、顔のほうを動かしますので百年は使えます」

・

細部はもう忘却の彼方でしたが、『日高山伏物語』（ポプラ社の椋鳩十全集12）を読み返して細部を書き足しました。

「甲突川」とか、「高麗橋」とか、私のごく身近にあった場所が登場していたことも知って、当時愛読した子ども心が理解できたような気がします。

この物語は、椋鳩十が加治木時代に隣の借家に住む爺さんから聞いた鹿児島の民話をもとにしています。熊本の彦一とんちばなしや大分の吉四六ばなしほど知られていませんが、不況の時代の年金生活者には節約のよき指南書です。

・

本の末尾の椋鳩十の年譜を見て、思いがけなくも豊島与志雄と縁があったことも知りました。この高名なフランス文学者、「レ・ミゼラブル」や「ジャン・クリストフ」の名翻訳者は、わが母校、福岡の修猷館の大先輩です。（豊島は中学修猷館から一高をへて東大仏文に進みました）豊島が法政大学の文学部の教授の時に久保田彦穂（椋鳩十）が入学し、在学中も豊島に世話になりました。

椋は卒業後の昭和八年に『山窩調』を自費出版し、この時初めて椋鳩十のペンネームを使ったのですが、豊島は本名を知らないままに好意的な書評を書き、一年後にばれて大目玉を食ったというエピソードがあったようです。豊島が児童文学を一二〇篇余も書いていたことも今回知りました。

「片耳の大鹿」の縁でいろいろ個人的な収穫がありました。



←椋鳩十最後の著作（1987年、同年82歳で死去）

友・好・団・体・だ・よ・り

やまびこ男声合唱団

『犀川』 全曲演奏予定

〝御柱祭〟も終盤。8、9、10日は岡谷の里曳きです。やまびこの皆さんも盛り上がっていることでしょう。

長野県岡谷市を拠点に活発な活動を続けているやまびこ男声合唱団が、曲集『犀川』（磯部俶曲、須賀敬一編曲）の全曲を演奏されます。

・南信合唱祭／5月23日（日）（辰野町民会館）
　曲目／「犀川」「松の花」
・長野県男声合唱協会合唱祭／7月3日（土）（飯田市文化会館）
　曲目／曲集『犀川』全曲（犀川、林のなか、時無草、木せい、貝殻、松の花）

クラーク・クラブ

新幹事長に樋口正城氏就任

拝啓　「いそべとし記念男声合唱団」のご活躍ぶりを、いつもお送り頂いておりますニュースを通じてのご案内を楽しく読ませていただいております。

さて、北大男声合唱団東京OB会も、昨年12月、更に今年4月は横国大グリーOB会とのジョイント等で活発な活動を続けております。

今年2月に行われた総会におきまして、一部役員の改選が行われて、幹事長を担当しておりました井上勝が退任し後任に樋口正城が担当することになりました。

よろしくお願い申し上げます。

敬具

「北大男声合唱団東京OB会クラーク・クラブ」とは10年以上前にジョイントコンサートを持っています。

いそべ男声メロディー・歌の博物誌21

ゾウのはなはどうしてながいの

「どうぶつえん」ほりかわ　やえこ詩・磯部　俶曲

澤野　勉（2T）

前号に続いての「どうぶつえん」ー。〝キリンのくびはながいね〟で始まる。そう、ふしぎなことに、あの長い首のキリンも、頸骨は人間と同じで七個からなっている。最後に登場するのが象。鼻はどうして長いのかと問いかけている。

進化論の学説のひとつに、いまでは否定されているのだが定向進化説というのがある。

進化論の確立者とされるダーウィン以前に、すでに提唱されていた説で、生物の形態・習慣によって定められた方向へ進化はすすむという。

この説によると、象の鼻は突然長くなったのではない、まさに神様のいたずらのように、あちらこちらに鼻の長い象が生まれてきた。そして、次第に鼻の長い象がふつうになってくる、というのだ。つまり、その生物（種）の将来現れる形質（姿）が、何代も前に突発的に現れ、それがやがて、すべての種によんでくるのだと。

☆

ディズニーの世界ーー空を飛ぶ耳の大きなダンボのアニメの映画を見たときに、ふと、この定向進化説が頭に浮かんだのだが、同時に連想したのが、象とは離れて人間の世界。60年代は技術革新がすすみ、人間の手を離れて、機械がなんでもやってくれる風潮が広まった時代だった。機械が手や眼の代りをしてくれるようになった。

新しい文学のジャンルとして〝ショートショート〟という短編を次ぎつぎに発表した星新一の作品のひとつに「闇の眼」というのがある。

昼間なのにカーテンを閉めて暗い部屋。なぜか暗い閉ざされた部屋に、若い夫婦と小さな男の子が暮らしている。

「ーーその時、となりの部屋へのドアが音をたてて開いた。だが、闇は相変わらずそのままだった。」とあって、男の子、坊やが登場。そこに落としたクレヨンを探しにくるのだが、母親が電気をつけようとすると、それを待つまでもなく、坊やはクレヨンを探し当てる。つまり坊やは暗闇の中で、モノが〝見える〟のだ。

このあと、夫婦のため息のような会話が続く。夫がつぶやく。

「先生の説によると、だれのせいでもなく進化の流れだそうだよ。はげしくなった交通や複雑な機械の操作に対応しようとしつづけて、その要素がしだいに蓄積すると、遺伝子に変化がもたらされ、うちの坊やのようなのが生まれたと考えられるそうだ」ーー。

最後の一行、坊やは〝「暗いところではなんにもわからないなんて、ほんとに不便なんだな」と、にこにこ笑った。……眼のない顔を二人にむけて。〟

・

教訓〈眼や耳、舌、手と足と、五官を精一杯使うことが大事です。〉

（カットも筆者）



新人紹介

西川由明さん（1T）

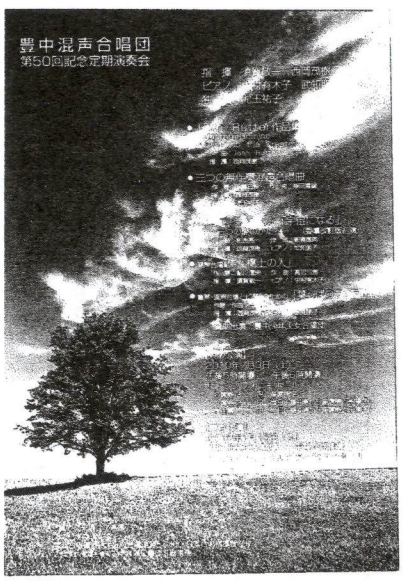


今年、大阪大学工学研究科卒業、NECに入社、研究所に勤務。在学中はフロイント・コール混声合唱団で学生指揮者を務め、大阪メール・クワイアでも昨年の団員指揮の一人として指揮をしました。関西地区の指揮者による四ツ橋筋中年合唱隊の一員としても歌っています。指揮を須賀さんに師事。高槻市生まれ。現在は川崎市多摩区在住。愛称ＹＯＹＯ。一挙に当団の平均年齢を引き下げてくれました。

山村尚康さん（T）



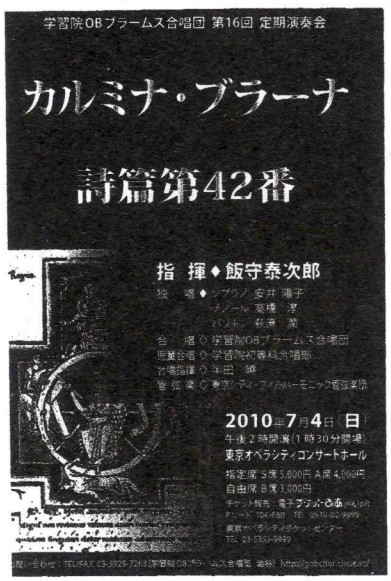
4月25日の練習の途中、見慣れない方が後方におられたので、どなたかと伺ったところ「見学に来ました」とのことで練習の最後からCバーまで参加され、入団したいとのことで、早速一同、歓迎の歌で迎えました。パートはテナーとのことですが、1Tか2Tかは保留。山村さんは3年ほど前は江東区古石場に住み、現在は中央区の佃に在住です。昭和12年生まれ。古石場文化センターを練習場とする男声合唱団「パパス・コーラス」に3年前に入団、昨年も江東区民合唱祭に出場されていました。当団の35周年記念演奏会を聴いて入団を決めたというお話でした。（宮田）



豊中混声合唱団第50回記念演奏会
指揮／須賀敬一・西岡茂樹
曲目／「橋上の人」（高田三郎）
「葉っぱのフレディ」（三善晃）等
日・場／7月18日（日）18時かつしかシンフォニーヒルズ（京成線青砥下車3分）
（2000円、大西さん扱い）



江藤純子＆ローガンＤＸ
さよならコンサート
曲目／アメリカンソングズ
日本の歌あれこれ
日・場／7月18日（日）14時、津田ホール（JR千駄ヶ谷前）
（2000円、徳田さん扱い）



学習院ＯＢブラームス合唱団
第16回定期公演
曲目／カルミナ・ブラーナほか
指揮／飯守泰次郎
日・場／7月4日（日）14時、オペラシティホール（京王線初台）
（5000～3000円、澁谷さん扱い）

村岡昭一郎さん（2T）のお孫さん
花峰千春さん（宝塚歌劇団）
東京公演に出演

『**虞美人**－新たなる伝説－』花組公演
4月30日（日）～5月30日（日）東京宝塚劇場
千春さんは２００５年に宝塚音楽学校を卒業し現在花組に所属して活躍、東京公演に出演されています。（ニュース300号参照）
（昼の部、夜の部などあり、詳細・申し込みは村岡さんへ）

沖縄男声近況

「暑さ、寒さが交互のやってくるおかしな4月です。4月の29日に敏さんの振るカルミナ・ブラーナの演奏会があり、5月はじめには台湾の合唱団との小さな演奏会があり、忙しくしております。役員会を持つ時間がとれなくて、合同演奏会の話し合いはしばらくもてません。

演奏会の前日の練習は入れると思いますが、もし入れるなら午後7時からの練習になるのではないかと思います。前回がそうでした。

5月になってから役員会をもちます。そのときに決定しますので、連絡いたします。　宮城　稔」

（当団の近況報告に併せて、航空便手配などの都合から、合同演奏会前日の練習開始時刻などの問い合わせへのご返事）

豊洲文化センターの正式名称変更

新「公益法人江東区文化コミュニティー財団
江東区豊洲文化センター」
（旧「財団法人江東区地域振興会」）

4月から表題の通りの名称となりました。これは今までの江東区の全文化センターにも同様の名称変更とのことです。

総務だより　4月25日運営委員会報告（出席13名）

◆2011年新春ファミリーコンサート&パーティー日程について

1月9日は須賀さんが豊中混声合唱団70周年記念パーティーのため上京できないことが分かり、15日は成人の日のため会場確保がむずかしい、23日は沖縄行き、などの点から無理に1月に実施せず、2月6日(日)または13日(日)いずれかを協議の上に決めることとした。

◆秋の強化練習について

①案／10月23日(土)～24日(日)
（24日は江東区民合唱祭）
②案／11月6日(土)7日(日)
（7日は宮城敏さんが来団予定）
以上の2案について須賀さんと協議して決定する。

◆当団年度総会予定について

・8月22日(日)に開催する。
7月に開催したいが7月25日は東京都合唱祭のため8月開催とした。

◆沖縄男声との合同演奏曲目などについて

①曲目／
・合同演奏曲目「白南風のうた」と「貝殻」は取りやめる。
・アンコールは「遥かな友に」「Ride the Chariot」とする。
②演奏会後の観光については検討中。追って参加の有無等のアンケートを実施する。

◆団費の割り引き制度を導入する

団員のうち、若年層、長距離参加者について、該当者がでた場合は、運営委員会で個別に判断して団費の割り引き(50%)を適用することを決定した。

★豊洲の練習の部屋が変わります

4月25日、豊洲文化センター事務所から、練習場を地階第一会議室に変更可能かどうかの打診がありました。

現在使用中の第三・第四会議室は一般利用者の使用頻度が高く、ピアノを地階第一会議室に移転して、より有効にそれぞれの会議室を使用してもらいたいとの意向でした。

早速、長田代表他数名で地下第一会議室を視察に行き、OKという結論になりました。

会議室の面積は、従来の第三・第四会議室が合計66.12㎡であるのに対して、第一会議室は63.84㎡で若干狭くなりますが、ほぼ正方形の部屋で、有効面積を考えると何とか使えそうです。

使用料も少し安くなります。

もちろんCバー会場も移転となります。

会議室の予約が3カ月先まで決定しており、センター側の手続きなどもあって、移転の実施は早くても8月、9月以降となる見込みです。

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

須：須賀監督指導・指揮

■２０１０(平成22)年

4月11日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	２B
25日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	１T （運委）
5月 9日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	２T
23日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	１B （運委）
6月13日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	２B
27日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	１T （運委）
7月11日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー	２T
25日(日)	13:00～	定例練習	豊洲		

第65回東京都合唱祭（予定）

8月 8日(日)

☞ 22日(日) 13:00～

年度総会

9月26日(日) **第19回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭**

10月2、3日 須賀監督沖縄出張

24日(日) **第48回江東区民合唱祭**

11月 6日、7日 宮城敏先生来団(予定)

■２０１１(平成23)年

1月23日(日) **第９回沖縄男声合唱団との合同演奏会** 於／那覇市民会館

予定曲目／いそべ単独曲／組曲「優しい愛のうた」全５曲(前奏曲おやすみなさい、おにいちゃんの成績、さかな、どうぶつえん、「片耳の大鹿」よ)

沖縄単独曲／いちじく、大ずもう、ゴキブリの唄、砂持節、鳩間節、谷茶前之浜

合同曲／須賀敬一指揮／組曲「啄木短歌集」、カノン「雪」

宮城 敏指揮／男の子の子守歌、「西表民謡によるオマージュ」

合同アンコール／

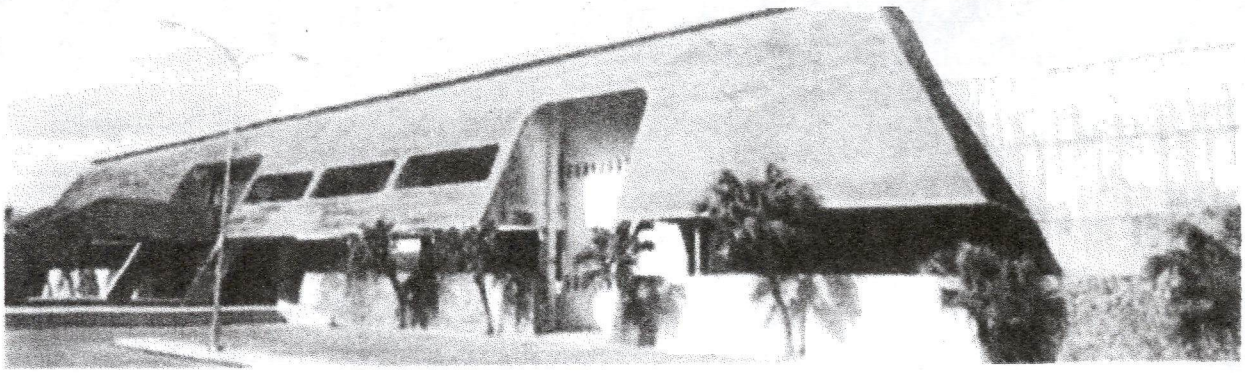
編集後記

◆近ごろ、鼻水が出るようになって、朝、新聞を取ってきてガウンをかぶり寝床の上で読んでいると、くしゃみを連発、鼻水たらたら、急いでヒーターのスイッチをいれるが既に遅く枕のわきはちり紙の山。風邪でも花粉症でもないのですが、どうして鼻の粘膜がこんなに敏感になったのでしょうか◆音楽家にも鼻水に困惑する人も結構あるらしく鶴我裕子さん（元N響ヴァイオリン奏者）によると、ライトナーやヴァントもそうで、よく練習中にハンカチで鼻をかむ。それも楽員注視の中を「ブン！と、鳥も飛び立つようなすごい音一発」でかむそうです◆日本人だったらちょっと席をはずして…となるのでしょうが白人のマナーは違うのでしょうか◆私は幸いに練習場や本番で鼻水が出て困ったという経験はありませんが、空気が変わると鼻水や咳を催す友人がいます。いつもタオル地ハンカチ、それも地味な色のものを忍ばせているそうで、ある演奏会では舞台上で随分お世話になったと告白してくれました。「人知れぬ鼻水だ」ですな。(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２０１０年　６月　第３４９号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2 ☎03-3926-8369 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同



→合同演奏会場の那覇市民会館(定員1372)

"おつきあい"でない合同演奏を

◆沖縄男声合唱団との合同演奏会は来年の1月23日(日)那覇市民会館です◆

「こんどの演奏会は、普通のジョイント・コンサートと、少し違っています。それは、沖縄男声合唱団といそべとし男声合唱団が、いっしょになって歌う合同演奏を、儀礼的や、お祭り的でなく、力いっぱいやろうと思っていることです。……」

これは磯部俶先生の挨拶文です。1979年10月26日、那覇市民会館での第1回合同演奏会のプログラムです。

この磯部先生の遺志は脈々と受け継がれています。

今までの合同曲目を見ると、その曲数の多さ、そして規模の大きな曲がボンボンと目に飛び込んできます。それも1回や2回だけの合同ではなく、32年間を真摯な付き合いで続けてきました。(下段合同演奏記録参照)

そして指揮者の交流練習があり、今年も10月には須賀監督が那覇へ、11月には宮城先生が東京へと、合同曲の練習指揮に臨まれる予定です。

他に余り例のない、誇っていい実績ではないでしょうか。

2011年1月、9回目の合同演奏会では、啄木を、雪を、子守歌を、西表の心を、磯部先生の言うとおり、「儀礼的や、お祭り的でなく」、お互いに倚りかかることのない合同演奏で両団の共感をより深めたいものです。

「西表民謡……」は石垣島とティアラこうとうと、今回で三回目ですが、3曲目「家たかび」の〝あんでぃ〟のあとのG.P.の〈フライング〉がやっとなくなったものの、まだまだ各所に危ないところが沢山あります。日本音階に慣れること。アマチュアは繰り返しによる慣れでしか演奏のレベルの維持向上はないと言ったら言い過ぎか。

当団の単独曲「優しい愛のうた」は須賀さんが多忙の中を2曲アレンジされ、今回が男声版の初演です。5曲中4曲は、1年生から6年生の子どもの作詩です。付けられた音楽は、葬送の曲あり、ジャズ風あり、ユーモアあり、スタイルの変化の面白さ、磯部節いっぱいの曲にのって、子どもたちの詩の真直ぐな感動を歌い伝えたいです。

沖男・いそ男合同演奏記録

(ここでは合同曲のみ掲載)

第1回(1979・10・26)那覇市民会館
ふるさと、草の葉の祈り、ねずみ、大ずもう、いちじく、おさるの野球／菩提樹、狩人の別れ、旅人の夜の歌、野ばら、小夜曲、狩人の合唱、兵士の合唱(磯部指揮)

第2回(1984・9・23)石橋メモリアル
ねずみ、組曲「なんなんななつの」、いちじく、大ずもう、びわ月夜、おさるのやきゅう、狩人の合唱、兵士の合唱(磯部指揮)

第3回(1989・10・29)那覇市民会館
幼年、ふるさと、組曲「岬のうた」(磯部指揮)／砂持節、コーカサスの祈りと踊り、Good Night Ladies、Ride the Chariot(高城指揮)

第4回(1991・5・2)ブダペスト・ビガドホール
組曲「沙羅」から4曲、ドイツミサ(シューベルト)から3曲、Die Nachtigall、夏みかん、きつねの嫁入り、いろり、ぶらんこぶらんこ、空飛ぶ手紙／Estidal、Fölszállott a páva(コダイ)(磯部指揮)／斎太郎節、音戸の瀬戸、だんじゅかりゆし、鳩間節、八木節(高城指揮)

同(1991・5・4)ガンバッハ・ピュルゲルハウス
(曲目はブダペストと同じ)

←次頁最下段に続く

まどさん 近況

伊藤英治さん（編集者）からまど・みちおさんの写真と近況のおたよりがとどきました。

去る四月二十四日、まどさんの100歳と寿美夫人の93歳をお祝いする小さな会がありました。
寿美さんには一年半ぶりにお目にかかりましたが、お二人ともとてもお元気なご様子でした。
その時の写真をお送りします。
ではまた、いつかお会いして。

伊藤英治
恒社



とうさん
とうさん
おはなが　ぺちゃんこね
そうよ
かあさんと
ぺちゃんこよ

とうさん
とうさん
だれが　すきなの
あのね
かあさんが
すきなのよ

とうさん
ーかぞうたー

まど・みちお
89・9・5

由紀さおりさん
「遥かな友に」を語る

歌手の由紀さおりが雑誌で「遥かな友に」について書いていますと吉岡久恵さんが教えてくれました。川野辺宏子さんが雑誌に載っているのを見つけたのだそうです。それを川野辺さんが全く読んだことのなかった雑誌。その雑誌に呼ばれるように手にとって開いたら「遥かな友に」の記事があったので早速和先生に送られたそうです。

（掲載誌はNHKテレビテキスト『きょうの健康』5月号・NHK出版）

（由紀さんはアマ合唱団の活動から語り始め、女声に比べて男声合唱は少ない、これは「男性は〝クォリティ〟を求めてしまう。なので、最初は趣味で始めようと思っても、楽しくなるまえにつらくなってしまうのではないでしょうか。」と優しいような、厳しいような前置きのあと、男声合唱の迫力と魅力にふれて、「はる友」の思い出を語ります）

「（前略）この『遥かな友に』は、男声合唱の名門、早稲田大学グリークラブの指揮者だった磯部俶さんの作品。団の合宿で行った神奈川県津久井で、事情があって参加できなかった仲間のことを思いながら書いたそうです。今でも数少ない男声合唱団のレパートリーとして歌われていますが、実は私も、姉と二人で歌うことがあるんです。

以前、磯部先生の奥様がコンサートにお見えになり、「たまにはうちの人の曲も歌ってね」って言われたのがきっかけ。女声デュエット向きにアレンジした、上品な曲に仕上がっているんです。いまもステージでこの曲を歌う時は、磯部先生の奥様のこと、そして御主人のへ作品への愛情の深さに想いを馳せてしまいますそう、私にとって奥様は『遥かな友』なんです。」（取材・文／穐留文雄）

○和先生にたずねると、体調があまりよくない、と言いながら由紀さんとのことを元気に語って下さいました。

和先生「そう、楽屋で会ってね。主人から、「遥かな友に」は由紀さんの声によく合ってると思うから、会ったら歌うように言ってみて、と言われてたんです。レパートリーに入れてくれて、NHKの朝のドラマでも歌ってくれましたね。」

（河合）

第5回（1995・11・3）那覇市民会館
組曲「島田忠夫の詩による四つの男声合唱曲」、組曲「北への回帰」から3曲（磯部指揮）／Shenandoah, Wait for the Wagon（宮城指揮）

第6回（2001・11・10）石橋メモリアル
組曲「北への回帰」全曲（須賀指揮）
Aura Lee、カリンカ、シェリトリンド、Soon Ah Will Be Done（宮城指揮）

第7回（2004・11・27）石垣市民会館
組曲「心の四季」全曲（須賀指揮）／組曲「西表民謡によるオマージュ」全曲、音戸の瀬戸、八木節（宮城指揮）

第8回（2008・11・16）ティアラこうとう
組曲「心の四季」から3曲、林のなか、いねかり、時無草（須賀指揮）／組曲「西表民謡によるオマージュ」全曲、だんじゅ嘉利吉、秋のにおい、七五三、月夜（宮城指揮）

第9回（予定・2011・1・23）那覇市民会館
組曲「啄木短歌集」、カノン雪（須賀指揮）／組曲「西表民謡によるオマージュ」、男の子の子守歌（宮城指揮）

○第4回以外は、両団とも15分程度の組曲や曲集でそれぞれ単独の1ステージを持っている。ここではそれらは割愛した。

（資料・長田／まとめ・河合）

ヴァチカンとアッシジのミサに参加して

大西紹夫（1T）

渋谷、辻、井上(斉)、大西の四人は、五月の連休中、須賀敬一音楽監督のもと、高田三郎の典礼聖歌を歌うべくイタリアへ行き、深い感動と沢山の思い出をもって帰ってきた。

高田三郎による典礼聖歌の感動を全国に知ってもらおうと日本男声合唱協会（ＪＡＭＣＡ）が盛んに活動していることはご存じのとおりであるが、今回のイタリア演奏は、その延長線上のものであった。

結局、須賀監督の配下で典礼聖歌を愛する混声合唱団も加わり総勢一八〇人（うち合唱隊は一三〇人）にもなったが、アッシジとヴァチカンのミサで歌い、ローマで高田作品の演奏会を開き、大きい成果と感動を得て帰ってきたところである。

ミサの中で拍手が…

ヴァチカンのミサは、最も大きいサンピエトロ寺院の主礼拝堂、その最奥のメイン祭壇で執り行われた。ちょうど日曜日の午前のヴァチカンにとって最も大事なミサだったので、司祭の司式からミサ曲まですべてグレゴリア聖歌（ラテン語）で進められた。

我々ほぼ三〇名は聖歌隊席に座り、グレゴリア聖歌のミサ曲を専属ジュリア聖歌隊（かのパレストリーナが聖歌隊長だったという由緒ある聖歌隊）と交唱し、ミサ中の要所要所で我々が日本語の典礼聖歌を歌った。

ジュリア聖歌隊を指揮したポウル枢機卿から、日曜の一番大事なミサを外国の聖歌隊と交唱したのは初めてで、ヴァチカンにとって画期的なことだったこと、にもかかわらずグレゴリア聖歌の交唱はなんの問題もなくスムーズだったこと、要所要所の日本語聖歌も時宜を得ており、その日のミサの趣旨によく合ったものであったこと、などお褒めの言葉をいただいた。

ミサの最後は、司祭の「ミサは終わった。行ってキリストの教えを述べ伝えよ」という言葉で締めくくられるが、続いてその言葉をそっくり日本語にしたらくだ、ぞうと続いた「どうぶつえん」ーーもうひとつ、へびにお付き合いを。ということだが、へびの話題は洋の東西を通じてまことに多い。

「龍虎鳳大会」（ロンフウオンタァホェ）（龍は蛇、虎は猫、鳳は鶏の広東料理）のような料理もあり、嫌われそうだが、食べる話題もこと欠かない。

ともかく人間と蛇とのかかわりは長いのだ。旧約聖書『創世記』では、〝神がお造りになった獣の中で一番狡猾〟とされる蛇が、女（イブ）をそそのかす。園の中央にある樹の実について食べても触れてもいけないとされているが、「死ぬことは絶対にないよ。それを食べると君達の眼が開け、神のようになり、善でも悪でも一切が分かるようになるのを御存知なだけのことさ」（関根正雄訳・岩波文庫）と。こうして女が禁断の木の実を口にし、ついで男がそれを食べる。

原罪ー罪ある人間を生み出した物語に登場するのが蛇。身近にいた動物の中で、特異な姿をしていたことから、さまざまなエピソードが生まれてきたのだろうか。

☆

「どうぶつえん」では、歌詞にしてたった一行。子どもの実直な感想は「まいているね」とあるだけ。

魚は魚で、子どもも始めから手足はないものとわかっているのだろうが、陸上の動物で手も足もないのは、どことなく異和感がある（ミミズやイモムシが嫌われるのもそのためか）。その蛇がまるくうずくまっている。そこで第一印象が「まいているね」となったのだろう。

〝まいている〟状態がとぐろ。漢字では塒、蜷局と書く。塒は別の読みはねぐら。鳥の寝るところからとか、土に留まるからとか。蜷はニナで、巻貝の群の総称で、要は〝まいている〟ということだ。ただ、とぐろという音といい、その意味するところといい、いかにもおどろおどろしいニュアンスが感じられるところがおもしろい。

とぐろを巻くといえばうさん臭い輩がたむろしている状況をいう。小学生がそんな先入観なしに「まいているね」と書いた素直さが爽やかだ。

☆

半年先に迫った沖縄男声との合同演奏会。

沖縄の市場では名物イラブー（海蛇）が並んでいる。イラブー（エラブ）は沖縄料理の中でも最高級とされる料理で、滋養があり（うじにーむん）、薬になる（くすいむたん）として珍重される。燻製として売られているが棒状のものと〝まいている〟渦巻状のものとがある。

琉球料理の老舗の那覇の山本彩香さんは、著書『てぃーあんだ』（手の油、手づくりの意）で愛情溢れる筆致で沖縄に伝えられるイラブーの料理を語っている。

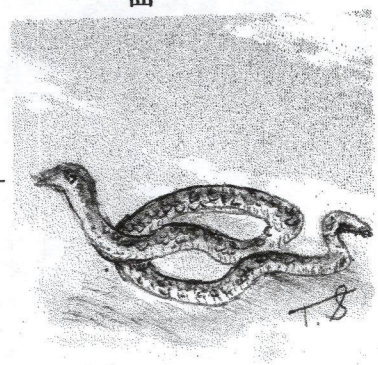
（カットも筆者）

いそべ男声メロディー・歌の博物誌22

へびはじっとまいているね

「どうぶつえん」ほりかわ やえこ詩・磯部 俶曲

澤野 勉（2T）



典礼聖歌「行け 地の果てまで」を歌い終えたところ、会衆（一〇〇〇人以上おられただろうか）から拍手が沸き起こり、あらためてもう一度歌う羽目になった。

普通、聖歌隊には拍手はしないし、ましてやアンコールなどということは聞いたことがないので、これは全く異例のことであったと言えるだろう。

サンピエトロ大聖堂の荘厳なたたずまい、白いガウンに赤い帽子といういでたちの枢機卿たちが何十人と壇上に並ばれる華麗さ、高い天井に反響する聖歌の響き、鍵盤が四段もあるパイプオルガンの壮麗さなどに心をうばわれ、グレゴリアのメロディーにのった司祭の司式とミサ曲、なによりも歌の心が理解できる日本語の聖歌によって、キリスト教徒も教徒でないものも大きい感動に包まれた。

「平和の祈り」に心をこめて

フィレンツェに近いアッシジは、広々とした麦畑、滴るような緑の包まれた丘の連なるウンブリア州にあり、美しい田園を見下ろす丘の上に古い石造りの家々が立ち並ぶ中世の面影を色濃く残す魅力的な町である。

ここに一三世紀の初め、聖フランチェスコが啓示を受けて修道会を作り、小さな教会を建てた。聖フランチェスコは清貧の人であり、天地自然と人間は一体で共生するものであるという考えの人であって、世界中の人から今も愛されており、その「平和の祈り」は殊に有名で、世界各国語に訳され愛唱されている。

我々はこの聖フランチェスコの遺骸が安置されている上に建てられた聖堂でミサを行った。こちらは日本から同道された池永大司教の司式による、全て日本語で行われるミサであった。司祭によるミサの進行も、ミサ曲「やまとのささげうた」も、典礼聖歌もすべて高田三郎の作曲による日本語のものである。

ミサのあと、地下の聖フランチェスコの遺骸の前で心をこめて歌った「平和の祈り」は、まさに感動ものであった。

聖チェチーリアで高田作品を

ローマではこのほか、国立の音楽学校である聖チェチーリア音楽院のホールで、高田作品ばかりの演奏会も行った。男声で典礼聖歌と組曲「残照」、混声でミサ曲「やまとのささげうた」「水のいのち」など。

連日の二つのミサ曲とこの演奏会を全て取り仕切り、その殆どを指揮された須賀監督は、全ての力を出し切られ、そのお疲れは大変なものだったと想像されるが、いつものCバーと同じようにその夜の打ち上げではお元気そうだったので、一同ほっと安心した。

演奏会のホールはローマの繁華街スペイン広場の近くにある三〇〇人程度の小ぢんまりしたホールだが、さすがに本場のホールとあって内装も立派で響きもよく、気持ちの良い演奏ができた。ただ日本と違ってホールの入り口は普通の石造りの建物の入り口と変わらず、よく見ないと見逃しそうだし、ロビーは簡素そのもの、客用トイレも小さいものしかなく予想外であった。

しかしこのホールは人気が高いらしく、使用予定もビッシリ詰まっていて、我々の演奏が終わるのを待ち受けていた別の楽団が、すぐ次の演奏会の準備に入ってきた。よくこれだけのホールが確保できたものと思う。

・

旅行中お腹をこわしたり、長距離バスに揺られ続けたり、アイスランドの噴火の成行きに心配したり、いろいろハプニングもあったが、参加者それぞれが得た大きい感動と思い出は、何物にも代えられないものとなったことは間違いない。



女声アンサンブル
SDSコンサート（Snow Drops Singers）
7月31日(土)14・30開演 フィリアホール
（東急田園都市線 青葉台駅2分）
指揮／浅野深雪 Pf／永井博子
曲目／日本浪漫歌抄（初恋、お菓子と娘、ゴンドラの唄 他）
ロータスの園の中（新川和江詩、鈴木輝昭曲）
■1500円
（永井さん扱い）

東海メールクワィアー
第53回定期演奏会－高田三郎没後10年記念－
6月27日(日)13・30開演 愛知県芸術劇場
指揮／須賀敬一・今井邦男 ■2000円

東海メールクワィアー
第53回定期演奏会
－高田三郎没後10年記念－
2010年6月27日(日)13:30開演
愛知県芸術劇場コンサートホール
男声合唱とピアノのための
「イザヤの預言」
男声合唱組曲
「野 分」
男声合唱組曲
「残 照」
男声合唱のための
「典礼聖歌」
指 揮／須賀敬一、今井邦男
ピアノ／高田江里、中村有木子 オルガン／木島美紗子
全自由席 2000円（10歳未満児の入場はご遠慮下さい）
お問合せ先 東海メールクワィアー
川瀬 FAX:0568-35-0802 E-mail:kawase@ma.ccnw.ne.jp
チケットお申し込み：中嶌 暁 電話・FAX052-811-4330
HP http://choir.zive.net./tmc/

早瀬先生　入院

早瀬先生は昨年から体調不良を訴えておられましたが、検査の結果、リンパ腫の一種と判明し、現在入院治療中です。時間はかかるけれども「良くなりつつある」と、先生から夫人を通じてのメッセージをお受けしました。

澤登（2B）夫人によると、澤登さんの娘さんが4年前に同病を発病し、早期発見で進行抑止できたことから、早瀬先生夫人との情報交換を続けておられました。九州地方に多い病気で早瀬先生は九州出身、澤登さんの娘さんは在住経験ありということで発病したとのことです。早瀬先生の一日も早い治癒をお祈りします。（河合）

（5月12日）

合・唱・連・盟・だ・より

江東区合唱連盟

5月26日（水）江東区合唱連盟の総会が開催されました。2年前に合唱連盟となって、2回目の総会です。

当団からは、委員に宮田茂（1B）、監査に河原季佳（2T）が立候補してそれぞれ選任されました。任期は2年です。

江東区民合唱祭は2012年に第50回を迎えるので、記念合唱祭とすることと、会場に収容人員等の関係から、ティアラこうとう大ホールを予定することが決定しました。記念合唱祭については連盟委員にもノウハウがなく、皆さんからの積極的なご意見をお待ちしています。

東京都合唱連盟

野本明裕さん（東京都合唱祭実行委員長、コールシャンティー指揮者）は合唱年齢の高齢化などから合唱人口の減少に危機感をもっておられ、いま都連盟では、上野動物園、府中の森公園、浅草寺境内などで青空コンサートを開催しています。加盟団体が単独、複数で演奏しているということです。（宮田）

総務だより　5月23日運営委員会報告（出席13名）

■ボイス・トレーナーについて

早瀬先生が加療中であることから、機会をみて今後の方針、後継者について相談、推薦をお願いする。

■東京都合唱祭について

日程／7月25日（日）Vブロック
出演時刻／16時57分
会場／五反田ゆうポート大ホール
指揮／須賀敬一㊫／永井博子
曲目／三声のカノン「雪」
服装／ポロシャツ、チノパン
当日のスケジュール／
13時ー定例練習（豊洲）
（宮田は15時10分会場へ）
16時ー全員会場集合
16時30分～18時30分
Vブロックを座席で聞き、
4番目に出演する。
（Vブロックは出場13団体。うち男声は3団体）
その他／更衣室あり。会場でのリハーサルなし。
打ち上げ／さくら水産

・

来年から合唱祭会場が新宿文化センターに移転する。期日は7月16日（土）、17日（日）、18日（月、祝日）、23日（土）、24日（日）

■訪問（出）コンサートについて

現在までに左記の候補が挙がっている。

①八王子の施設（理事者側からの要請あり－澤野）
②市川の大学附属病院（地元団体の出演が盛ん－河合）
③杉並区のひこばえ幼稚園（文京区大和郷幼稚園向山園長知人－宮田）
④江東区南砂小学校（川辺先生）

須賀さんの日程を見てスケジュールを立てる。年間2、3件に限定することを確認。

■東海メール・クワイアー髙田三郎没後10年記念演奏会（6月27日愛知芸術劇場）にお祝い贈呈。（須賀さん指揮あり）

■豊中混声合唱団第50回演奏会
東京演奏会（7月18日かつしかシンフォニーヒルズ）にお祝い贈呈。（須賀さん指揮あり）

●沖縄合同スケジュール

予定日程・時間の詳細が到着。6頁スケジュールを見よ。

来客

○堀　正彦さん

元・大阪大学男声合唱団指揮者。現在は千葉県市川市在住、指揮活動中。須賀監督には学生時代教えを受け、「今日は先生に会いにきました」ということで、5月9日の練習とCバーに出席、好きな酒を楽しまれました。一昨年の沖縄男声との合同コンに来聴。

○岩瀬邦生さん

元団員、2B。早大グリー32年卒。建築家。磯部邸設計者。5月23日の練習に参加、Cバーも楽しんでいかれました。

消息

◆山村尚康（1T）さん退団

先月入団されましたが、都合により退団したいとの意向があり、総務より慰留しましたが、矢張り退きたいということでした。

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

須：須賀監督指導・指揮

■２０１０(平成22)年

6月27日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー　１T　(運委)
7月11日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー　２T
25日(日)	13:00～	定例練習	豊洲	
	第65回東京都合唱祭 ／於・五反田ゆうポート(16:00集合)			
☞	16:30～18:30 Vブロック	曲目／三声のカノン「雪」	★服装／ポロシャツ、チノパン	
8月 8日(日)	13:00～17:00	定例練習	古石場	
22日(日)	13:00～17:00		豊洲	
☞	**年度総会**	定例練習		Cバー　１B
9月12日(日)	13:00～17:00	定例練習	豊洲	Cバー　２B
26日(日)	**第19回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭**			
10月2、3日	須賀監督沖縄出張			
24日(日)	**第48回江東区民合唱祭**			
11月 6日、7日	宮城敏先生来団(予定)			

■２０１１(平成23)年

1月23日(日) **第９回沖縄男声合唱団との合同演奏会**　於／那覇市民会館

予定曲目／いそべ単独曲／組曲「優しい愛のうた」全５曲(前奏曲おやすみなさい、おにいちゃんの成績、さかな、どうぶつえん、「片耳の大鹿」よ)
沖縄単独曲／いちじく、大ずもう、ゴキブリの唄、砂持節、鳩間節、谷茶前之浜
合同曲／須賀敬一指揮／組曲「啄木短歌集」、三声のカノン「雪」
宮城 敏指揮／男の子の子守歌、「西表民謡によるオマージュ」
アンコール曲／

☞ 予定／22日(土)19:00　合同曲中心練習(ＭＯＡ青少年研修センター)

23日(日)10:30～11:15	沖縄男声リハーサル
11:15～12:00	いそべ男声リハ
昼食	
12:00～12:30	混声リハ
13:00～13:45	合同リハー須賀指揮
14:00～14:45	合同リハー宮城指揮
14:45～15:00	出入、立位置
15:30	開場
16:00	開演
18:00	終演
19:30	打ち上げ

編集後記

◆2頁のまど夫妻の写真、伊藤英治さん(編集者、まどさんの詩の傘を始め他の詩人の詩集なども編集)から送って戴きました。ありがとうございました◆１００歳のまどさんと寿美夫人。昭和14年台北の教会で、鹿児島から姉のお産の手伝いに来ていた寿美さんと出会い、結婚されたと年譜にあります◆この写真を目にして、前に矢張り伊藤さんから送ってもらってあった「とうさんーかえうたー」(「ぞうきん」の替え歌)を思い出しました。写真に添えるとまさにピッタリ◆結婚当初の詩に、「びわ」や「オサルノヤキュウ」があります。一方はびわの実に優しい家族を重ね、一方はナンセンスユーモア。まどさんの詩の二つの持ち味がはっきり出た詩です◆同じころ、寿美夫人の誕生と自分の誕生とを重ね合わせてうたった、相聞歌と言ってもいい「はるかな歌ーわが妻の生まれし日のうた」があります。妻が生まれたとき、「その日の俺の一年生」という一行まで読む時、夫人への愛情、そして子どもと大人の心の中を、自由に行き来できるまどさんの気持を想像し、何回読んでも溜息が出てしまいます。　(河合)

聖地に歌う

2010 5/25(火) 中日(夕) (上)

高田典礼聖歌

ミサで合唱 悲願達成

ローマカトリック総本山バチカンと、イタリア中部の聖地アッシジを舞台に五月上旬、日本の合唱音楽の歴史に特筆される「一期一会」の歌唱ミサ（典礼）があった。名古屋生まれの作曲家高田三郎（1913～2000年）が紡いだ祈りの調べを、その原点の聖地で歌い、世界平和を祈ろうと日本各地から現地に結集した合唱ツアーの一行に同行取材した。（長谷義隆、写真も）

ローマに、ひときわ高くそびえるバチカンのサンピエトロ大聖堂。二日昼前、その奥深く、ルネサンスの巨匠ミケランジェロが設計した壮大なドームを、日本人合唱ツアー百八十人の歓喜の歌声が満たした。

♪行け（ゆ） 行け 地のはてまで すくいのおとずれを つげーるたーめーに…

高田が作曲した日本語聖歌（高田典礼聖歌）の「行け地のはてまで」。荘厳ミサの終曲となったこの歌の半ば、参列者席はドッとわいた。

バチカン中央祭壇で催される日曜礼拝の荘厳ミサは、カトリック信徒十億人にとって最も神聖視される儀式。ミサで歌い継がれてきたラテン語のグレゴリオ聖歌は、西洋音楽の源流であり、合唱音楽の原点である。

この場で、バチカン公認で高田の聖歌を日本の合唱団が歌うのは初めて。高田と親交があったローマ在住のガブリエル・ブドロー神父（六七）が二年前、東海メールの要請を受けて動いた。グレゴリオ聖歌を大聖堂付きのジュリア聖歌隊と東海メールの選抜組が合同合唱し、さらに、高田典礼聖歌五曲を歌う一例のない合体版の荘厳ミサが実現した。



須賀敬一（手前）の指揮で高田典礼聖歌を高らかに歌う合唱団員たち＝２日、バチカンのサンピエトロ大聖堂で

数千人の喝采

歌い終えると、ミサでは通常ないことだが、聖堂を埋めた数千人から拍手喝采（かっさい）。さらに異例のアンコールがかかり、合唱団中核の社会人男声合唱団「東海メールクワィアー」（名古屋市）の面々はドッとわいた。

バチカン中央祭壇で催される日曜礼拝の荘厳ミサは、カトリック信徒十億人にとって最も神聖視される儀式。ミサで歌い継がれてきたラテン語のグレゴリオ聖歌は、西洋音楽の源流であり、合唱音楽の原点である。

この場で、バチカン公認で高田の聖歌を日本の合唱団が歌うのは初めて。高田と親交があったローマ在住のガブリエル・ブドロー神父（六七）が二年前、東海メールの要請を受けて動いた。グレゴリオ聖歌を大聖堂付きのジュリア聖歌隊と東海メールの選抜組が合同合唱し、さらに、高田典礼聖歌五曲を歌う一例のない合体版の荘厳ミサが実現した。

「五百年の伝統を持つジュリア聖歌隊と一緒に歌うなんて、恥をかくだけだ」。そんな日本側の心配は吹っ飛んだ。バチカンのピエール・ポール楽長（五二）は「素晴らしい歌唱ミサになった。日ごろは辛口の長老司教たちも大変喜んでくれた」と激賞した。

没後10年記念

東海メールの都築義高会長（七二）＝愛知県豊田市＝は「生き方を問い生きる喜びを歌う高田典礼聖歌こそ、男たちを救う歌」として、その男声合唱版の普及に一九九二年から取り組んできた。

「高田先生の没後十年のことし、バチカン、アッシジの両聖地で高田典礼聖歌を歌う悲願が、最高の形でかなった」。こう話す都築会長の携帯電話に、東京から高田の妻留奈子さん（九二）から、ミサの成功を祝福する涙声の電話がかかってきた。

「奇跡が起きました」

同大聖堂で、車いすの男性と一緒に聖歌を歌う女性の姿があった。北海道小樽市の秋野恵美子さん（五八）だった。小樽保健所長の傍ら教会オルガン奏者を務める。音楽仲間から聞いて、脳梗塞で二年前に倒れた脳外科医の夫、実さん（五八）の車いすを押して小樽から駆けつけた。

「ふだん教会で歌ってる日本語の聖歌が、こんなに素晴らしい曲なのか、と再発見。日本人として誇らしかった」と秋野さん。実さんは感動を励みに、機能回復訓練に立ち向かっている。

聖地に歌う

2010 5/26(水) 下 中日(夕)

世界平和を祈る

核廃絶へ…心は一つ

「唯一の被爆国として、あらゆる兵器を造ること、所有することをやめ…和解と連帯による紛争解決の道を」「数え切れないほど多くの人々が貧困、抑圧、差別の中で人間としての尊厳を奪われて、苦しみの叫びを上げています…」

五月一日、イタリア中部の聖地アッシジ。平和と謙遜を説いた清貧の聖者が眠る聖フランチェスコ教会の中聖堂。ここで、歌唱ミサ「世界平和を祈るミサ」をあげた名古屋市の社会人男声合唱団「東海メールクワィアー」の都築義高会長(七二)、鈴木順副会長(五四)、テノールの豊田千之さん(五〇)らが、核廃絶や人権擁護を訴える共同祈願を代わる代わる朗唱した。

寄り合い所帯

初めて十九都府県の百八十人の合唱ツアーの一行が一堂に集った。寄り合い所帯でこの日、顔を合わせるメンバーも多かった。高田三郎の合唱音楽に魅せられ、指揮者の須賀敬一(七〇)やオルガニスト木島美紗子(六二)の演奏指導を受けている点では共通しているが、心を一つにするには大きな求心力が必要だった。



世界遺産の聖フランチェスコ教会で「世界平和を祈るミサ」をあげる合唱団員たち＝1日、イタリア・アッシジで

それが、被爆国日本から平和を発信することだった。平和の祈りで知られる聖フランチェスコが眠るアッシジへの巡礼は、歌う心を一つに結集する試金石となった。

中核を担った男声合唱陣は昨年三月に長崎市、八月は広島市を合唱巡礼。アッシジはその集大成だった。

高田の作曲した典礼聖歌合唱を軸に特別に編んだ歌唱ミサで、ミサをつかさどる聖職者にも音楽的な朗唱が要求される。日本から同行した池永潤・大阪大司教(七三)は二年前から、木島らの指導を受けてこの日に備えた。

賛同した在アッシジの谷村達郎聖フランチェスコ修道会司祭がミサに合流。特別態勢がとられた。

「渾身の演奏」

合唱団員たちの意気込みは半端ではなかった。高校教諭だった京都市の柴田英夫さん(五七)は職を辞してやって来た。「教師たる以上、二十四時間、教師でなくてはと思ってきた。一週間以上、生徒を放って留守にはできない」。三十年間勤めた学校をやめ、非常勤講師に転職して参加した。

合唱ツアーの最後は二日夕。ローマ中心部の聖チェチーリア音楽院ホール。高田作品を合唱する演奏会を催した。終演後、自らも合唱団で歌っているという女性の大学教授に感想を聞くと「世界中を演奏ツアーしている有名な合唱団ですか？　アマチュアだって、信じられない」。目を丸くして、手をたたいた。

ローマ在住の声楽家松本康子は「高田の代表作である合唱組曲『水のいのち』は、渾身の演奏だった」と評した。

持病をおして指揮をやり遂げた須賀はその夜、ローマ市内であった打ち上げ式で、上機嫌であいさつした。「天国の高田先生なら、例の口調でこう言うだろう。よかったぞ、ばかやろう、って」

（長谷義隆）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２０１０年　６月　　号外

発行代表者:宮田　茂(総務)〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2　☎03-3926-8369　FAX 同
E-mail　isobechorus @hotmail.com　　URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

磯部　和先生　急逝

6月9日、午前1時30分、
磯部　和先生が急逝されました。



いそべかず先生(高久憲撮影)

磯部周平さんのお話によると和先生は4月頃体調不調を訴えられ、5月初旬、徳洲会病院での検査の結果、肺ガンからくる脳腫瘍が進行していることが分かり一時復調もされましたが、病院の手厚い治療にもかかわらず6月9日に他界されました。苦しむこともなく安らかに逝かれたとのことでした。享年87歳。

6月12日、カルチャーBONDS藤沢にて通夜が営まれました。参列者約200名。スピーチと音楽と献花による無宗教の通夜でした。澤登典夫さん(いそべ男声)の若き日の和先生の姿、西脇久夫さん(ボニージャックス)が磯部ご夫妻に褒めてもらいたいためにやってきたことの数々のエピソード、吉岡久恵さん(ダーメンコールいそべ)の涙ながらに語る楽しかった旅行の話が続き、いかに指導者として、詩作家として、そしてすべての人々から好かれる存在としての和先生のお姿が浮き彫りにされました。

さらに和先生28歳の時の歌唱という「花の心も知らないで」(田村しげる曲、NHKラジオ歌謡)が会場に流れ、また「あじさいあじさいオルタンシア」(磯部和作詞、磯部俶作曲、歌ボニージャックス)が流されて、一同和先生の美声と詩才とを静かにかみしめました。

モーツァルトのクラリネット五重奏曲のCD(周平さん演奏)が静かに流れる中を献花が行われました。

翌13日11時30分から告別式。阿久津篤美さん(潮笛会)の44年もの長い先生とのお付き合いの話、蟻生栄子さん(クールオルタンシア擁者)の「和先生は扇子の要(かなめ)のように人の仲をもってくれる方」という話に参列者はうなずき、堤敦子さん(ソプラノ)の「今日は和先生の告別式じゃなくて送別会だと思っています、明るく送ります。来年の演奏会で先生の詩を歌うので、インスピレーションが沸くよう助けてください」という言葉に和まされ、続いて坪井俊策さん(いそべ男声)は「61年前に早大グリーの演奏会で急遽歌い手の代役を和さんにお願いして『ハバネラ』などを歌ってもらったのがお付き合いの最初」というエピソードを話されました。

そして西脇さんの話があって、「ピアノ調律師」(磯部和詩)の朗読(橋本紀子さん)があり、献花。そして周平さんの指揮で「思い出のリュウデスハイム」と「遥かな友に」の全員合唱。

最後に周平さんから、和先生の病状と料理好きな家庭人としての和先生の姿が紹介されて、歌に、詩に、ドイツ語に、音楽指導に、多方面に才能を発揮され、皆から慕われた和先生を改めて見つめ直した告別式が終了しました。

火葬場まで見送った方々は60人を越え、一同、和先生のご遺徳の計り知れない大きさを痛感させられました。

なお当団団員も通夜・告別式に多数参列、一部は事務的なお手伝いも致しました。



いそべとし記念男声合唱団ニュース

２０１０年　７月　第３５０号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2　☎03-3926-8369　FAX 同
E-mail　isobechorus @hotmail.com　　URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同



→「いそべかず詩の朗読りサイタル」(2009年3月28日)

特集

かず先生 追悼

随分 長いお付き合いだったですね！

坪井俊策（ｺﾝﾄﾗ・相談役）

私の和先生との最初の出会いは、今から62年前の昭和23年6月に遡ります。

当時、私ども早稲田大学グリークラブはその前年の昭和22年から俶先生に指揮・指導を仰ぎ、充実した合唱活動を行っておりましたが、戦後初めての定期演奏会の開催を企画し、会場も大隈講堂を確保しました。但しグリークラブ単独では荷が重すぎるので、当時、俶先生が指導しておられた四家文子さんのお弟子さん達で編成された「四つ葉会女声合唱団」と、ソプラノ独唱(誰であったか記憶にない。多分、部員の関係者)の賛助出演をお願いし、昭和23年6月の開催が決まりました。

ところが、演奏会当日の朝になって、ソプラノ独唱者から「体調不良のため出演不能」との電話！　我々幹部は右往左往、為すすべもなく、俶先生に事情を報告すると「女房に電話するからちょっと待て」と、そして「代役OKだから誰か迎えに行ってくれ」と、私は早速、タクシーで磯部先生夫妻の住んでおられた王子・尾長橋の和先生の実家に急行し、待ちかまえておられた和先生と大隈講堂に戻ったのでした。

この時、和先生が歌われた曲は、ビゼーの「カルメン」のハバネラとして知られている「恋は野の鳥」とトマの歌劇「ミニョン」の中の「君よ知るや南の国」の2曲でした。

私事になりますが、私は中学時代(旧制)からクラシックを愛好しており、生意気にもカルメンのハバネラと言えばニノン・ヴァラン、「君よ知るや南の国」と言えばロッテ・レーマンと決めつけていたのですが(そのころの媒体はSPしか無かったし、生の演奏を聴く術もなかった)、和先生の生の歌を聴いて、その新鮮さに圧倒されて仕舞いました。

そして、その名唱の秘密が何処にあったか？　を知ったのは、それから58年後の平成18年（2006年）でした。この年、出版された『いそべかず　うたのアルバム』には、武蔵野音楽学校の友人達とオペラを楽しんだNHKでの情景が描かれています。

この6月1日(火)～10日(木)理由(ゆえ)あってドイツ・ガンバッハを訪れました。

8日(火)にガンバッハ混声合唱団のいつもの友人達10人とワイン、ビールを飲み交わし歓談しましたが、元団長のディエター・ネック氏が珍しく「イソベ・カズ」は元気かと問いかけてきました。「最近、余り体調は良くないようだ」と答えると「宜敷伝えてくれ」との事。

そして翌日帰宅し、訃報のFAXを見て驚いた。きっとあの頃、和先生はネック氏に「さよなら」を言ったのではないかと。

（次号に続く）

「メンソーレ 沖縄」

宮城 稔（沖縄男声合唱団団長）

磯部和先生と沖縄男声合唱団とのお付き合いは1979年以来です。

その年に初めて「いそべとし男声合唱団」と沖縄男声合唱団の合同演奏会が那覇で実現しました。

磯部俶先生は合同演奏会の指揮で3度沖縄に来ましたが、常に和先生もご一緒でした。

和先生とのお付き合いが緊密になったのは、1992年に沖縄男声の創立20周年記念演奏会を那覇で行ったときでした。

そのとき磯部俶先生を客演指揮に招いて、磯部和作詞、磯部俶作曲の「パウラ」を演奏しました。和先生にナレーションをお願いしましたが、うきうきするようなナレーションに皆が弾むように歌っていたことを思い出します。

さすがは元NHKアナウンサーということで、とても感心させられました。

その中の1曲「思い出のリュウデスハイム」は私たちの愛唱歌の一つとしていまでも歌い続けています。

2000年には沖縄男声合唱団で「磯部俶追悼演奏会」を那覇で行いました。

「フラウエンコールいそべ」も賛助出演し、沖縄男声合唱団の家族コーラス（混声）と一緒に、磯部和作詞、磯部俶作曲の「メンソーレ沖縄」を和先生の指揮で歌いました。うれしそうに指揮する和先生の姿は、「沖縄大好き」が口癖の姿そのものでした。

その歌詞の一部にこんな部分があります。

〝日暮れのまちに灯（あか）りがともるころ
四つ竹のゆるいリズムに泡盛のグラスを傾ければ
過ぎゆきし日のあの夢が
私の胸に
ンジチャービラ 沖縄
またの日に。〟

＊ンジチャービラ＝「行ってきます」「さようなら」

実はこの演奏会の後に、和先生はフラウエンコールの仲間と4名で東京からンジチャービラということで沖縄に遊びにやって来ました。そのときご一行を首里や沖縄南部に案内したのは沖縄男声の団員の奥様方3名でした。

琉球舞踊を見せる施設で舞踊鑑賞をした後、沖縄で恒例のカチャーシーの音楽に合わせて会場の人々が踊り出したとき和先生は率先して踊ったそうです。沖縄の3名は踊ることが出来ず、先生の踊りに見入って感心するばかりだったようです。

夕方、琉球料理を食べながら泡盛が出ると、周りの心配をよそに、和先生はストレートでクース（古酒）をチビリチビリと風味を味わって楽しんでいたそうです。

沖縄の自然が好きで、生活が好きで、とりわけ泡盛が好きで、沖縄に来ると元気が出るようでした。

「メンソーレ沖縄」の歌詞は磯部ご夫妻の沖縄への思いなのです。

また沖縄へ行きたいと言ったいた和先生。いまではメンソーレと声をかけることも出来なくなりましたが、沖縄をこよなく愛した和先生は私たちの中にいつまでも一緒にいます。

＊メンソーレ＝「いらっしゃいませ」「ようこそ」

祝福の気持ちで…

鈴木由紀子（知立女声合唱団・指揮者）

和先生のご病気はすこしも存じあげませんでしたので、お亡くなりになったとのファックスをいただいた時は、まさか！ と本当におどろきました。

丁度、木曜日の練習日の朝のことでしたので、そのまま練習し、5分の休憩時に皆の前でファックスを読みあげました。すすり泣きでいっぱい。私は木、金、土と一日中ポロポロ泣いていました。

木曜日の夕方には周平先生直々のお声で「もしやご存知ないといけないと思いまして～」と。何というご配慮でしょう！

私が知立女声という団を通してでなくひとりの女性として、年上の和先生を、ほとんどお会いすることなどないに等しいながら、ふしぎなほどの無条件に慕いその包容力の中にたっぷりとした幸せを頂いていた年月を、周平さんも何となくおわかりになられていたことが、何ものにも代え難く嬉しかったのでした。

・

俶先生は、今から20年前、亡くなる1998年まで、カトレアの審査委員長として、私の前にあらわれ、ひいきにして下さり、先生がよしと思われそうな時だけいいお点が頂けた、とそんな気がしました。

「春の手紙」（間房ひこ詩・磯部俶曲）をCDにいれるのに参加しなさい－と言って下さった時、そのためのご指導に来知されたのは1992年かしら。93年にCD。その後、名古屋でのコンサートに、「あじさい」「朝の讃歌」など、俶作品のステージをするというので、又々知立までいらしていただきました。（中略）

自然体のステキな紳士に、まだ若かった私はすっかりいかれておりました！

あの通りの方ですから、はるばる私がコンサートに行ったりしても、「おや来たの」とひとこと。それっきり私はオッ放り出されているだけでしたから、可愛想に思って和先生がやさしくして下さったのがキッカケです。

・

そしてサッサと俶先生は亡くなってしまい、それでもいそべ男声さんにも、木せい会にも、ダーメンコールにも、何もかもにあの素敵だった俶先生の雰囲気や香りが色濃くずっと残されていたので、私は和先生のおのろけの中にさえ、その

資3段目に続く

かず先生　ありがとうございました

須賀敬一（いそべ男声幕僚）

突然の訃報でした。

何か不都合があるとか伺っていれば、こんなショックはなかったのですが、胸がつまりました。

俶先生亡きあとの12年、和先生は私たち磯部グループの象徴、友情のシンボル。その輪の中にいて下さる先生の存在が励ましでありました。

その和先生が突然いらっしゃらなくなるんです！

1979年、豊中混声合唱団は横浜での全日本合唱コンクール全国大会に出場しました。全国大会に顔を出して3年目、はじめての銀賞でした。大阪に帰った翌日、俶先生から電話がありました。

「和が聴いてきたよ。課題曲のブラームスがよかったそうだ。おめでとう。」

恩師からの祝意はとても嬉しい。

ところがほどなくコンクールの批評が出ます。畑中良輔先生「非常に美しい洗練されたブラームスだった。でもあそこまで行くとシューマンだね。ブラームスとシューマンの違い、合唱指揮者はその辺りの認識が甘い。」バッサリでした。

落ち込む私に、今度は和先生「『ハーモニー』読んだわよ。落ち込んでいない？　前衛の豊中、現代曲の須賀さんだそうだけど、私はあのブラームスを聴いて須賀さんはロマン派だと思ったわよ。私はむしろロマン派を奨めるわ。」

ドイツ歌曲の和先生の励まし、どれほど勇気づけられたかわかりません。

でも、FMC、OMP、神戸中央、京都エコー、彼らと戦うために前衛作品は私にとってかけがえのない武器だったのです。自分の一番の特質を見抜いてくださった和先生の言葉を忘れる訳ではないけれど、当時の合唱コンクールの流れの中で前衛を手放すことは出来なかったのです。

でも和先生はことあるごとに「須賀さん、ロマン派よ、もう一度聴かせて。」と仰り、「パウラ」のワルツを大変喜んでくださったのです。

もう本格的なロマン派の合唱曲を演奏する機会は失われてしまいましたが、その資質が、いま「いそべ男声」で生かされているのでしょうか。磯部作品こそまさにロマン派そのものですから。

はじめてお会いして60年、私たちは今も磯部先生ご夫妻の掌の上にいます。

大阪から鵠沼にお邪魔したらレッスンはそこそこ、いつも3人で大宴会でした。湘南の美味しいお魚、手作りのお料理、美酒。たのしい語らい。ありがとうございました。

安らかにお休みください。

あっ　待ちかねていらした俶先生とのダンスかぁ。

人の残り香を全身に感じて、そのためだけに親しみとお仲間に入れて頂くのがうれしかったのでした。

今でも坪井さんや澤登さん、宮田さんにお会いすると俶先生と同じ素敵な印象をうけて、とても満足なのです。

・

和先生とは、お料理のはなしやおしゃれのはなし、ドイツ語のこと、私は英語の「カントリーダイアリー」を訳したものまでお送りしたりして、合唱とは関係のない、女同志のおしゃべりを一年に数回、それは楽しく致しました。（中略）

テープをお送りするたびに、うまくても下手でも「知立女声はホントにうまいわね！」と、合唱については俶先生の作品ならいつもこんな風に手ばなしでお電話くださったのに…

・

四月に三月のコンサートの録音をお送りした時にはおでんわがなかったのです。胸さわぎがして五月初めに電話した時には団の女の方が出られ、ことばをにごされ、私はハッとしました。でもおききすることも出来ませんでした。

その時からまる一ケ月！

今はもう、私は和先生のようないのちの終り方をうらやましいと祝福する気持になりました。

生と死はひとつにつながっている。心ゆたかに生きれば、祝福の死を迎えることができるーーと。

ジンフィズと春隣の句

澤野勉（2T）

毎年、年明けの大きなイベントになっている「新春ファミリーコンサート&パーティー」で、もう何年も〝にわかバーテン〟をつとめています。このバーコーナーでのお客様と、その場でのドリンクをめぐってのお話しすることも、この席の楽しみのひとつです。

バーの常連、などと言ってはいけない重鎮のいそべかずさんーー。いつもご所望になるのがジンフィズでした。当初、レモンは買ってあったものの、じつはスクイザー（レモン搾り器）の用意がなかったのですが、この賓客からのご注文をいただいてからは、ちゃんと用意するようにしました。

「ジンフィズお願い！」というあの懐かしい笑顔と、もうお目にかかれないと思うと、何とも淋しい限りです。

・

七年前、妻が他界した折、お手紙をいただきました。「忘れな草」というファイルに今も大切にとってあります。お得意のドイツ語が入っているーー。

「本日、いそべ男声ニュースでIhre liebe Frau 伸子さまが、うつし世を去られたと言う記事、とてもびっくり致しました。中国へのKonzertreiseの朝、Hotelの窓から

お二人が散歩をなさっている姿が脳裏に焼きついています。」とあり、次の句が――。

春隣　夕焼け空のグラディーション

春隣（はるとなり）は、もう春はそこまで来ているという時期の季語。グラデーションはぼかし、濃淡の変化のこと。春を待つ気持を、詠んでいるこの句に、故人を哀悼してくださる、たおやかな詩心を感じたものでした。

和夫人のこと、あれやこれや

徳田　浩（1B）

情報のネタモトは和夫人だった！

何から書こうか。私は昭和29年秋にグリークラブの新幹事として磯部先生宅に挨拶に伺った時、和夫人に初めてお目にかかった。先輩から「物凄く美人でとても優しい奥様、びっくりするなよ！」と叩き込まれていたが、文字通り〝聞きしに優る〟強烈な印象を受けたことが鮮明に記憶に残る。その後、磯部先生の弟子として、新聞記者として、そして書籍の執筆・編集者として、ご夫妻に接する機会が格別に多くなり、和夫人の想い出・エピソードは脳裏に無数にある。だがやはりあの時のことから書こう…。

私は昭和62年に『磯部俶音楽生活40年の足跡』を執筆、平成3年に『遥かな友に～わが音楽人生』を編集したが、あの頃、私は藤沢のご自宅で、延べ100時間以上密着取材した。先生に関する資料は全て火事で焼失したこともあって、私が集めたささやかな資料をもとに先生の記憶を引き出すしかない。ところが先生は過去の足跡に頓着しない主義。〝明日何を書こうか、どう歌わせようか、が大切で、過去は忘れることにしている〟と…。結局、昭和21年ご結婚以来の多彩なストーリーや業績は、殆ど和夫人から聞き出すことができた。この2冊の本は和夫人の協力がなければ間違いなく世に出なかった。途中で私がさじを投げていたに違いない。後に、ご夫妻に同行したあるパーティーで「私のことは私よりよく知っている男です」と紹介されたが、俶先生に関する私のネタモトは全て和夫人だった。

取材の時の3人の長時間談笑はまさに至福のときだった。午前のお茶、昼食、そしてたそがれ時になると絶妙のタイミングでお酒が出てきた。和夫人のさりげないもてなしの心に感激し、ただただ幸せを感じた。

蛇足ながら、取材の後は、必ず磯部さんと藤沢駅まで歩きながら、和夫人のウラ（事実確認）を取った。

あの時の苦労を思えば
どんなことでも耐えられる

磯部さんはとてもシャイなところがあって、ご自分の結婚のことは断片的にしか口に出してくれない。〝忘れちゃったよ。詳細は和（かず）に聞いておくれ〟。東唱での出会いからアッと言う間の結婚で、磯部さんが小原さん射止めたことは仲間でも評判になった。ところが和さんは磯部さんを戦前から知っていた。昭和16年、磯部さんの処女作「木せい」に続いて、創作合唱公募で入選した「笛吹き」「草の上」を初演した「ユーフォニックコーラス」に和さんがトラ出演していて、これらの作品の素晴らしさに感嘆していた。

〝戦後早々、NHKで初めて逢った二人…、あの素敵な作品は貴方が作曲されたのですか！！〟当然のように、尊敬が恋愛に移行していった〟。私が持参したゲラに二人はニッコリ頷いてくれた。

しかし、二人の結婚生活は経済的に厳しかった。作曲ではなかなか稼げない時代。〝今日はグリーから指揮のお礼が出るはず〟と心待ちしていたら、磯部さん〝今日は出なかったよ〟。夕食がご飯抜きの日もあった。そんな頃、周平くんが誕生。当時は東十条の安アパートに住んでいた。和さんは東唱に復帰して家計を支えたが、ヨチヨチ歩きの周平くんが必ず同行し、指揮者も公認だったという。和さんは〝あの時の苦労を思えば、どんなことでも耐えられます。でも毎日がとても充実してましたよ〟述懐したが、今これを書きながら、NHK朝の連ドラ「ゲゲゲの女房」に、あの頃の和さんがダブって仕方ない。

パウラの旅

磯部さんはモテる男の典型のような人だっただけに、和さんが〝今は本当に幸せですが、振り返ると経済的に楽になってからいろいろ苦しんだ時期もありましたね。決してうわべの美しいことや楽しいことばかりではありませんでした〟とポツリ話した時は驚いた。他愛ない噂話に胸を痛めたこともあったという。

しかし、私がお二人の限りない愛を感じたのは、昭和63年にお二人の手で甘美なワルツ「思い出のリュウデスハイム」が誕生した時だ。

和さんがほぼ1日で完成した詩に、磯部さんも一夜で曲を付けた。美しい少女パウラに出会った旅の青年の、たった一夜だけの恋心をテーマにした、何ともロマンに溢れた作品。私はお互いの素敵なラブレターと感じた。作品の発表は和さんのお誕生日パーティーの席だった。私は和さんに〝この青年とパウラをこのまま別れさせてしまうのですか。ぜひ続編



→和先生の指揮姿（2009年新春コン&パーティー）

を書いてハッピーエンドにしてくださいよ“とけしかけ、組曲「パウラ」が誕生するきっかけになった。

翌年春、ご夫妻は取材を兼ねて1カ月間、ドイツ、オーストリアののんびり旅行を満喫された。途中頂いた絵葉書に、〝パウラの構想がほぼまとまりました。お楽しみに〟と付記してあった。帰国後も和さんは〝本当に充実した幸せな旅でした“と様々な場面を感性豊かに話してくれた。旅の青年とパウラのストーリーは、舞台がベルリン、ミュンヘン、ザルツブルグ、ウィーンと大きく展開する。磯部さんは、苦労をかけ続けた40余年の結婚生活に最高のプレゼントを意識しながら一気に曲を付けた。

初演はこの年（平成元年）のいそべ男声演奏会、作品はもちろんだが和さんのナレーションが最高に素晴らしかった。演奏中お二人の瞳が合う場面を見ながら歌っている私も、最高の満足感とため息がでるような幸せを感じた。

沖縄男声との合同演奏会

磯部家は典型的な〝かかあ天下“だったと思っている。公私を問わず、右か左か、是か非かを決断するのは和さんの方だった。お二人が不在中に磯部家が焼失した時も、和さんのてきぱきと物事を処理する健気さと判断力がなければ、磯部さんが立ち直るまで随分時間がかかったに違いない。

いそべ男声と沖縄男声の合同演奏会で初めて那覇に行くことが決まったのも和さんの〝かかあ天下“のお陰だった。

昭和54年、私は仕事の関係で沖縄へ行く機会が多く、沖縄へ転勤して沖縄男声へ入団したNHKの川野辺君と那覇で飲んだ時、〝いそべと沖縄の合同演奏会をやろうじゃないか“と大いに燃えた。

お互いまだ40歳台半ば。私は次の出張で沖縄男声の練習に出掛け、彼等の〝是非磯部先生の作品を歌いたい“という熱気を強く感じ、いそべの仲間に伝えたところ全員が賛同してくれた。受けいれは川野辺君が精力的に動いている。

ところが肝心の磯部さんが、なかなか首を縦にふらず、積極的でない。まだ、創団5年目で、まず東京の本格的演奏会という思いがあった。

そこで私は和さんに電話して若い沖縄男声の熱気を伝え、〝私としては是非実現したい。先生をその気にさせてください“とお願いした。〝沖縄！　私も行きたいわ“。いい感触だ。

その数日後の練習で、磯部さんは〝徳田君、沖縄の曲目、どうする！“。

これで合同演奏会が確定した。お二人の間でどんな対話があったか知らないが、結果的に第1回の大成功を最も喜んだのは磯部さんで、その後の合同演奏会や両団合同によるドイツ演奏旅行も極めて積極的に推進された。

私自身もこんなに長く続くとは思ってなかったし、あの時はとにかく開くことだけに夢中になって和さんにまで協力をお願いしてしまった。

余談ながら、私は平成に入っていそべ男声を休団し、昨年10数年ぶりに復帰した。その時、和さんから、「いそ男も徳田さんを得て百人力ですね！　磯部も喜んでいるでしょう」と身に余る便りを頂いた。

私は和さんの霊前に「いろいろありがとうございました。来年早々、久し振りに沖縄で歌ってきます。そんなに遠くなく、私もそちらへ行きますが、その時に詳しく報告します。楢木先輩や吉岡、米川らも呼んでおいてください」と伝えて献花した。

和先生と沖縄

川野辺直雄（1B）

私が和先生にはじめてお目にかかったのは、33年前の1977年7月16日、俶先生の「音楽生活三〇年を記念する会」でだった。

この前日に私は沖縄への転勤内示をうけ、いそべ男声ニュース担当者として最後の仕事となった、当日の経過を取材して、かなり長い文章をニュース27号に書いている。

その中に還暦の赤いベストを和先生が俶先生に着せかけてあげている写真があるが、このときの和先生のお若いパンタロン姿が今でも目に焼きついている。

その2年後、沖縄男声との最初の合同

←次頁4段目に続く

昆明だより

聶耳のこと 学生との交流のこと

新城安哲（沖縄男声合唱団）

3月初めに昆明に入り3カ月が経過しました。高原の気候というか日差しは強いのですが、自転車を乗り回してもほとんど汗をかかず快適な日々を送っております。本日ニュースを受け取りました。遠くにおりますと、ことのほか手紙をもらうのがうれしく、いつも有り難く頂戴しております。今回も急いで封を切り隅々まで目を通しました。

澤野さんの文章を読んでいてビックリ！　2年程前に自由時間に学んだラクダソウのことが出ているではありませんか。

ラクダソウ（駱駝刺）については新疆ウィグル地区でラクダの牧畜（放し飼い）が5月1日から全面禁止という新聞のニュースで知ったのですが、まさかこの植物のことがいそべニュースに出ているとは考えもしませんでした。

（私は少し変わった所に興味を持ち過ぎるのかもしれません）

この縁というわけではありませんが、いつか『優しい愛のうた』をきいてみたいと思います。

去る2月28日、昆明市の藤沢市の代表団と日本語を学ぶ中国人大学生との交流会があり、日本人留学生に誘われ私も参加しました。実は中国国歌を作曲した聶耳（ニィエアール）は、1935年藤沢の鵠沼海岸で溺死したため、海岸には記念碑が立てられ、交流もすでに30年近くになっております。私は個人的に藤沢とは縁があり、義母の実家が藤沢で、4月には母が墓参りに行っており、以前、沖縄にライフセービングを導入する際には鎌倉や藤沢のライフセービング協会の方々にお世話になりました。

中国人学生は100人程集まり、日本人からお茶、お花、着物の着付け等の指導を受け仲良く交流しておりました。

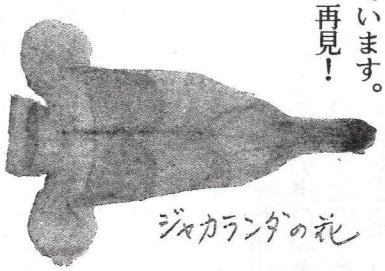
前日には日本語スピーチコンテストが行われ、上位の二人は日本に招待されるとあって、彼らには願ってもない交流会の様子でした。（北京や上海と違い、昆明は日本人が少ないため交流の機会がほとんどないということです）

代表団の方に磯部先生のことを聞いたところ、お一人が先生を御存知で、御主人が財界人の集まり（ライオンズクラブ？）で一緒だったということでした。

聶耳の生家も訪ねましたが、耳が四つもある作曲家というのもすごいですね。（ベートーベンが知ったら羨ましいと思うのではないでしょうか）彼は日本滞在中は日本人音楽家とも交流があったようです。

少し前からマンションを借りて大学に通っております。現在昆明ではジャカランダ（紫雲木）という青紫色のきれいな花がアチコチで咲いていて、それは美事なものです。桜の木程の大きさの木に、葉がなく花がびっしりついています。

では、再見！



→手紙に添付されたジャカランダの花（ノウゼンカズラ科）の押し花

演奏会が那覇で開かれ、磯部先生ご夫妻はそれ以来、合同演奏の事前の練習の時も含めて何度も沖縄を訪れられて、「沖縄は私の第二の故郷」と言われるほど、すっかり沖縄びいきになられた。

その度ごとに、観光などの案内をされた宮城敏さんと新城哲夫さんの両ご夫妻から、ご夫妻が沖縄に到着すると「お帰りなさい」と迎えられ、喜んでおられた和先生のとてもうれしそうなお顔が強く印象に残っている。

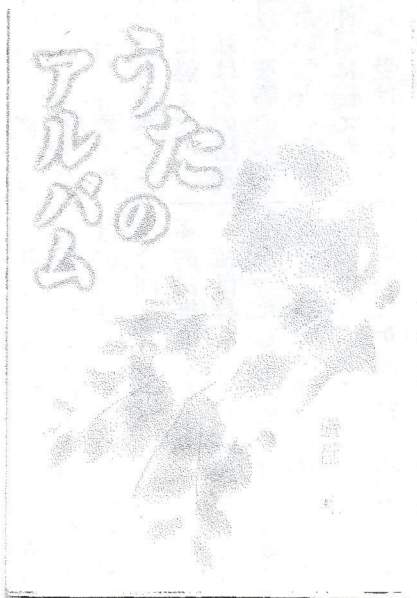
沖縄でゴルフを覚えた私は、「いそべマスターズ」などでは和先生と一緒の組で何度かプレーをさせていただいた。

素振りはされず、構えてすぐボールを打たれ、「女性はプレーが遅いと言われたくないの」とテキパキと廻られる姿に、男共は心から拍手をしたものだった。

八〇歳をすぎてからも「ぜひやりたい」と、練習もされていたとのこと。

向こうでは傲先生と一緒に仲よくさっそうとクラブを振られているに違いない。

「メンソーレ沖縄」の歌詞は沖縄での川野辺さんのことを考えながら書いたのよ」と言われた和先生の言葉を私は生涯忘れない。



自伝『いそべかず　うたのアルバム』2006年10月30日初版発行

"「心の薬」の楽譜が欲しいんですけど"

NHKの人気番組に「ラジオ深夜便」があります。

私は早く寝てしまいますが、家内はよく聴いており、「昨日ボニージャックスが歌ってたけど、とてもよかったわ」と言っていたのから2、3日後、「「心の薬」の楽譜が欲しいんですけど」との中年らしい女性から電話がかかってきた。

こういうことはそんなに珍しいことではないので「女声ですか、混声ですか」と聞くと、「普通の楽譜です」とのこと。ラジオ深夜便で聴かれたらしい。女性は、ながらく三重県伊賀市で、障害のあるお子さんのお世話をしておられ、ボニーの歌う「心の薬」に感動されお子さんの母親達と一緒にクリスマスで歌いたいとのこと、早速ボニーの西脇久夫さんに電話を入れた。

「もちろん男声の楽譜はあるけど普通の楽譜はない。男声版は多分いそべ男声で歌っているのと同じだと思うよ」とのこと。そこで、かつていそべ男声で歌った楽譜を引っ張り出し、書き込みを消し、コピーしてお送りした。喜ばれたのは言うまでもない。

ところで、なんでラジオ深夜便から私宮田に電話となったのかが謎で、電話でお聞きすると、楽器屋さんに楽譜の有無を尋ねたら、宮田の電話番号を教えてくれたとのこと。

親切な楽器屋さんがパソコンで磯部俶先生を索引し、そこから、いそべ男声→宮田となったのではというのは西脇さんの推理。

（宮田）

＊「心の薬」村山美和作詩・磯部俶作曲、CD『磯部俶の世界』（ボニージャックス・キングレコード）に収載。

女声アンサンブル・アトリエ

第33回全国かあさんコーラス大会大阪予選で大阪代表に選出され（3団体）、長野市県民会館大ホールで開催される全国大会に出場予定です。

期日／8月21日（日）、23日（月）

指揮／須賀敬一　ピアノ／木島美紗子

曲目／「雛の季節」村上博子作詩・高田三郎作曲

総務だより

6月27日運営委員会報告（10名）

■和先生逝去関係

①香典お供え

②納骨

日程／7月23日（金）11時

場所／大庭台墓園、墓前にて献杯

会食／納骨終了後、藤沢賓館

銀座アスター店にて会食

（JR藤沢駅南口、1分）

会費／5000円

（出席希望は宮田まで）

☆7月25日は磯部俶先生の誕生日であることから、併せて生誕祭を行う予定。

■東京都合唱祭

日程／7月25日（日）

（ニュースの8頁スケジュール通り実施予定）

（運営委員会は11時より実施）

■江東区民合唱祭

日程／10月24日（日）

曲目／持ち時間7分内で沖縄で演奏する曲のうちから須賀さんと相談して決定する。（申込8月15日まで）

■新春ファミリーコンサート&パーティー

1月に沖縄男声との合同があるので来年のファミコン&パーティーは2月に開催予定。抽選待ち。（7月1日）

■秋の強化練習

秋の強化練習は、11月6日～7日（宮城敏先生来団練習予定）とする。

■訪問（出前）コンサート

いくつか候補があがっているがそろそろ具体的に日程などを煮詰める必要あり、受け入れ側の態勢の実情などを収集する。併せて須賀監督の日程との調整を行う。

■故ザーメスさんへ花輪

3月11日死去されたドイツ・ガンバッハ混声合唱団指揮者カール・テオ・ザーメスさん（59歳）（ニュース4月第347号2頁参照）に花輪を贈った件を承認。

■来年の曲目の検討

沖縄男声との合同演奏会以降に取り組む曲目について、早めに検討を始めるべきとの提案あり、進めることとした。

訂正

6月の号外『磯部和先生急逝』記事2段目12行目「花の心も知らないで」は、

○正「田村しげる作曲」

●誤「磯部俶作曲」

（この曲の作詞者は夫人の寺尾智沙。この夫妻の共作に「白い花の咲く頃」「リラの花咲く頃」などがある。）（「花の心…」は『思い出のラジオ歌謡選曲集』3（金奏譜）に楽譜掲載。曲名のあとの歌い手の表示に「小原 和」とある）

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

須：須賀監督指導・指揮

○運営委員会は原則として第４日曜日11:00練習場にて開催

２０１０(平成22)年

7月11日(日) 13:00～17:00須 定例練習 豊洲 Cバー ２T
23日(金) 11:00～
磯部和先生納骨／於・大庭台墓園(終了後、藤沢賓館銀座アスターで会食(献))
(なお25日は磯部俶先生の誕生日であり併せて生誕祭も開催)
25日(日) 13:00～ 須 定例練習 豊洲 (運委)
第65回東京都合唱祭 ／於・五反田ゆうポート(16:00集合)
16:30～18:30 Vブロック 曲目／三声のカノン「雪」 ★服装／ポロシャツ、チノパン
8月 8日(日) 13:00～17:00 定例練習 古石場 Cバー １B
22日(日) 13:00～17:00 豊洲 (運委)
年度総会 定例練習 Cバー ２B
9月12日(日) 13:00～17:00 定例練習 豊洲 Cバー １T
26日(日) **第19回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭**
10月10日(日) 13:00～17:00 定例練習 豊洲
2、3日 須賀監督沖縄出張
24日(日) **第48回江東区民合唱祭**
11月 6日(土)、7日(日)強化練習 須 (宮城敏先生来団)

２０１１(平成23)年

1月23日(日) **第９回沖縄男声合唱団との合同演奏会** 於／那覇市民会館
予定曲目／いそべ単独曲／組曲「優しい愛のうた」全５曲(前奏曲おやすみなさい、おにいちゃんの成績、さかな、どうぶつえん、「片耳の大鹿」よ)
沖縄単独曲／いちじく、大ずもう、ゴキブリの唄、砂持節、鳩間節、谷茶前之浜
合同曲／須賀敬一指揮／組曲「啄木短歌集」、三声のカノン「雪」
宮城 敏指揮／男の子の子守歌、「西表民謡へのオマージュ」
アンコール曲／

☞ 予定／22日(土)19:00 合同曲中心練習(ＭＯＡ青少年研修センター)
23日(日)10:30～11:15 沖縄男声リハーサル
11:15～12:00 いそべ男声リハ
昼食
12:00～12:30 混声リハ
13:00～13:45 合同リハ－須賀指揮
14:00～14:45 合同リハ－宮城指揮
14:45～15:00 出入、立位置
15:30 開場
16:00 開演
18:00 終演
19:30 打ち上げ

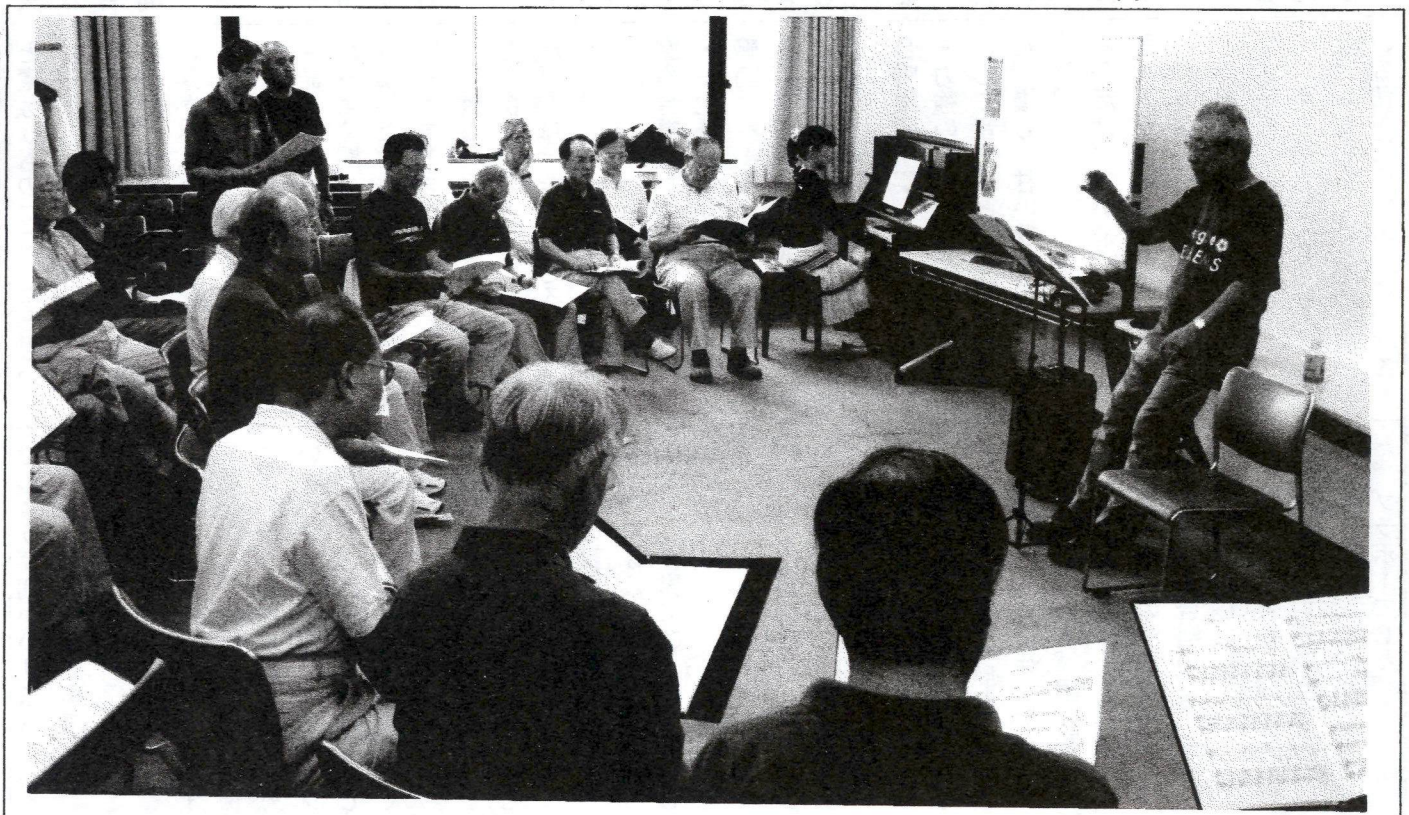
編集後記

◆かず先生の生き生きした姿が彷彿としてくるようなエピソード、温かさが伝わってくる言葉の数々、ラブレターのような追悼文……。心豊かにさせてもらえた編集作業でした。ありがとうございました◆手元にある、そんなに多くはない、かず先生からのはがきや手紙をあらためて見て、簡明で行き届いた文章もさることながら、そこに添えられたイラストに見とれています◆今はやりの、絵が主体の絵手紙ではなく、あくまで文に添えられたペン画です◆例えば、文の末尾に「くげぬまの海風を送ります」と書いて、揺れる団扇の絵が添えてあります◆こんな手紙を私も書かねばと思いつつ、いざとなると文字をびっしりと書き込んでしまい、イラストの入る余地なし。いつもまあ仕方ないかと投函しています◆かず先生は書く楽しみ、描く楽しみ、そしてそれを伝える楽しみを併せもつ余裕をお持ちでした◆こんなお手紙、もう頂けないのですね。 (河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２０１０年　８月　　第３５１号

発行代表者:宮田　茂(総務) 〒177-0034 東京都練馬区富士見台 1-10-2　☎03-3926-8369　FAX 同
E-mail　isobechorus @hotmail.com　　URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同



→豊洲で練習してから猛暑の中を五反田ゆうぽうとホールへ



猛暑の続く7月25日(日)16時50分、Vブロックの4番目に演奏。指揮／須賀さん、ピアノ／永井さん、団員28名。曲は「三声カノン雪」(村上博子作詩、磯部俶作曲)。三声のカノン演奏のために三つの声部にＴＴＢＢを割り振っての声部配置で演奏。

寄せられた講評・感想を再録します。講評者の文は全文を、他の団体の方々による感想は1部割愛しました。但し辛口の部分は全て載せました。ありがとうございました。(編集部)

講評者から

安達陽一

安定した実力のある合唱団ですね。歌い出しの語りも難なくこなしており、素晴しいと思いました。また音楽の展開力と言いますか、音色の多彩さに引き込まれてしまいました。本日はいい演奏をありがとうございました。

川上勝功

磯部作品の珍品でしたね。演奏は、たいへん柔らかい声で好感が持てました。とてもセンスの良い合唱団だと思いました。欲を云えば、もう少し日本語のＤｉｃｔｉｏｎの確かさが出てくると良いですね!!

(注－Ｄｉｃｔｉｏｎ＝言いまわし、話し方)

(編集部)

澤田洋一

さすが年代物ですね。歴史の重みがステージに表れてますよ!!　一音一音の歌い方がうまいです。そしてもっと素晴らしい事は音楽の作り方、人に訴えるもの、とっても良かったです。更に良い事は声がとっても奇麗でした。

須崎由紀子

磯部先生の音楽の深さを、静寂の中の一抹の悲しみを滲ませながら、見事な男声合唱の醍醐味を感じられ、心に染みました。本当にありがとうございました。暑さはどこかへ飛散し、鳥肌ものでした。

大門康彦

Ｐｉａｎｏのアルペジオの連続が、まさに「雪」のふりしき

Vブロックの合唱団から

葛飾区民合唱団（濃35名・初参加）

・言葉がとてもはっきり伝わりました。うすくのせた高声がきれい。雪の光景が伝わってきました。fのふくらみがすばらしい。

・〝いつはてるともなく〟男性の力強い声で素敵でした。

・真夏の雪!!　暑さの続く数日を忘れさせてくれる様にシンシンと降る雪景色を思い浮かべて涼しさを感じました。沖縄にも素敵な雪を降らせて下さい!

ノイエコスモス（畜23名）

・重厚さがあり説得力がありました。カノンなのでそう聞こえたのかもしれませんが。もう少し言葉がはっきりすると、もっと素敵なものになったと思います。

・三声がとてもひびきがすばらしく、雪のいろいろな光景が目に浮かぶようで心も洗われるようでした。沖縄での演奏会の成功をお祈りします。

・語りがむずかしそうでした。余りよく聞きとれない個所もありました。でも、この様な歌はじめて聞きました。

・男性なのに繊細な雪の降る感じが出ていたと思います。ただ歌詞がはっきり聞こえず残念でした。

女声合唱団かのん（19名・初出場）

・一生懸命とりくんでいる姿に感動。ハーモニーはきれいだと思いましたが、言葉がもう少し分かったらいいなと思いました。

合唱集団〜宴〜（濃22名）

・力強い歌声でした。活き活きとして音楽がとても魅力的でした。優しく甘い歌声がステキでした。

・今だけ、冬が来て雪が降ってきたような雰囲気が伝わってくる素敵な演奏でした。

・男声らしさが全面的に出ていて素晴らしい。

・男声の魅力が伝わってきました。おしむらくはこれを書いている私が男声であるということでしょう。細かいリズムもしっかり歌えていてお見事でした。

マンマ・ミワーズ（畜18名）

・とても難しい曲だと思います。言葉が多く、音程をしっかり保つということは大変だったと思います。斬新な曲でセンセーショナルでした。歌詩を覚えてしまうくらいです。楽しかったです。

・もう少し子音をはっきり出した方が言葉が伝わると思いました。

・幽玄の世界とでもいうのか、不思議なふんいきの曲ですね。ふしぎな世界にひきこまれました。

男声合唱団　シンサーンズ（25名）

・降る雪の諸相が混沌とした歌声で表現されている。聞いていてとても面白く感じました。

・団員の方々みな良いお声の持主でよくハモっていましたが、言葉が聞き取れませんでした。おしいと思います。詞の意味を知りたかった。

・いそべ男声の演奏を聞いていますと、男声合唱の原点に立ち返った思いがしました。

・沖縄の皆様との合同演奏の成功を祈念します。老若男声のハーモニー、p、f、が最高でした。ブラボーでした。

・男声ならではの重厚でダイナミックな歌声に圧倒されました。背中がぞくぞくする気分を味わいました。

女声合唱団ベルフォーレいわい（22名）

・大変むずかしい曲を聞かせていただきました。雪の降る様子を感じました。沖縄の成功を祈っています。

・大変むずかしい曲ですね。女声が入るとどういう和音になるのかじっくり聴かせていただきました。ことばがよく聴きとれなかった。

合唱団　瑠衣（濃24名）

・しんみりした気分になりました。もう少し言葉がはっきり聞こえるといいかなと感じましたが、曲の雰囲気はとてもよく出ていたと思います。

・雪がふっている情景が思いうかびました。高音の声が良く飛んできていました。歌詞をしゃべりきるのがとても大変そうな曲ですね。すごく雰囲気が出ていて良かったです。

・重厚かつ澄んだ音色に驚かされました。哀愁漂うpfと非常にマッチして寒々しく、緊張感のある世界観がよく表現されていたと思います。

・重なり合う言葉が深々と降る雪のようでした。情景が浮かんでくるくるようです。三声が響き合うバランスもよく、美しいハーモニーになっていました。構成がおもしろい曲で、初めて聞きましたが、とても素敵でした。

・高声のやわらかさとピアノ伴奏の雰囲気が非常に合っていると思いました。聖堂の中にいるような、エコーの感じを味わいました。歌詞の群とオブリガートの群のかけあいが大切だなと学びました。ありがとうございました。低音がすてきでした。

都立新宿高等学校音楽部（畜20名）

・私たちは女声しか歌わないのですが、やはり男声には男声のよさがあっていいなと思いました。落ちついているというか、貫録があって素敵でした。

・高音部の声がとてもやさしく聞こえました。子音も立っていて、言葉が聞きやすかったです。男声ならではの声の深みが出ていて良かったと思います。もう少し表情が出ていると、曲の雰囲気も増してくるのではないかと思いました。素晴らしかったです。

・男声合唱を聴く機会はほとんどないのでとても新鮮に感じ楽しませていただきました。雪と

いう曲を独特の世界観をもってつくりあげていて、引き込まれる感じがしました。沖縄での演奏も楽しんできて下さいね。

・三声でのハモリが高音はキレイで、低音はどっしりとしていて聞いていて心地よかったです。フレーズが重なるごとのクレッシェンドがすごかったです。アカペラの時や最後の時がとても迫力がありました。

合唱団 ちーむ♪わたげ♪（瀬11名・招場）

・男声合唱を久しぶりに聞きました。荘厳な感じが出ていて、緊張感が途切れることがなかったのでステキでした。

・雪のしんしんと降る様子が良く表現された曲なので、もっと主旋を立てて歌詩がよく分かるようパートのバランスを考えると良いと思います。Topが主旋の時はさすがよかったです。男声ならではの低音の深みが味わえました。難しい曲ですがこれからもチャレンジを続けてください。

・日本語にとってもあってる歌い方で、曲のふんいきがぶわーっと出ていました。衣装が夏向きでいい感じでした。

・雪の降る様子が歌によく表れていました。パートのバランスも良く、聴きやすいハーモニーでした。最後の和音が特に良かったです！

・幻想的な雰囲気が出ており、子音を立てて歌っているため言葉が伝わってくるいい演奏でした。最後の和音はテノールのトップがもう少し耐えられるとよかったと思います。曲の空気が変わるところなので。

メンネルコール広友会（40名）

・とても新鮮な気持ちで聞きました。男声の三声のカノン、珍しいですね。日本語が少し聞きとりにくい感じがしました。歌詞自体はとても美しい日本語のようですので、歌詞をハッキリと伝える様にしたいですね。沖縄での演奏頑張って下さい。

・創立35周年、それだけで頭が下がります。ピアノ伴奏にのり、やわらかい発声で……とてもなつかしい感じ。ただ、詩がもう少し客席に伝わるとよかったかなー。磯部先生も喜んでおられるのではないでしょうか。

・難しい曲にチャレンジされているなと感じました。なかなか歌詞がききとりにくい部分もありましたが、曲の持つ空気感はよく表現されていたように思います。

・ぐっと引き込まれるハーモニー！　独特な響きに感動です！淡々と流れるメロディーにもう少し言葉が明確であっても良いのでは。でも良かったです。

・猛暑の連続で体調も悪くなる人がいる中、雪のプレゼント、ありがとうございます。言葉が聴き取りずらいので、もう少しクリアーに発音されるとよろしいかと。沖縄での演奏会の成功をお祈りします。

所属不明

・歌詞がはっきり分からなかったところがあったことが残念です。でも男声コーラスの声のハーモニーは（いつも想うことですが）本当にきれいでした。

・自然な、しかしはっきりとことばが聴きとれる歌い方で、透明な無常感のようなものが表現されていたと思います。滴るまでには至らない涙…？

・男声合唱団独特の力強さの中に、雪が舞い落ちるようなやさしさがあり、とても素敵でした。暑い今日の日に、さわやかな涼しさを感じさせてくれる歌声でした。かざらないところに、ハーモニーの美しさも際立ち、雪が深々と降り積もる様が目に浮かぶような演技でした。

打ち上げは五反田さくら水産

25日のVブロック11団体の全演奏を全員で聞いて午後6時30分、会場をあとに、打上げ定番会場のさくら水産の3階へ。

出席は須賀さん、永井さん、長田夫人、それに団員25名。

メンバーたちは、いっぱいに歌えたことの充足感と、他団体の新鮮な演奏が聞けての快い刺激と収穫とを、口々に話し合いつつグラスを交わした。

しかし、なかには、「じつは1小節飛ばしちまってね」とか「語尾が何カ所も抜けちゃって」などなど、反省の弁もチラホラ。

そこへ宮田総務が到着して、各団からの感想を回し読みするうち、「まるで相反する感想だ」という声が。（例えばこの段のすぐ上の感想を見よ）

この「三声カノン雪」は、全く異なった歌詞が同時進行するという曲の構造上、聞く人は歌詞を全部聞き取れなくて当然。しかし歌い手は全ての歌詞を理解してもらうべく発音、発声に全力集中しなければならない。

この曲の背反しあう難しさがそのままこれらの感想にあらわれている。

ジョッキを左手に、感想文を右手に、ひとしきり自分らの演奏の反省と、Vブロックの他の団体の演奏の感想などなど、卓上はおおいににぎわった。

そこへ突然現れたのが田中豊輝さん（大久保混声指揮者）。（田中さんは19日のLブロックでMille Unoと、Mブロックでコールメゾフォルテの指揮をされていた）さっそく「夕焼けこやけ」のソロお願いし、その美声を聞いたらもう皆我慢ができず、「シュテンチェン」などハモりタイムが続く。

そろそろ打ち上げというときに入って来られたのは講評を終えた先生方。団員一同須賀さんの指揮で「遥かな友に」に先生方への慰労も合わせて歌った。

（河合）

合唱祭のプロから

●磯部俶作品演奏

「ふるさと」（窪犀暑詩）

男声合唱団 東海（横浜市）Lブロ

「じんちょうげ」（「おかあさんのばか」より）

男声合唱団「秀声会」（練馬区）Dブロ

●磯部周平先生7月17日B、C、Dブロの講評者として出席。

○桜友女声合唱団（竹村洋美さん指揮）は17日Dブロに出演。

○山脇卓也さんは17日、19日、お江戸コラリアーズなど3団体の指揮で大活躍。

和先生 安らかに

俶先生眠る墓に納骨・偲ぶ会・俶先生生誕会（7月23日）

和先生の遺骨は「遥かな友に」と彫られたお墓に…



→沖縄エメラルドの海（磯部和著『うたのアルバム』より）

去る6月9日に亡くなられた磯部和先生の納骨式が、23日11時、藤沢市の大庭台墓園で行われた。この日も新聞に「日本熱島」の見出しが踊るほど厳しい暑さの中、周平さんはじめご遺族の方々、当団員、元団員、ボニーの玉田、西脇両氏、和歌山の堤さん、合唱関係の女性たち、合わせて70人余りが集った。

式は葬儀と同様無宗教で行われ、生前のほほえみをたたえた写真と白い百合などの二つの花束で飾られた墓に先生の遺骨が納められた。

全員で黙祷をし一人ずつ水を捧げた後、周平さんから「あさってが父の誕生日で、久しぶりに会って喜び合っていると思うと参会者へのお礼のご挨拶があり、和先生から強い希望があったという伊藤俊三さんによる「サンタ・ルチア」が墓前に捧げられた。暑さの中を少し涼しい風に乗って、朗々とした歌声が流れ後半は全員の合唱になった。そして、当団持参の銘酒「澤の井」2本の栓が抜かれて献杯。周平さんの指揮で「はる友」を合唱して熱暑のさなか1時間余りの式を終えた。

＊

午後1時、俶先生の93年目の生誕祭を兼ねた偲ぶ会が藤沢駅前の銀座アスター藤沢賓館に50人程が出席して開かれた。和先生ごひいきの店だけに中華料理と飲み放題のお酒がおいしい。

・

学生時代から磯部家に入り浸り仲人もしてもらった当団の長島義隆名誉団員を皮切りに、順繰り指名によるスピーチは聴き応えがあった。

玉田元康さん（ボニー）「二人とものんべ。周ちゃんは客がくると押し入れに閉じ込められた」

伊藤俊三氏（湘南女声合唱団指揮者）「私は周ちゃんと高校同期。俶先生にトスティの〝ソーニョ〟を聴いてもらい、歌うたいのキッカケを作って戴いた。

星野正博氏（湘南合唱連盟事務局長）は20年にわたる磯部夫妻と連盟とのかかわりを語った。

永井博子さんは会場の全員のピアノ伴奏をさせてもらって「沢山の方々と出会わせてくれた恩人が俶先生和先生…」と涙で声にならず。

長田茂（いそべ男声代表）「35年歌い続けられたのは磯部夫妻のおかげ。40年記念も歌えそうな気がしてきました。体力の続く限り歌いたい」

橋本紀子さん（フウエンコールいそべ）「和先生と入院後も大相撲をメールでお付き合いし、把瑠都を一緒に応援してきました」

最後の日まで枕元でお世話をされた吉岡久恵さん（笹岡健氏夫人）は、87歳で朗読の会を成功させた和先生の頑張りを讃え「お二人の歌を歌い継ぎましょう」とよびかけた。

阿久津篤美さん（湘南斎倉団代表）「伴奏がオルガンだったずっと昔から和先生一筋で来ました」



←「遥かな友に」墓石を清める磯部周平さん

ここで親族の磯部進さん、吉岡美和さんらが「和さんは親戚中で一番光り輝いた女性。江ノ島の料理屋の会に出て、幅広い交流を知り、夫妻の偉大さが分かった」と語り、結婚の時の秘話も紹介された。

・

西脇久夫さん（ボニー）「ボニーの初リサイタルの時には元グリーの仲間にはチケットを売るなと夫妻からの厳命があった。スタート時の戒めとしてよく覚えている」

ノイエダーメン・エンディング

Liebe Neue Damen の皆様、この2月3月は不順な陽気でしたがお変わりなくお過ごしでしたか？いつの間にか我が家の桜も綻びはじめ、来週には春らんまんの満開になることでしょう！　私も今年は本当の（満）88歳となり、残り少ない人生となりましたが、少しでも楽しく生きたいと思っています。

皆様とご相談をと考えていましたが…。私の独断でこの辺りで長く続いたわがDamen chorをエンディングにしたいのです。私の勝手と思われるでしょうが、ソプラノが1、メゾが3、アルトが7という構成、そして2ケ月に1度の練習日も欠席者がいる状況となり、私も指揮をする情熱がうすれてしまう事がお察しつくでしょうか。それでも昔から夫の俶を通してお知り合いになった皆さんとお別れするのはとても悲しいことです。

でも、人生には時折決意も必要です。

4月25日を最後の練習日として、2、3曲歌った後に、近くのレストランで楽しいお別れパーティーをしたいと思っています。ご都合のつく方はぜひお出掛けくださいね。桜は葉桜の頃になるでしょうが、八重桜の方が満開かも知れません

その後も個人的には永久に親しい友人としておつき合いをお願いします。

2010年3月24日

いそべ　かず

ノイエ・ダーメン最後のパーティーが、かず先生体調不良のため、のびのびとなっていたところ、思いもかけず悲しいお別れの時がきてしまいました。

かず先生には、ダーメン発足時より公私共々大変お世話になり、楽しかった想い出と素晴らしい友人たちをお与えくださり感謝でいっぱいです。

幾年か前、6月初旬、ご一緒にドイツで食べた最盛期の白アスパラガスの料理の数々。

美食家の先生と私をうならせ是非もう一度食べに来ましょうとの約束でしたが…。新緑とアジサイの花、アスパラガスを見るたびに先生を想い出すことでしょう。

どうぞ安らかに俶先生とお過ごし下さいませ。

最後に、ダーメン発足よりご支援下さった各合唱団の皆様に心から感謝したいと存じます。

ことに、いそべとし記念男声合唱団には公私にわたり大変お世話になり、いそべ男声無しにはダーメンは活動できなかったと思います。

本当にありがとうございました。

坪井賀子



→葬前で「遥かな友に」の合唱

徳田浩1Bはお二人から話を聞いて本を書いた経験から「二人の間に波風があったのも事実。しかし組曲〝パウラ〟がお二人の愛の結晶として創作され、ステージではそれを確認させていただいた。当初沖縄との合同に乗り気でなかった俶先生をその気にさせたのは和先生だった」と今だから言える話を紹介した。

大阪から出席の新田義邦元2B「学生のとき海から砂だらけで帰ると和さんから水をかぶせられ、井戸水で冷やしたスイカの甘くておいしかったこと」

堤敦子さん（オペラ「夕立」の舞に出演）「これからもお二人のことを思いつづけます。来年、いそべ曲だけの演奏会をやります」

この発言には皆から大拍手。

蟻生栄子先生「もう一度恋をしたいなと言っていた和さん。前向きに次のことを考えていた和さん。お二人の歌をすべて歌い終わったらそちらへ行きます。希望を持って、いいコーラスを目指し、次は〝ヒヨコのうた〟と〝ヤマアラシ〟をやります」

・

最後に、お礼のご挨拶として周平さんは、これまで調べた磯部家のルーツを関ヶ原以前にまでさかのぼって、少し長めに紹介したあと、ご自分のことにふれ「譜面の上での父との対話を続けていきたい。いろいろなことが周辺で起きてご迷惑をかけているが、音楽の道だけは母のように前向きに続けていきたいのでよろしく」と決意を述べられた。

・

終わりに、納骨の時に伊藤俊三さんが歌った「サンタ・ルチア」を再び歌い、全員が周平さんの指揮で「遥かな友に」を歌って会はお開きとなった。

（川野辺記）

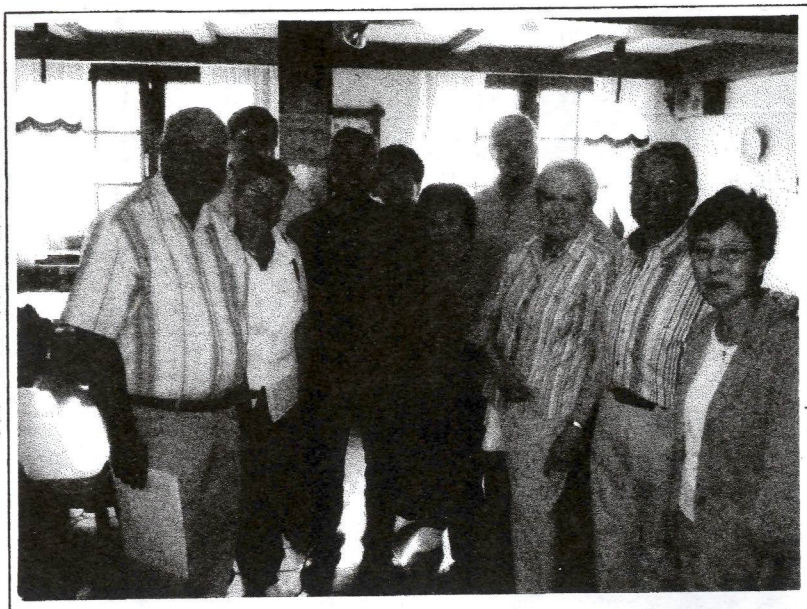
故ザーメス氏の墓を訪ねる

Karl Theo Sames

坪井俊策（2T）

去る3月、約5ケ月間の闘病生活の後、逝去されたドイツ・ガンバッハ混声合唱団、及びギーセン女声合唱団の指揮者ザーメス氏（Karl Theo Sames）墓参をしようと、6月上旬、ドイツを訪問しました。

もともと、このドイツ訪問旅行は、ザーメス氏の訃報を受ける前から計画していたもので、「ヨーロッパ旅行をする際には必ずガンバッハやギーセンに立ち寄る」という、謂わば私の胸の中での「決め」によるものでした。そして、もう元気なザーメス氏に会うことが出来なくなってしまった今、せめて生前の氏を偲ぼうと、予定通り旅行に出発しました。



→ガンバッハ混声合唱団の旧友達と（ガンバッハのレストランで）

フランクフルト空港には、旧友のシケニウス夫妻が出迎えに来てくれており、空港から約40分のザーメス氏宅のすぐ近くのプチホテルにチェック・インしました。（このホテルはザーメス氏宅から徒歩約3分という近さで、ガンバッハからは車で約20分、ギーセンからは約15分、とザーメス氏を囲む合唱仲間が集まるには絶好の地理的条件にあり、料理も最高で、我々の出会いに度々利用していた居心地の良い「村のプチホテル」なのです。）

チェック・イン後、直ちにザーメス氏宅を訪れ、ザーメス夫人のブリギッテ（Brigitte）さんに会い、あらためてお悔やみを申し上げる。暫しザーメス氏の思い出話をした後、ブルギッテさんの案内で訪れたザーメス氏のお墓は、氏の自宅から歩いて約10分の可成り広い墓地の中にあった。その墓前に額ずき、氏と共に過ごした数々のイベント・シーンに思いを馳せる……。

＊

―1983年、いそべ男声が初めてガンバッハを訪問した時のこと／1987年、ガンバッハ混声合唱団が来日した時のこと（藤沢市で、いそべ男声と合同演奏会）／1991年、沖縄男声合唱団との合同演奏旅行でブダペストやガンバッハを訪問した時のこと／1993年、ギーセン女声合唱団が来日した時のこと（日本青年館で早稲田大学グリークラブ・共立女声合唱団と合同演奏会）、／そして、2005年、ギーセン女声合唱団創立25周年記念行事に招待された時のこと、等々―

＊

墓参後、今回は珍しく前述の「プチホテル」ではなくガンバッハのレストラン "Alert" で、いつものメンバー（ガンバッハ混声から約10名、ギーセン女声から4名、そしてザーメス夫人のブリギッテさん、シケニウス夫妻）が集まってのディナーパーティーが催された。

気になっていたガンバッハ混声の旧い友人たちはみんな元気で、特にエリザベート夫人（Mrs Elisabeth Buss）は30年近くも前に、自宅にホーム・ステイした「いそべ男声」のメンバーの名前を覚えていて、あの時は「岩崎と鈴木」が泊まったと言う。（これは、当時日本のモーター・バイクのメーカーの「カワサキとスズキ」をイメージしたらしい）そしてもう一人「藤野」もいたと言ったのには本当に驚いた。

＊

因みに、このガンバッハ混声合唱団は1859年の創立で、我々が訪問した1983年の翌1984年は、創立125周年の記念の年に当たり、昨2009年は創立150周年の年でした。

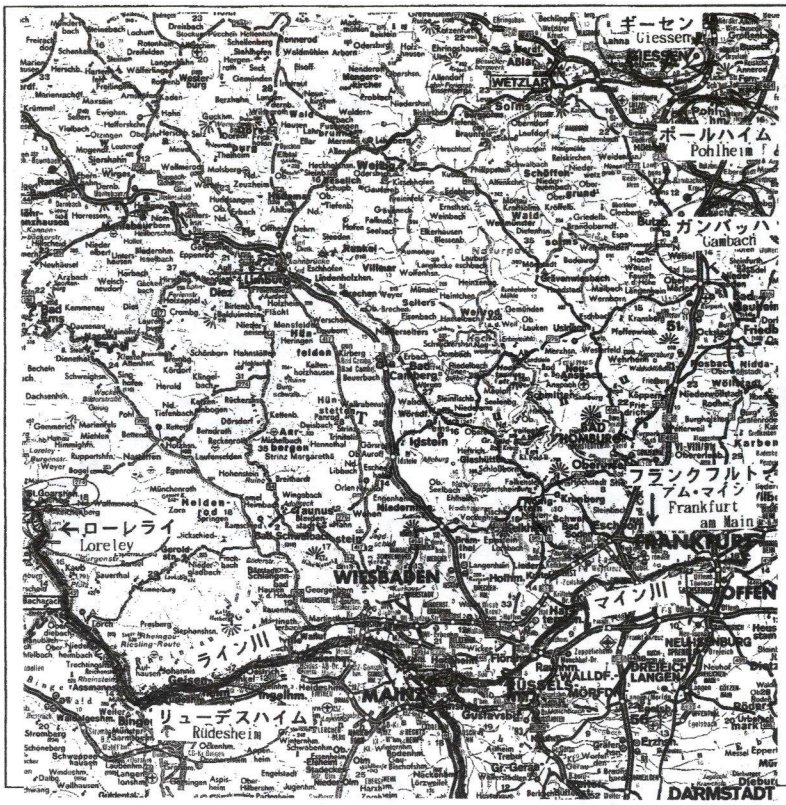


←ギーセン女声合唱団のお嬢さん達とシケニウス氏（ギーセン市内のレストラン前で）

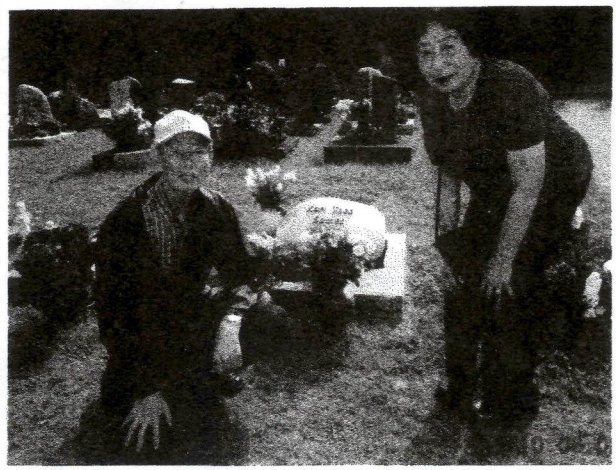
＊

帰国してから2日後、ギーセン女声合唱団の幹部であり、ザーメス氏の秘蔵っ子であったブリッタ（Britta Schmitt）からメールが届いた。

それには、ザーメス氏の墓参のための現地訪問のお礼と共に「近い将来、また当地を再訪してくれることを期待している。それまでカール・テオ・ザーメ



→ギーセン、ボールハイム、ガンバッハ、フランクフルト、リューデスハイム等（ギーセン・フランクフルト間は約52km）



←ザーメス氏のお墓の前で

スは貴方と私たちを守ってくれるに違いない」とあった。

これは彼女たちに会った時ふと漏らした「今回の訪問が私たちのLast Visitになるかも知れない」という私たちの弱気の発言に対する彼女たちの励ましの言葉に違いないという気がしている。

いそべ男声メロディー・歌の博物誌23

氷にとざされた死の町 飢えたカラスが鳴いている

組曲「北への回帰」より　小林純一詩・磯部俶曲

澤野勉（2T）

猛暑日といわれる暑さが続く。暑い季節に欲しいのが冷たいもの。熱中症の予防に水分を欠かさないようにといわれるが、ともかく冷たいものが欲しくなる。氷があればなおいい。

ということで、酷暑の中のテーマは〝冷と氷〟。

磯部作品の中で冷＝氷を探してみると、ありました。口にする氷ではないけれど、「北へ↖の回帰」の終曲、「春への期待」に、磁石の青い針が変わることなくさぐる北の大地の描写。

そこには寒い北国、〝氷にとざされた死の町　飢えたカラスが鳴いている〟と。

＊

ところで、氷という字。漢和辞典によると、氷の正字は冰とある。冫（にすい）は本来、冷たさを表すものということなのだ。冫（さんずい）は水の草書体からつくられたということで、注ぐ、流れるなど水に関係のある字が並ぶ。氷は水が凍ったものだが、低温を示すものでは冫の文字が登場する。冫自体に氷の意味があり、冷凍の二文字もにすいである。

魚や肉の煮汁が低温で固まったのが煮凝（こご）り。凝固の凝も、固まりやすい季節の冬の字もにすいだ。

おもしろいのが凄。近頃とくによく使われる表現の「すごい」のこの文字は、本来は寒く冷たいとか、ぞっとするほど恐ろしいといった意味。辞書には〝形容しがたいほどすばらしい〟の意味もあることはあるが、元は凄惨＝むごたらしい、凄絶といった使い方が主だったのだろう。

テレビのグルメ番組などで毎日のように「すごーくおいしい」といった使い方を耳にする。素晴らしい、偉大である、さらには尊敬すべきだといった用法が、最近ではむしろ主流となってきている。いまや完全な誉め言葉だ。それだけ日常の語彙が貧困になったということだろうか。

＊

「北への回帰」の詩、南の海で磁石を手にして、その針が北へ向いていることに目を止める。そして日本列島を北上することで、遠い地に凍てつく世界のあることを暗示する。フィナーレは、そこにも春の訪れを期待することで終わるのだが、〝氷にとざされた死の町〟というのはいかにも決めつけ過ぎているように感じられるのだがどうだろうか。町というからには、そこには人の暮らしがあるのだからー。

明治の初期、すでに東京の氷の需要を満たすために北海道から天然氷が運ばれていた。明治11年8月の新聞には、氷の需要が増えて輸送のための鋸屑の値が高騰しているという記事が出た。この時代から暑い夏、〝冷〟を求めて社会は動いていたのだ。



（カットも筆者）

エーントルプ氏死去

（バッカナリアン男声合唱団指揮者）

２００７年にスエーデンから来日し、いそべ男声とジョイントコンサートを持ったＤＢＫバッカナリアン男声合唱団の第1指揮者カール・ヨーラン・エーントルプ氏は２０１０年始め心臓発作のため急死されたとのことです。

エーントルプ氏はジョイントコンサートの折り、２人居られた指揮者のうち比較的若く、恰幅のよい、にこやかな紳士だった人。ご冥福をお祈りします。

バッカナリアンでは、急なご逝去だったため、代わりの指揮者の選定に困っており、未だに決まっていないとのことです。

（大西紹夫）

伊藤俊三氏、湘南女声合唱団指揮者に就任

拝啓

梅雨明けの待ち遠しい今日この頃　皆様には益々合唱に磨きをかけてお励みのことと存じます。

私ども湘南女声合唱団は　この度指揮者に伊藤俊三先生をお迎え致しました。

磯部和先生同様　よろしくお願い申し上げます。

40年を越えて合唱の楽しさをお教えくださいました和先生が思いがけないご病気で急逝され　団員一同失意の日を送ってまいりました。

幸い　和先生が日頃から後継指揮者にと30年来発声指導を担当戴いております声楽家（テノール）合唱指揮者の伊藤先生に　ご指名くださっておられましたので、この度新しい指揮者としてご就任戴きました。

ステージも目前に迫って参りました。団員一同気を取り直して練習に励みます。どうぞお見守りください。

時節がら皆様のご自愛ご健勝をお祈り申し上げます。

敬具

平成22年7月6日

湘南女声合唱団

代表　阿久津篤美



↑　２００７年5月、バッカナリアン男声合唱団との合同演奏会を終えて打ち上げの鏡開きをする指揮者たち。

右から須賀敬一、ハンス・キーレ（ＤＢＫ名誉指揮者）、カール・ヨラン・エーントルプ（ＤＢＫ第一指揮者）、大谷研二（栗友男声指揮者）の各氏。

高田三郎先生没後10周年記念ミサ

期日／9月19日（日）
14時45分から　典礼聖歌演奏と献花（混声、女声、男声）
15時30分から　記念ミサ

会場／東京カテドラル　聖マリア大聖堂
（ＪＲ目白駅からバス、またはメトロ有楽町線江戸川橋から徒歩15分）

司式／池永大司教　山本神父
指揮／須賀敬一　オルガン／木島美紗子
合唱／東海メールクワイア・高田典礼聖歌男声合唱団
新居浜混声合唱団・アトリエなどの「平和の祈り」女声合唱団など

曲目／ミサ曲「やまとのささげうた」
典礼聖歌・平和の祈り、神のみわざがこの人に・谷川の水を求めて、おお　神の富　など

入場料／無料

＊記念ミサは司祭の式進行から聖歌隊のミサ曲や典礼聖歌まで（聖書朗読と祈祷以外は）、すべて（高田三郎作曲の）日本語によって進行する、いわゆる「歌ミサ」の形式で進められる。

総務だより　7月25日運営委員会報告（出席11名）

■第19回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭
期日／9月26日(日)
会場／相模原市津久井町
　緑の休暇村センター
曲目／
「思い出のリュウデスハイム」(組曲『パウラ』より)
「おにいちゃんの成績」
　(組曲『おかあさんのばか』より)
服装／ポロシャツ、チノパン
＊今回はボニー・ジャックス出演の予定。

■第48回江東区民合唱祭
期日／10月24日(日)
会場／江東区文化センターホール
曲目／「思い出のリュウデスハイム」あるいは「三声カノン雪」
服装／ブレザー、黒ズボン
＊この日の練習は1時から南砂小学校で行なって後、合唱祭会場に行く。出番は未定。

■総会議案について
総会期日／8月22日
　総会に提出する活動報告、団員の動向、練習状況、今後の活動方針、次期運営委員などについて総務から議事案が提出され検討。
・運営委員の一部に新任・修正がなされた。
・今後の活動方針のうち、曲の選定を早めに進めたいという意見があった。



シュガーず＆西川紀
男声コーラスとピアノのジョイントChristmas Concert
12月25日（土）17時開演
ティアラこうとう小ホール

曲目／Jingle Bell, White Christmas
Battle of Jericho, Dry Bones, etc
ショパン／即興幻想曲、華麗なるワルツ他

入場料／1000円(全自由席)
10月1日発売(戸丸さん扱い)

■来年の行事予定
　出前コンサートについて、澤野勉さん2Tより提案の施設は、「こどものうち八栄寮」（八王子市館町2232−1）ということで了承。日程、曲目などを策定することとした。
　河合1T提案の市川市の病院は毎月第3土曜日に院内コンサートや演芸などが持たれている。既に来年3月まではスケジュール決定済とのことで、来年春に改めて予定を相談することにした。

■須賀監督沖縄出張
　沖縄男声との合同曲練習のため、監督が10月1、2、3日に那覇へ出張するについて同行希望者を募っている。25日現在の同行予定者は長田1T、澤野2T、安部1B、川野辺1B、大澤2B。
　合同曲練習は2日夜と3日の予定。

■新春コン&パーティー会場取得難航
　2011年2月初旬の抽選に外れたため2月後半以降にずれこむことになった。

■4月に夜桜見物の提案
　来年4月に屋形船を仕立てて夜桜見物をしたいと提案されるお方があり鋭意プラン作成中。参加者募集中。

来客

○新城安哲さん（沖縄男声）
　中国に留学中の新城さんが一時帰国の時間をさいて8日の当団練習に参加されました。練習後のCバーでは、沖縄から送って頂いてあった古酒を開けて乾杯。1月の那覇市での合同演奏会のステージには参加したいとのことでした。

○横田清文さん（大阪ダール）
　8日、猛暑の大阪から激暑の東京へ練習に参加。那覇での演奏会にも参加される予定。

消息

○村岡昭一郎さん2T休団
　最近体調が良好でないので、合唱祭は欠場、休団されます。

○辻　純一郎さん2B復帰
　7月より復帰。遠方にため毎回の練習参加は無理だが、可能なかぎり出席されるとのことです。

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう
須：須賀監督指導・指揮
○運営委員会は原則として第４日曜日11:00練習場にて開催

■２０１０(平成22)年

8月22日(日)13:00～17:00　**年度総会**
　　定例練習　豊洲　　ゼロバー 2B
9月12日(日)13:00～17:00　定例練習　豊洲　　Cバー ~~2B~~ 1T
　26日(日)　**第19回磯部儼記念「遥かな友に」道志川合唱祭**
　　曲目／思い出のリュウデスハイム（組曲『パウラ』より）
　　おにいちゃんの成績（組曲『おかあさんのばか』より）
　　服装／ポロシャツ、チノパン
10月 1(金)、2(土)、3日(日)　須賀監督沖縄出張合同曲練習（当団よりの同行者あり）
　10日(日)13:00～17:00　定例練習　豊洲　　Cバー ~~1T~~ 2T
☞　24日(日)13:00～　定例練習☞南砂小学校（練習後合唱祭会場へ徒歩移動）
　　第48回江東区民合唱祭（江東区文化センター）
　　曲目／思い出のリュウデスハイム　或いは　カノン雪（未定）
　　服装／ブレザー、黒ズボン
11月 6日(土)13:00～17:00 須　強化練習☞古石場
　7日(日)10:00～17:00　強化練習☞古石場
　　宮城敏先生来団、合同曲練習
　14日(日)13:00～17:00　定例練習　豊洲
　28日(日)13:00～17:00　定例練習　豊洲
12月26日(日)(未定)　忘年会

■２０１１(平成23)年

1月23日(日)　**第９回沖縄男声合唱団との合同演奏会**　於／那覇市民会館
　予定曲目／いそべ単独曲／組曲「優しい愛のうた」全５曲（前奏曲おやすみなさい、おにいちゃんの成績、さかな、どうぶつえん、「片耳の大鹿」よ）
　沖縄単独曲／いちじく、大ずもう、ゴキブリの唄、砂持節、鳩間節、谷茶前之浜
　合同曲／須賀敬一指揮／組曲「啄木短歌集」、三声のカノン「雪」
　　宮城 敏指揮／男の子の子守歌、「西表民謡へのオマージュ」
　アンコール曲／
☞　予定／22日(土)19:00　合同曲中心練習（ＭＯＡ青少年研修センター）
　23日(日)10:30～11:15　沖縄男声リハーサル（演奏会場）
　11:15～12:00　いそべ男声リハ
　昼食
　12:00～12:30　混声リハ
　13:00～13:45　合同リハ－須賀指揮
　14:00～14:45　合同リハ－宮城指揮
　14:45～15:00　出入、立位置
　15:30　開場
　16:00　開演
　18:00　終演
　19:30　打ち上げ

短編集後記

◆「三声のカノン雪」。これを歌うときは、隣のパートとは全然違う歌詞を歌っているが、絶対にこの歌詞を聞き分けてもらわねば…と思いつつ歌います◆思い出すのは歌劇『リゴレット』第三幕の四重唱です。父、娘、遊び女、公爵がそれぞれ違う思いを重唱する。原語では私は理解十分とは言えませんが、ここへ来ると座り直して集中して聴きました。『薔薇の騎士』にもありましたか◆合唱祭で「雪」を聴く人も集中し緊張して我々の〈異歌詞同時唱〉を聴いてくれたのでしょうか。その結果、一方は歌詞がよく聞き取れない（多数派）、一方は歌詞がよく分かったという、真っ向相反する感想がいくつも出てきました。どちらも実感なのでしょう。この曲は歌詞がよく聞き取れない所があって当然と思っていたので、ちょっと意外でした◆『心の四季』の雪は激しく重い。「カノン雪」の雪は静かに深い。ふりつむ雪への思いはいろいろありますが、俶先生の実験スピリットに乗せられて、少しでも気持をこめた雪の言葉が降らせたらと思いつつ歌っています。（河合）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２０１０年　９月　　第３５２号

発行代表者:戸丸悟 〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同



総会実施

炎暑の8月22日、定例練習のあと総会が開かれました。出席29名、委任状4名で団則の規定により成立、長田代表を議長に選出して議事を進行しました。

○新運営委員――総務に戸丸悟(兼任)、総務(副)に佐藤元昭(兼任)、総務(副・渉外担当)に宮田茂(ポスト新設)

①活動報告（09年7月1日～10年6月30日）（富総務）

２００９年

・7月12日(日)東京都合唱祭 五反田ゆうぽーと簡易保険ホール、曲目／びわ、おさるのやきゅう、ハンカチ　指須賀敬一 Pf永井博子

・7月26日(日)総会／団則改定（10項目以上の改定・新設案が提出され、より一般性を備えた団則に整えられた。）

・9月27日(日)第18回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭に参加、曲目／りんご、ハンカチ 指安部建雄 Pf永井博子

・10月25日(日)第47回江東区民合唱祭、江東区文化センター 曲目／びわ、おさるのやきゅう、ハンカチ　指須賀敬一 Pf永井博子

・11月8日(日)35周年記念コンサート、ティアラこうとう大ホール、曲目／『心の四季』（富三郎）全曲、枇杷の花、麻の実をくだく山雀、子守唄、三声のカノン雪、松の花(以上饗庭)英国民謡集、まど・みちお/いそべとし・こどもの世界　指須賀敬一 Pf永井博子（英国民謡集は団員指揮者）

・12月27日(日)忘年会、銀座キャピタルホテル・アイリス

２０１０年

・1月17日(日)新春ファミリーコンサート&パーティー、古石場文化センター大研修室、参加者約２３０人

・3月14日(日)早瀬一洋先生発声指導最終講義

・6月9日(水)磯部和先生逝去 12日通夜、13日葬儀（カルチャーＢＯＮＤＳ藤沢）

②団員の動向（敬称略）（富総務）

・退団／井上舎人2テ…09年9月13日（健康上の理由）

・入団／角　祐一2バ…09年12月3日
西川由明1テ…10年4月11日

＊左記は２０１０年度内
木下　協1テ退団（健康上の理由、賛助会員となる）
村岡昭一郎2テ休団（健康上の理由）

③在籍団員数
1T－11名
2T－8名
1B－8名
2B－10名
計－37名
・休団員　小川将太、高橋生久、辻純一郎（10年7月復帰）

④練習状況（09年7月1日～10年6月30日）（富総務）
（演奏会、合唱祭、新春ファミリーを除き、強化練習を含む）
・定例練習23回／一回あたり平均参加人員29・0人（昨年度は29・3人）
・出席率／82・9％
・須賀音楽監督練習／13回
・来客／43人（中山寛、鈴木邦男－計18回、横田清文、高橋正寛－計13回、その他12名）

⑤決算報告（09年7月1日～10年6月30日）（井上会計）
決算報告がなされ、澤野監事から監査報告がされて決算が承認された。

⑥次期運営委員（富総務）

音楽監督	須賀敬一
ボイストレーナー	
ピアニスト	永井博子
代表	長田　茂
副代表	田邊喜三郎
相談役	坪井俊策
演奏・練習部門	若月　稔
総括	安部建雄
指揮者グループ	安部建雄
	大西紹夫
	佐藤元昭
	坪井俊策
	三上正秋
パートリーダー	
1T	大西紹夫
2T	三上正秋
1B	田邊喜三郎
2B	秋永　基
総務	戸丸　悟（暫定）
（副）	佐藤元昭（暫定）
（副・渉外担当）	宮田　茂（ポスト新設暫定）
会計	井上　斉
（副）	岩本寛之（暫定）
広報	河合隆一
（副）	長田　茂
（副）	川野辺直雄
（副）	澤野　勉（暫定）
楽譜	大澤寛之
（副）	井上　斉
監事	田島哲朗（暫定）
同	秋永　基（暫定）

7名の新任を含む運営委員案が原案どおり承認され、戸丸新総務より挨拶があった。

⑦来年度活動計画（戸丸総務）
2010年
・7月25日（日）第65回東京都合唱祭参加、五反田ゆうぽーと簡易保険ホール、曲目／三声のカノン「雪」
・8月22日（日）総会（通常は7月第2または第4の定例練習日に開催している）
・9月26日（日）第19回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭
・10月24日（日）第48回江東区民合唱祭
・11月6日（土）、7日（日）強化練習、古石場文化センター
（沖縄より宮城敏先生来団）
・12月20日（月）大和郷幼稚園コンサート（予定）
・12月26日（日）忘年会、Sun mi
高松（銀座）
2011年
・1月23日（日）第9回沖縄男声合唱団との合同演奏会、那覇市民会館
・3月　新春ファミリーコンサート&パーティー（2月会場とれず未定）
・4月上旬　春の合宿（会場未定）

⑧予算案（10年7月1日～11年6月30日）（井上会計）
原案どおり承認された。

⑨活動方針への意見交換
「今後の曲目、1月の沖縄演奏会以後の演奏会の目標など、これらがないと、練習への意欲や緊張感が続かない。目標を提示してほしい」という意見が出され、また「当団は磯部先生の曲をもっと演奏するべきだ」という意見と同時に「他の作曲者の曲も演奏しなければ」という意見も出された。
レパートリーについては種々意見がかわされたが、「当団は昔から、演奏できる曲が増えて演奏会を開いてきたという伝統がある。これはくずしたくない」との発言があり、「今後、アンケートなどで広く団員の希望や意見を汲み取って、曲目・演奏計画を組み立てる。これらは演奏部門が中心となってすすめなければならない」という発言があった。
今後のレパートリー、演奏会についての具体的な方向の討議や、まとめまでは出来なかったが、至急立案するべき大きな課題が残され、30分延長の総会は終了した。
（演奏部門ではこのあと直ちにレパートリーへの意見の集約と立案のための活動を開始した）

この2年間歌ってきた曲（08年7月～10年6月）
●当団単独演奏曲
○組曲『かやの実』巣、鹿、狐の祠
いろり、かやの実（磯部俶）
○時無草、はやしの中、犀川、貝殻、松の花、三声のカノン「雪」（磯部俶）
○室生犀星の詩による三つの無伴奏男声合唱曲・枇杷の花、麻の実をくだく山雀、子守唄（磯部俶）
○びわ、つりかわさん、リンゴ、おさるのやきゅう、さくらのはなさん、たなをつくりましょう、いねかり、やきいものうた、ハンカチ、ヤマアラシ（磯部俶）
○組曲『なんなんななつの』より・もうすぐ春、生まれたばかりの、狐の嫁入り（磯部俶）
○組曲『心の四季』・風が、みずすまし、流れ、山が、愛そして風、雪の日に、真昼の星（高田三郎）
○『英国民謡集』・アニーローリー、誰かが誰かと、埴生の宿、思い出、わがパステル、楽しかりし昔（大木惇夫・伊藤武雄共訳、園誠一・磯部俶編）
●合同演奏曲
○典礼聖歌（高田三郎）7曲
○西表民謡へのオマージュ（中村透）
だんじゅ嘉利吉（沖縄民謡）
○思いでのリュウデスハイム、秋のにおい、七五三、月夜（磯部俶）
（ニュース・プログラムからまとめ）

「1．2．3．それ　乾杯！」



乾杯の歌　"Ein Prosit der Gemütlichkeit"

本場ドイツの「Oktoberfest」でよく歌われる「乾杯の歌」。これを歌ってから乾杯すると、楽しい気分倍増です！

Ein Prosit, Ein Prosit, der Gemütlichkeit！ Ein Prosit, Ein Prosit, der Gemütlichkeit！

アイン プロージット アイン プロージット
デア ゲミュートリッヒカイト！

アイン プロージット アイン プロージット
デア ゲミュートリッヒカイト！

和訳：さあ乾杯だ　さあ乾杯だ　皆が集まったこの時に！

さあ乾杯だ　さあ乾杯だ　皆が集まったこの時に！

Eins！Zwei！Drei！G'suffa！PROST!!

アインス！　ツヴァイ！　ドライ！　ズッファ！　プロースト!!

1．2．3．それ！　乾杯!!

これは8月に芝公園で開かれた「オクトーバーフェスト2010夏」というビール祭の会場でくばられたチラシの1部です。渋谷さんITが紹介してくれましたが、8月29日に終了していました。いつも歌っているアイン・プロジットにアインス、ツヴァイ…とつけてみますか。

ハミ出し情報

日本語－乾杯！　英語－Cheers！　仏語－Toast！　西語－Salud！
伊語－Salute！　露語－Салют！　中国語－干杯！

いそべ男声メロディー・歌の博物誌24

"Auf wiedersehen, Auf wiedersehen, さよなら さよなら

「思い出のリュウデスハイム」いそべ かず作詞・磯部俶作曲

澤野　勉（2T）

五曲からなる男声合唱組曲、『パウラ』の第一曲で、組曲の名ともなっている女性－パウラに旅の青年が出会って、さらにベルリン、ミュンヘン、ザルツブルグと旅をしたあとに、ウィーンで再会するというロマン溢れるストーリーが展開される。

明かした夜が明けて、〝あかつきの空がそっと白むころ〟パウラと別れるのだが、そこに↖

とばは表している。

ドイツ語の auf wiedersehen も別れの挨拶だが、こちらは意味は再会をのぞんで、ということ。auf は〝めがけて〟であり、wieder は再び。sehen は会うという意味。要はまた会いましょうということで、中国語の再見（ツァイチェン）と同じだ。ロシア語の до свидания（ダ・スヴィダーニャ）も同じ。до は前置詞で、…までに、

言外に惜別の思いを表すこのことばには、なんとも奥ゆかしい響きがある。

＊

さて、そのさようならが、この50年ほどで、いささか様変わりしている。昭和30年代まではさようならは生きていた。（歌詞では47年の「夜のプラットホーム」のような例外もあるが）昭和31年の「愛ちゃんはお嫁に」

ドイツ語と日本語の別れのことばが出てくる。

〝博物説〟を掲げながらテーマがモノでなくて恐縮だが、この歌詞の〝さよなら〟に目を止めてみたい。そして歌詞のドイツ語と対比してみると、そこにいろいろと面白いことがわかる。

〝さよなら〟は本来「さようなら」－漢字で〝左様（然様）ならば〟で、左様、つまり、そのようならば仕方がない、お別れですという意味だ。名残を惜しみながらの別れの心情を、このこ

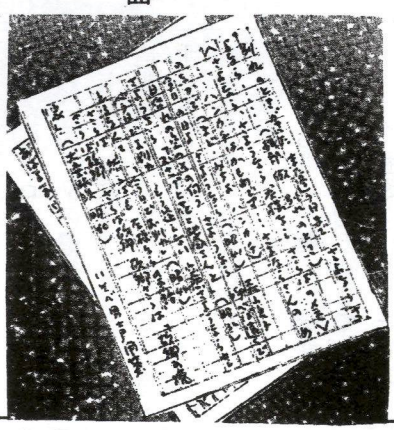
до свидания は会うこと、面会で、これもお会いする時までとなる。

ドイツ語の辞典のさようならを見ると、leben Sie wohl! というのもある。wohl は幸福、健康の意味だから、〝おしあわせに〟となる。

わかれの挨拶は、大体、〝また〟と〝お元気で〟の二つの系譜があるといえよう。

＊

その中で、〝さようならばいたしかたない〟という日本語のさようならは異色といってよい。



（服部雅詞、村沢良介作曲）では、まさしく古来の言い回しで鈴木三重子の歌は〝サヨ・オナラ〟と聞こえる繰り返しが耳に残った。このあと、64年の東京オリンピックのフィナーレの電光掲示板ではさようならはSAYONARA AGAINとなる。この頃から、さようならは変わって、さよならとなってきたようだ。外国人に発音しやすいということも変化の原因となっていると思われる。『パウラ』の舞台はヨーロッパ。ここはやはりサヨナラなのだろう。

（カットも筆者）

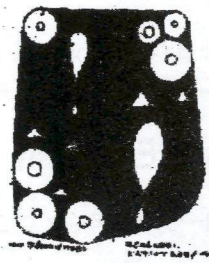
まど・みちお 絵展

川崎市在住のまどさんは１９７６年に川崎市文化賞を受賞しています。１００歳詩人による絵画展覧会。

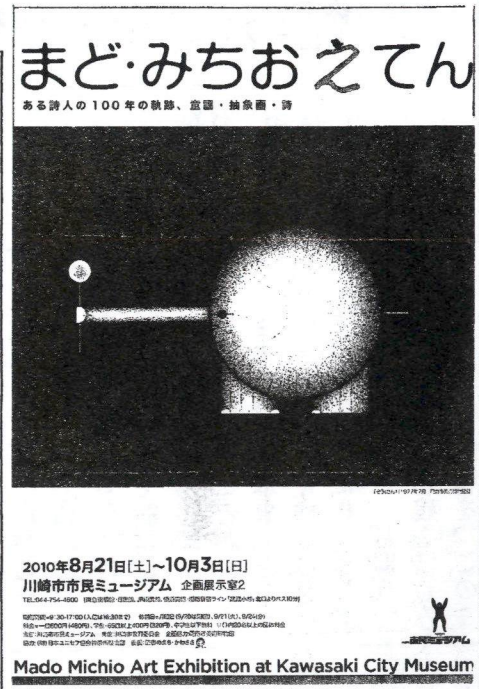
１００歳の詩人まど・みちおさんの「画家」としての業績を紹介する「まど・みちお えてん」が、10月3日まで川崎市市民ミュージアム（☎044・754・4500）で開かれている。

まどさんが抽象画に没頭したのは、童謡から詩の創作へ移行した50歳代前半のころ。自宅のある同市に近い東京都内の病院で療養生活を始めた昨年春に創作を再開し、1年余りで約１０００枚を描いた。同展では、ボールペンなどで丹念に凹凸をつけた「石」をはじめ１９６０～70年代の作品全１２９点と、今年１～３月に手がけた近作から20点を展示。定規で精密に描いた作品＝写真＝には、「ふじの山は日本一。どこからでも見える！　いろいろに。」と、詩的な言葉も添えられている。「他人と過去の自分のまねはしたくない」と言うまどさんらしい多様な作品を味わえる。

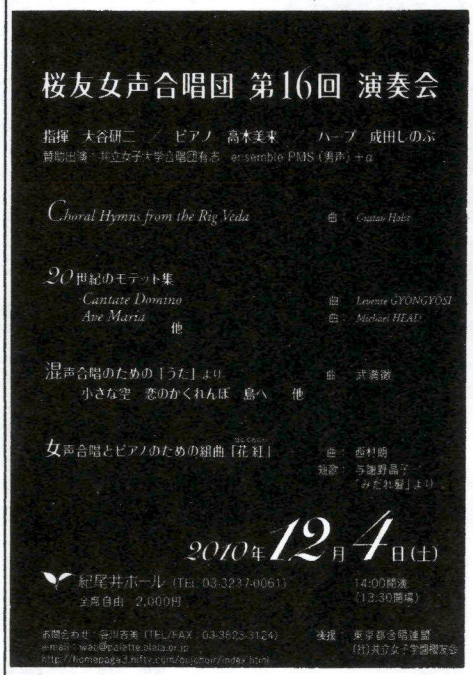
（読売新聞）



2010年1月24日　作家蔵



8月21日～10月3日
川崎市民ミュージアム
（川崎市多摩区等々力）
武蔵小杉駅からバス10分
（南部線・横須賀線・東急東横線）
休館／月曜日、9月21日、9月24日
入場料一般６００円



桜友女声合唱団
第16回演奏会
１２月４日（土）14時開演
紀尾井ホール
委嘱初演/組曲「花紅」西村朗曲
（与謝野晶子「みだれ髪」より）
20世紀モテット集
混声のための「うた」より（武満徹曲）
全席自由2000円



オルフェイ・ドレンガー
（スエーデン王立男声合唱団）
１０月９日（土）１８時
東京オペラシティコンサートホール
シューベルト、アルヴェーン、ブーランク、ラフマニノフ、
ロッシーニ、ベルリーニなどの男声合唱曲演奏
S6000円、A5000円、B4000円

神崎ゆう子さんの「遥かな友に」

和先生の納骨式のあった翌日の7月24日、保谷こもれびホールでの「神崎ゆう子・美しき日本の歌」を聴きに行きました。神崎ゆう子さんはＮＨＫ「お母さんといっしょ」の第16代「うたのおねえさん」として6年間歌った方で、長身の素敵な方です。

とくにプログラムは無く歌い進み、第1部の最後に「私のとても好きな歌で、みなさんにも是非歌っていただいきたい歌です」として、「遥かな友に」を歌い、第2部では磯部先生の「びわ」を歌いました。

いつも歌い、聴く「遥かな友に」とはまた別の感じでしたが納骨式の翌日だったこともあって、心にしみるものがありました。

神崎さんは、同じようにあちらこちらで「日本の歌」を歌っておられると思いますが、いつまでも「遥かな友に」など磯部先生の歌を歌っていただきたいと思っています。（宮田）

女声アンサンブル アトリエ

「ひまわり賞」受賞

7月21日、全日本おかあさんコーラス全国大会（長野市ホクト文化ホール）でアンサンブルアトリエさんは「ひまわり賞」を受賞されました。指揮は須賀敬一、ピアノは木島美紗子。曲は女声合唱組曲『雛の春秋』から「雛の季節」（村上博子作詞、高田三郎作曲1969年）

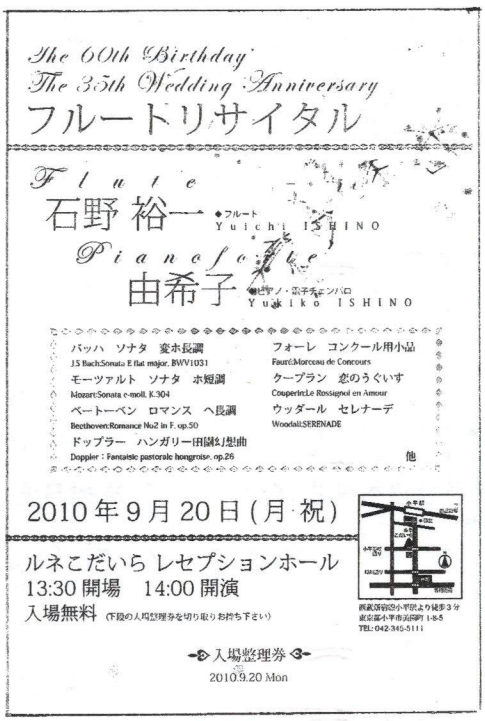
21日、22日に51団体出場のうち優秀賞としての「ひまわり賞」受賞は21団体でした。

学習院輔仁会音楽部OB会 女声合唱団

「こどもの四季」（磯部俶作曲）を演奏

9月26日（日）浜離宮朝日ホールでの第12回定期演奏会で、賛助出演のOB男声合唱団が組曲「こどもの四季」（磯部俶作曲）全曲を演奏します。このほか女声が「ハッシャバイ・ソングス」（石黒晶曲）など、男女合同で「蝙蝠のワルツ」（J.シュトラウスII）などを演奏。プログラムにはOBの渋谷さんによる「こどもの四季」の解説が載っています。

（渋谷さん±扱い）



石野祐一・由希子

フルートリサイタル

（60歳・結婚35年記念）

9月20日（月・祝）14時開演

ルネこだいらレセプションホール

（西武新宿線小平駅より徒歩3分）

曲目／バッハ・ソナタ変ホ長調、モーツァルト・ソナタホ短調、ベートーベン・ロマンス、ドップラー・ハンガリー田園幻想曲

入場無料

石野さんは1983年ころから2000年まで、いそべ男声1Tに在籍。いそべ・沖縄男声欧州演奏旅行の際はピッコロで「八木節」の共演をされたこともあった。フルートを福原信男氏の師事、むさしのフルートオケに入団、山野コンテストで金賞2回受賞。アンサンブル・アルファを立ち上げ、多摩地域のアンサンブル、オケなどの奏者として活躍。夫人の由希子さんはピアニスト、女声合唱団虹の団員。結婚35年石野夫妻の共演をどうぞ。（整理券は宮田まで）

総務だより

8月22日運営委員会報告（出席13名）

■運営委員の変更

①運営委員の新設の「渉外」（宮田新任）は「総務（副・渉外）」とすることにした。

②別途規定〈事務局、会計の所在地〉の表記の変更

新「江東区辰巳1－8－45－302 戸丸 悟方」

■大和郷幼稚園からの演奏依頼

・希望日／12月20日（月）

・前向きに検討すると回答することとした。

・須賀さんが指揮可能の場合、前日の19日に練習可能か否かを確認する。

＊幼稚園演奏に参加可能の団員は約20名。

■団員の動向

・退団

木下 協さん±

健康上の理由から8月4日に退団された。心臓冠動脈の異常ということ。退団後は賛助会員として応援される。

・休団

村岡昭一郎さん2テ

春頃から体調不良が続き6月末ごろから欠席、休団されることとなった。

■ボイストレーナーについて

須賀さんから提案のあった横田清文さん（大阪メール）に委嘱することとした。

■来年春の合宿について

合宿は音楽力向上と親睦のために必要な活動だが、今後も高速道路の休日割り引きなどで、大きな渋滞が予想されることなどから、これからは鉄道利用可能範囲での地域を選定して実施することとした。

■夜桜見物の件

既報、4月3日（日）屋形船お花見のプランは実施と決定し、早急に予約する。

■Cバー会場費不足

最近、Cバーは会場費が不足することが多くなってきたことから、今後@200円を会場費として追加徴収することとした。

消息

（上記「団員の動向」）

訂正

●351号1頁3行目

正「三声のカノン「雪」」（大和ミエ子作詩）

誤「三声カノン雪」（村上博子作詩）

＊電子版は修正してあります。

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう
囿：須賀監督指導・指揮
○運営委員会は原則として第４日曜日11:00練習場にて開催

■２０１０(平成22)年

9月12日(日)13:00～17:00　定例練習囿　豊洲　Cバー ~~2B~~ 1T
26日(日)　**第19回磯部俶記念「遥かな友に」道志川合唱祭**
曲目／思い出のリュウデスハイム（組曲『パウラ』より）
おにいちゃんの成績（組曲『おかあさんのばか』より）
服装／ポロシャツ、チノパン
10月 1日(金)、2(土)、3日(日)　須賀監督沖縄出張合同曲練習（当団よりの同行者あり）
10日(日)13:00～17:00　定例練習　豊洲　Cバー 2T
24日(日)13:00～　定例練習囿　南砂小学校(練習後合唱祭会場へ徒歩移動) ☞12時委員会
第48回江東区民合唱祭（江東区文化センター）
曲目／思い出のリュウデスハイム　或いは　カノン雪（未定）
服装／ブレザー、黒ズボン
11月 6日(土)13:00～17:00　強化練習囿　古石場
7日(日)10:00～17:00　強化練習囿　古石場　Cバー 1B
宮城敏先生来団、合同曲練習
14日(日)13:00～17:00　定例練習　豊洲　Cバー 2B
28日(日)13:00～17:00　定例練習　豊洲　Cバー 1T
12月12日(日)13:00～17:00　定例練習囿　古石場　Cバー 2T
☞19日(日)13:00～17:00　臨時練習囿　豊洲
☞20日(日)　**大和郷幼稚園コンサート**
26日(日)13:00～17:00　定例練習囿　豊洲
☞　17:30 受付開始 18:00開宴 **忘年会**　於／銀座Sun-mi高松

■２０１１(平成23)年

1月23日(日)　**第９回沖縄男声合唱団との合同演奏会**　於／那覇市民会館
予定曲目／いそべ単独曲／組曲「優しい愛のうた」全５曲(前奏曲おやすみなさい、おにいちゃんの成績、さかな、どうぶつえん、「片耳の大鹿」よ)
沖縄単独曲／いちじく、大ずもう、ゴキブリの唄、砂持節、鳩間節、谷茶前之浜
合同曲／須賀敬一指揮／組曲「啄木短歌集」、三声のカノン「雪」
宮城 敏指揮／男の子の子守歌、「西表民謡へのオマージュ」
アンコール曲／

予定／22日(土)19:00　合同曲中心練習(ＭＯＡ青少年研修センター)
23日(日)10:30～11:15　沖縄男声リハーサル(演奏会場)
11:15～12:00　いそべ男声リハ
昼食
12:00～12:30　混声リハ
13:00～13:45　合同リハー須賀指揮
14:00～14:45　合同リハー宮城指揮
14:45～15:00　出入、立位置
15:30　開場
16:00　開演
18:00　終演
19:30　打ち上げ

編集後記

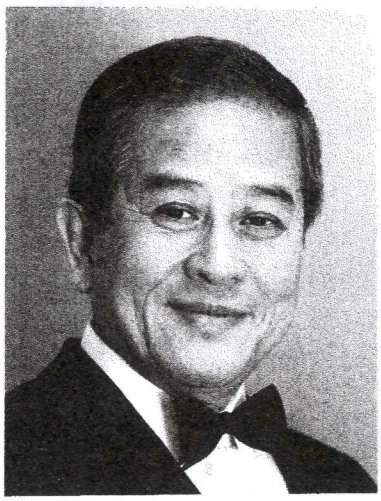
◆ドイツ式乾杯の指導つきのビヤガーデンに行きそびれたのは残念でした◆そこでふと思いついたのは「乾杯」なる言葉はいつごろからあるのか。早速調べてみてびっくりしました。平安末期の儀式の書に天皇に御酒を献じようと親王がひざまずき「乾杯」と唱えたとあります。また他の資料にも、少納言が上卿に盃を献じる、貴人に御酒を捧げることを「献盃」と書いてありました◆この時代、神、尊い人を讃えるため神酒を捧げる儀式。その時に発する言葉が「乾杯」であったことが解りました◆ところが「太平記」に「無礼講の事、献盃の次第、上下を云はず」とある。つまり鎌倉時代になると貴人も武士も身分の上下なく盃を汲みかわす場面が出て来ます。この辺から我々の「乾杯」に近くなってきたのを感じます◆「献盃」は親鸞没後、その厨子に屠蘇を供える献盃式がはじまって宗教的性格が添えられ、今の弔意を表する際の用法に繋がっているらしいこともわかりました◆つまりは何かにつけ酒は人と共にあり、人は酒と共にありということですか。渋谷さんに感謝。(河合)

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２０１０年 10月 第３５３号

発行代表者:戸丸悟 〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同

早瀬一洋先生 逝去



早瀬一洋先生が9月28日、悪性リンパ腫のため逝去されました。享年71歳。

29日に葬儀、30日に出棺式が三鷹バプテスト教会で行われ、音楽関係者など多数の参列者が先生の早すぎた逝去を悼みました。

先生は昭和14年、熊本市に生まれ、東京芸大卒、武蔵野音大大学院を修了して高校、東京学芸大、昭和音大などで教育者として、一方オペラ歌手、宗教曲などのソリストとして活躍されました。

30年前に光の家の活動に出会い、バプテスト教会で洗礼を受け、教会の礼拝時のソリストとして聖歌隊の一員として最近まで参加されていました。

29日夜の葬儀は賛美歌、祈祷、主への祈りが粛々と行われ、故人略歴紹介の中で、司会の秋山献一主任牧師は、先生の入信の際の文章のうちに「今まで私はなんと傲慢だったか。神に反抗的であった。しかし今、音楽する幸福を知った。すべては神が計らってくださっていることを知った。」と記しておられたことを紹介され、参列者たちは先生の音楽に対する真摯な、真剣な姿勢の根源に納得するのみでした。しかし先生は練習の折、雑談の折など教会の話は一切なさらず、クリスチャンであることなど全く知らなかった当団団員も多くいました。

親交のあった北島靖士前主任牧師はメッセージの中で、早瀬先生が「メサイア」の冒頭のテノールの叙唱Comfort yeを歌ったとき「私の背筋が大変な衝撃を受けたのを忘れません。先生は神の慰めを経験していたからこそ私の心を打つ絶唱になったのだと思います。」と語り、数々の懐旧談を紹介されました。

音楽関係の参列者たちの堂内に大きく響きわたる賛美歌、頌栄と続くなか、遺影のなかの早瀬先生は限りなくにこやかでした。

最後に多恵子夫人から「4月9日に入院しましたが病名不明で2週間後に悪性リンパ腫とわかり抗ガン剤の治療が始まり、治癒かと思われたところ転移が発見され9月28日亡くなりました。夫は精一杯に生きたと思います。勉強も好き、ベッドでも歌曲振興会のことも気にかけていました。亡くなっても歌声だけは皆さんのなかに残っていると思います。暖かい人達に囲まれて喜んでいると思います。ありがとうございます。」と心情あふれるご挨拶がありました。

告別の献花によって葬儀は終わり、翌30日11時から出棺式、これも多数の方の参列があり、最後のお別れをしました。

いそべ男声には99年8月から10年以上にわたり、発声の指導をされ、我々の技術を大きく高めてくださいました。

式後、多恵子夫人に長田代表らが挨拶したところ「夫は、いそべ男声さんは私の指導をマスターしている、安心したと言っていましたよ」と話してくださったのです。

わたしたちは深く頭を下げるしかありませんでした。

ご冥福をお祈りいたします。

(河合記)

早瀬さん ありがとう ございました

長田 茂

(いそべとし記念男声合唱団代表)

磯部さんの逝去で、常任指揮者に迎えていた須賀さんを中心に、新たな出発を模索していたいそべ男声は、翌年、ボイストレーナーに早瀬さんをお迎えしました。

酒飲みの古希集団に戸惑われたとお聞きしましたが、私どもにも、早瀬さんの指導は新鮮でした。「歌い出す前に、息を吸い込むな、息は吐き切れば自然に入ってくる」。かと思うと、「息を吸いながら歌え」。

でも早瀬さんのおかげで、柔らかい発声を憶え、いそべ男声の声の寿命は確実に延びました。

この教えていただいた発声を忘れないように、これからも精進してまいります。「奥のほうへ」「丹田」「支え」「ラグビーボール」「たまご」「傍鳴り」ーーの早瀬語録を思い出しながら。

いつまでも天国からお見守りください。

第19回 道志川合唱祭 盛会

猛暑が終わったあとの幸運な晴れ間の一日、9月26日、第19回「磯部俶記念『遥かな友に』道志川合唱祭が相模原市緑区の津久井合唱館やまびこホール周辺で開催された。400人、18団体の参加で道志川渓谷は合唱の歌声がこだまし続けていた。

今年、相模原市が政令指定都市となり、津久井町青根から緑区青根となっての催しとあって実行委員の高城鶴吉さんの挨拶も力が入っていた。

10時30分に開会冒頭、高城さんの『遥かな友に』が作曲された時のグリーの合宿に参加されていた方、手をあげての呼びかけに応じて、当時現役だったいそべ男声の澤登、河合、田邊、長田、若月のメンメン、それに坪井先輩もオーの掛け声とともに挙手をして、会場の拍手を受けた。

高城さんはさらにこの合唱祭の歴史の話に続いて、磯部和先生死去の残念さを話され、遺志を継続してこの合唱祭を続けたいと結んだ。

続いて新任の高部博・緑区長が、前夜祭では花火も打ち上げて盛り上がっている、相模原市は『潤水都市』宣言を出しているが、同時に文化資源も十分に生かして行きたいのでご協力を願うとのあいさつがあって、演奏が始まる。

＊

いつもトップの「やまびこ合唱団」の『叱られて』から合唱開始。シルバー団体「コーラス喜楽楽」が女声10名で頑張り、11名の混声「つくいムジーク・フェラインが堅実に『椰子の実』などを歌って拍手を受けていた。

若い女性11名の「COSMOS」は『上を向いて歩こう』などを歌って親しさをひろげて、「つくい合唱連盟」はよく通る発声で『愛のよろこび』などを好演した。

ここまでの5団体は地元津久井地区の団体。続く2団体は中央区からの出演となる。

「コーラスたんぽぽ」は『おおひばり』など、「元気の出る歌声サークル」は『あなたが大切だから』など、古典的な曲や新しい曲を手堅くさわやかに歌った。

＊

「フラウエンコールいそべ」は8番目の登場。磯部周平さんの指揮で『カレルの橋』『江ノ島旅情』を演奏。磯部メロディーが流れる。

さて、ここでいつも異色のメンバーで参加する堤敦子さんひきいる「コールダイヒ」の登壇。今年は6名だが一人はお父さんに抱かれる松本蒼大(そうた)君、2歳3月の特別参加。堤さんのピアノで『風の歌』と『駅前通り商店街』(饗餐曲)を歌って大拍手を受けた。途中で蒼大君は可愛いあくびもしていた。

＊

屋台店の焼き玉蜀黍、うどんなどで腹を満たし、交流タイムも十分にとって、午後の部の最初は、津久井地区の「うたごえ」がいつもの手話つきで『この広い野原いっぱい』を歌って大きな拍手を受けた。

11番目は「湘南女声合唱団」が、かず先生のあとを継いだ伊藤俊三さんの指揮で『藤棚のしたにわたしは眠る』など3曲を演奏。最後の『オー・シャンゼリゼ』は手拍子も入れてにぎやかに。「横浜木せい会」は周平さんの指揮で『小さな世界のなかに』など3曲。「クールオルタンシア」が蟻生栄子さんの指揮で『ひよこ』と『ヤマアラシ』と再びいそべメロディーが響いた。『ヤマアラシ』は我々も歌ったが、オリジナルは女声向けだったのだ。

＊

地元合唱団の演奏に代わり、「フラワーエコー」女声22名が『武蔵野を歩く歌』と『ハロー



→会場全景。トップはやまびこ合唱団の「叱られて」から



←青根小学校・「未来を旅するハーモニー」「See You」



→コールダイヒ・「風の旅」「日の岬」「駅前通り商店街」

ドーリー』などを歌い、歌う楽しさあふれる演奏を聞かせてくれた。

続くのは津久井地区の小中学生の演奏。まず「つくい少年少女合唱団」。今日は運動会などと重なり全員がそろわず10名だったが『幸せのリズム』と『もうじき卒業』の2曲を立派に歌ってくれた。そして「青根小学校」の、丸刈り頭の2年生らしき生徒から高学年まで18名が、『未来を旅するハーモニー』と『SeeYou』の2曲を真剣に歌う姿に大きな拍手がおくられた。



→ボニーさんに花束を贈る青根の生徒たち

地元最後は40名と本日最多の「青根中学校／やまなみ」。中学校の生徒に先生方、PTAママさんによる『語りあおう』と『YELL』の2曲を混声で堂々と演奏した。

合唱団の最後はいそべ男声。『おやすみなさい』『おにいちゃんの成績』を安部建雄、『思い出のリュウデスハイム』を三上正秋の指揮で演奏。ピアノは永井博子さん。出演は5・6・5・5の計21名だった。

＊

この合唱祭はいつもそうだが高年齢のグループから小学生の団体ありで、ポピュラーな曲あり懐かしい曲あり、多彩なプログラムだった。ただ磯部俶先生の曲を歌ってくれる地元の団体が非常に少なかったのは少し寂しい気持を抱かざるを得なかった。

＊

さてお待ち兼ねのボニージャックスの出番だ。

その前に高城実行委員が再び登壇し、ボニーとの出会い、そして『遥かな友に』歌碑の設立までのいきさつが語られて、一同謹聴して改めてこの19年の重さを噛みしめたのだった。

＊

ボニーさんたちは、一人を除いて我々いそべ男声と同年代だが流石プロ、声や歌の衰えは感じさせない。『緑の雨江ノ島』『あじさいあじさいオルタンシア』『大きな古時計』『そして葉桜のとき』(酒脇久夫作曲)『黒い瞳』『あなたの笑顔』(酒脇久夫作曲)とお得意の持ち歌と新曲で聴衆を喜ばせてくれた。この日はバンドではなく永井博子さんピアノ伴奏で初めてのコラボと思われるが、ぴったり息のあった演奏で堪能させてくれた。

＊

ここへ駈けつけたのは加山俊夫相模原市長。19回の開催を祝し、「遥かな」ところからの参加を感謝している。緑区の道志川・相模川水系は神奈川の水の65%を供給している水源地であることと同時に心豊かな文化地域でもありたいと思っている、こうした企画をずっと続けたい、どうぞ皆さんよろしく、との力強い挨拶があった。

＊

最後の全員合唱『道志川旅情』『遥かな友に』を磯部周平さんの指揮で歌い、関戸実行委員長の閉会の挨拶があって全プログラムは終了。予定を30分以上オーバーしたが心配された雨も殆どなくめでたく閉会となった。

＊

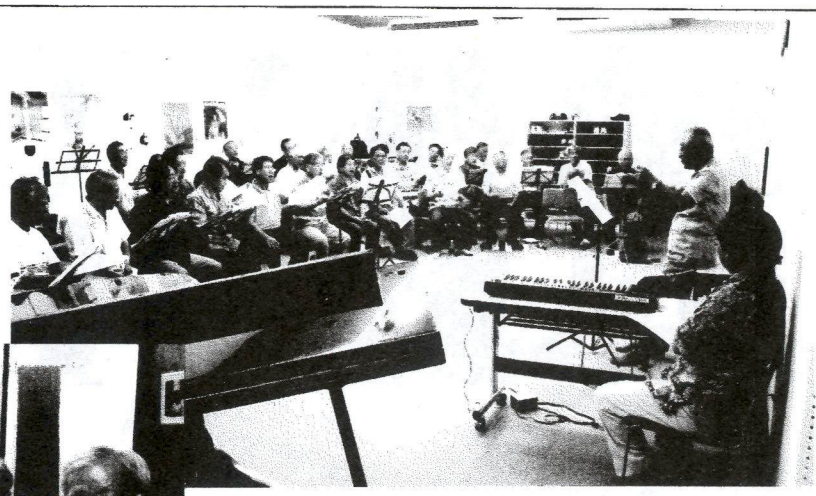
相模原市緑区の地域政策課が配布している「緑区イベントスケジュール」の9月の欄に〈「遥かな友に」道志川合唱祭（津久井合唱館）〉と明示されている。来年の開催も間違いない。（河合）



→いそべ男声・「おやすみなさい」「おにいちゃんの成績」(安部指揮)「思い出のリュウデスハイム」(三上指揮)PF永井博子

須賀さん合同曲練習に那覇へ

10月1日～3日





↑首里の丘の沖縄男声の練習場で。「啄木短歌集」「カノン雪」「思い出のリュウデスハイム」を練習。「雪」の歌詞割りにいささか難航。

←練習前日の懇親会。沖縄男声の宮城敏指揮者、宮城稔団長、新城哲男さんと、いそべ男声は須賀指揮者、長田、川野辺、大澤の４名。

沖縄男声との那覇での合同演奏会で歌う須賀敬一編曲の八曲の三曲め。〝いのちなき砂のかなしさよ／さらさらと／握れば指のあひだより落つ〟という歌。二曲めには〝頬につたふ／なみだのごはず／一握の砂を示しし人を忘れず〟とある。

共通に出てくる〝砂〟でわかるように、これは啄木の最初の歌集『一握の砂』にある歌。↖

明治43年に刊行されたこの歌集は、明治41年以降の歌謡ノートの中から五五一首が採録されている。

『一握の砂』にはタイトルとなっている砂にちなんだ歌として有名な〝東海の小島の磯の白砂に／われ泣きぬれて／蟹とたはむる〟の歌と、前述の二首のほかに、砂をテーマとした次の歌がある。

〝いたく錆びしピストル出でぬ／砂山の／砂を指もて掘りてありしに〟

〝しっとりと／なみだを吸へる砂の玉／なみだは重きものにしあるかな〟

〝砂山の砂に腹這ひ／初恋の／いたみを遠くおもひ出づる日〟

ここに共通して出てくるのが砂で、こうしてみると啄木が砂に対して、特別な思い入れをもっていることがわかる。〝いのちなき砂〟がなぜかなしいのか。そこには逆にいのちある自身への限りないいとしさを感じていることが読みとれる。

ちなみに〝いたく錆びし〟の歌ー、まさに後年、石原裕次郎が歌った『錆びたナイフ』のモチーフは、ここからきているのだろう。

☆

砂は細かい岩石の集合体。各種鉱物が成分で、2㎜～0.02㎜の粒子をいう、とされる（国際土壌学会法）。莫大な量や価値のないもの、味気ないもの譬えともされる。「砂を噛むよう」（味気ない）、「砂になる」（無駄になる）というふうにも使われる。

その価値のない細かい粒子にことさら心を寄せるところに啄木の鋭い感性が感じられる。

☆

砂には沙の字もある。中国語では砂漠は沙漠（シャモー）。海のように広いということにもなるのだろう。

広い世界には宝物もある。

宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』は不思議な列車に乗ってジョバンニが旅をする。夜の十一時、カムパネルラと一緒に白鳥の停車場に着いて二十分停車、近くの河原（プリオシン海岸）でカムパネルラが言う。

「この砂はみんな水晶だ。中で小さな炎が燃えている」

そうだ、砂は〝いのちなき〟という無機物だが、実際には岩石だけではなく、貝殻など生物由来のものも含まれている。白砂といわれるのは石英質の多い砂、鉄分が多いと赤みを帯びてくる。

砂にも多様な顔があるということだ。啄木が手にした砂はどんな砂だったのだろうか。

（カットも筆者）

いそべ男声メロディー・歌の博物誌25

〝いのちなき砂のかなしさよ〟

「いのちなき」石川啄木作歌・高田三郎作曲

澤野　勉（2T）



総務だより

●アンケート実施

今後のレパートリー拡大充実のために団内アンケートを実施中。9月12日に記入用紙を配布済み。「①関心のある曲、演奏してみたい曲②演奏会の企画③その他」の項目について記入し早急に提出をお願いします。

●10月24日(日)の運営委員会の開始時間に注意

江東区民合唱祭当日の練習は13時から南砂小学校で行う予定なので、委員会は12時から同校で開催する。したがって昼食は事前に摂っておくことをおすすめします。小学校での練習後近くの合唱祭会場に移動します。

●江東区民合唱祭打ち上げ会

今回の打ち上げ会は、予約が必要となります。会場は昨年と同じ文化センター内の「ダイニングボワール」ですが、ヴァイキングではなくコース料理となったため予約が必要となりました。

飲み放題&コース料理で一人2980円です。

参加希望者は10月22日までにお知らせ下さい。

●忘年会

12月26日(日)今年最後の定例練習後、銀座に移動しての忘年会となる予定です。

会場は「Sun-mi高松」本店（銀座6-3-9、銀座数寄屋通り03-5568-3300）

会費等未定。ピアノの使用可とのこと。

コンサートガイド



磯部周平
クラリネット室内楽演奏会
10月22日(金)6時45分開演
　紀尾井ホール
曲目/コントラスト(バルトーク)
　時の終わりのための四重奏曲
　(メシアン)
　クラリネット五重奏曲ロ短調
　(ブラームス)
出演/野平一郎(pf)
　漆原啓子,森田昌弘(vn)
　鈴木康浩(vl)
　向山佳絵子(vc)
全自由席　一般5000円



長 直子ヴァイオリンリサイタル
10月29日(金)19時開演
　ルーテル市ケ谷センター
曲目/ソナタK304(モーツアルト)
　ソナタop121(シューマン)
　愛の喜び(クライスラー)
　ツィガーヌ(ラヴェル)
ピアノ/立花真理
全自由席　3000円

SCASCA楽語迷解①

「デキゴコロ」

用例
本番を前にして監督いわく、「ついデキゴコロを起こすかもしれません。よろしく」

手許の辞典には「できごころ-あらかじめ計画しておいたのではなく、その場でふと起こした考え。もののはずみでふらふらと起こった考え。」とある。

しかしマエストロの場合、ふとしたはずみでも何でもない。多少の選択の幅はあったかもしれないが、指揮計画のリストには厳と存在していてその時の音楽の流れのなかで必然的な表現として振り方を変えるのだ。

それを「デキゴコロ」などと常習万引き犯の自白の如くおっしゃる。

こう言われて、ついていかれないコーラス野郎がいたら断じて制裁ものだろう。

ところで、リハーサル中の曲に「ハッピーバースデー」の曲を滑り込ませて、食道ガン手術後の小沢征爾の誕生日を祝したサイトウ・キネン・オケの人達、この「デキゴコロ」は素敵だったね。

（楽語保存会員RK）

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター第３第４会議室
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

須：須賀監督指導・指揮

○運営委員会は原則として第４日曜日11:00練習場にて開催

☞表示の配置(時刻の位置など)を変更しました。10月10日

		時間	会場・曲目		Cバー等
■２０１０(平成22)年					
10月10日(日)	定例練習	13:00～17:00	豊洲		Cバー２T
24日(日)	定例練習 須	13:00～	南砂小学校(練習後合唱祭会場へ徒歩移動)		☞委員会12時より
	第48回江東区民合唱祭（江東区文化センター）				
			・曲目／思い出のリュウデスハイム		
			・服装／ブレザー、黒ズボン		
11月 6日(土)	強化練習 須	13:00～17:00	古石場		
7日(日)	強化練習 須	10:00～17:00	古石場		Cバー1B
			宮城敏先生来団、合同曲練習		
14日(日)	定例練習	13:00～17:00	豊洲		Cバー２B
28日(日)	定例練習	13:00～17:00	豊洲	委員会11時	Cバー１T
12月12日(日)	定例練習 須	13:00～17:00	古石場		Cバー２T
☞19日(日)	臨時練習 須	13:00～17:00	豊洲 ☞(地下練習場)		Cバー１B
☞20日(日)	**大和郷幼稚園コンサート** 須		(文京区本駒込)		
26日(日)	定例練習 須	13:00～17:00	豊洲	委員会11時	
☞	**忘年会**	17:30 受付開始	18:00開宴 於／銀座Sun-mi高松		

■２０１１(平成23)年

1月 9日(日)	定例練習	13:00～17:00	豊洲
22日(土)	沖縄合同リハーサル		
		19:00	那覇市ＭＯＡ青少年研修センター
23日(日)	**第９回沖縄男声いそべ男声合同演奏会**		於／那覇市民会館

10:30～11:15	沖縄男声リハ
11:15～12:00	いそべ男声リハ
12:00～12:30	混声リハ
13:00～13:45	合同リハ須賀
14:00～14:45	合同リハ宮城
14:45～15:00	出入、立位置
15:30	開場
16:00	開演
18:00	終演

曲目／
いそべ単独曲／組曲「優しい愛のうた」全５曲(前奏曲おやすみなさい、おにいちゃんの成績、さかな、どうぶつえん、「片耳の大鹿」よ)
沖縄単独曲／いちじく、大ずもう、ゴキブリの唄、砂持節、鳩間節、谷茶前之浜
合同曲／
・須賀敬一指揮／組曲「啄木短歌集」、三声のカノン「雪」
・宮城 敏指揮／男の子の子守歌、「西表民謡へのオマージュ」
アンコール曲／

編集後記

◆早瀬先生のヴォイス・トレーニングでまず面食らったのは、学生時代に教わったのとは反対の指導でした◆空気を吸い込んだら腹はぴんと張って、声は鼻から頭のてっぺんに響かせてという、昔言われたことが全部否定されて、腹は息を吸うときも吐くときも常に柔らかに、声は頭の後ろに響かせる、頭がラグビーボールの形と思って……などなど……◆初めはそんなことできるかという思いで指導を受けていましたが、だんだん小生の声の響きの位置が変わってきて、これは違うと自覚して来たのは先生の指導を受けて１年を過ぎた頃からでした◆当団の演奏を聞いた友人からの「随分響きが柔らかくなったね」との感想を聞いてそれを実感しました◆小生も高音がすこしずつ楽になってきました。しかしまだまだ腹の堅さは抜け切れず、高音の響き不十分。もっと先生の指導を請いたいと思っていた矢先の先生の急逝でした◆いそべ男声の発声の大改造をしてくださった先生に、ありがとうございましたと、何度も小声で言いながら献花するのがやっとでした。（河合）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２０１０年 11月 第３５４号

発行代表者:戸丸悟 〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同



←いそべ男声での早瀬先生の発声指導 2009年4月

早瀬先生 安らかにおやすみください

佐川敏之（ティアラこうとう）

私が早瀬先生と初めてお会いしたのは、今からおよそ13年前の春のことでした。

私の妻が早瀬先生の門下生であったことが出会いのきっかけでしたが、妻が田舎から東京に出てきた際、東京での父と慕いお世話になっていたとても大事な方でした。私たちの結婚式では早瀬先生から「嫁ぐ娘への子守唄」という歌をプレゼントしていただき、大変感激したことを、つい先日の出来事のように思い出されます。

仕事においては、私が文化センターで企画した講座の講師をお引き受けいただき、イタリア歌曲の講座と日本歌曲の講座を各半年、計1年間お世話になり、文化センターのロビーで行った講座受講生の成果発表会でも素晴らしい歌声を披露していただきました。

私が早瀬先生と最後にお会いすることができたのは、昨年11月のティアラこうとうの大ホールで行われた、いそべ男声さんの35周年記念演奏会のリハーサルの時でした。

その時も、早瀬先生とは簡単な会話を交わさせていただいた記憶しか残っておらず、それが今となっては最後のお別れであったかと思うと残念でなりません。

しかしながらいそべ男声のみなさんと早瀬先生とのご縁、私といそべ男声のみなさんとのご縁、私と早瀬先生とのご縁、これらのご縁が不思議なつながりをもちながら、ティアラこうとう大ホールで引き合わせていただいたのではないかと今では感じております。

お別れの会には家族全員で出席させていただきましたが、帰りの車の中で「きちんと、先生にお別れすることができなかった」と、こども達に号泣されました。

すこし落ち着かれましたら、また川崎の先生のご自宅に家族全員で会いにうかがうことができればと思っています。

早瀬先生、お疲れ様でした。安らかにおやすみください。

早瀬先生との思い出

高橋生久（2T・信州）

先生のお宅にレッスンで伺うと、必ず「やあ、いらっしゃい」と笑顔で迎えて下さったことが懐かしく思い出されます。

発声練習の内容等については「いそべ男声」の方々はよくご存知のことと思いますので割愛させていただきます。

先生は日頃から「僕は発声については医者だから」とよくおっしゃっておられましたが、本当に名医だったと思います。

平成十七年秋、先生ご夫妻が蓼科の私の山荘へいらして下さいました。その年は、紅葉が特に見事でした。山荘からも少しは見ることが出来るのですが、美しい紅葉を見ることの出来る「滝の湯ホテル」、そして「アートランドホテル」周辺をご案内したのですが、特に「いそべ男声トップ」の方達も見られた蓼科湖周辺の紅葉がひときわ美しく、そこに若い女性のグループが「超キレイ！超まっか！」と大さわぎする様を見て、先生ご夫妻はびっくりしておられました。

しかし先生は「落葉松」の紅葉がお好きでした。湖畔から15分ほど登った所にある「柏木美術館」の前に落葉松の並木道があり、秋の日に美しく輝いておりました。落葉松の葉が舞い落ちる時は、金の針葉がキラキラと輝いて幻想的な光景を見せてくれます。

その後の、ある演奏会で「落葉松」を歌われた時に、歌の途中で一瞬つまられたように聞こえたので、後ほど伺ったところ「あの蓼科の光景が思い出されて胸があつくなってしまって」と言っておられました。

レッスンの時には家内も一緒に伺って奥様と和服の話をするのを楽しみにしておりました。そしてレッスンのあとの楽しみは、奥様のいれてくださるおいしいお茶と大福やようかん等が用意されていました。それは先生がなじみのお店で、わざわざ買って来て下さったものでした。それを頂きながら、お二人のなれそめのお話や上浪明子先生との事、又、オペラ出演の時はいつも二枚目役だった事や、美空ひばりのバックコーラスをつとめた事等、数々のエピソードを伺いながらの楽しいお茶の時間でした。

先生は和服がお好きでご自分でもよくお召しになっていらした事等、色々なお話を伺うのがとても楽しみでした。

まだまだご指導をいただきたかった先生を失った今、先生のCDやレッスンの時のテープを聞きながら、優しかった先生の事を深く心にきざんで毎日を過ごして行きたいと思っております。

これからは奥様とお嬢さまの心の支えになれる様、つとめて参りたいと思っております。

先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

早瀬メソッドを忘れずに

安部建雄（1B・演奏練習総括）

過日、早瀬先生のレッスンをまとめようとして、手がとまってしまった。少しわからないことがあり、何かの機会に先生にお尋ねしようと思っていた。

けれどもまさか、こんなに早いお別れが来ようとは全く思いもよらないことだった。

お尋ねできる機会は永遠に失われてしまった。

しかし我々は今まで先生から伝授されたメソッドを忘れることは絶対に許されない。そのための一つの作業として、受けていた教えを記録し反芻しなければと思い、まず基本的な事を記す。間違い勘違いがあれば、諸兄のご指導をお願いしたい。

1．ブレス

・息は吸うのではなく、丹田を意識して吐く。力を緩めると息は自然に入る。

・ため息をする。口笛の形で手の甲にそっと。あくまでも息は押さない。

これらを意識すると余計な力が入らず、突き上げる発声が防止できる。

2．姿勢

・ややつま先立ち。体の中心は外さない。

・声は聞くのではなく見る姿勢。

3．発声

①地声、生の声を深い発声に

・卵をゴックンと呑み込むように、声を喉の奥に呑み込む。

・ゴックンのところで響く天井をさがす。

・同音で

イーオー

イオイオイオイオイー

・音階で

イイオオオー（ドレミレド）

イイオオオオオオー（ドレミファファミレド）

アエアエアエアエアエアエー（ドレドミドファドンドラドシドドー）オクターブ上下

イイイイーイイイイー（ドミソドーシラファレド）

アエエエーエエエエー（同右）

＊上記出だしの「イ」は「リ」にしてもよい。

②さらに響かせる（深く柔らかく）

・同音で

ヤイヤイヤイヤイヤー（鋭く、丹田に引っ張る）

リーエーアーオーウー（レガート、響く位置を外さずに。生の声禁止）

ミンミンミンミンミーン（テナーはファルセットネに活用）

・音階で

ミヤミヤミヤミヤミー（鼻の奥で、響きが前に向きだす）

リイイイイイー（同右。奥歯で噛むように）

ミイミイイー（ドレミレド）

ヤアヤアヤアー（ソファミレド。バスは上顎を伝って声が前へ）

ヤッハッハッハッハッハー（笑う。スタッカート）

＊音程が高くなるに従い弓を引き絞るイメージ。または頭がラグビーボールの形のイメージ。丹田から頭までの糸が切れないように。両頬で笑顔を作る。

沖縄合同曲目集中練習

宮城　敏先生来京　11月7日(日)


宮城先生の練習

6、7日の強化練習、7日午後は沖縄男声・宮城敏先生の指導のよる合同演奏曲の練習が行われた。沖縄勢は新城哲男さんと塩浜康男さんも加わって計3人。

男の子の子守歌、西表民謡はよるオマージュ、Ride the Chariotを練習。沖縄の音楽の心と黒人霊歌のリズム感を少し捉えられたようだった。

西表民謡…の練習に先立って沖縄男声さんから提供された民謡の原曲のCDを聞いた。資料館から捜し出して提供されたもので、琉球の祝い歌の味わいが深く感じられ、現代沖縄の作曲家の手による再構成の姿がよく理解された。しかしかなり練習はしてきたものの、歌い慣れない音程、さらには微妙な歌い回しはまだまだで、宮城先生の厳しい指摘と修正が続いた。

結局須賀さんの要請で5時まで西表民謡…の練習に当てて合同曲の練習を終えた。少し分かってきたかなという団員の声も聞こえてきたが一層の基礎固めが必要との認識を新たにした。

5時からは沖縄のお三方に、大阪から練習にかけつけた横田清文さんも入ってCバーは大にぎわい。

沖縄みやげの泡盛「おもろ」など3本、銘酒「大観」までも並んで卓上の会話は盛り上がるばかり。「ウ・ボイ」、「ふるさと」などを熱唱し、来年1月の那覇での再会を約して解散となった。

(河合記)

第48回 江東区民合唱祭に参加

10月24日(日)江東区文化センター

第48回江東区民合唱祭が開催されました。

賛助出演の2小学校を含めて48団体、出演人員も1000人を越す盛大な合唱祭でした。高齢化の波はまぬかれませんが、その中で若い年代のグループの参入もあったりして、合唱団数も増える傾向にあります。

第1部午前の部に賛助出演した豊洲北小学校と、第2部午後前半の北砂小学校の演奏は、姿勢、発声もよく、多分、東京の中でも高い水準にあると思われます。

一方、全団体の中でも高年齢に属すると思われる22人の「健康コーラスそよ風」は、指揮の小山郁美さんの指導によるものでしょうか、発声もよく張りがあり、はっきりした日本語で素晴らしい演奏でした。

当団は須賀さんの指揮、永井さんのピアノで「前奏曲おやすみなさい」(組曲『優しい愛の歌』より)と「思い出のリュウデスハイム」(組曲『パウラ』より)の2曲。団員は7・6・6・8でした。

いまいち元気がなかったかなという団員の自己反省も聞かれましたが、聞いた人の感想は柔らかさと男声らしい強さとがバランスがよかったという声も聞かれました。

さて、再来年2012年にはこの合唱祭も第50回の記念の年を迎え、ティアラこうとうでの開催がほぼ決まっています。ただ、現在の連盟委員はかなりの高齢であり(私もその一人)、記念合唱祭の内容も新しいアイディアは生まれにくいと私は主張し続けていますが、実行委員への立候補者が全く出てきません。

長く実行委員を務めてきた故米川さんの遺志を継ぐためにも何とかしなくてはなりません。皆さんの積極的なご意見を切にお願い致します。

(宮田)

全日本合唱コンクール全国大会に豊中混声、お江戸コラリアーず出場

11月20日・21日西宮市の兵庫県立芸術センターにて開催

○豊中混声合唱団(20日出場)
大阪代表 一般混声B
指揮／西岡茂樹 pf武知朋子
自由曲／「宇宙」(混声合唱とピアノのための組曲「宇宙になる―三つの愛のかたち―」より)(新実徳英作曲・和合亮一作詞)
課題曲／三つの無伴奏混声合唱曲より「風」(柴田南雄作曲)

○お江戸コラリアーず(21日出場)
東京代表 一般男声B
指揮／山脇卓也 pf前田勝則
自由曲／「くちびるに歌を」(信長貴富作曲)
課題曲／「まっさかさまのまさかのうた」(三善晃作曲)

沖縄演奏会合同曲リハ 両団で進む

現地日程のつめも最終段階に

川野辺直雄（1B・広報）

1．沖縄男声の練習順調に

去る10月2日3日の両日、いそべ側から須賀さんと長田代表、大澤2B、川野辺1Bの3名が那覇に行き、沖縄男声の合同演奏曲目の練習に参加した。この練習には両日とも40名を越す団員が参加するという熱心さで、須賀さんの各日2時間余りの厳しい練習によって各曲ともほぼ順調な仕上がりを見せた。ただ、いそべ側もかなり苦労したようにカノン「雪」の言葉割りには沖縄男声側にまだ十分とは言えない人もいて今後の練習に期待したい。

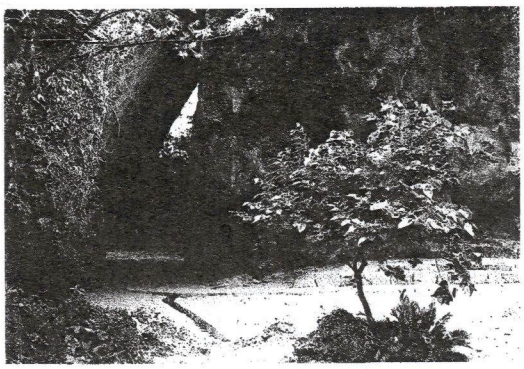
1日目の練習のあと須賀さんを囲んでの泡盛パーティーでは今回はじめての団員から「徐州徐州症候群」についてとか「管楽器経験者からの「歌詞を息にのせ声にする時の微妙さ」などについて質問もあって、当団のCバーとは一味違った真剣なやりとりもあり、話し合いは深夜にまで及んだ。

2．沖縄の歴史と自然にふれる

須賀さんはじめ4名は、今回1日早く那覇に行き沖縄男声の宮城団長ら3名の案内で、南部知念半島にある琉球王朝とかかわりの深い遺跡を訪ねた。

10年前に沖縄各地にある城跡（グスク）などが「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界文化遺産に登録された。

琉球民族の祖といわれる「アマミキヨ族」が渡来し住みついたと伝えられる知念・玉城には数多くの遺跡があり、聖地として信仰の対象になっている。



→ 三庫理（サングーイ）

今回訪れたのは修復中の知念城址と王国最高の聖地である斎場御嶽（セーファーウタキ）の二ケ所。

とくに後者は一五世紀琉球国王や王妃をはじめ王女が最高神女としてあがめられた聞得大君（キコエオオキミ）が神の島と言われる久高島（クダカジマ。後述。来年の観光サブコースに予定している）に向かって国の繁栄、五穀豊穣、航海の安全を祈願した拝所として知られている。二つの大きな鍾乳石でつくられた三庫理（サングーイ）という三角形の空間が特徴的である。この場所は聞得大君就任の儀礼の祭場だった。また御嶽に近い知念城は王家の人々が巡拝の行事の際に宿泊したり休憩したりしたところと言われる。知念・玉城の聖地は、沖縄中の各門中が「東御廻り」（アガリウマーイ）と称する巡礼行事の重要な場所として今も多くの人の崇拝の対象となっている。

今回の訪沖では、きれいな海で知られる慶良間諸島の座間味島へも日帰りの旅をした。

那覇市の泊港から高速船で片道1時間弱。船足の遅いフェリーでも3時間弱で行くことができる鯨の飛び上がる風景が見られる島である。その時期は12月から1月なので、今回はサンゴの海を約1時間グラスボートでのぞくことしか出来なかったが天気に恵まれ色とりどりの熱帯魚がサンゴのまわりに群れる海底を十分堪能できた。

港をのぞむ食堂で食べた魚汁の昼食も全員に好評だった。来年の訪沖で組まれる二つの観光コースとは別に行きたい方がいればご相談に応じます。

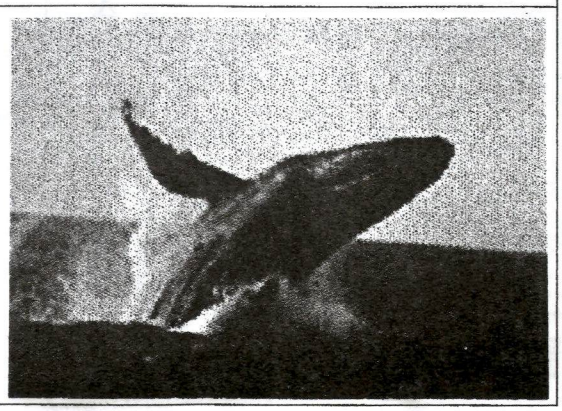
3．演奏会あとの観光コース

メインは、バスで万座毛（マンザモウ）の雄大な景色を楽しんだあと、巨大なジンベイザメなどが見られる美ら海水族館（沖縄海洋博記念公園）を経て、先にふれた世界文化遺産指定の一部ー今帰仁（ナキジン）城址を訪れるコース。沖縄北部は丁度一月末がカンヒ桜の見頃の時なので、遺跡の石垣に映える花はとても美しい。

南部の知念半島を中心とする「東御廻り」に対して「今帰仁ヌブイ」という拝所めぐりの風習が各門中で行われている。

城跡付近にその歴史を説明するボランティアもいるはずなので多少長めに時間をとって古琉球前後の沖縄の話を聴くことをおすすめしたい。

サブコースとして予定されている久高島は知念半島東方の海上に位置する小島で、琉球開闢の神である「アマミキヨ」の上陸地とされる神聖な島である。



← 座間味諸島のクジラのジャンプ

麦をはじめ五穀発祥の地と伝えられ、12年毎に行われる「イザイホー」という祭祀行事が有名だった。

祭りを主宰するのは「ノロ」と呼ばれる神女たちが旧暦11月の満月の日から4日間男子禁制の拝所にこもって、何人かには神が憑いて村落の繁栄と安全を祈るという。しかし、ナンチュと呼ばれる新しい神女となるノロの数が減り、筆者も収録に参加した一九七八年のイザイホーを最後にこの行事は行われていない。

今回の旅には、沖縄男声の新城安哲さんが中国から帰ってきて同伴してくわしく説明をしてくれる予定になっているので期待できる。

今後の選曲について

大澤寛之（2B・楽譜委）

思ってはいてもなかなか普段話せないことを書いてみます。

文字は音声より雄弁です。

・

合唱団を運営する上で最も重視するべきは、選曲、指揮者、財務であり、どれ一つ欠けても団員の変動に繋がり、ひいては合唱団崩壊の引き金になると言われています。

幸い我々は今の所指揮者と財務に問題はありませんが、最も重要な選曲だけは違います。短時間で行き当たりばったり思い付きで決められていることもままあります。

これも物理的に時間が無く諸般の事情から止むを得ないこともありますので、一概に批判はできませんが、是正は考えるべきだと思います。

選曲に当たって最大の権限を持ち、中心的な役割を果たすのは指揮者です。

私の提案は、団内の運営委員会の統率を受けるのは当然ですが、別組織として、我々の実力と男声合唱のことをを熟知しておられる須賀さんの下に、有識者による選曲会議を設け、常にいろいろな曲を集め、検討して、機会があれば、とりあげても良いと言える候補曲を常に数曲は持っていることです。

もちろん、曲の入れ替えは自由ですし、必ず取り上げると決まっているわけでもありませんが、必要があれば、その中から選べば良いということであれば大分楽になるでしょう。

但し、磯部作品は常に候補曲ですから別です。

この候補曲の選定会議は、時間を切らず継続して、常時活動して一年二年かけても良い選曲出すべきです。

その結果は公表して団員の意見も聞き、常時改善してゆく努力も当然必要です。

以上皆様のご一考になればと思い書いてみました。

いそべ男声メロディー・歌の博物誌26

「なくすんや　ありなまぬ　みだたふにどぅかましょうり」

「男の子の子守歌」伊志嶺朝次・沖縄男声合唱団編曲

澤野勉（2T）

一月の沖縄男声合唱団との合同演奏で歌う曲。聞いても曲の後半の囃子詞の〝ホイヤラヨ〟しか言葉はわからないのだが、よく味わうと歌詞の意味はおもしろい。

その二番、〝なくすんや／ありなまぬ／みだたふにどぅ／かましょうり〟

泣く子にはアイナメの身を取った骨をやるよ、という意味で、要は子どもが泣き止まないと、骨しかやらないよと。

これに対して二番は〝なかんすんや／うふたくぬ／てぃぬむとぅどぅかましょうり〟

泣かない子には太ったタコの足をやるよ、というのだ。

ここにはアイナメの骨はまずいもの、タコの足がうまいものという対比が描かれている。

泣かない子と泣く子とを並べるのは子守唄の定石ともいえようか。山田耕筰の曲で知られる「中国地方の子守唄」（日本古謡）では、〝寝た子の可愛さ〟に対して〝起きて泣く子のつらさ〟と、子守の立場からは子どもは眠って欲しいとの心情が歌われる。

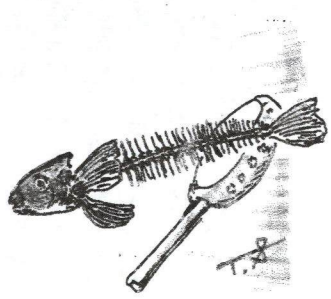
☆

子守歌は子どもを寝かせるための歌だが、ここにはふたつの系譜がある。母親が子どもを寝かす目的で歌うのが本来の子守歌。もうひとつは子守っ児と呼ばれる雇女が乳児の世話をするケースだ。現在と違って子どもの数が多く、今で言う福祉の分野の仕事が地域社会でまかなわれていた時代には、子守っ児も社会を支える大切な役割をはたしていたのだろう。

☆

さて、この歌でタコの足がうまいものとされて、アイナメは骨しか登場しないが、食材としてはアイナメが極上。歌詞では骨を出すことで、暗にアイナメの美味なことを示しているようにも受け取れる。

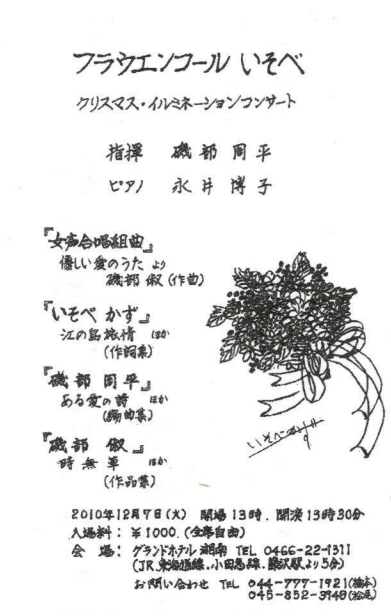
アイナメはカジカ目アイナメ科の魚。日本周辺の海域、北から南まで広範囲に獲れる。北海道名物のホッケもアイナメ科だ。漢字では相嘗、愛魚女、鮎並、鮎愛女などの表記がある。地方名も多い。料理は刺身、あらい、照焼き、煮つけ、から揚げなどいろいろと。夏から秋が美味とされる。脂肪分は3％とそんなに多くはないのだが、アブラコ、アブラメの呼称もある。英語では fat greening。 ling は北欧産の魚の名。ここでもアブラがつく。



日本では五本の線状模様が特徴とされるが、中国語では、名称が六銭魚。五が六となるところがおもしろい。

話が海から空に飛ぶが、すばる星は日本では古来、六連星（むつらぼし）。これが中国では七姉妹星団（チージーメイシントゥン）となる。六が七になっている。空が澄んでいて多くの星が見えるのか、眼がよいのか…。ともあれ言葉はおもしろい。

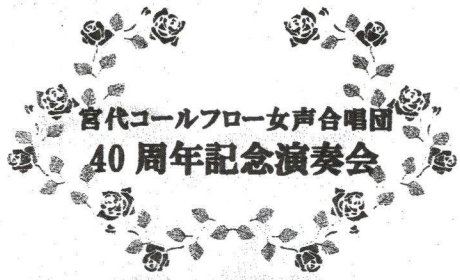
（カットも筆者）



フラウエンコールいそべ
クリスマス・イルミネーションコンサート
12月7日（火）13時30分
グランドホテル湘南
曲目/組曲『優しい愛のうた』（磯部俶）より
ある愛の詩（磯部周平編曲集）　1000円



浅野深雪Ｘｍａｓコンサート
ランチ・コンサート12月19、22、24、25日
ディナー・コンサート12月24日
piano/永井博子
藤沢市鵠沼海岸レスプリ・フランセ
4500円～7000円（予約制）



宮代コールフロー女声合唱団
40周年記念演奏会
11月14日（日）2時
宮代町進修館大ホール
曲目/犀川・時無草・林の中（磯部俶）
顔・花ゲリラ・さくら（大熊栄子）

楠のかおり

－河合さんの木彫展－

田島哲朗（１Ｔ）

「体調が良かったらおいでください」と河合さんから工芸展へのお誘いを受けていたが、その時は検査入院のベッド空きを待つこと三ケ月におよび、いつ入院の連絡があるやもしれず予定が立たない状況だった。一〇月八日にようやく入院したが、当初予定では二週間かかるとのことだったので、工芸展は終わっているとあきらめていた。

二年前の脊髄炎の後遺症か、両足の痺れ、両脚の筋肉のこわばり（つっぱり）が六月以降強くなり、再発かほかの病気なのか、沖縄行きは大丈夫だろうかと気をもんでいたが、検査後の診断では再発ではなく後遺症だとのことで、一週間で退院となった（一六日）。

退院してメールを開けてみると、宮田さんから連絡が入っていて、有志で今日五時ごろ会場（市川市文化会館展示場）に行くとのこと、これは好都合と退院当日ではあるが駆けつけることにした。

河合さんの出展は木彫三体。「飛天（笛）」「五髻文珠」「毘沙門天（鞍馬寺）」である。

飛天の像は、二年前の河合さんの個展にも出ていたから、かなりご執心のテーマなのだろうか。今回のは、ふくよかな顔でやや伏し目がちに笛を吹いている。桧の材質のせいか、つややかな像に仕上がっている。流れるような天衣の軽やかさに苦心の跡が偲ばれる。

飛天は諸仏のまわりを飛びながら舞ったり、音楽を奏したりして礼讃する天女（天男）のことで、楽器も横笛だけでなく竪笛、琵琶、鼓、笙、なども用いるというから、空中のオーケストラである。いずれ「河合楽器」による飛天のオーケストラがそろうのだろうか。

像の足許に

星月夜天女の笛の聞こゆやに　大西紹夫

という讃の句が置いてあった。

「五髻文珠」は頭の髻（もとどり）が五つある文珠菩薩のことで、ほかに一つ、六つ、八つがあり役割分担しているとのこと。五字文珠ともいう。豊かな眉、やや切れ上がった眼で全体に女性的だが右手に仏の智慧の象徴である利剣を持ち、左手には経巻を持って立つすっきりした桧の立像で獅子には乗っていない。〈息災〉を司るとのこと、合掌した。河合さんの話では五髻の文珠は東京国立博物館に鎌倉時代の立像があるそうだ。

「毘沙門天」は一番大きな、どっしりした像で眉間にシワを寄せた険しい顔をしている。左手を額の前にかざして遠くを見ている。鞍馬の毘沙門天は京都の北の守りを担当している。険しい顔も頷ける。この像だけは楠を使っていてやや沈んだ色合いで武将像には良く似合う。河合さんはこの像をひょいと持ち上げ、台座の裏を嗅がせてくれる。かなり強い楠のよいかおりがした。楠の多い九州で育った者には懐かしいかおりだった。

河合氏作三像に秋を詠む

天高し笛吹く飛天を探しけり
秋天や文珠の利剣指すところ
手庇の彼方に京の秋蘭ける
秋ふかし楠の仏かをりけり

総務だより　10月24日運営委員会報告（出席11名）

◆強化練習スケジュール
11月6～7日の沖縄演奏会のための強化練習のスケジュールの案が安部1Bから出され承認された。
6日(土)夜に宮城先生方3人が来京されるので練習後安部、川野辺その他有志が新橋で出迎え懇談する予定。（中止）
7日(日)午後に宮城先生指揮と須賀監督指揮の合同曲目の練習が行われる。Cバーあり。

◆磯部先生墓参
11月27日(土)11時、磯部先生ご夫妻が眠る藤沢市大庭台墓園7月23日に和先生の納骨をすまされたばかりの墓石にお参りして有志は昼食懇談する。（担当宮田）なお磯部俶先生の命日は11月25日。

◆臨時練習ピアニストに石野由紀子さん
12月19日(日)の臨時練習は永井博子さんが日程が合わないため石野由紀子さんにお願いすることにし、快諾を得た。

◆大和郷幼稚園コンサート曲目
曲目案が安部1Bから提出され検討。子供向けの歌、お母さんコーラスとの合同の歌、大人向けの歌の3部分で構成する。前回は年少と年長の2回演奏だったが、今回は1回のみ。急ぎ決定すること。お母さんとの曲目は長田代表が先方と相談する。（曲目決定。本頁再下段参照）

◆沖縄合同演奏会ツアー
10月10日に「参加申込書」が佐藤2Tさんから配布されているが、未提出の人は希望を記入して出してほしいという要請があった。大阪発の別便も東京発と同様旅行社で一括して調整する。（担当佐藤）

◆新春ファミリーコンサート&パーティー中止
3月の会場取得もできず来年は中止もやむをえないことを関係各団体に連絡する。そして2012年は必ず実施することも申し添えることにした。（担当宮田渉外。下段参照）

◆屋形舟花見は練習後に
4月3日は臨時練習13時よりとし、17時に月島から出船（あら川丸）して隅田川遊航という予定が戸丸総務から出され承認された。

◆長期計画…曲目について
アンケート集計中だが、最終的には須賀監督の決定に従う。
アンケート集計の抜粋はプリントして団員に公表する。
この日の話題に上がった曲目
・磯部作品／パウラ、岬の歌、コンクール課題曲を集めたもの、星野富弘の詩による六つの男声合唱曲、きけわだつみのこえ、など。
・高田三郎作品／野分、渡辺直己短歌集など。
・ロパルツ／ミサ・ブレビス
・このほか、愛唱歌集の練習時間をもっと取りたいという意見もあった。

◆40周年演奏会以前に他の団体との合同演奏会の可能性
国内の団体、国外の団体のプラス面マイナス面がいくつか上げられたが情報不十分で方向は出せなかった。

◆早瀬先生葬儀生花料の追認

来客

○浅野深雪先生来団
藍の会指揮者、ほか多くの合唱団指揮、ソプラノ。11月6日の練習に来団。後に須賀さんと懇談。

●来年の新春ファミリーコンサート&パーティー中止通知
恒例の新春ファミコン&パーティーは来春は残念ながら中止せざるをえず、各団に代表名で書簡が送られた。
3月までの希望する日の抽選にすべて外れ、これ以降の日程は新春の行事としてふさわしくないので今年度は中止とすることにした。

訂正

10月353号スケジュール頁
大和郷幼稚園コンサート
正／12月20日(月)
誤／12月20日(日)

○大和郷幼稚園コン曲目決定
子ども向け演奏
レイルロード
・MC－りんご／やきいものうた
・MC－おすもうくまちゃん／おさるのやきゅう／つりかわさん
・MC－七五三／一年生くん弟くん／さくらのはなさん
・MC－夕焼けこやけ／いねかり／おやみなさい
・合同演奏（お母さんコーラスと）
びわ（薯）
父母向け演奏
思い出のリュウデスハイム／野ばら／啄木短歌集より／ハンカチ／遥かな友に

SCASCA楽語迷解②

『パウラ……』

「それが、心ひかれた女性への呼びかけか？」
パウラはライン川のほとりの町リュウデスハイムで出会った若き女性。和先生が一つの恋の出会いと別れのストーリーを仕立て、俶先生が曲を創って下さった。組曲『パウラ』の第1曲。
一目惚れした彼女に若者が呼びかける言葉だ。
「パ・ウ・ラァだって？　情感も何もないじゃないか。そこにきれいなひとがいるんだぞ。それじゃジイさんがバアさんを呼んでるようなもんだ！」
これを聞いて我と我が身の現実を振り返った団員がいたかどうかは知らない。
われわれは言葉の発音、発声をきちんとしなくてはという意識がまずある。そして、それだけになってしまっていることがよくある。そこに監督からの痛烈な皮肉を浴びた男どもは、テレと反省とが綯いまぜになった笑いを噛み殺しながら、愛のきっかけを醸し出す言葉に、懸命の気持を込めて歌い直すのだ。できたかしら。（用語保存員RK）

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター~~第3第4会議室~~
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

須：須賀監督指導・指揮

○運営委員会は原則として第４日曜日11:00練習場にて開催

■２０１０(平成22)年

	時間	会場	Cバー等
11月14日(日) 定例練習	13:00～17:00	豊洲	Cバー２B
27日(土) 磯部先生墓参	11:00	大庭台墓園(命日は11月25日)	
28日(日) 定例練習	13:00～17:00	豊洲	委員会11時 Cバー１T
12月12日(日) 定例練習 須	13:00～17:00	古石場	Cバー２T
☞15日(水) 大和郷幼稚園混声曲合同練習(びわ混声版)			
	10:00～11:00	大和郷幼稚園	
19日(日) 臨時練習 須	13:00～17:00	豊洲 ☞(地下練習場)	Cバー１B
20日(月) **大和郷幼稚園コンサート** ♩		(文京区本駒込)	服装／自由（カジュアルで）
	10:00～11:00	曲目／レイルロード・りんご・やきいものうた・おすもうくまちゃん・おさるのやきゅう・つりかわさん・七五三・一年生くん弟くん・さくらのはなさん・夕焼けこやけ・いねかり・おやすみなさい びわ(お母さんと混声合同)／父母向け－思い出のリュウデスハイム・野ばら・啄木短歌集より・ハンカチ・遥かな友に	
26日(日) 定例練習 須	13:00～17:00	豊洲	委員会11時
☞ **忘年会**	17:30 受付開始	18:00開宴 於／銀座Sun-mi高松	

■２０１１(平成23)年

1月 9日(日) 定例練習	13:00～17:00	豊洲	Cバー２B
☞16日(日) 臨時練習	13:00～17:00	豊洲	Cバー１T
22日(土) 沖縄合同リハーサル			
	19:00	那覇市ＭＯＡ青少年研修センター	
23日(日) **第９回沖縄男声いそべ男声合同演奏会**		於／那覇市民会館	服装／ブレザー、黒ズボン

10:30～11:15	沖縄男声リハ
11:15～12:00	いそべ男声リハ
12:00～12:30	混声リハ
13:00～13:45	合同リハ須賀
14:00～14:45	合同リハ宮城
14:45～15:00	出入、立位置
15:30	開場
16:00	開演
18:00	終演

曲目／
いそべ単独曲／組曲「優しい愛のうた」全５曲(前奏曲おやすみなさい、おにいちゃんの成績、さかな、どうぶつえん、「片耳の大鹿」よ)
沖縄単独曲／いちじく、大ずもう、ゴキブリの唄、砂持節、鳩間節、谷茶前之浜
合同曲／
・須賀敬一指揮／組曲「啄木短歌集」、三声のカノン「雪」
・宮城 敏指揮／男の子の子守歌、「西表民謡へのオマージュ」
アンコール曲／

2月13日(日) 定例練習	13:00～17:00	豊洲	
27日(日) 定例練習	13:00～17:00	☞古石場	委員会11時
4月 3日(日) 臨時練習	13:00～16:00		
屋形舟花見	17:00～19:00		

編集後記

◆絵を見るとき、どれだけ対象に肉薄しているか、どれだけ対象物に自分の内面を表し得ているか、色や形に自分をぶつけられているか。色々な見方があるでしょう。私は、どれだけ見る者の想像力を刺激しているかということを付け加えたい◆院展の画家の絵を見てはっと思ったことがありました。雪降る竹林に烏が十羽はいるでしょうか。羽根を広げ雪を散らして互いの位置の優位性を争っているのでしょうか、鳴き声から雪の崩れる音、竹の葉擦れの音まで聞こえたのです。モネの雪の絵でも音が聞こえてきた経験があります◆これが絵画の高い価値の一つかどうかは知りませんが私の絵を見るときの期待の一つであることは確かです◆逆に音、音楽が画面を想像させることもあるようです。名演奏ならぬ自分たちがやっている音楽が、どれだけ聞く人の感覚、想像力を刺激できているか、考えるとちょっと怖くなってきます。

（河合）

いそべとし記念男声合唱団ニュース

２０１０年 12月 第３５５号

発行代表者:戸丸悟 〒135-0053 東京都江東区辰巳 1-8-45-302 ☎03-3521-6898 FAX 同
E-mail isobechorus @hotmail.com URL http://www.geocities.jp/isodanchorus/
編集:河合隆一(広報)〒272-0031 千葉県市川市平田 2-12-6 ☎047-322-1256 FAX 同



右・お母さんたちといそべ男声で「びわ」を合同演奏。

下・子どもたち全員で「お正月」の大合唱。大人は全員座って拝聴。



大和郷幼稚園コンサート

12月20日(月) 指揮・須賀監督 Pf永井博子さん

07年12月13日にお邪魔してからの再訪のコンサートです。

9時に「出勤」したメンバーはストレッチもそこそこに、お母さんたちとの合同演奏の「びわ」を須賀さんの指揮で練習したあと、まず父母の皆さんの前で「思い出のリュウデスハイム」「やわらかに」「不来方の」「ハンカチ」「遥かな友に」を歌いました。

そして2学期終業式を終えたばかりのホールに「レイルロード」を歌いながら入って行くと250人の全園児が瞳をくるくるると輝かせて迎えてくれました。

司会進行は園長の向山陽子先生。

「やきいものうた」で戸丸さんの「ヤキイモー」の声が響くともう大騒ぎ。次の「つりかわさん」が終わったところで園長先生が「人数を数えていた人がいたね。何人いた?」ときくと「21人」。

さらに「七五三」「1年生くん弟くん」「さくらのはなさん」と歌ってきたところで、園長先生の誘いによる子供達からの質問が始まりました。

子「どのくらい練習したの?」

須賀(ちょっと考えて)「35年くらい練習しました」(園長先生がみんなのお母さんが生まれた頃からよと言ってくださいました)

子「好きな色は何ですか?」

団員が一人ずつ「赤」「青」「緑」など全員答えて最後に須賀さんは「黄色」、永井さんは「ピンク」との答えでした。

子「何歳ですか?」

園長先生「これは一人ずつは大変だからみんなの年を足してください」と言われて戸丸さんの「1600歳くらいです」との返事に皆大笑い。

子どもの一生懸命な質問に答えるのは大変なことだということを皆々実感しました。

「夕焼けこやけ」「いねかり」「おやすみなさい」と歌っていそべの合唱は終了。

朝に練習した「びわ」をお母さん有志たちと合同演奏して、最後に年少児から年長児まで全園児が、お返しに歌ってくれる〝もういくつ寝ると…〟の「お正月」のきれいな斉唱がホールいっぱいに響き渡りました。

普通の演奏会とまるで違って、いそべの団員が表情豊かに歌っているのがとても印象的でしたとの感想を頂戴しました。

そして、なによりも、子どもの歌のレパートリーは我々の大事な宝の一つだということを痛感させられた1日でした。(河倉)

※はみ出し情報・大和郷幼稚園のお母さんに豊中混声にいた人がいて、須賀さんと奇跡の再会があったそうです。

いそべとし記念男声合唱団の皆さまへ

夫の葬儀・出棺式に際しましては、お忙しい中、多数の方が御参列下さり、ありがとうございました。

団のニュースにも、追悼文をお寄せ下さり、胸が熱くなり、涙で字が滲んだりと、順調に読めないありさまですが、皆さまの温かいお気持ちが、嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございます。

夫は、この四月から、磯部俶先生から数えたら五代目にあたる（社）日本歌曲振興会（新・波の会）の会長になったばかりでした。この事は、いそ男を通じて磯部先生との御縁を感じます。会長になった矢先、病で倒れ、やりたい事もやれず、心残りだったと思います。

日頃から『継続は力なり』、何をやるにも十年頑張れば分かってくるのだと言っていた夫。

いそ男とのお付き合いも、早や十年以上と聞けば、皆さまの発声のテクニックが上達したのも当然のことだと思います。

「いそ男、うまくなったよ」と、嬉しそうに話していた姿が、今でも目に浮かびます。団のニュースに「早瀬メソッド」を忘れないでいきましょうと書いてあった記事、涙が出ました。

どうぞこれからも須賀先生の指揮のもと、益々すばらしいハーモニーをお聴かせ下さい。

期待しております。

長い間、皆さまありがとうございました。

十一月二十四日

早瀬多恵子

コール77を聴いて

大澤寛之（2B）



→最後の「遥かな友に」を澤登さんの指揮で聴衆といっしょに

去る10月28日に、澤登典夫2Bさんが指導されている日本で唯一と言えるコール77を聴きました。全員が戦争末期の海軍兵学校77期の同期とあって正真正銘、掛値なしの平均年齢82歳の男声合唱団です。82歳の男が30人集まって合唱する光景は見るだけでも感動します。（於・なかのＺＥＲＯ小ホール）

全員65歳の平成8年に18名、楽譜の解る人3名、合唱経験者は澤登さん一人という状態で発足し、メンバーも現在は30名ですが、最高は40名までいったという信じられない合唱団です。しかもその活動歴たるや驚異的で、東京都のシルバーコーラスフェスに結成4年目の平成12年から連続10回出場、入賞5回、招待2回、最高は第2位で東京都知事賞獲得と「戦功赫々」で、これが軍人魂だろうと思いました。

発声も本格的で、早瀬先生に5年間見ていただいたそうで、我がいそべ男声とも相通じるものがあるように感じました。

演奏は意欲的で、「自然における神の栄光」「アメージング・グレース」『帰れソレントへ」をそれぞれ原語で、三ケ国語をこなし、女声合唱団の応援を得てワルツ「美しく碧きドナウ」まで披露されるという豪華版でした。それに「柳河」「ふるさと」「兵士の合唱」などほぼ全員が全17曲を暗譜で演奏されたことには何よりも感銘しました。

ただ面白かったのは多くの方が開かないのに楽譜を持っておられたことです。見なくても楽譜への敬意を失わないために持つというのであれば、一つの美学かなと思いました。

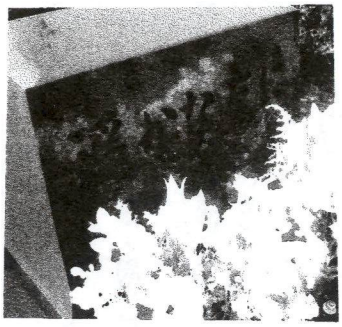
ともあれ、新たな元気を与えていただき有難うございました。今後も宣言通り米寿まで元気で活躍されることを祈ります。

俶先生 和先生 安らかに

「晴れ男」磯部俶先生の神通力未だ衰えず、絶好の墓参日和？　の11月27日(土)大庭台墓園の『遥かな友に』墓碑の前に参列したのは有志現団員と旧団員あわせて12名。

11月25日が俶先生の12年目の命日。

この6月9日に亡くなられた和先生のお名前が俶先生の名前に刻み添えられた墓碑に花を供えると『遥かな…』の文字が陽光にひときわ輝いて見えました。



持参の銘酒を墓前に供え、皆で献杯。先生のDNAを真っすぐに継承しているいそべ男声の面々が、墓石を囲んで飲み、故人を語り合い、歌う風景は、毎年のことではありますが、ちょっと珍しいものかもしれません。

来年は『遥かな友に』が誕生して60年。

おそらくこの墓前は、この曲を愛し、ご夫妻を敬愛する仲間が集って賑わうことになるでしょう。

墓参を終えたあと、お清めに向かったものあり、コンサートに向かったものあり、秋の1日を過ごしました。



男声合唱組曲『おかあさんのばか』の中の一曲。こんどの沖縄合同演奏会で歌う組曲『優しい愛のうた』にも組みいれられた。

プールの事故でお母さんを亡くした小学生の女の子が綴った心温まる詩に、磯部さんがコミカルなタッチの曲をつくった。

曲の頭は「おにいちゃんの父兄会に／おとうさんが出た」↖とある。一九六〇年代、まだ父兄会という名が残っていた。出席するのはほとんどが母親でも、古い〝父兄〟という名がまだ広く使われていた。その後〝父母会〟とされる。保護者会ということもあった。

ここで、子どもの成績について、おそらく先生から何か話があったのだろう。学校から早く帰ってきた〝おにいちゃん〟はなぜか元気がない。そこで妹が綴った言葉が、標記の一部…。

＊

この詩には登場しないが、学校での成績は最終的には学期末の通知表で知らされる。昔は通信簿といった。日本の通信簿の起源は、一八九一(明24)年、文部省が「小学校則大綱ノ件説明」の中で「…家庭ト気脈ヲ通スル方法ヲ設ケ相提携シテ学校ト児童教育ノ功ヲ奏センコトヲ望ム」という通達をしたことからスタートしたとされる。

ただ、書式としてきちんとしたものが整備されていたかどうかは定かではない。年表によると、ぐんと時代はすすんで、一九〇七(明治40)年、長野県の茅野の米沢小学校が初めて家庭へ通知簿を配布した、とある。

＊

通信簿…わたしたちの世代には懐かしい響きがあるが、成績に使われる文字も、思えばいろいろに変わってきた。小学校に入学して初めての通信簿では、評価は甲乙丙丁だった。戦時下、小学校が国民学校と改称された折、評価は優良可となった。旧制の中学校では点数がそのまま記されていた。

基準はさまざまだ。現在にいたるまで、大学ではABCの評価も多い。1～5の数字も使われる。全甲、全優、オール5などの言葉は、そのまま時代を表しているといえるだろう。

ところで一良(まこと)という名前の友人がいる。才気溢れる優等生だった彼の息子さんの名は優(まさる)という一。

＊

過日、北九州市に行った折に火野葦平記念館を訪ねた。

いそべ男声では須賀さんの「また徐州徐州症候群だ！」※とよく喝を入れられるのだが、そもそも、これは火野葦平の『麦と兵隊』という戦記物をテーマにした歌から名づけられたもの。

その火野葦平、数学が不得意だったとのことで、なんと展示されている中学時代の通信簿の数学の評価は〝戊〟。実際の成績で、〝丁〟のまだ下があったかと、いささか驚いた。

しかし、人間、どこに芽が出るかわからないものだ。

（カットも筆者）

いそべ男声メロディー・歌の博物誌27

やっぱり あまり 成績が よくなかった

「おにいちゃんの成績」古田幸作詞・磯部俶作曲

澤野 勉（27T）



※「徐州徐州症候群」については本ニュース2004年4月第281号5頁参照。

フラウエンいそべ　演奏会

和先生作詞・周平さん作曲の「江ノ電さん」を初演

磯部周平さん指揮による「フラウエンコールいそべ」のクリスマス・イルミネーションコンサートが12月7日午後藤沢市のグランドホテル湘南で開かれた。この会場は和先生が亡くなる直前の今年3月に自作の詩を中心に朗読の会をされたところで、多くの人を感動させた思い出の会場である。

演目は磯部ご夫妻の作品が主で、特に「作詞家いそべかずの世界」5曲のうち今回初演の「江ノ電さん」には大きな拍手が贈られた。江ノ電創業百周年記念作詞コンクールに応募して佳作となり、今回の演奏に向けてごく最近周平さんが泣きながら作曲したという。

軽快なルンバのリズムに明るいメロディ、そして周平さんが指揮をしながら鼻をつまんで車内アナウンスをまねる場面では聴き手から笑い声も。

28名全員が暗譜で全18曲を歌い、歌詞がよく聞き取れ内容が判るとてもいい演奏でした。

（川野辺記）

永尾　薫選手好走

永尾丈二さん令嬢・サラリアンカー

永尾薫さんは、永尾丈二さん（現亀戸文化センター＝かめりあホール所長。江東区文化センターでの磯部俶合唱講座の時代から豊洲文化センターまでお世話になりました）のお嬢さん。駅伝選手です。薫さんは11月23日国際千葉駅伝千葉選抜チームのアンカーとして出場されました。チームは6位でしたが、薫さんは区間5位の成績でした。

薫さんは、アルゼ株式会社のチームのメンバーとして小出義雄監督の指導も受け、昨年の関東陸上選手権5000メートル1位、今年の全日本実業団ハーフマラソン3位（日本人の2位）の逸材です。今後が楽しみです。

（宮田）

『遥かな友に』in三重

ニュース7月第350号に書きましたが、三重県伊賀市の心身障害児療養施設に『心の薬』の楽譜を送ったことから文通が始まりました。

ラジオで聞いた『心の薬』の楽譜がほしいということで早速ボニーのCDと『遥かな友に』の楽譜を送ったところ、元施設長の中村洋子先生から次のようなお便りがありました。

「『遥かな友に』は私も大好きな歌の一つです。お恥ずかしいながら、この曲が磯部俶先生の作詞作曲とは存じませんでした。『遥かな友に』の歌が『心の薬』に続いて、これまで以上に心に深く残る曲になりそうです。

先日当法人の理事長にも今回のことについてお話しいたしましたら大変喜んで、ぜひCDを貸してほしいということでお貸ししました。施設の皆様や、保育園の皆様にも聞いてもらったり、一緒に歌ったりしていきたいと思っています。」

中村先生は現在も歌の指導をされているそうです。

皆さんは『心の薬』を覚えていますか？　（宮田）

『心の薬』村山美和作詞、磯部俶作曲〝つらいことがあった時／あなたはどうしてますか〟etc〉

お江戸コラリアーズ

金賞

豊中混声合唱団

銅賞

第63回全日本合唱コンクール全国大会（11月21日、西宮市の芸術文化センター）に一般部門に東京代表として出場した〝お江コラ〟（指揮／山脇卓也）が金賞＝日本放送協会賞を受賞しました。（金賞は5団体受賞）

大阪代表として出場した豊中混声（指揮／西岡茂樹）は銅賞を受賞しました。

沖縄ツアー　プラン準備進行中

●**1月22日(土)出発**
（大阪組は別途手配中）
東京発組は羽田空港集合。朝9時頃フライト。遠方の人に合わせて時間を調整中。
那覇空港到着後、空港とホテル、ホテルと練習場間など、すべて団体の移動を貸し切りバスで行う予定です。
ホテルチェックイン後、夕方からリハーサル。

●**1月23日(日)本番当日**
16時開演
（詳細時程はスケジュール欄参照）

●**1月24日(月)オプショナルツアー（希望者のみ）**
朝8時30分ころ出発。
①ちゅらうみコース（団として申し込みます）
沖縄本島西海岸を北上し、美ら海水族館、今帰仁城、八重山桜「大家（うふや）」での昼食など。
②久高島コース（有志参加）
詳細は1月に入って沖縄男声からご案内があります。幹事・川野辺さん。費用は当日清算。

●**1月25日(月)**　午後2時ないし3時ころの便で帰京。それまでフリータイム。（東京方面、大阪方面は別途）　（佐藤）
※旅程詳細は1月に配布予定

総務だより

11月26日運営委員会（出席11名）

■**大和郷幼稚園コンサート**
・集合／9時
・服装／自由
・曲目／スケジュール欄参照

■**忘年会について**
・日時／12月26日(日)17・30
・Sun－mi高松7丁目店（中央区銀座7－13－20中村ビル、昭和通り裏、銀座東武ホテル近く）
※家族などのために後日会場の地図をコピーして12日に配布する。
・団員は練習後に移動する。
・費用／団員7000円、家族6000円
・山脇卓也さん（お言コラリアーず指揮者）が参加希望との須賀さんからの連絡あり。了解。

■**沖縄合同演奏会について**
・オプショナルツアーについて
佐藤さんより参加募集の案内（練習中に実施）

■**屋形船お花見について**
・期日／4月3日（日）（臨時練習終了後）
・2月に募集開始予定
・あら川丸、月島で乗船
・料金／1万円程度　（戸丸）

■**団のブレザーについて**
・退団者にブレザー提供を呼びかけたところ、井上舎人、児玉康夫、三雲孝夫の3氏から承諾の返事を頂戴した。感謝申し上げます。大久保勝二氏は復団の意志があるので保留したいとのこと。（宮田）
これを踏まえて、
①今回提供された3着は非常用として無料でリースとする。
②新入団員には原則として新規購入を勧めることとした。

■**古石場練習場の研修室使用について**
・第3研修室を午後と夜間を押さえたい。これによって、
①2カ所でパート練習が可能になる。
②5時定刻からCバーが開始できる。使用料1900円
古石場使用の回数は多くないので予算上は問題なしということで決定した。

■**これからのレパートリーについて**
・沖縄後、次期演奏会の主要曲目を決定しなければならない時期がせまっている。練習部門で検討・まとめるなど、種々話し合ったが、最終的に長田代表が須賀監督に曲目選定の委任をすることとした。

■**友好合唱団へのお祝いなど**
・桜友女声合唱団コンサートへお祝いなど
・宮代コールフロー女声合唱団40周年演奏会にお祝いなど
・フラウエンコールいそべ演奏会にお祝い
・コールりんどう35周年記念演奏会に祝電
以上承認

磯部周平
クラリネットリサイタル
～クリスマスに贈るクラリネットとピアノのための三大ソナタ～

○12月25日(土)7時・アーティストサロン"Dolce"（西新宿昭和ビル8階）
○会場／ドルチェ楽器管楽器アヴェニュー
○曲目／クラリネット・ソナタ…F．ダンツィ作品、P．ヒンデミット作品、M．レーガー作品
○ピアノ／中島由紀

SCASCA楽語迷解③

「路頭に迷う」

■用例
①「おい、そこのトップ、ちゃんと出んと、バスが路頭に迷ってしまうが！」
②「このメロディーをはっきり歌わんと、ヒロコちゃん（ピアノ）が路頭に迷ってしまう！」

あるパートが歌うべき箇所をきちんと歌わず、他のパートの出鼻をくじいたりするとこうした注意が飛ぶ。多くの場合、強烈なお叱りではないが、かなり皮肉を込めた雰囲気なので、団員は笑いを殺しながら自分たちの不用意を反省しつつ歌い直す。

しかし言葉の意味は深刻だ。「生活の手段が亡くなったり急に住む家がなくなったりしてひどく困り、途方にくれる。」（『日本国語大辞典』）とある。近松は「路頭に立つ」とも書いている。物乞いまでしなくてはならない。

突然生活の拠点、パートナーが消滅するということは、生活が不安定、成り立たなくなる。コーラスは生活の支え合いに等しい。コーラス・ホームレスは出すまいぞ、なるまいぞ。

（楽譜保存資料K）

宮城　稔さん　退院

沖縄男声代表・宮城稔さんは11月8日に慢性硬膜下血腫のため入院、療養しておられましたが22日に退院、12月12日から団活動に復帰されました。

来　客

○**田中豊輝さん**（大久保盛声指揮者）12月19日練習の末頃に来会、Cバーにフル参加されました。

消　息

●**横田弘毅さん死去**
古いメンバーだった横田さん（1B）が11月19日、心不全で亡くなった。岩崎、大澤、長島、高橋、宮田などの同期だったが、とりわけ、温厚、真面目な紳士として親しまれていた。当団の演奏会にも来会、「ローガン」の練習にも那須から参加し、地元の団体にも参加。昨年胃を患い7月の「ローガン」演奏会には来聴し、元気そうだったが、突然の訃報となってしまった。謹んでご冥福を祈ります。享年79歳。（宮田）

SCHEDULE

豊洲：江東区豊洲文化センター~~第３第４会議室~~
古石場：江東区古石場文化センター
東大島：江東区東大島文化センター
ティアラ：江東区ティアラこうとう

須：須賀監督指導・指揮

○運営委員会は原則として第４日曜日11:00練習場にて開催

		時間	練習場		Cバー等
■２０１０(平成22)年					
12月26日(日)	定例練習	13:00～17:00	豊洲	委員会11時	
☞	**忘年会**	17:30 受付 18:00開宴	於／銀座Sun-mi高松		
■２０１１(平成23)年					
1月 9日(日)	定例練習	13:00～17:00	豊洲		Cバー２B
☞16日(日)	臨時練習須	13:00～17:00	豊洲		Cバー１T
22日(土)	沖縄合同リハーサル 19:00		於／浦添市てだこホール		
23日(日)	**第９回沖縄男声いそべ男声合同演奏会**		於・那覇市民会館		
	10:30～11:15	沖縄男声リハ	曲目／いそべ単独曲／組曲「優しい愛のうた」全５曲(前奏曲おやすみなさい、おにいちゃんの成績、さかな、どうぶつえん、「片耳の大鹿」よ)		
	11:15～12:00	いそべ男声リハ			
	12:00～12:30	混声リハ			
	13:00～13:45	合同リハ須賀	沖縄単独曲／いちじく、大ずもう、ゴキブリの唄、砂持節、 鳩間節、谷茶前之浜		
	14:00～14:45	合同リハ宮城			
	14:45～15:00	出入、立位置	合同曲／・須賀敬一指揮／組曲「啄木短歌集」三声のカノン「雪」		
	15:30	開場			
	16:00	開演	・宮城 敏指揮／男の子の子守歌、「西表民謡へのオマージュ」		
	18:00	終演			
		懇親会／於・ＪＡおきなわ真和志支店ホール			
2月13日(日)	定例練習須	13:00～17:00	豊洲		Cバー２T
27日(日)	定例練習	13:00～17:00	☞古石場	委員会11時	Cバー１B
3月13日(日)	定例練習須	13:00～17:00	☞南砂小学校		
27日(日)	定例練習	13:00～17:00	豊洲	委員会11時	Cバー２B
4月 3日(日)	臨時練習須	13:00～16:00			
	屋形船花見	17:00～19:00			
7月17日(日)	**東京都合唱祭**（予定）				

編集後記

◆最近、ニュースのミスが多くて困ります。おわびします。最低2回は見ているのですが◆西洋のえらい心理学者によるとミスは単なる不注意やカン違いによるものではなく、その根源は深く遠いものがあると言っているそうで、ああ俺の人格的な欠陥なのか、それとも不適応なのかしらなど思ってしまいます◆ミスはニュースばかりでなく、コーラスのほうにも頻発しており、練習の折にTさん、Oさんから音程のミス、テンポのミス、はては歌い方のミスまで厳しい指摘を受けています。チクショウと思いながら至らぬためと反省しつつ感謝しつつ直しています◆頂戴するメールにはミスがよくあります。でもニュースはいったん見落としたら広報として歴然と残る。訂正を出さねばならない。一方、コーラスは繰り返しの練習で「校正」できる。注意してくれる仲間もいる。「人格的欠陥」は本番には露呈せずに済む？◆繰り言ですみません◆良いお年を。

（河合）